

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第163集

# 林崎館遺跡発掘調査報告書

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

はやし ざき だて

# 林崎館遺跡発掘調査報告書



# 序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,600カ所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保持し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。特に高速道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されるところであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道秋田線建設に関連して、平成2年に発掘調査した林崎館遺跡の調査結果をまとめたものであります。本遺跡は和賀川右岸の河岸段丘上に立地し、調査の結果、縄文時代中期の住居跡、土壇群が数多く発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御協力、御支援を賜りました日本道路公団仙台建設局北上工事事務所、旧和賀町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成4年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 工藤 巖

## 例 言

1. 本報告書は、岩手県和賀郡和賀町（現北上市）煤孫第3地割328ほか、に所在する林崎館遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、東北横断自動車道秋田線の建設に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会と日本道路公団仙台建設局との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 岩手県遺跡台帳に登載される遺跡番号はME63-1267、遺跡略号はHZ-90、発掘調査面積は14,150㎡である。
4. 発掘調査期間は平成2年4月17日～10月31日、整理期間は平成2年11月1日～3年3月31日である。
5. 野外調査および室内整理は小田野哲憲・阿部勝則が担当した。
6. 本報告書の執筆はIを佐々木嘉直、その外を小田野が担当した。
7. 遺物の鑑定に当たっては次の方々に依頼した。石質・佐藤二郎氏（佐藤地質工学研究所）、炭化材・早坂松次郎（岩手県木炭協会）、植物遺存体・榎パリーノ・サーヴェイ。
8. 発掘・整理・執筆にあたっては下記の方々に御協力、御指導をいただいた。（50音順）  
相原康二・稲野祐介・及川靖世・及川涉・岡田康博・鎌田裕二・菊地達哉・桐生正一・熊谷常正・小林克・小林和彦・佐々木勝・佐藤嘉広・鈴鹿良一・高田和徳・高橋亜貴子・高橋信雄・高橋憲太郎・高橋文明・中村英俊・中村良幸・藤村東男・三熊啓子・三宅徹也・森幸彦
9. 野外調査では狩野真一氏ほかの、室内整理では村上幹子さんほかの御協力をえた。
10. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。



# 本文目次

序	
例言	
I. 調査に至る経過	2
II. 遺跡の立地と環境	3
1. 地形と地質	3
2. 遺跡および周辺の地形	4
3. 周辺の遺跡	4
III. 調査・整理の方法	12
1. 野外調査	12
2. 室内整理	13
IV. 遺構と遺物	14
1. 縄文時代の遺構と遺物	14
(1) 住居跡	14
(2) 柱穴群	80
(3) フラスコピット	80
(4) 土 壙	94
(5) 陥 穴	98
V. 遺構外の遺物	113
1. 一括廃棄土器群	113
2. 縄文時代の土器	113
3. 平安時代の土器	113
4. 石 器	123
5. 土・石製品	134
VI. 考察とまとめ	140

## 図版目次

第1図	遺跡位置図	1	第32図	III G-2号住居跡遺物(2)	53
第2図	地形区分図	5	第33図	III H-1号住居跡遺物	54
第3図	遺跡周辺の地形図	7	第34図	III G-3号住居跡	56
第4図	調査区位置図	9	第35図	III G-3号住居跡遺物(1)	57
第5図	周辺の遺跡分布図	11	第36図	III G-3号住居跡遺物(2)	58
第6図	林崎館遺跡調査区遺構配置図	15	第37図	III G-3号住居跡遺物(3)	59
第7図	II B-1号住居跡・遺物(1)	17	第38図	III G-3号住居跡遺物(4)	60
第8図	II B-1号住居跡遺物(2)	18	第39図	III G-3号住居跡遺物(5)	63
第9図	III C-1号住居跡	20	第40図	III G-3号住居跡遺物(6)	64
第10図	III C-1号住居跡遺物(1)	21	第41図	III G-3号住居跡遺物(7)	65
第11図	III C-1号住居跡遺物(2)	22	第42図	III G-3号住居跡遺物(8)	66
第12図	III D-1号住居跡	26	第43図	IV G-1号住居跡	68
第13図	III D-1号住居跡遺物(1)	27	第44図	IV G-1号住居跡遺物(1)	69
第14図	III D-1号住居跡遺物(2)	28	第45図	IV G-1号住居跡遺物(2)	70
第15図	III D-1号住居跡遺物(3)	29	第46図	IV G-1号住居跡遺物(3)	73
第16図	III D-1号住居跡遺物(4)	30	第47図	IV G-1号住居跡遺物(4)	74
第17図	III D-1号住居跡遺物(5)	31	第48図	IV G-2、IV H-1、IV H-2、 IV I-1、IV I-2号住居跡	77
第18図	III D-1号住居跡遺物(6)	32	第49図	IV G-2、 IV H-1号住居跡遺物	79
第19図	III D-1号住居跡遺物(7)	33	第50図	IV F-柱穴群・遺物	81
第20図	III D-1号住居跡遺物(8)	34	第51図	フラスコピット(1)：II A-1、 II A-2、II A-3、II B-1号	84
第21図	IV D-1号、 IV E-1号住居跡遺物	36	第52図	フラスコピット(2)：III A-1、 III A-2、III B-1、III B-2号	85
第22図	IV D-1号、IV E-1号住居跡	37	第53図	フラスコピット(3)：IV G-1、 2、3号	86
第23図	IV D-2号住居跡・遺物	41	第54図	フラスコピット遺物(1)： II A-1、II A-2、II A-3号	87
第24図	IV E-2号住居跡	42	第55図	フラスコピット遺物(2)： III A-1、III A-2、II B-1、 III B-2号	88
第25図	IV E-2号住居跡遺物	43			
第26図	IV F-1号住居跡	44			
第27図	IV F-1号住居跡遺物	45			
第28図	III G-1号住居跡	47			
第29図	III G-1号住居跡遺物	48			
第30図	III G-2号、III H-1号住居跡	51			
第31図	III G-2号住居跡遺物(1)	52			



第56図	フラスコピット遺物(3): IVG-1号〔1〕	89
第57図	フラスコピット遺物(4): IVG-1号〔2〕	90
第58図	フラスコピット遺物(5): IVG-2号〔1〕	91
第59図	フラスコピット遺物(6): IVG-2号〔2〕	92
第60図	フラスコピット遺物(7): IVG-2号〔3〕、IVG-3号	93
第61図	IIA-1、IIIA-1、 IIIB-1号土壌・遺物	95
第62図	IIB-1号土壌・遺物	96
第63図	IIC-1、IIE-1、IO-1、 IO-2号土壌	97
第64図	陥穴(1): IIB-1、IIIC-1、 IO-1号	101
第65図	陥穴(2): IIIB-1、IIIB-3、 IIID-1号	102
第66図	陥穴(3): IIIG-1、IIIG-2号	103
第67図	陥穴(4): IIIE-1、IIIE-2、 IVE-1号	104
第68図	陥穴(5): IIC-1、IIC-2、 IIIB-2号	105
第69図	陥穴(6): IIB-2、IIC-3、 IID-2、IID-3号	106
第70図	陥穴(7): IID-1、IIID-3、 IIID-2、IVF-1、IIM-1号	107
第71図	陥穴(8): IIE-1～7号 陥穴配置図	108

第72図	陥穴(9): IIL-1～3号、 IIL-4号	109
第73図	陥穴(10): IIL-1、IIL-2、 IIIL-1、IIIL-2号	110
第74図	陥穴(11): IIL-3、IVE-1、 IM-1、IIIM-1号	111
第75図	陥穴出土遺物	112
第76図	IVC一括廃棄土器A群(1)	114
第77図	IVC一括廃棄土器A群(2)	115
第78図	IVC一括廃棄土器A群(3)、B群	116
第79図	遺構外遺物: 土器(1)	117
第80図	遺構外遺物: 土器(2)	118
第81図	遺構外遺物: 土器(3)	119
第82図	遺構外遺物: 土器(4)	120
第83図	遺構外遺物: 土器(5)	121
第84図	遺構外遺物: 土器(6)	122
第85図	遺構外遺物: 石器(1)	124
第86図	遺構外遺物: 石器(2)	125
第87図	遺構外遺物: 石器(3)	126
第88図	遺構外遺物: 石器(4)	127
第89図	遺構外遺物: 石器(5)	128
第90図	遺構外遺物: 石器(6)	129
第91図	遺構外遺物: 石器(7)	130
第92図	遺構外遺物: 石器(8)	131
第93図	遺構外遺物: 石器(9)	132
第94図	遺構外遺物: 石器(10)	133
第95図	遺構外遺物: 土・石製品	135

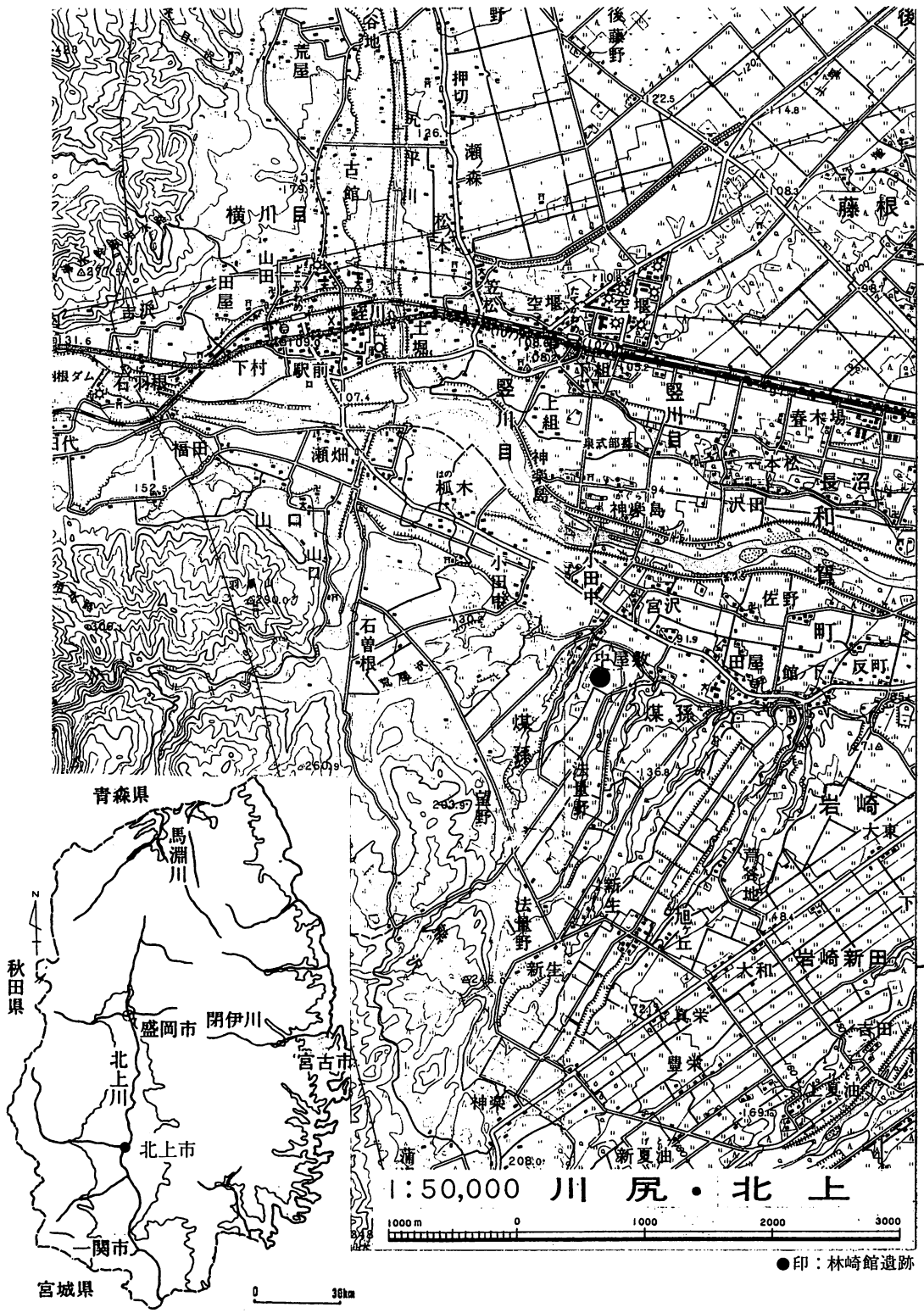
## 写真図版

写真図版 1	遺跡全景 ……………145	写真図版31	III G-3号住居跡遺物(6) ……175
写真図版 2	II B-1号住居跡 ……………146	写真図版32	IV G-1号住居跡(1) ……………176
写真図版 3	II B-1号住居跡遺物 ……147	写真図版33	IV G-1号住居跡(2) ……………177
写真図版 4	III C-1号住居跡 ……………148	写真図版34	IV G-1号住居跡遺物(1) ……178
写真図版 5	III C-1号住居跡遺物(1) ……149	写真図版35	IV G-1号住居跡遺物(2) ……179
写真図版 6	III C-1号住居跡遺物(2) ……150	写真図版36	IV G-1号住居跡遺物(3) ……180
写真図版 7	III D-1号住居跡(1) ……………151	写真図版37	IV G-2号・ III H-1号住居跡 ……………181
写真図版 8	III D-1号住居跡(2) ……………152	写真図版38	IV H-1号住居跡 ……………182
写真図版 9	III D-1号住居跡遺物(1) ……153	写真図版39	IV G-2号・III H-1号・ IV H-1号住居跡遺物 ……183
写真図版10	III D-1号住居跡遺物(2) ……154	写真図版40	IV H-2号・IV I-1号・ IV I-2号住居跡 ……………184
写真図版11	III D-1号住居跡遺物(3) ……155	写真図版41	IV F柱穴群・遺物 ……………185
写真図版12	III D-1号住居跡遺物(4) ……156	写真図版42	フラスコピット(1): フラスコピット群配列状況 ……186
写真図版13	IV D-1号住居跡 ……………157	写真図版43	フラスコピット(2): II A-1号、II A-2号 ……187
写真図版14	IV D-2号住居跡 ……………158	写真図版44	フラスコピット(3): II A-3号、II B-1号、 III A-1号、III A-2号 ……188
写真図版15	IV D-1号・2号住居跡遺物 159	写真図版45	フラスコピット(4): III B-1号、III B-2号、 IV G-1号 ……………189
写真図版16	IV E-1号住居跡 ……………160	写真図版46	フラスコピット(5): IV G-2号、IV G-3号 ……190
写真図版17	IV E-1号住居跡遺物 ……161	写真図版47	フラスコピット遺物(1): II A-1・II A-2・ II A-3号 ……………191
写真図版18	IV E-2号住居跡 ……………162	写真図版48	フラスコピット遺物(2): III A-1・III A-2・II B-1・ III B-2号 ……………192
写真図版19	IV F-1号住居跡 ……………163		
写真図版20	IV E-2号・ IV F-1号住居跡遺物 ……164		
写真図版21	III G-1号住居跡 ……………165		
写真図版22	III G-1号住居跡遺物 ……166		
写真図版23	III G-2号住居跡 ……………167		
写真図版24	III G-2号住居跡遺物 ……168		
写真図版25	III G-3号住居跡 ……………169		
写真図版26	III G-3号住居跡遺物(1) ……170		
写真図版27	III G-3号住居跡遺物(2) ……171		
写真図版28	III G-3号住居跡遺物(3) ……172		
写真図版29	III G-3号住居跡遺物(4) ……173		
写真図版30	III G-3号住居跡遺物(5) ……174		



写真図版49	フラスコピット遺物(3): IVG-1号 ……………193
写真図版50	フラスコピット遺物(4): IVG-2号〔1〕 ……………194
写真図版51	フラスコピット遺物(5): IVG-2号〔2〕・ IVG-3号 ……………195
写真図版52	土壇(1): IIA-1号、 IIIA-1号、IIB-1号 ……196
写真図版53	土壇(2): IIIB-1号、 IIC-1号 ……………197
写真図版54	土壇(3): IIA-1号、 IO-1号、IO-2号 ……198
写真図版55	土壇遺物 ……………199
写真図版56	陥穴(1): IIE-陥穴群、 IL~IIIL陥穴群配列状況 ……200
写真図版57	陥穴(2): IIIB-1号、 IIIB-2号、IIIB-3号、 IIID-1号 ……………201
写真図版58	陥穴(3): IIE-1号、 IIE-2号、IIE-3号、 IIE-5号 ……………202
写真図版59	陥穴(4): IIE-6号、 IIE-7号、IIIE-1号、 IIE-1号 ……………203
写真図版60	陥穴(5): IIIG-1号、 IIIG-2号、IIB-2号、 IIC-3号 ……………204

写真図版61	陥穴(6): IID-3号、 IIE-4号、IIC-1号、 IIC-2号 ……………205
写真図版62	陥穴(7): IIIE-2号、 IIID-2号、IIID-3号、 IIL-4号 ……………206
写真図版63	陥穴(8): IVF-1号、 IID-1号、IID-2号、 IIM-1号 ……………207
写真図版64	陥穴(9): IIL-1号、 IIL-2号、IIL-3号、 IIL-1号 ……………208
写真図版65	陥穴(10): IIL-2号、 IIIL-1号、IIIL-2号、 IO-1号 ……………209
写真図版66	陥穴(11): IIB-1号、 IIIC-1号、IVL-1号 ……210
写真図版67	陥穴(12): IIL-3号、 IM-1号、IIIM-1号 ……211
写真図版68	陥穴遺物 ……………212
写真図版69	IVC-一括廃棄土器A群(1) ……213
写真図版70	IVC-一括廃棄土器A群(2)・B群…214
写真図版71	遺構外遺物:土器(1)、土製品 ……215
写真図版72	遺構外遺物:土器(2) ……216
写真図版73	遺構外遺物:石器(1) ……217
写真図版74	遺構外遺物:石器(2)・石製品 ……218



第1図 遺跡位置図



## I. 調査にいたる経過

東北横断自動車道秋田線は、北上市から(旧)和賀町・湯田町を經由して秋田市に至る総延長107kmの高速道路である。このうち、第9次・第10次施行命令区間は北上ジャンクションから秋田県境までの延長33.9kmである。

これに関連する埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が昭和56年から分布調査を行っており、日本道路公団仙台建設局との間でその取り扱いについて協議された。協議の経過は以下の通りである。

昭和62年4月13日付け 「仙建北工第35号」による分布調査の依頼

5月25日付け 「教文第117号」による分布調査結果の回答

昭和63年9月9日付け 「教文第320号」による平成元年度発掘調査事業の照会

9月16日付け 「仙建北工第515号」による平成元年度発掘調査事業の回答

昭和63年12月27日及び平成元年1月21日：日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の三者による埋蔵文化財調査に関する協議。

これにより、岩手県教育委員会は調整の上、柳上遺跡、岩崎台地遺跡群、岩崎城西遺跡、梅ノ木台地Ⅰ・Ⅱ遺跡、兵庫館跡、本郷遺跡、石曾根遺跡、月館跡、八幡館跡、八幡野Ⅱ遺跡、田中館跡、越中畑Ⅴ遺跡の13遺跡、92,000㎡の調査を岩手県文化振興事業団の平成元年度委託事業にすることとした。

これをうけて、当埋蔵文化財センターは、平成元年4月1日付け委託契約により発掘調査に着手したものである。しかし、梅ノ木台地Ⅱ遺跡と越中畑Ⅴ遺跡の調査は、用地の買収未了や保安林解除の遅延により次年度以降に実施することとした。また、柳上遺跡、梅ノ木台地Ⅰ遺跡、兵庫館跡、本郷遺跡は、同様の理由により調査区の一部を次年度の継続調査とした。これにともない田中館跡と八幡野Ⅱ遺跡の調査面積を増加することとした。

平成2年1月10日：日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の三者による埋蔵文化財調査に関する協議。

平成2年3月2日付け「教文第731号」による平成2年度埋蔵文化財調査事業の通知

これにより、柳上遺跡、上鬼柳Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡、岩崎台地遺跡群、梅ノ木台地Ⅰ・Ⅱ遺跡、兵庫館跡、上反町遺跡、観音館跡、煤孫遺跡、法量野Ⅰ遺跡、中屋敷遺跡、林崎館跡、本郷遺跡、石曾根遺跡、八幡野Ⅱ遺跡、田中館跡、越中畑Ⅴ遺跡の20遺跡、130,700㎡の調査を実施することとなり、平成2年4月1日付け契約により発掘調査に着手した。

## II. 遺跡の立地と環境

### 1. 地形と地質 (第1～3図)

北上山地北部にその源を発し、岩手県を東西に2分する形で南流する北上川は、全長249km、流域面積10,150km<sup>2</sup>の東北地方最大の河川である。

この流域は盛岡以北を上流、盛岡～前沢間を中流、前沢以南を下流の3区域に区分されている。川の西岸と東岸では、背後に控える山地構造の違いにより、対称的な地形が見られる。西岸は、新第三系及び火山岩類を主体する奥羽脊梁山脈から流れ出す支流によって形成された大小の扇状地が発達している。これらの扇状地は本流・支流に解析され、よく発達した河岸段丘となっている。東岸では、隆起準平原である北上山地に続く丘陵部縁辺に、小規模な段丘と沖積地が観察されるにすぎない。

林崎館遺跡の所在する和賀町は中流域に含まれる。和賀町の中央部には和賀川が、その地名の発祥とされる(アイヌ語名ワッカ)「清き流れ」を恵みとしながら東流する。和賀川は、奥羽山脈の和賀岳(1,440m)に源を持ち、南流して沢内盆地を涵養した後、湯田町川尻付近で流路を東に変え、仙人溪谷で奥羽東列山脈を横断する。和賀町横川目付近で山地を離れた流れは、支流である夏油川・尻平川が形成した扇状地を浸食し、北上市展勝地で北上川と合流する。その長さは75km、北上川水系最大の支流である。

北上川流域における第四系及び地形の研究は、中川他(1963b、1971、1981)の業績が大きく、当地域の段丘は上位から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類されている。

西根段丘は、開析が進み山際では丘陵状、扇央・扇端部では残丘状を呈する。上部には、約10mの火山灰層を載せ、古期のものから一首坂火山灰、前沢火山灰、黒沢尻火山灰と命名されている。

村崎野段丘は、西根段丘と比べてよく保存されており、周囲を金ヶ崎段丘に取り囲まれている。構成層は飯豊礫層と呼ばれる層厚20～30mの砂礫層で、上部に黒沢尻火山灰を載せる。黒沢尻火山灰は上半の黄～赤褐色火山灰と下半の黄橙色浮石層(村崎野浮石)から成り、浮石層の噴出源としては、南西に位置する焼石岳(1,548m)・牛形山(1,340m)が考えられ、堆積時期はウルム氷期前半(4～7万年前)と推定されている。

金ヶ崎段丘は北上川中流域沿岸で最も広範囲に分布する段丘で、扇状地形をよく示している。佐藤(1982)は和賀川北岸に分布するものを金ヶ崎II段丘として、当段丘を2細分している。構成層は礫層(溜木礫層)で、火山灰に蔽われないことを特徴の一つとする。

村崎野段丘の分布については、前述の佐藤(1982)をはじめとする調査によって範囲が拡大

することが明らかにされている。また、一連の横断自動車道発掘調査において、それまで金ヶ崎段丘として分類されていた当遺跡、隣接する煤孫遺跡からも黒沢尻火山灰が検出され、その範囲は寺沢付近まで広がるものと考えられる。さらに、鬼柳Ⅲ・Ⅳ遺跡でも高位面で同火山灰の堆積が確認され、この地域にも村崎野段丘が部分的に残存する可能性が極めて高くなった。

## 2. 遺跡および周辺の地形（第3・4図）

林崎館遺跡は、西に隣接する本郷遺跡とともに、和賀川南岸の河岸段丘上に立地する。西側には小田沢、東側では阿部沢が北東に流れ、段丘は和賀川の氾濫原にむけて北東に張り出す。調査区はこの段丘の末端部にあたる。遺跡調査区の標高は127～130mで、表層は火山灰質粘土ないし軽石質粘土からなる。林崎館遺跡の乗る段丘面は「地形分類図」をはじめ、多くの研究では低位段丘（金ヶ崎段丘）とされてきたが、隣接する本郷・石曾根遺跡とも同様に火山灰質粘土に覆われており、いずれとも中位段丘（村崎野段丘）と考えられる。日本道路公団ボーリング調査によれば、本郷遺跡の東南東約2kmの寺沢より西、おおむね標高120m以上の段丘末端部では、火山灰質の粘性土が表層を覆っている、との報告があり、これを基にすると当遺跡面は、中位段丘に相当する可能性が高い。その面的な広がりも、今後の検討課題としたい。なお、地形区分図では熊沢、荒谷沢間のみを村崎野段丘としてある。

林崎館遺跡そのものは、調査範囲のさらに南方と西方にのびている。より低い東側では平安時代の遺物が、より高い面の南側には縄文時代の集落の拡がりも予想される。

## 3. 周辺の遺跡（第5図）

旧和賀町内では現在までに180箇所をこす遺跡が掲載されている。その概要は和賀町教育委員会から一部が報告されている（和賀町教委1989～1991）。林崎館遺跡からは縄文時代中期、平安時代の遺構と遺物が確認されたので、同時代の遺跡を中心に記述する。第5図の遺跡分布図は旧和賀町教委と旧江釣子村教委の刊行物をもとに該期の代表的な遺跡を抽出したものである。

和賀川南岸では、丘陵縁辺や中・低位段丘および開析された支谷に沿って縄文時代～平安時代の遺跡が分布し、段丘の縁辺部には深く入り込んだ沢や急崖を利用した城館跡が立地している。縄文時代前・中期の遺跡としては大木7・8式期の竪穴住居、埋設土器、土壌を検出した梅ノ木遺跡（田村他1981）がある。横断自動車道関連で当センターが調査した遺跡としては大木6・7式期の集落が確認された煤孫遺跡、大木7・8式の集落跡である本郷遺跡、同じく大木8式の集落である石曾根遺跡などがある。他に、望野、岩崎城、岩沢Ⅲ、人当遺跡などで中期の土器が採集されている。これらの遺跡はいずれも中・低位段丘の先端部に位置している。平

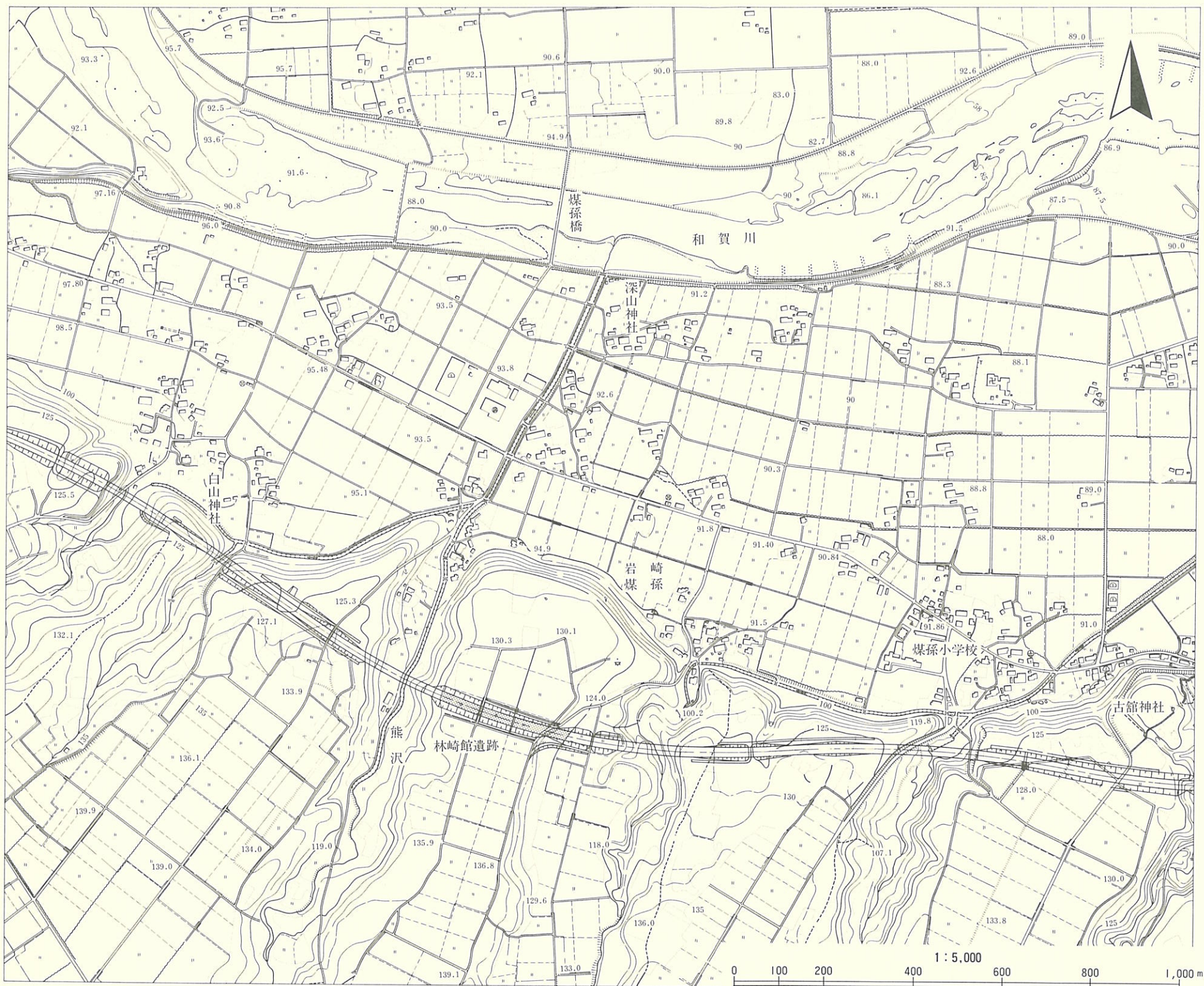




第2図 地形区分図

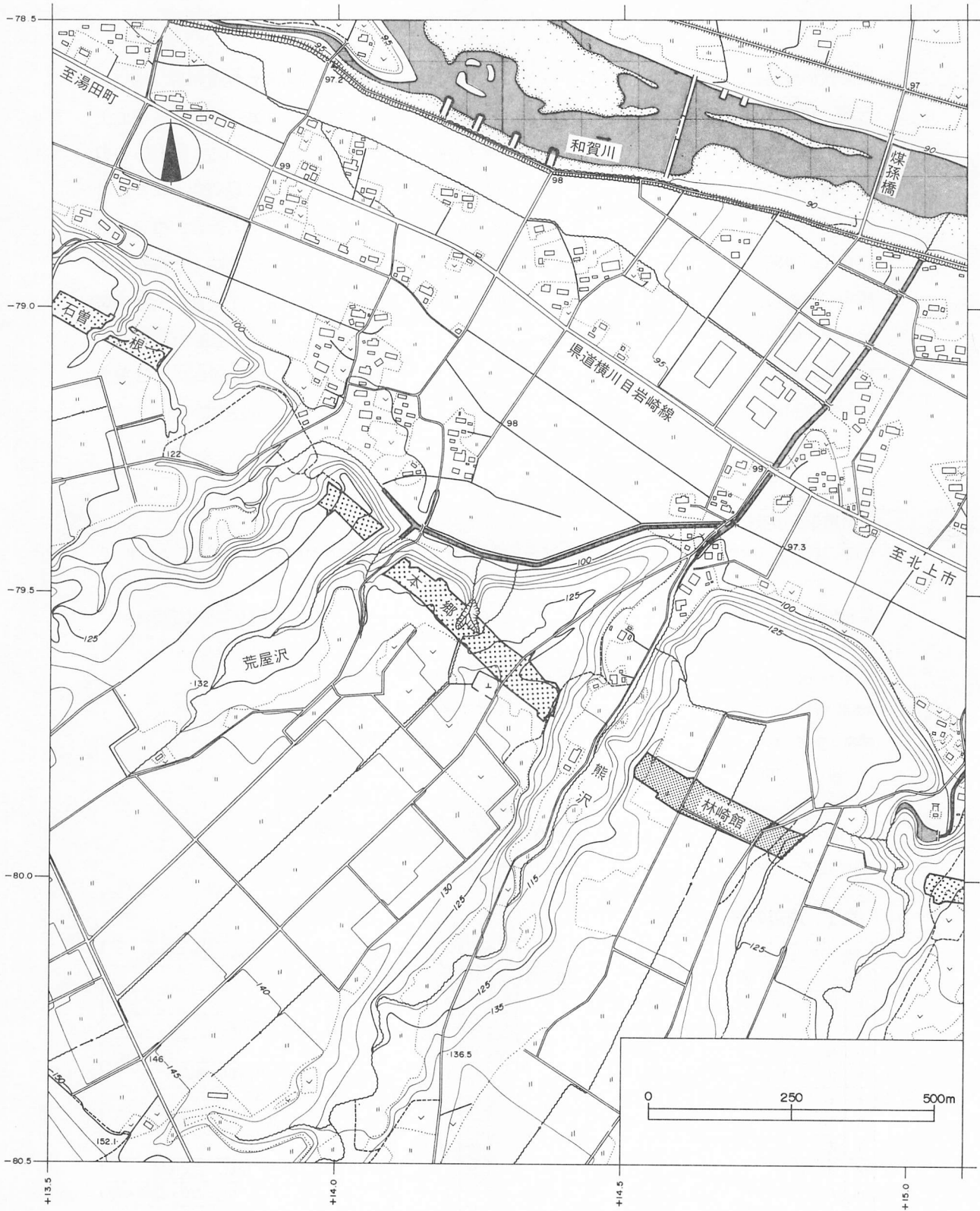
(中川他1963b、1971、岩手県1976、和賀町1983および現地調査による)





第3図 遺跡周辺の地形図





第4図 調査区位置図

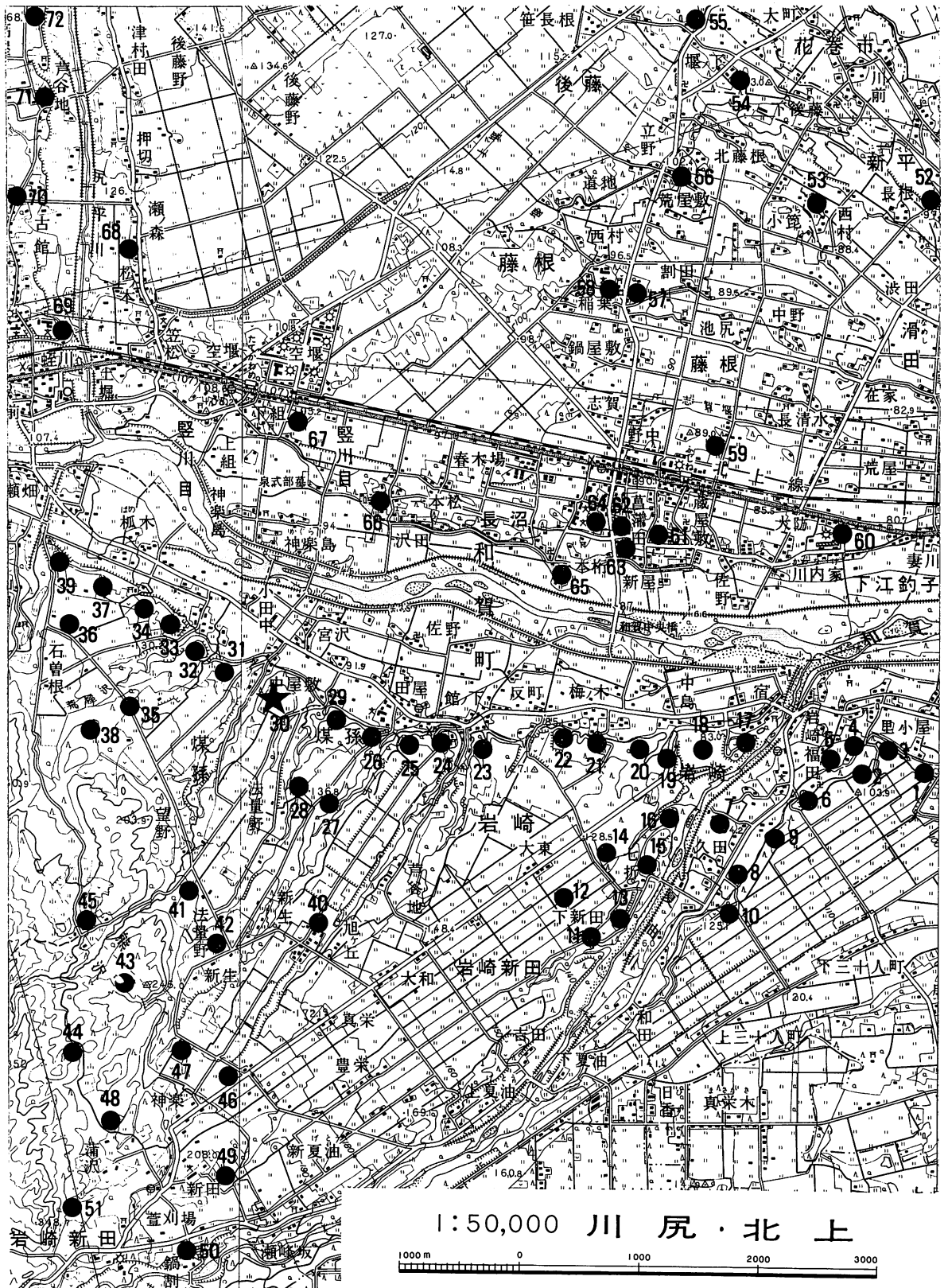
安時代の集落は、上記の梅ノ木遺跡のほかに、当センターで調査中の岩崎台地遺跡群、梅ノ木台地、兵庫館、観音館、八幡館、八幡野II遺跡などで確認されている。また、隣接する旧北上市にある上鬼柳I～IV遺跡でも竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが検出されている。これらの遺跡の報告書は近日中に刊行の予定である。和賀川北岸では、中位段丘やその縁辺部および開析された小支谷沿って縄文時代の遺跡が比較的多く分布し、底地にも若干認められる。奈良～平安時代の遺跡の多くは、低位段丘上や縁辺に沿う河岸底地に形成された自然堤防上に分布する傾向が認められる。縄文時代前・中期の遺跡は旧江釣子村に多く、大木6～7式期の大型住居跡を伴う鳩岡崎(相原1982)、新平(草間1971)、高橋(高橋1981a)、鳩岡崎上ノ台遺跡(同1983)などが知られているが、和賀町内ではすくない。平安時代の遺跡としては、和賀町内では複数の住居跡が検出された蟹沢館が、江釣子村では八幡(高橋1984)、本宿羽場遺跡(同1981b)などがある。

### 引用参考文献

- 相原 康二他 1982 「江釣子村鳩岡崎遺跡」『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』 XV-1、2 岩手県教育委員会
- 井上克弘・小沼 敦 1981 「北上川中流域における黒沢尻火山灰の層序、分布と強磁性鉱物の化学組成」 第四紀研究 20-1
- 菊池啓治郎 1977 「掘り出された古代中世」『和賀町史』 岩手県和賀町
- 草間 俊一 1971 「岩手県江釣子村新平遺跡」『日本考古学年報』 19
- 高橋 文明 1981 a 「高橋遺跡」 江釣子村教育委員会
- 同 1981 b 「江釣子遺跡群(本宿羽場遺跡)」 同
- 同 1983 「 同 (鳩岡崎上ノ台)」 同
- 同 1984 「 同 (八幡遺跡)」 同
- 和賀町教委 1989～1991 「和賀町内遺跡分布調査報告書I～III」

表1. 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考	番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考
1	欠の下台地	平安、竪穴住居跡、掘立柱建物	13	花曾根	平安
2	伍大坂I	〃、〃、〃	14	花曾根上	縄文、平安
3	〃II	〃、〃、〃	15	七折	縄文・後晩期土器
6	高田坂	奈良、平安、古墳	16	七折館	中世、縄文
9	久田II	〃、〃、〃	17	岩崎城	中世、掘立柱建物、溝他
4	小平	平安、縄文	18	梅ノ木I～VII	縄文中期集落、平安
5	小寺	〃	19	岩崎城西	柱穴列、縄文、弥生土器
7	寺村	〃、中世?	20	梅ノ木台地I	縄文、平安
8	久田I	〃	21	〃〃	〃、弥生・埋蔵、平安住居
10	八天坂	〃	22	兵庫館	弥生・再葬墓、中世城館・柵列・堀
11	新田I	平安～中世?	23	上反町	中世城館・土塁、柱穴列
12	〃II	〃〃	24	観音館	中世・溝他



第5図 周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考	番号	遺跡名	時代・遺構・遺物・備考
25	煤孫	縄文中期・住居、平安・住居、集落	49	萱刈場	縄文
26	法量野 I	縄文・陥穴・土壇・中～晩、弥生土器	50	立石	〃
27	〃 II	縄文、中世	51	水神	〃
28	〃 III	〃、〃	52	新平	旧石器、縄文中期、奈良、平安、 駅家擬定他
29	中屋敷	弥生・土壇、縄文晩期～弥生土器	53	道の下長根	奈良、平安
30	林崎館	本文参照	54	長沢	平安
31	本郷	縄文中期住居・集落	55	堰ノ下	縄文
32	石曾根	縄文中期住居・集落	56	北藤根	縄文晩期
33	月館(槻館)	中～近世	57	藤根八幡館	中世
34	八幡館	〃 〃	58	稲葉(蓮見)	縄文、平安
35	荒屋沢	縄文晩期	59	藤根駅北	平安
36	八幡野 I	縄文	60	下江釣子羽場	奈良、平安、住居
37	〃 II	縄文陥穴、奈良～平安土壇、平安住居	61	葺屋敷	縄文晩期、弥生
38	〃 III		62	倉仏車 I	〃、〃
39	田中館	縄文、平安、中世	63	〃 II	奈良、平安
40	旭ヶ丘	縄文	64	長沼古墳群	奈良、古墳
41	望野 I	縄文中・後期	65	葛蒲田古墳群	〃、〃
42	〃 II	旧石器？、縄文	66	上長沼	平安
43	代官森 I	縄文中・後期	67	豎川目	縄文後期
44	〃 II	〃	68	瀬ノ森古墳群	
45	〃 III	〃	69	蛭川屋	中世、縄文中期
46	神楽 I	縄文	70	古館(八幡館)	縄文晩期、弥生
47	〃 II		71	時田館	縄文中期
48	蒲沢	縄文	72	戸花館	縄文

### III. 調査・整理の方法

#### 1. 野外調査

##### (1) 調査区の設定と遺構の命名 (第6図)

遺構、遺物の整理、記録のため調査区域に20m四方のグリットを単位とする平面直角座標を設定し地区割りを行った。座標原点は平面直角座標第X系、基準点1：X=-79,880m、Y=14,700m、基準点2：X=-79,900m、Y=14,700mを用いた。この原点を通る磁北から西へ60°振った直線を基準緯線とし、これと直行する線を基準経線とした。調査区域内の位置は、基準経緯線を用い座標原点から距離を算出し、西から東に向かってA～O、北から南に向かってI～IVの区画名を与え、IB、IVCなどのグリット名を付した。

遺構名はグリットごと検出順に1、2、3の番号を付し、IB-1号住居跡、IIIH-3陥穴のように命名した。遺構が複数のグリットにかかる場合は、より若いグリット名によった。また、整理の段階で別種の遺構となったり、遺構と認められなかった場合は欠番とした。

## (2) 粗掘り・遺構検出

当初、2 m 幅のトレンチを任意に地形に応じて入れ、遺跡の状況把握につとめた。その結果、遺跡の西側の畑地および荒地の堆積状況が良好で、水田として利用されている殆どが開田工事に伴って削平されていることを確認した。したがって、前者については人力で掘下げ、後者は削平されている面まで重機によって除去した。検出された遺構は原則として住居跡の場合は4分方、土壌類は2分方によった。

## (3) 基本層序

遺跡の大半が削平されているため、良好な土層が観察できたのは調査区の西側のみである。

1層：表土（耕作土）、水田には存在しない

2層：褐色土、遺物を少量含む。畑地のみ存在。

3層：黒色土、遺物を含む。基本的な遺構検出面であるが、大部分は削平されている。

4層：(黒)褐色土、西側で部分的にしか存在しない。遺物を含む。

5層：地山

## (4) 実測・写真撮影

平面実測はグリットに合わせた1 m メッシュを基本とした。住居跡の場合は1/20、土壌類・その他の遺構は1/10の縮尺を原則とした。写真撮影は35mmモノクロとカラースライド各1台、モノクローム6×7判1台を使用。実際の撮影は、各種の埋土堆積状況や、遺物の出土状況、完掘状況、全景などについて行い、調査の終了段階でラジコンヘリコプターによる空中撮影を行った。

## 2. 室内整理

野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は、室内整理の段階で次のように処理、整理し、報告書作成とするとともに、資料化を計った。

各実測図面は遺構ごとに分類し、原図点検の上、必要なものについては第二原図を作成しトレースを行った。撮影されたフィルムは、ネガアルバムに密着写真と一組にして収納した。カラースライドフィルムはスライドファイルに撮影順に収納した。遺物は発掘現場および当センター整理室で水洗いした後、出土地点・層位等を注記した。その後、地点・層位ごとに仕分けを行い、接合復原作業を実施した。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮尺して図化した。炭化物、植物遺存体、石材の分析は、外部の専門家に委託した。

報告書は以上の作業を経て編集した。各遺構、遺物図面の体裁や細部については、それぞれのページに注記してある。



## IV. 遺構と遺物

### 1. 縄文時代の遺構と遺物 (第6図)

林崎館遺跡の遺構はすべて縄文時代に属するものと推定される。検出された遺構は竪穴住居跡18棟、フラスコピット11基、土壇8基、陥穴42基である。遺構配置図(第6図)に見るように遺跡の西側、台地の縁にフラスコピットが、南側には住居跡が集中し、土壇は散在している。陥穴はそれぞれのタイプ毎に集中する傾向にある。惜しむらくは、昭和40年代の開田工事により西側の一部を除いて、著しく削平されている。そのため、半数以上の住居跡は埋土、炉を失っている。はなはだしきは、床面に当時のキャタピラーの痕跡すら鮮明に残されている。したがって、遺物包含層も殆ど無く、住居跡床面出土とした土器も開田の際に運ばれてきた可能性がある。ただし、出土する土器の殆どは縄文時代中期のものであり、時期的には確実性が高い。各遺構と遺物は下記のとおりである。

#### (1) 住居跡 (第7～49図、写真図版2～40)

##### ⅡB-1号住居跡 (第7図、写真図版2)

〈検出状況〉遺跡の西端、フラスコピット群の近くに位置している。B、C区は台地のへりに位置するため開田を免れ畑地となっており、包含層、埋土とも良好であった。検出面は3層黒色土の上面である。

〈形状・規模〉径5.3×4.7mの卵形のプランで、長径はほぼ北向きである。

〈埋土〉自然堆積で、上層は黒色土、下層は暗・黒褐色土に大別される。粘土質の土が多く、焼土、炭化物、遺物は、他の住居に比較して非常に少ない。

〈壁・床面〉壁はほぼ直立しており、深い所で20cmを測る。床面は平坦で堅い。

〈柱穴〉6本を検出したが、支柱穴はP<sub>1-4</sub>で正方形となる。他の2本は入口とも考えられるがP<sub>2</sub>に近すぎる位置にある。

〈炉〉検出されなかった。埋土、床面に攪乱はなく、床面周辺に焼土、炭化物が少なかったことからして、当初より炉は設置されていなかったと推定される。

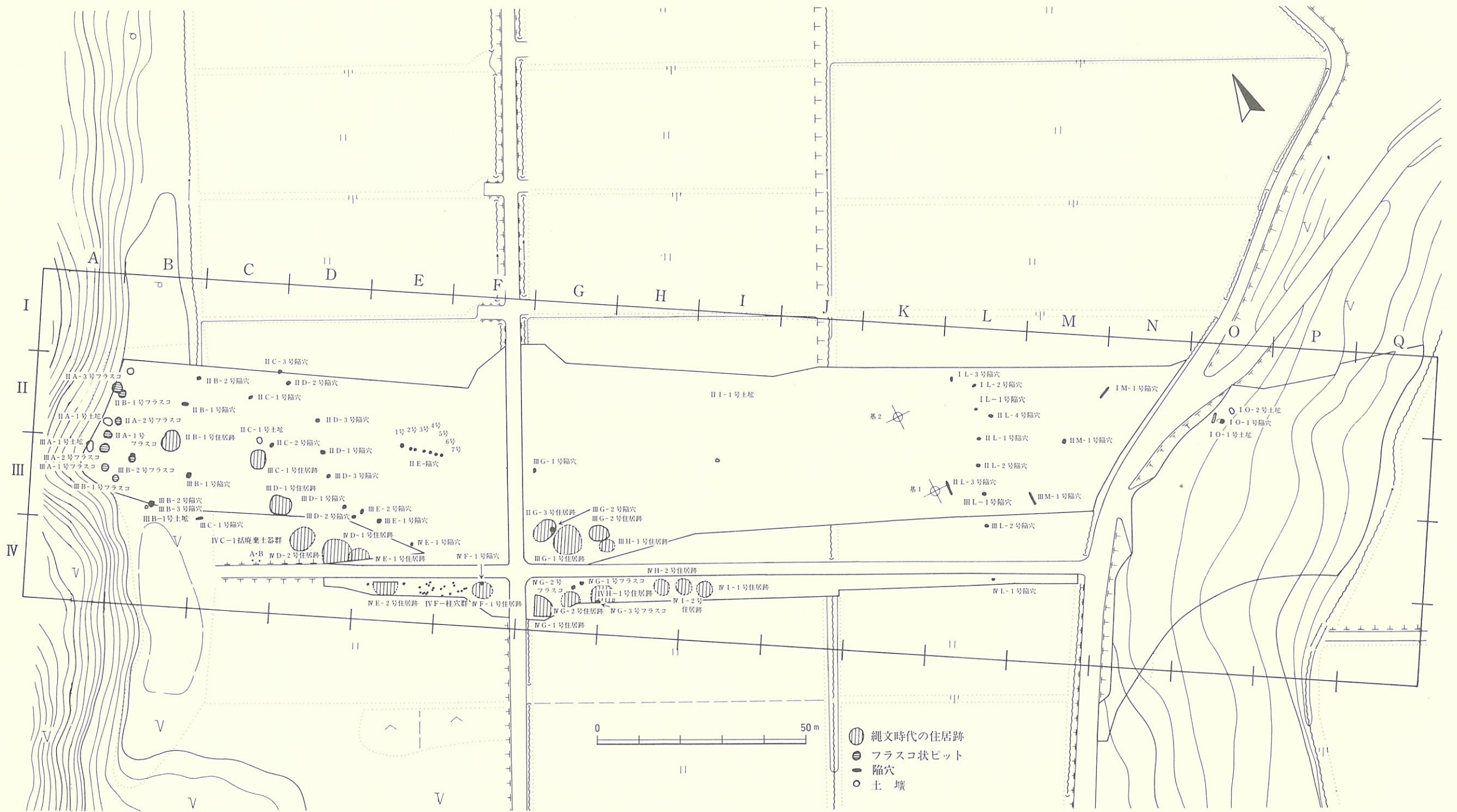
#### 遺物 (第7・8図、写真図版3)

〈出土状況〉殆どが埋土上層からの出土で、床面からは出土していない。この状況は炉が存在しないことと関連があるものと思われる。

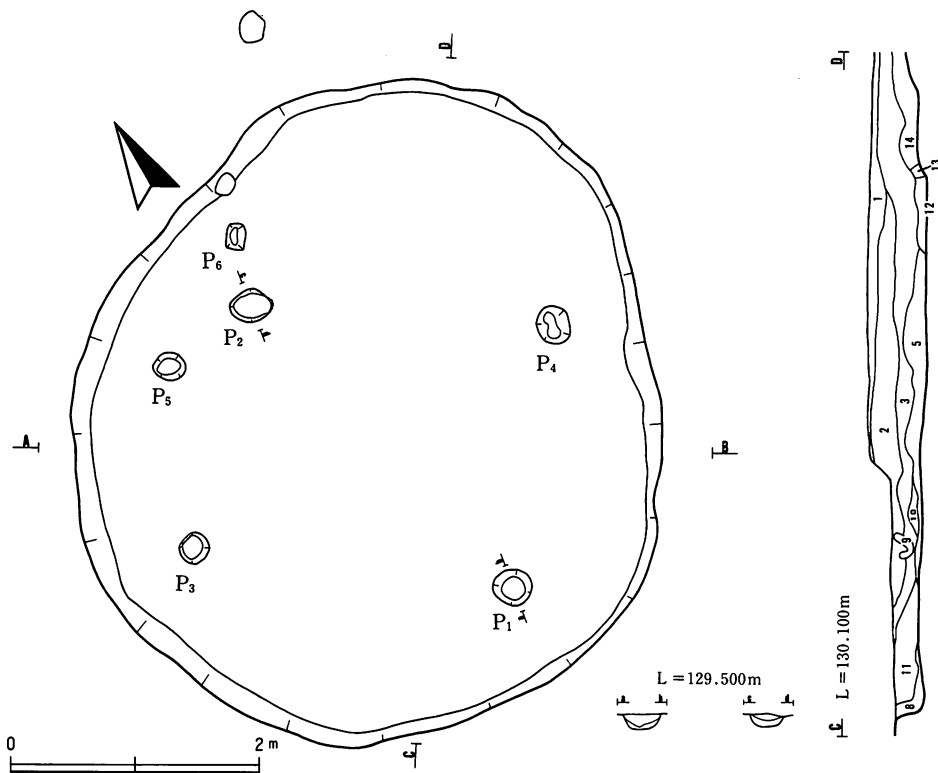
〈土器〉すべて鉢、深鉢の破片である。

〈石器〉16の擦石を除いて1層の出土。13、14は両面加工で完形。15は石棒状の擦石で擦り面





第6図 林崎館遺跡調査区遺構配置図



L = 130.100m

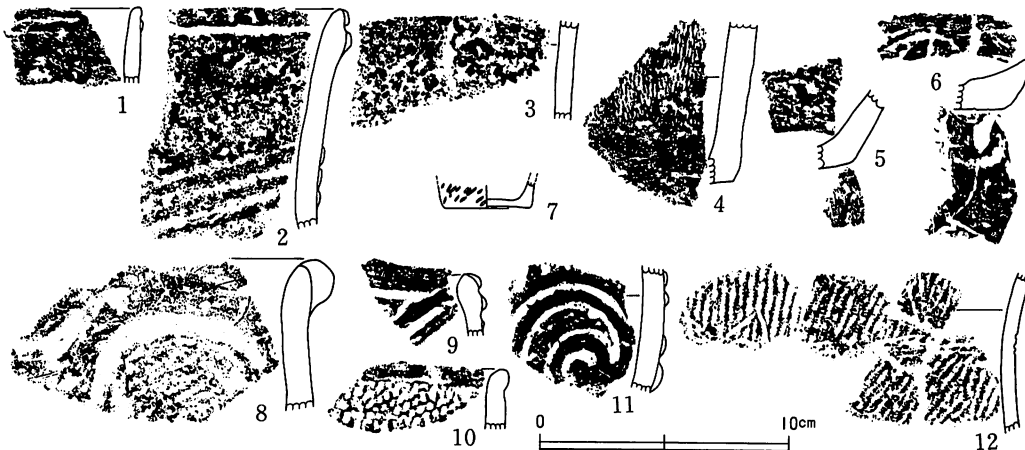


P Na.	(cm)					
	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>
径(上场)	30	34	24	30	26	20
	29	27	22	28	23	15
径(下场)	18	32	17	22	20	7
	18	26	14	6	13	3
深	13	11	9	10	8	14

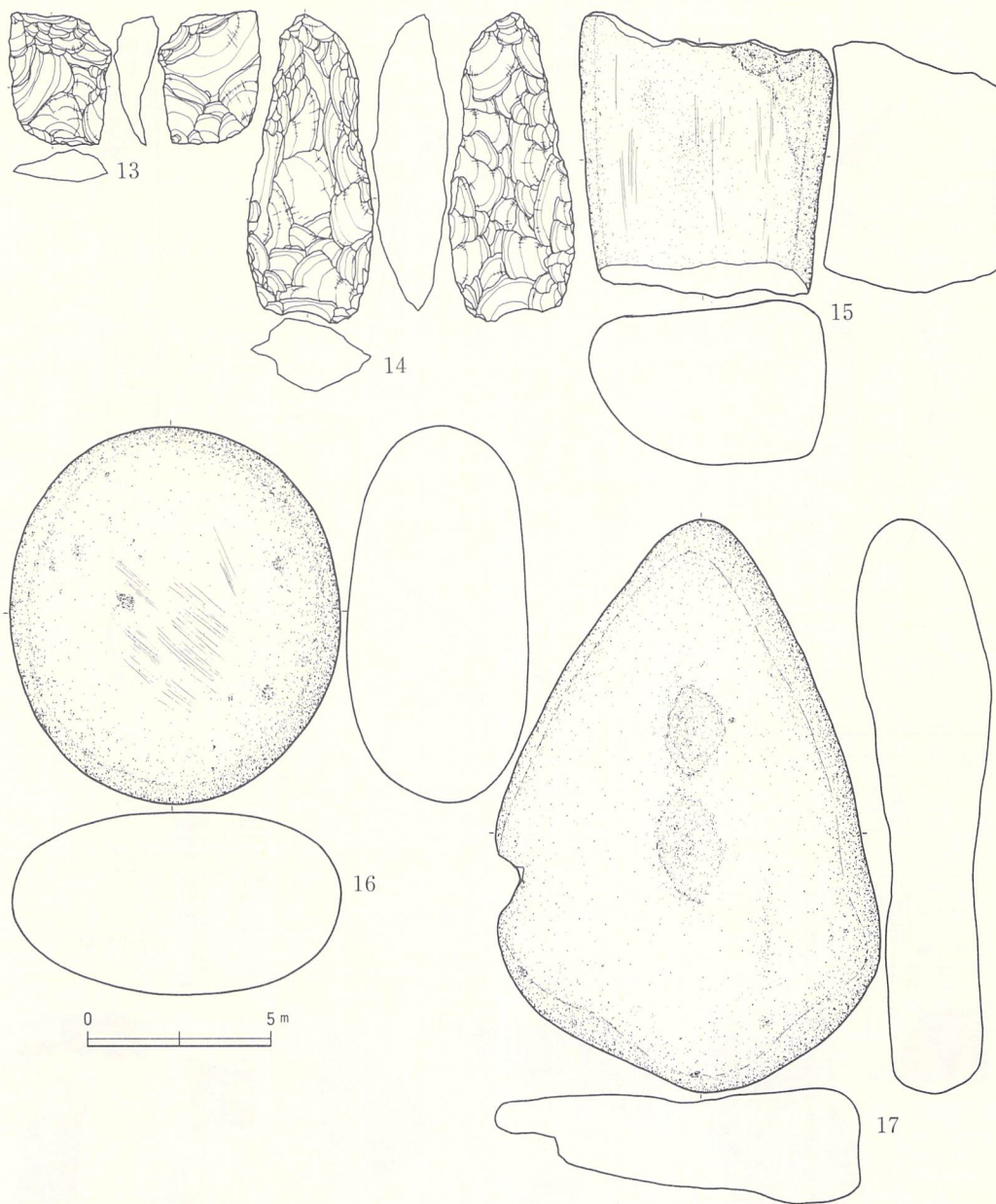
P<sub>1</sub>(a-b) 色調 土性  
 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR4/3 褐色 粘土質  
 2. 7.5YR4/6 褐色 粘土質(柔), 含炭化物

P<sub>2</sub>(c-d) 色調 土性  
 層位 色調 土性  
 1. 10YR4/6 褐色 粘土質  
 2. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(柔)

層位 色調 土性  
 1. 10YR2/1 黒色 含浮石  
 2. 7.5YR2/1 黒色  
 3. 10YR2/2 黒褐色  
 4. 10YR3/4 暗褐色  
 5. 10YR3/4 暗褐色 粘土質(柔)  
 6. 10YR4/4 褐色 粘土質(硬)  
 7. 10YR2/3 黒褐色  
 8. 10YR2/2 黒褐色  
 9. 10YR3/2 黒褐色  
 10. 10YR2/3 黒褐色 粘土質, 風化したローム混り  
 11. 10YR3/3 暗褐色 含炭化物(少量)  
 12. 10YR3/4 暗褐色  
 13. 10YR4/6 褐色 粘土質  
 14. 10YR3/4 暗褐色



第7図 IB-1号住居跡・遺物(1)



図版No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
13	埋土1層黒色	播削器	3.6	2.8	1.2	9.0	玉すい	産地、時代不詳
14	埋土2層褐色	石ペラ	8.5	3.5	2.1	49.4	硬質泥岩	奥羽山地、新第三系中新統
15	埋土1層黒色土	擦石	7.8	7.0	4.8	(370)	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
16	埋土4層褐色	擦石	10.2	9.0	5.0	670	"	" "
17	埋土1層黒色土	凹石(?)	15.6	10.5	3.7	(620)	"	" "

第8図 II B-1号住居跡・遺物(2)

No	出土地点	器形	特 徴・文 様・その他
1	埋土 3層	小形鉢	口縁部隆沈線、頸部ヨコナデ
2	〃 2層	深鉢	隆線による施文、頸部無文
3	〃 〃	〃	体部下半無文
4	〃 〃	〃	体部下半～底部、燃糸文、底部ナデ
5	〃 〃		同 上 〃
6	〃 〃		手捏土器、無文
7	〃 〃	小形鉢	底部ミガキ、LRヨコ
8	埋土 1層	深鉢	太い隆帯による区画、RLナナメ
9	〃 〃	鉢	隆沈線、縄文あるが不明
10	〃 〃	深鉢	L4本による組紐、上端は側面圧痕
11	〃 〃	〃	隆沈線による渦文
12	〃 〃	〃	沈痕文、頸部、RLタテ

が凹んでおり、擦痕は縦に走る。砥石の可能性もある。17は中央部に浅い二つの凹みを持つが、擦きによる凹みではなく、擦り込みの加圧によるものか、滑らかな凹みである。

〈時期〉直接的に時期を示す資料はないが、埋土の土器は大木8b式であり中期と推定される。

### III C-1 住居跡 (第9図、写真図版4)

〈検出状況〉II B-1号住から東側20mの地点で、基本層序3層中に検出された。良好な埋土が存在するのはこのC区周辺までである。ほかの遺構との重複はない。

〈形状・規模〉4.85×3.80mの隅丸長方形で、壁際には支柱穴がめぐる。北側には細く浅い溝が走るが、本来的なものと思われる。南壁際には炭化物の多い埋土をもつピットがある。長軸はII B-1号住と同様やや東に寄る。

〈埋土〉自然堆積で5層に分類される。

〈壁・床面〉やや外反する壁であるが、北側半分は10～20の幅で崩壊している。床面はほぼ水平で堅くしまっている。

〈柱穴〉支柱穴を含めて16本が検出された。深さ20cm以上のP<sub>1-4</sub>が結ぶと方形になり支柱穴となろう。支柱穴は東側で一部分とぶが、他は等間隔に配置されている。P<sub>5,6</sub>の役割は不明。

〈炉〉8個の川原石で構成された方形の石囲炉で、礫は長辺を縦にして埋設している(写図参照)。西端のコーナーには深鉢が伏せた状態で出土した。掘り込みの深さ25cmで、焼土は5cmの厚さである。断面からすると土器の埋設はともなわない。

### 遺物 (第10・11図、写真図版5・6)

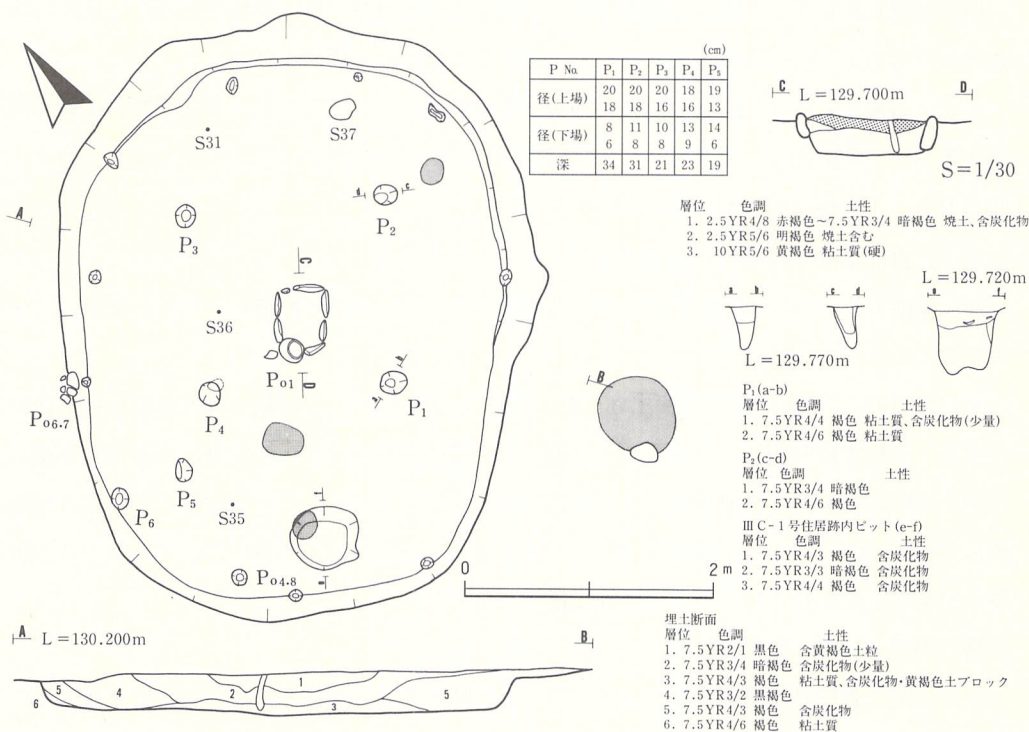
〈出土状況〉各層から万遍なく出土しているが、特に床面からは小ブロック状にまとまって出土している。6、7は壁にかかって、4、8はピットの上面で出土。石器も4点床面から出土



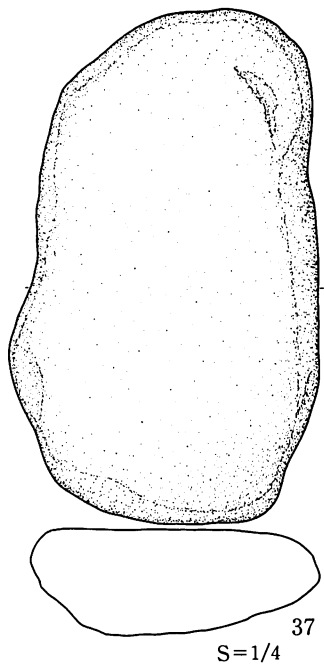
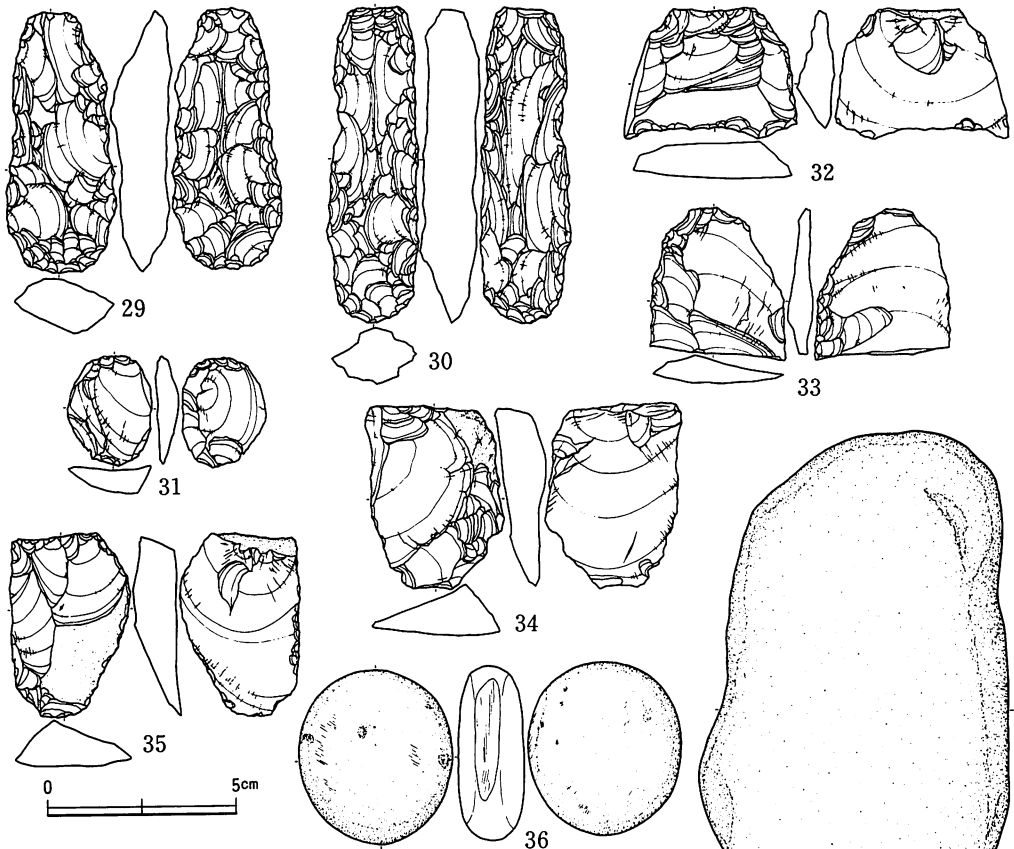
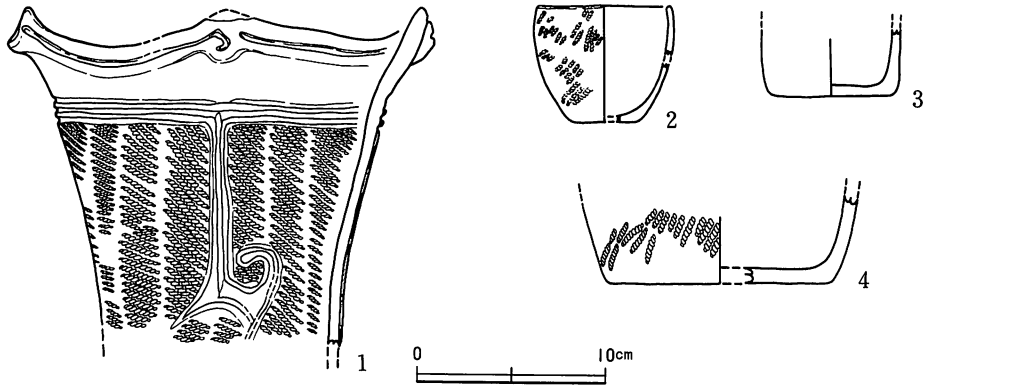
している。住居跡の東側やや離れた地点で大型深鉢の破片が集中していた。

〈土器〉1は炉石に倒立した状況で検出。底部を欠損しており、隣に扁平な自然角礫が出土、この礫が蓋の役目をしていた可能性もある。その場合は炉あるいは住居の廃棄に伴う儀礼の遺物とも考えられる。床面の土器は完形品はなく、図化できたのは小型の鉢のみである。

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	炉	深鉢	突起4個の波状口縁、頸部無文、波頂部に対応して隆沈線(曲線と直線が2対)LRタテ、付着物なし
2	床	小形鉢	1/3残、底部ミガキ、RLナナメ
3	1層	〃	内外面ヘラ、底部ナデ
4	ピット埋土	深鉢	LRヨコ、底部網代の上からナデ
5	床	〃	浅い沈線による三本単位の施文、LRタテ
6	壁際 5層	深鉢	波状口縁、頸部無文・平行隆線、RLヨコ
7	〃 〃	〃	〃、頂部渦文、頸部無文、三本沈線の施文
8	ピット埋土	〃	体部下半、底部ナデ、RLタテ、部分的に炭化物付着
9	3層	〃	口唇部深い沈線、口縁無文、浅い沈参文、RLタテ
10	〃	〃	体部片、細いタテの平行沈線、LRタテ
11	2層	〃	平縁、口縁部隆線X字状文、頸部粘土帯貼付、RLタテ
12	〃	小形鉢	波状口縁、口縁部渦文、隆線文、LRヨコ
13	〃	〃	〃、〃、〃
14	〃	深鉢	口縁付近、橋状把手、全面ミガキ



第9図 III C-1号住居跡



図版No	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	石質	産地
29	II層暗褐色	石ペラ	6.9	2.9	1.7	27.6	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
30	ピット埋土中層	"	8.3	2.4	1.5	35.0	硬質泥岩	" "
31	床	ピエス、エスキュー	2.9	2.3	0.7	4.5	珪質泥岩	" "
32	II層暗褐色	播削器	3.5	4.6	1.0	17.5	珪質細粒凝灰岩	" "
33	I層黒色	"	4.0	3.6	0.7	(10.8)	珪質泥岩	" "
34	II層暗褐色	"	4.9	3.7	1.4	(23.6)	珪質細粒凝灰岩	" "
35	床	"	4.9	3.2	1.2	18.4	珪質泥岩	" "
36	床	撥石	4.6	4.1	1.7	37.4	淡緑色細粒凝灰岩	" "
37	ピット	台石(?)	32.2	20.2	7.2	4,320	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統

第10図 III C-1号住居跡・遺物(1)



第11图 III C-1号住居跡・遺物(2)



No	出土地点	器形	特 徴・文 様・その他
15	2層	鉢(?)	口縁部装飾突起の一部
16	〃	小形鉢	口縁部隆線
17	〃	〃	〃
18	〃	鉢	底部片、網代の上からナデ
19	〃	深鉢	体部片、沈線文、LRタテ、炭化物付着
20	〃	〃	キャリバー形、口縁部隆線文、体部沈線文、口縁部RLヨコ、体部RLタテ
21	1層	鉢	口縁内湾、隆沈線
22	〃	〃	〃 、 〃
23	〃	〃	〃 、 〃 、口縁部にも縄文、RLヨコ
24	〃	深鉢	キャリバー形、口縁部隆線文、RLヨコ
25	〃	小形鉢	〃 、 〃 、 〃
26	〃	深鉢	口唇部隆線剥落、渦巻状突起、隆線文、RLヨコ
27	〃	小形鉢	口唇部に一本の隆線
28	〃	深鉢	粗製、無文

〈石器〉 31、35、36、37は床面、30はピット埋土の出土。33を除いて完形品である。32は先端部に刃を、33～36は側縁に刃をもつ。36は全面を擦っているが、特に側面を丁寧に加工している37は一面をフラットに擦りあげた台石状の石器。

〈時期〉 炉、床面の土器は大木8b式であり、中期に属する。

### Ⅲ D-1号住居跡（第12図、写真図版7・8）

〈検出状況〉ⅢC-1号住の南側7mの地点で炭化物の集中する面を検出し、その分布範囲から住居跡と確認した。開田のため埋土の一部は削平されている。炭化材、灰の分布状況は焼失家屋であることを示している。

〈形状・規模〉 5.35×4.25mの隅丸方形を呈する。

〈埋土〉 下層は自然堆積である。床面に近い層には多量の炭化物が含まれ、材は炉に向かって放射状となる。東南には材は少ない。この上層には粘土ブロックの投げ捨て（9、12、16層）が見られ、さらに上層は土器の廃棄の場となっている。

〈壁・床面〉 ゆるやかに外反する壁で、床面は平坦で堅くしまっている。

〈柱穴〉 支柱穴は4本で構成されると思われるがP<sub>1,5</sub>の位置が他の三本とずれており、方形とはならない。三本と対応する位置では検出できなかった。P<sub>1</sub>、P<sub>5</sub>とも深さも近似しており（新旧は不明）これらを含めた不正形の4本柱で構成されていたと推定される。

〈炉〉 竈穴および柱のほぼ中央に位置する地床炉である。掘り込み周辺は灰が分布し、中央に層高5cmの焼土がある。炉の東側に扁平な自然礫あるが関連は不明。加熱されてはいない。

遺物（第13～20図、写真図版9～12）

〈出土状況〉床面にはりついた遺物は皆無で、直上の3、14層から少量の遺物が出土している。

大多数の遺物は中層の2層および上層の1層の周辺からの出土で、これらの遺物は廃棄されたものである。87の土偶も2層の検出で、他の土器片に混じって出土している。

〈土器〉3、17～21が床直3、14層の出土、22～30はその上層あるいは周辺ブロック的な層から出土したものである。31以下は2、1層の土器が殆どのため完形品はない。器種は深鉢が大多数を占め、図示した86点中浅鉢は3点のみである。深鉢は口縁部がキャリパー状のものと、外反するものとに大別できるが、量的には前者が多い。縄文は単節が多く、複節は3点のみである。1は注口土器、75は口縁に一对の孔がある。

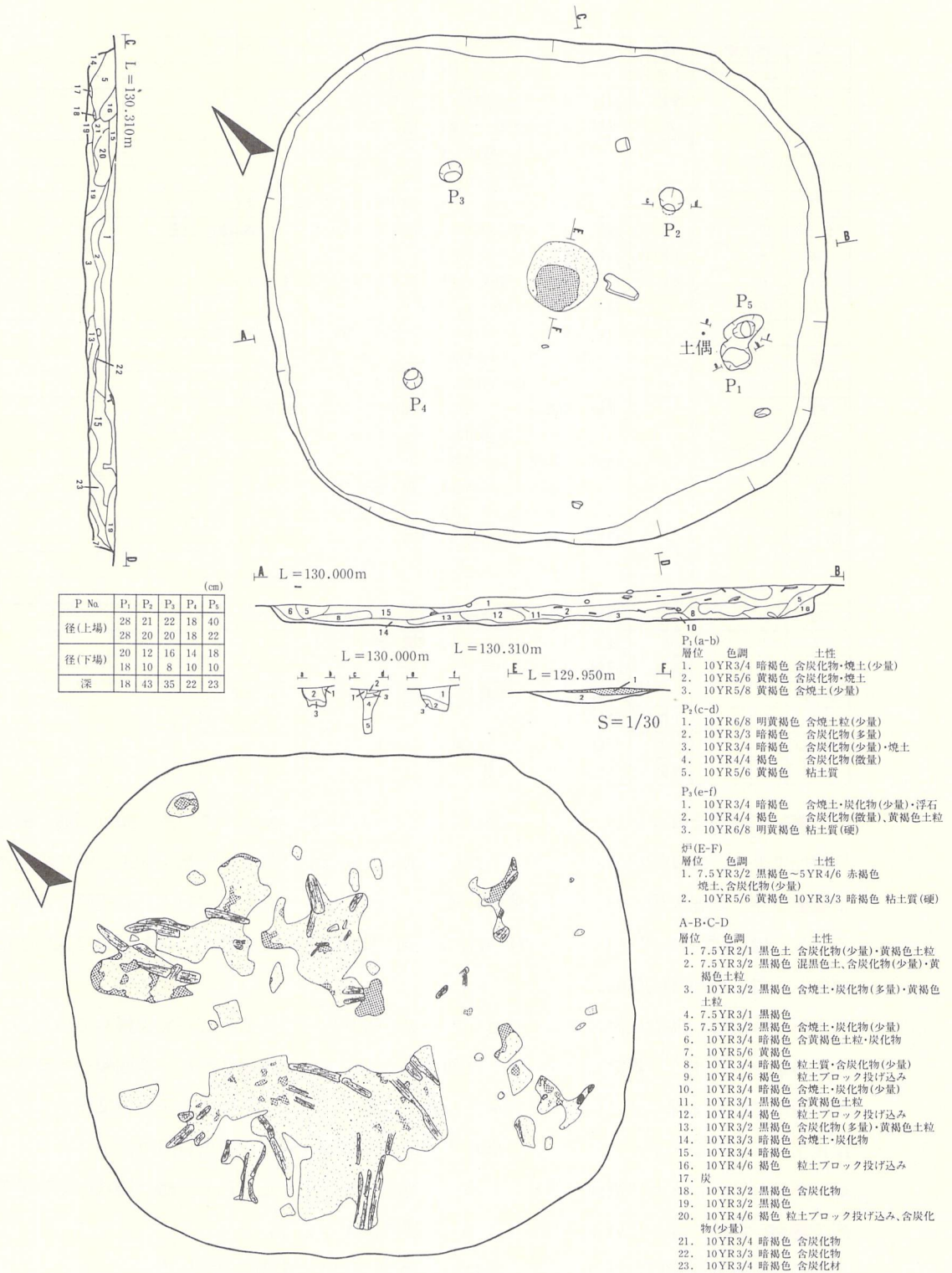
№	出土地点	器形	特 徴・文 様・その他
1	埋土 2層	注口	口縁部欠、注口先端欠、2本単位の沈線文、内面・底部ミガキ、RLタテ
2	〃 〃	小型鉢	渦文、底部擦痕、RLタテ
3	〃 3層	深鉢	波状口縁、キャリパー形、隆沈細文、体部地文のみ、口縁RLRヨコ、体部RLRタテ
4	〃 2層	〃	平縁、キャリパー形、隆沈線文で口縁部区画、体部地文のみ、口縁LRヨコ、体部RLタテ
5	〃 1層	〃	平縁、装飾突起、口縁部隆沈線RLヨコ、体部沈線文RLタテ、内外面炭化物
6	〃 2層	〃	大型キャリパー、推定最大径47cm、口縁部隆沈線、頸部無文、RLタツ
7	〃 〃	〃	波状口縁、口径部深い沈線、体部隆線、頸部無文、LRタテ
8	〃 〃	〃	平縁、口縁部外反・隆線、頸部無文、沈線文、RLタテ
9・10	〃 1～2層	〃	体部、隆沈線、底部ナデ、LRタテ
11・12	〃 〃	〃	体部下半、〃、〃、RLタテ
13	〃 〃	〃	粗製、口縁部2本の平行隆線、LRタテ・ヨコ
14・15	〃 〃	〃	体部下半、地文のみ、底部ミガキ(4)、RLタテ
16	〃 〃	浅鉢	〃、〃、〃、RL
17	〃 3層	小形鉢	平縁、隆沈線、RLヨコ
18	〃 〃	深鉢	粗製、平縁、頸部隆帯に刻目
19	〃 〃	〃	体部下半～底部(ナデ)
20・21	〃 14層	〃	粗製、平縁、口縁に一本の隆線(20LRタテ)
22	〃 9層	小型鉢	キャリパー型、頸部無文、RLヨコ
23	〃 6層	深鉢	体部下半、細く浅い沈線、RLタテ
24	〃 12層	小型鉢	平縁、口縁下に一本の隆線
25	〃 6層	〃	〃、三本沈線、LRタテ・ヨコ
26	〃 〃	〃	口縁部付近、キャリパー型、隆沈線、LRヨコ
27	埋土 中層	深鉢	粗製、口縁内湾、隆線貼付
28	〃 〃	〃	体部下半、隆線文、LRタテ
29	〃 〃	〃	波状口縁、LRヨコ
30	埋土 中層	深鉢	体部下半～底部(ナデ)
31	埋土 2層	〃	波状口縁、キャリパー型、頂部下に隆線の渦文、口縁RLヨコ、体部タテ
32～34	〃 〃	〃	平縁、キャリパー型、隆沈線、32RL・33LRヨコ、34LRタテ・ヨコ
35	〃 〃	〃	キャリパー型、隆線文、縄文なし
36	〃 〃	〃	平縁、キャリパー型、突起の左右に双渦文、LRヨコ
37・38	〃 〃	〃	波状口縁、キャリパー型、隆沈線、37L・38LRヨコ
39	〃 〃	〃	〃、口縁内湾、LRヨコ
40	〃 〃	〃	〃、二本隆(沈)線の施文、頸部無文、LRヨコ
41	〃 〃	〃	平縁・内湾、隆線貼付文、地文(不明)の上をナデ
42・43	〃 〃	〃	〃、キャリパー型、隆沈線、42LR・43RLヨコ

No	出土地点	器形	特 徴・文 様・その他
44	埋土 2層	小型鉢	〃、〃、平行隆沈線、RLヨコ
45	〃 〃	深鉢	波状口縁、二本隆線施文、LRヨコ
46	〃 〃	〃	平縁、隆沈線直接タテ展開、横C字状文
47・48	〃 〃	〃	〃、頸部に太い隆線、47縄文の上をナデ、48LRヨコ
49	〃 〃	〃	平縁、口縁部平行隆沈線、LRヨコ?
50	〃 〃	〃	〃、キャリパー型、口縁部隆沈線、頸部沈線文、RLヨコ
51~53	〃 〃	〃	波状口縁の頂部に渦文、51頸部剥落、52LRヨコ、53は渦文剥落
54	〃 〃	小型鉢	波状口縁、体部文様タテ展開、LRタテの上からナデ
55	〃 〃	深鉢	口縁外反無文、頸部に隆線、体部浅い沈線文、LRタテ
56	〃 〃	〃	波状口縁頂部沈線のみ、LRタテ
57	〃 〃	〃	波状口縁、口縁と頸部太い平行隆線、頸部ミガキ、穿孔焼成後
58	〃 〃	〃	平縁直立、頸部平行隆線、RLヨコの上からナデ
59・60	〃 〃	〃	〃、口縁平行隆線、体部隆沈線渦文?、LRヨコ
61	〃 〃	〃	平縁、頸部粘土帯に刻目、体部平行沈線、原体不明
62	〃 〃	〃	〃、口唇部・隆線間原体押圧、RLタテ
63	〃 〃	〃	体部、沈線文、表面剥落、LRヨコ
65	〃 〃	〃	〃、頸部無文、鋭利な隆沈線(部分的に剥落)、RLRタテ
66・67	〃 〃	〃	〃、三本沈線施文、RLタテ、66炭化物
68・69	〃 〃	〃	粗製、平縁、隆線貼付(69剥落)、無文
70~72	〃 〃	〃	〃、〃、〃、縄文
73・74	〃 〃	〃	〃、〃、無文
75	〃 〃	浅鉢	平縁、平行線文、焼成前の穿孔一对突起状、RLタテ
76	〃 〃	〃	波状口縁、頂部渦文か?、内面ミガキ、RL
77~79	〃 〃	深鉢	底部ミガキ又はナデ
80・81	〃 〃	〃	底部網代痕、1体越え、1本潜り、1本送り、80LRタテ
82	埋土 1層	小型鉢	波状口縁頂部渦文
83~85	〃 〃	〃	平縁、キャリパー型、隆沈線、RLヨコ
86	〃 〃	深鉢	体部、沈線文、LRタテ

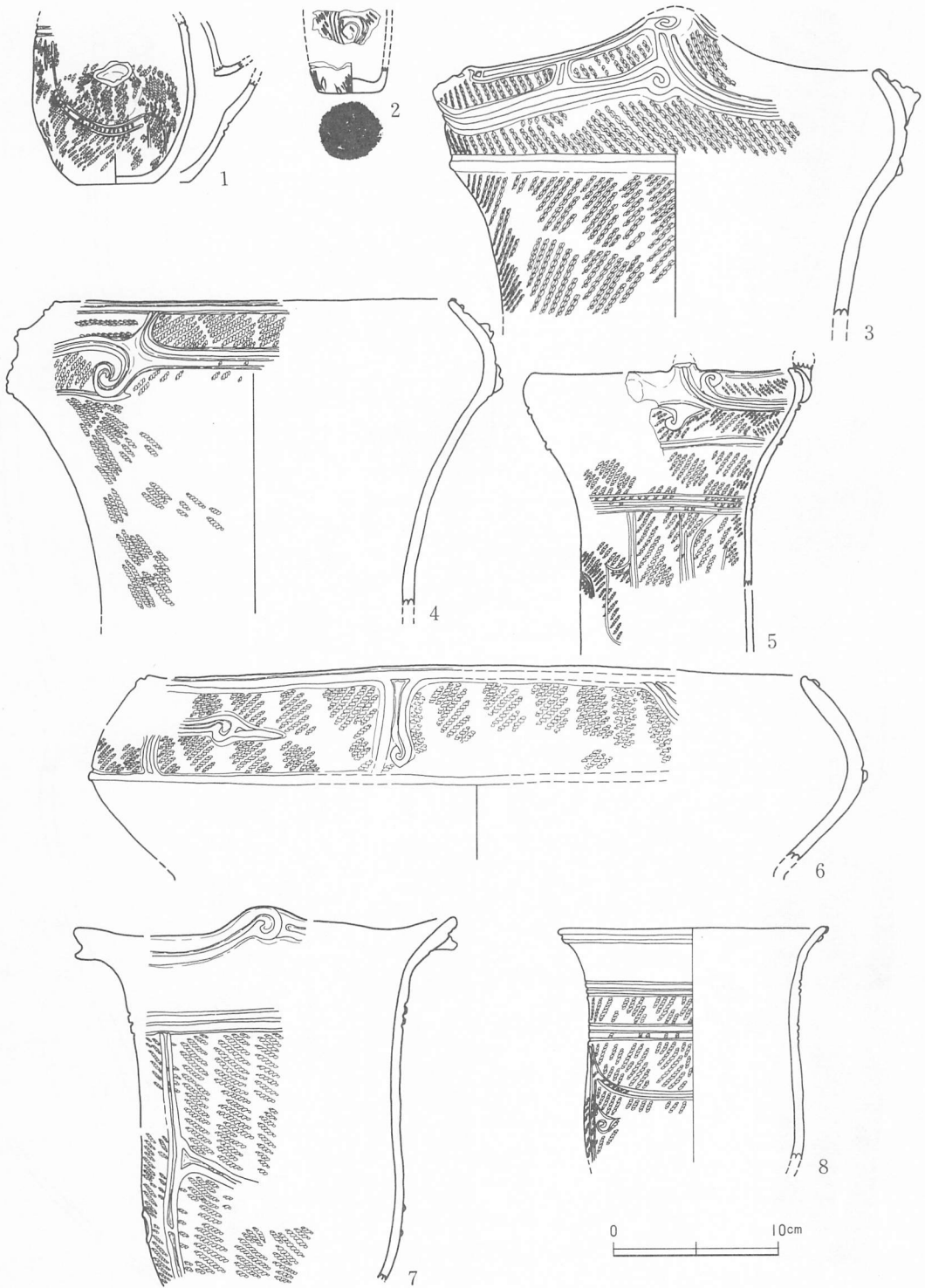
〈石器〉床面出土はないが、直上の3層からは5点の礫石器が出土している。90は石鏃、91は片面加工の錐、92は気泡の混じる黒曜石製の搔削器、96は横長剝片の先端を加工。97は小型扁平磨製石斧で上部欠損。98、99は擦痕のある小さな礫。100~103凹石でいずれも両面を使用している。102は側面を擦っている。104~110は平面、側面を利用した擦石。111、112は太い擦痕があり、113は擦り面が窪んでいる。

〈土製品〉87は土偶で顔面は欠損、腕は左右に短く張り出している。脚部も欠損しているが、背面の造りからすると直立はしないで、全面に出る座位の姿と推定される。全面粗いヘラケズリで腹部の円形沈線の中には細かい刺突文があり、胸元には太い刺突と2条の縄文がある。背面は1条の縄文があるのみである。2層からの出土。88は3層出土で土偶の脚のように見えるが、両端の窪みは生きて周囲が折れている。糸巻状の形態が考えられる。89は硯状の方形の形態で縁が一段高くなっている。背面は欠損、2層の出土である。

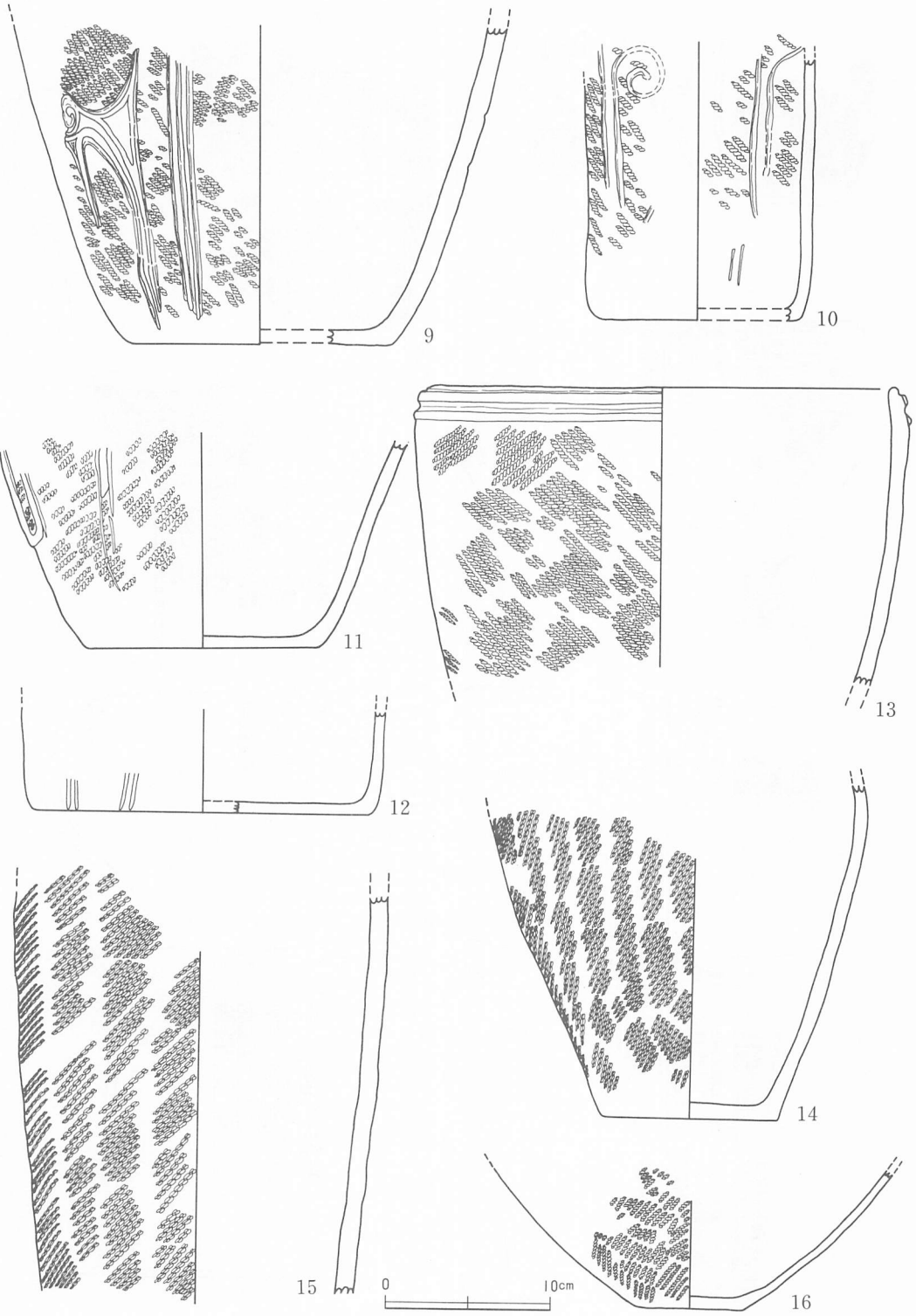
〈時期〉直接的な資料に乏しいが、土器は大木8b式が殆どであり、中期に属する。



第12図 III D-1号住居跡



第13图 III D-1号住居迹遗物(1)

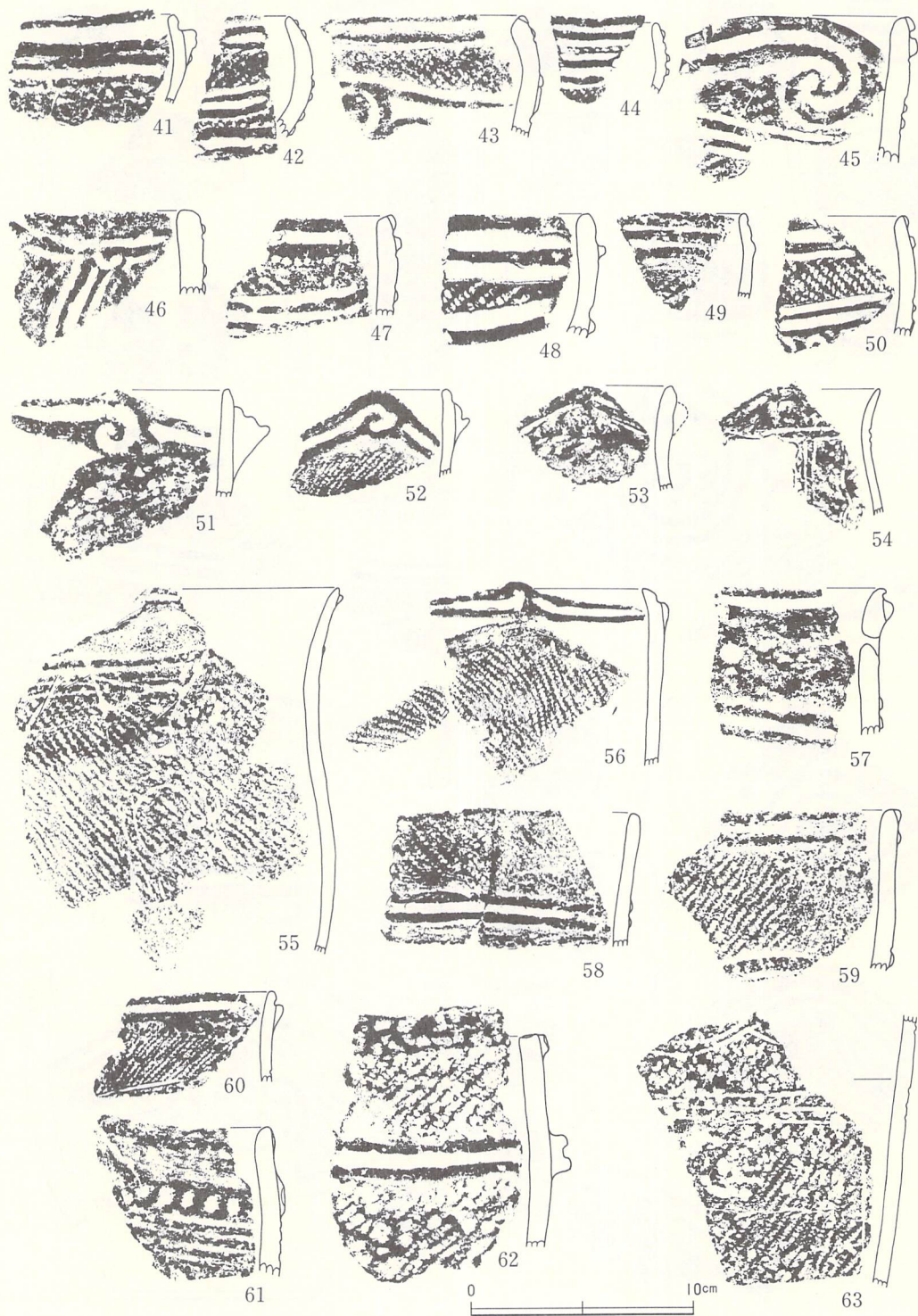


第14图 III D-1号住居迹遗物(2)

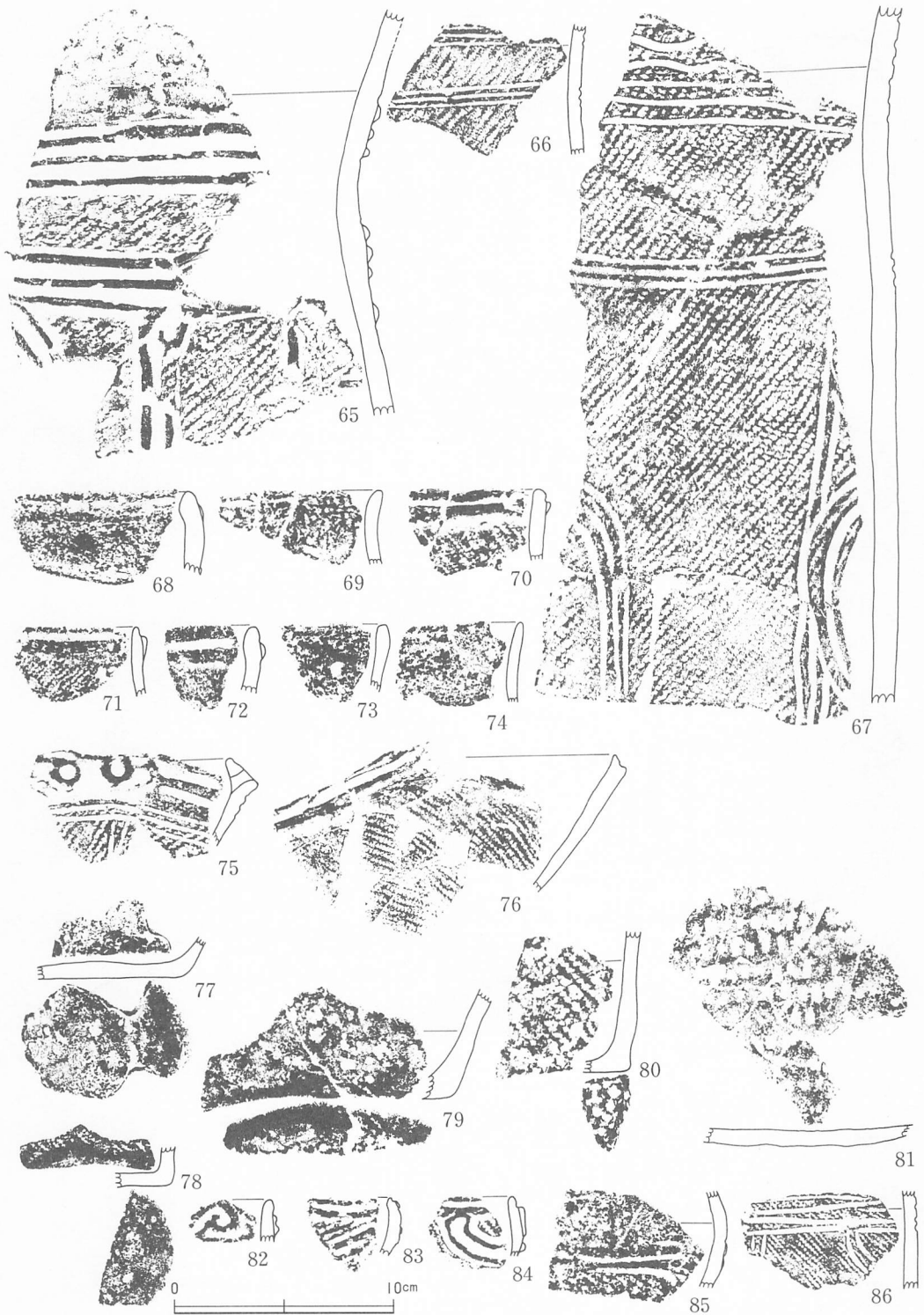


第15图 III D-1号住居跡遺物(3)

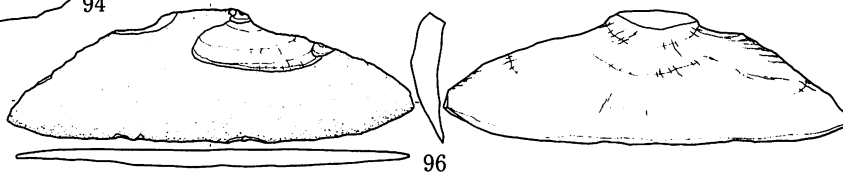
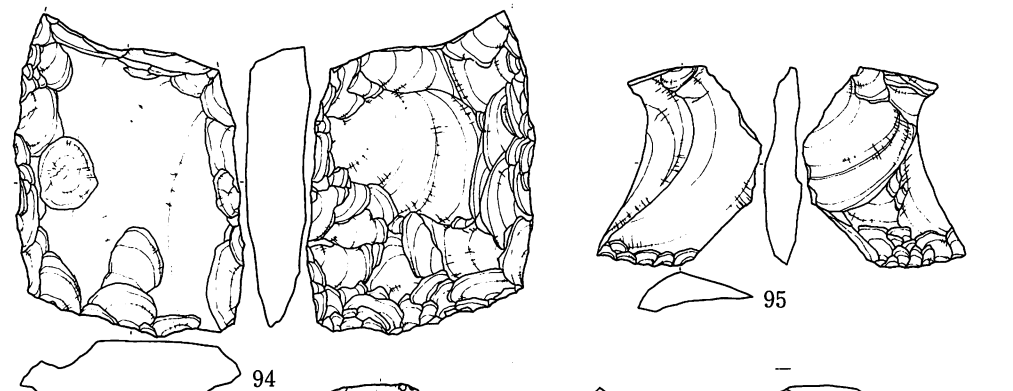
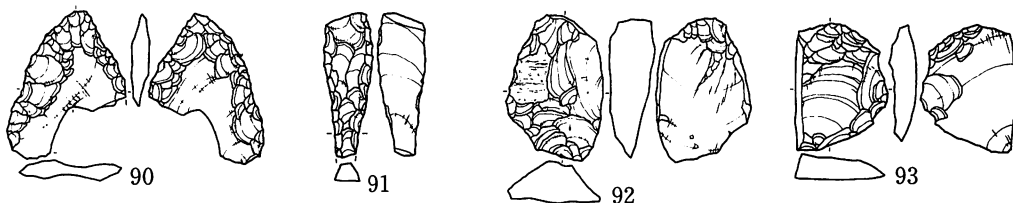
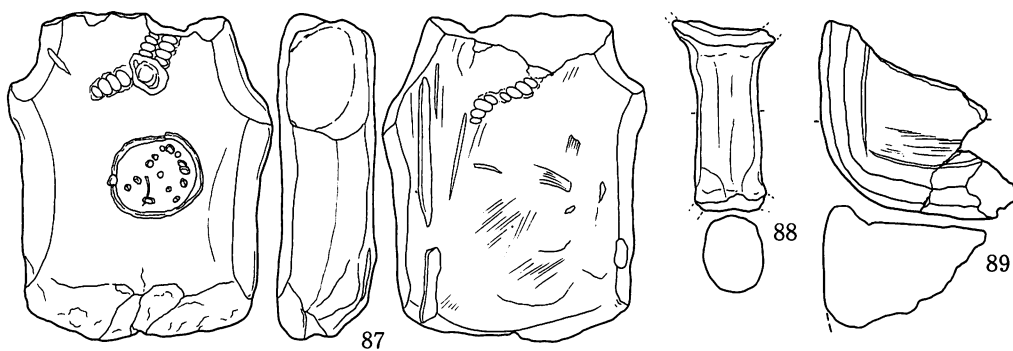




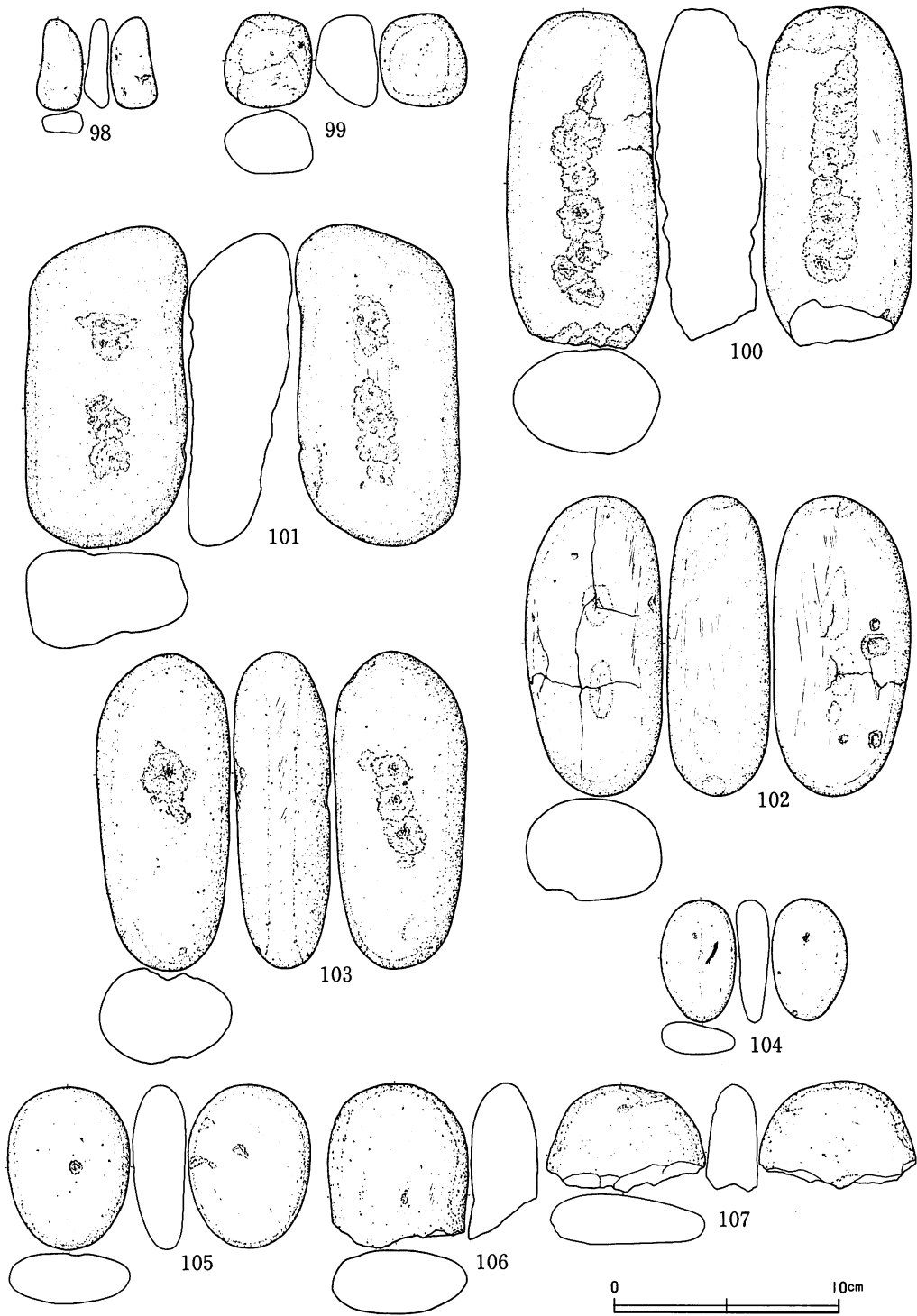
第16图 III D-1号住居跡遺物(4)



第17图 III D-1号住居跡遺物(5)

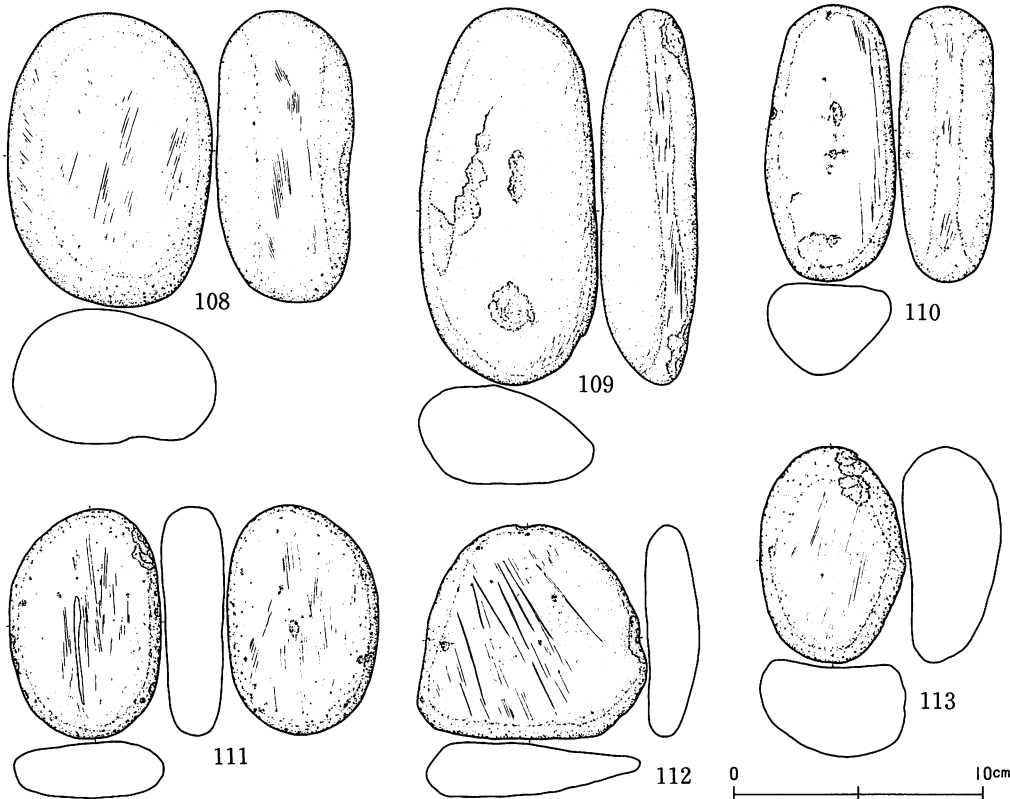


第18图 III D-1号住居跡遺物(6)



第19图 III D-1号住居跡遺物(7)





図版No	出土地点	器種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
90	埋土2層	石鏃	3.0	2.4	0.4	(2.0)	硬質泥岩	奥羽山地、新第三系中新統
91	"	石鏃	2.9	1.0	0.4	1.3	珉質泥岩	" "
92	"	插削器	3.0	1.9	0.9	5.4	黒曜石	産地、時代不詳
93	"	"	1.9	2.6	0.5	(3.2)	珉質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
94	"	"	6.4	4.6	1.2	(45.4)	硬質泥岩	" "
95	"	"	4.0	3.3	0.8	7.8	"	" "
96	"	"	2.7	8.2	0.7	(9.0)	淡緑色細粒凝灰岩	" "
97	"	磨製石斧	3.3	3.0	0.7	(11.3)	粘板岩	夏油川、古生界
98	埋土3層	擦石	4.1	2.1	1.1	11.4	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
99	埋土2層	"	4.1	3.9	2.9	55.0	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
100	埋土3層(A・B)	凹石	14.9	6.6	4.7	(561)	細礫質緑色凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
101	埋土4層	"	14.2	7.2	4.6	645	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系中新統
102	埋土2層	"	13.3	6.0	4.5	295	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
103	"	"	14.0	5.9	4.2	415	細礫質緑色凝灰岩	" "
104	埋土15層	擦石	5.4	3.3	1.5	34.9	淡緑色細粒凝灰岩	" "
105	埋土2層	"	7.3	5.4	2.4	120	細礫質緑色凝灰岩	" "
106	"	"	7.3	6.2	3.1	145	テイスイト質軽石凝灰岩	奥羽山地(夏油川流域)、新第三系中新統
107	"	"	4.8	7.0	2.3	(54.5)	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
108	埋土3層	"	11.6	8.2	5.5	768	"	" "
109	"	"	14.9	7.1	4.0	550	軽石質凝灰角礫岩	川尻附近、新第三系中新統
110	埋土2層	"	11.0	5.2	3.8	265	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
111	"	"	9.1	6.0	2.5	126	テイスイト質軽石凝灰岩	奥羽山地(夏油川流域)、新第三系中新統
112	"	"	8.5	9.2	2.2	180	"	" "
113	埋土3層	"	8.6	5.8	4.0	210	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統

第20図 III D-1号住居跡遺物(8)

#### Ⅳ D-1 号住居跡 (第22図、写真図版13)

〈検出状況〉ⅣD-2号住の南側4mの地点で検出した。ⅢC-1号住を含めて3棟が南北に並ぶ。床面ぎりぎりまで削平されているため埋土は無く、西側で数cmの壁の一部を検出したのみである。南側は調査区域外である。東側で複数の柱穴と重複する。炉は検出できなかったが、これをⅣE-1号住居跡とした。新旧は不明である。

〈形状・規模〉形状は不明。規模は、炉が中央に位置すると仮定すれば長径7m前後の楕円形状の大型になる。炉の大きさからすると妥当な規模であろう。

〈柱穴〉当住居に属すると思われるものはP<sub>1-10</sub>であろう。P<sub>8</sub>付近は床面が削平されていることを考慮すれば、いずれも50cm以上の深さとなる。配列はP<sub>1-8</sub>の8本柱が考えられる。

〈炉〉ほぼ中央と推定される位置にある。埋設土器を伴うコ字状の配石炉である。南側コーナーの石は開田の際に移動したもので、割れ口が新しく、かつ石の在った痕跡がある。北側では石を検出できなかった。本来存在していた痕跡も認められず、掘り込みのラインが明確であることからすると攪乱の可能性も薄く、もともと一辺に石のない配石炉と考えるべきであろう。この辺には斜め内側に入るピットが2個ある。また、埋設土器に接してもピットがある。

#### 遺物 (第21図1~12、写真図版15)

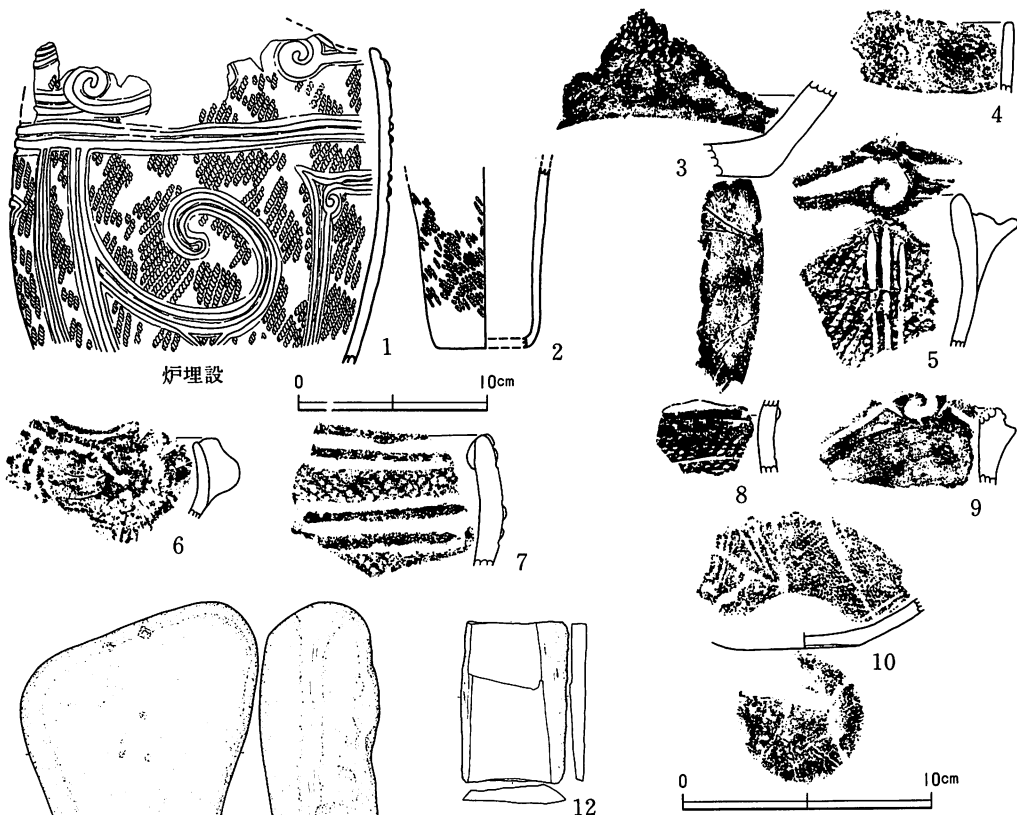
〈出土状況〉炉、床面、柱穴の遺物は信頼できるが、かすかにあった埋土出土のものは開田の際に動かされている可能性がある。

〈土器〉1は炉埋設で口縁部、底部を欠く。炉面よりやや下で検出した(写真図版 参照)。2は床面、3、4はP<sub>10</sub>他は埋土である。

〈石器〉2点出土したがいずれもP<sub>8</sub>の埋土からである。11は平面三角形の長辺の側面を利用した擦石、12は石剣あるいは石棒状の破片で、両側に加工面を残している。

〈時期〉埋設炉の土器は大木8b式であり、中期に属する。

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	炉内	深鉢	口縁、底部欠、隆沈線文、隆線2本の施文、LRヨコ
2	床面	小型鉢	〃、〃、地文のみ、LRトラ・ナナメ
3	P <sub>10</sub> 埋土3層	深鉢	体部下半~底部(ナデ)
4	〃4層	小型鉢	粗製口縁部、RLヨコの上からナデ
5	埋土	深鉢	波状口縁、頂部渦文直下に沈線3本タテ、RLRタテ
6	〃	〃	平縁、キャリパー型、口縁部突起、隆線文
7	〃	〃	〃、〃、隆沈線、RLヨコ
8	〃	小型鉢	頸部~体部、隆線区画、体部沈線文、RLタテ
9	〃	深鉢	波状口縁、頂部渦文、ミガキ
10	〃	浅鉢	体部タテの平行沈線文、底部ミガキ、RL

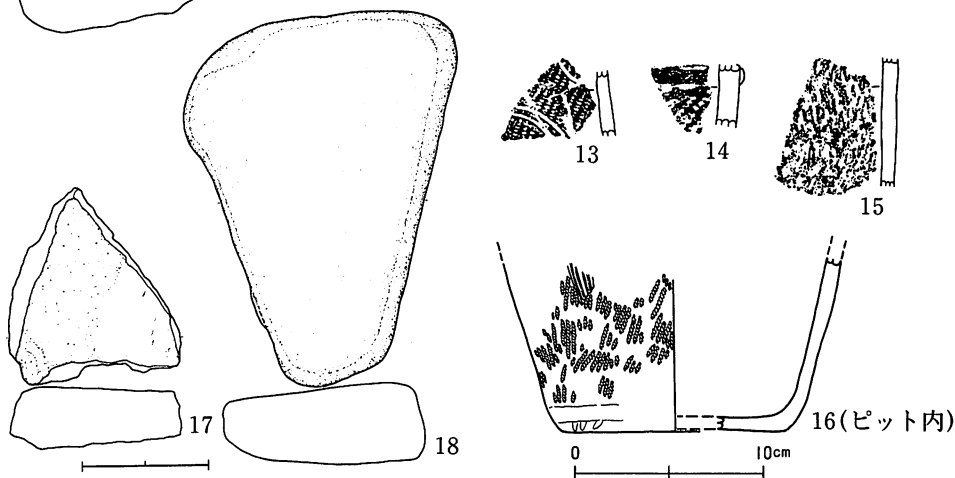


IV D-1 号住

図版No	出土地点	器種	長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重量(g)	石質	産地
11	柱穴	擦石	13.3	9.5	4.8	679	細礫質緑色凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
12	"	石棒・石剣	6.5	4.3	0.8	(29.1)	淡緑色細粒凝灰岩	" "

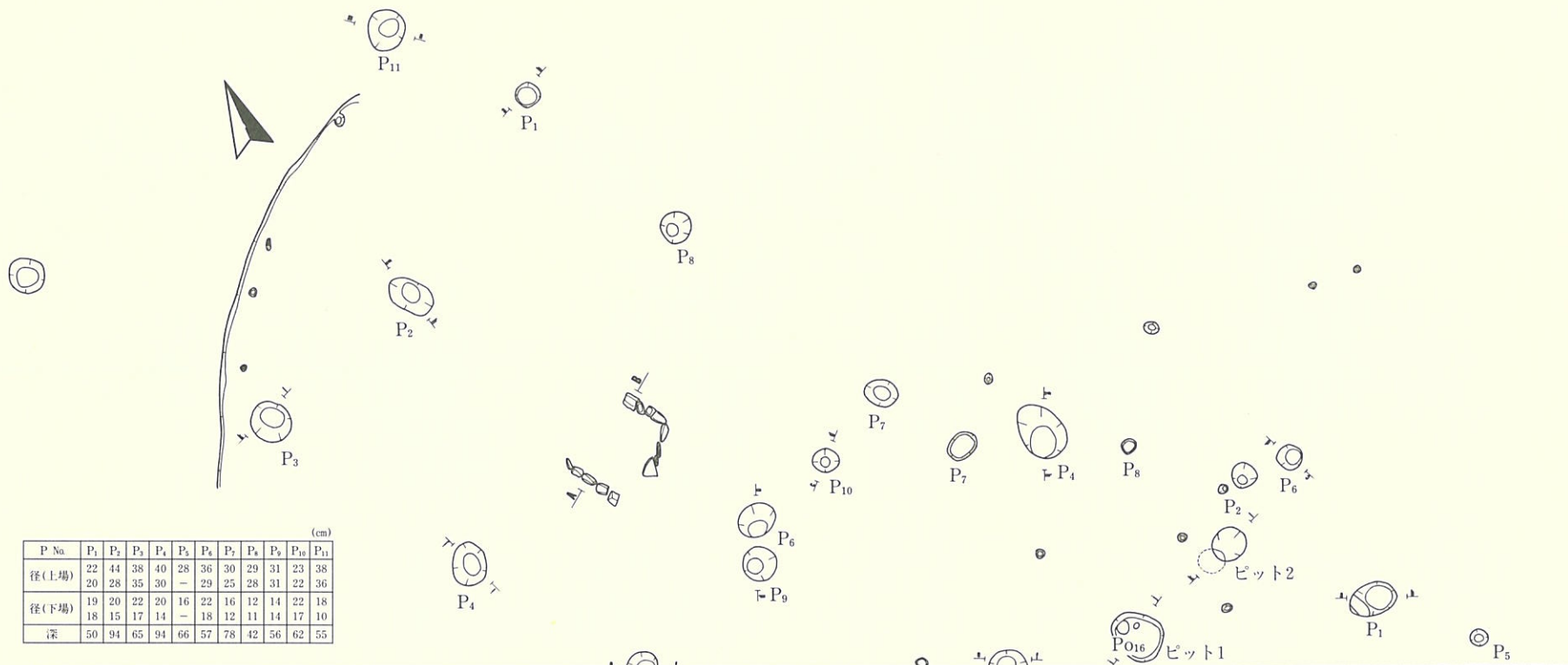
IV E-1 号住

17	中央ピット底部	礫	15.8	13.7	5.0	(1,065)	デイサイト	鈴嶋川～夏油川、新第三系中新統
18	中央ピット	台石	29.8	21.8	6.4	5,880	礫石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統



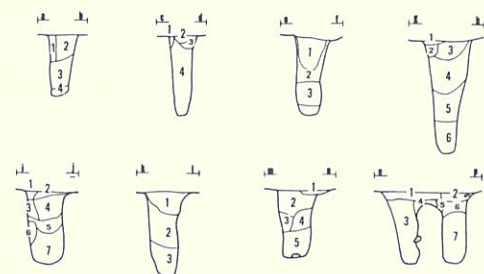
(1~12IV D-1号住、13~18IV E-1号住)

第21図 IV D-1号、IV E-1号住居跡遺物



		(cm)										
P No.		P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>
径(上場)	22	44	38	40	28	36	30	29	31	23	38	
	20	28	35	30	-	29	25	28	31	23	36	
径(下場)	19	20	22	20	16	22	16	12	14	22	18	
	18	15	17	14	-	18	12	11	14	17	10	
深	50	94	65	94	66	57	78	42	56	62	55	

IV D-1号住  
L = 130.400m

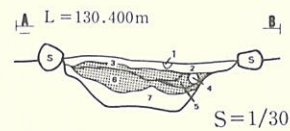
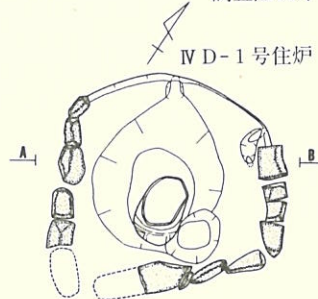


IV D-1号住

- P<sub>1</sub>(a-b)  
層位 色調 土性  
1. 10YR3/2 黒褐色 含炭化物・黄褐色土粒  
2. 10YR5/6 黄褐色 粘土質, 含炭化物(少量)  
3. 10YR4/6 褐色 粘土質  
4. 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)  
P<sub>2</sub>(c-d)  
1. 7.5YR4/6 褐色 粘土質  
2. 7.5YR3/4 暗褐色 粘土質, 含炭化物・黄褐色土粒  
3. 7.5YR4/4 褐色 粘土質, 含炭化物(少量)  
4. 10YR3/4 暗褐色 粘土質, 含炭化物・黄褐色土粒  
P<sub>3</sub>(e-f)  
1. 10YR4/4 褐色 粘土質, 含炭化物・黄褐色土粒(多量)  
2. 10YR4/6 褐色 粘土質  
3. 10YR5/6 黄褐色 粘土質, 含炭化物  
4. 7.5YR5/8 明褐色 粘土質(硬)  
P<sub>4</sub>(g-h)  
層位 色調 土性  
1. 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)  
2. 7.5YR4/6 褐色 粘土質(硬), 含炭化物  
3. 7.5YR4/3 褐色 粘土質, 含炭化物(少量)・黄褐色土粒  
4. 10YR4/6 褐色 粘土質, 含炭化物・黄褐色土粒  
5. 10YR4/4 褐色 粘土質(柔)  
6. 10YR4/3 褐色 粘土質, 含炭化物・黄褐色土粒

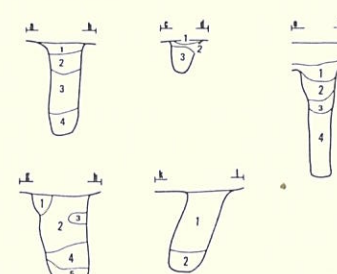
- P<sub>1</sub>(i-j)  
層位 色調 土性  
1. 7.5YR4/6 褐色 粘土質, 含炭化物(微量)  
2. 5YR3/1 黒褐色 含炭化物(微量)・黄褐色土粒(多量)  
3. 7.5YR4/4 褐色 粘土質, 含炭化物・黄褐色土粒(多量)  
4. 7.5YR4/3 褐色 粘土質(硬), 含炭化物(少量)  
5. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(柔), 含炭化物(少量)  
6. 7.5YR4/6 褐色 粘土質  
7. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(柔), 含黄褐色土粒(多量)  
P<sub>2</sub>(k-l)  
1. 7.5YR4/6 褐色 混明褐色土, 粘土質(硬), 含炭化物(多量)  
2. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(柔)  
3. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(柔), 含炭化物(少量)  
P<sub>3</sub>(m-n)  
1. 7.5YR2/2 黒褐色 含炭化物(微量)・黄褐色土粒(少量)(多量)  
2. 7.5YR4/6 褐色 粘土質, 含炭化物(少量)・黄褐色土粒(多量)  
3. 7.5YR4/6 褐色 粘土質(柔)  
4. 7.5YR4/4 褐色 粘土質, 含炭化物(少量)  
5. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(柔)  
P<sub>4</sub>-P<sub>5</sub>(o-p)  
層位 色調 土性  
1. 7.5YR4/3 褐色 含炭化物・黄褐色土粒(多量)  
2. 7.5YR4/4 褐色 粘土質(硬), 含炭化物・黄褐色土粒(多量)・焼土  
3. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(多量)・黄褐色土粒(少量)  
4. 7.5YR4/6 褐色 粘土質(硬), 含炭化物(微量)  
5. 7.5YR4/4 褐色 粘土質(柔)  
6. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(硬), 含炭化物(少量)  
7. 7.5YR4/6 褐色 粘土質, 含炭化物(少量)

IV D-1号住炉  
調査区域外

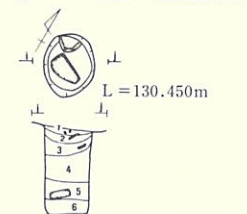


- 石囲炉(A-B)  
層位 色調 土性  
1. 7.5YR3/2 黒褐色 含黄褐色土粒  
2. 7.5YR4/4 褐色 含炭化物(少量)  
3. 7.5YR5/6 明褐色 含焼土(少量)  
4. 7.5YR4/4 褐色 含焼土・炭化物(少量)  
5. 5YR5/6 明赤褐色~7.5YR5/8 明褐色  
6. 7.5YR5/8 明褐色~7.5YR5/6 明褐色 含炭化物(微量)  
7. 7.5YR5/8 明褐色 粘土質

IV E-1号住  
L = 130.400m



- IV E-1号住居跡ピット2(k-l)  
層位 色調 土性  
1. 含炭化した堅果類・木片(多量)  
2. 褐色 含炭化物(多量)



- IV E-1号住居跡ピット1(i-j)  
層位 色調 土性  
1. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物  
2. 7.5YR4/6 褐色 含炭化物・粘土ブロック  
3. 10YR5/8 黄褐色 含黄褐色土粒, 含炭化物(多量)  
4. 10YR5/6 黄褐色 粘土質(硬), 含炭化物(微量)  
5. 10YR5/8 黄褐色 含炭化物(微量)  
6. 10YR5/6 黄褐色

IV E-1号住

		(cm)							
P No.		P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>
径(上場)	44	24	25	54	16	24	30	14	
	30	23	16	39	16	22	22	12	
径(下場)	23	9	14	29	8	14	24	11	
	22	8	5	23	7	13	17	9	
深	72	62	93	69	17	26	20	11	

IV E-1号住居跡

- P<sub>1</sub>(a-b)  
層位 色調 土性  
1. 7.5YR4/6 褐色 粘土質, 含炭化物・浮石  
2. 10YR5/6 黄褐色 粘土質, 含炭化物  
3. 10YR4/6 褐色 粘土質(硬), 含炭化物  
4. 10YR5/6 黄褐色 粘土質(硬), 含炭化物

- P<sub>2</sub>(c-d)  
1. 10YR4/4 褐色 含炭化物  
2. 10YR4/6 褐色 含炭化物  
3. 10YR4/4 褐色 粘土質, 含炭化物・浮石  
P<sub>3</sub>(e-f)  
1. 10YR3/4 暗褐色 盛り土  
2. 7.5YR3/3 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物・黄褐色土粒  
3. 7.5YR4/3 褐色 粘土質, 含炭化物・浮石  
4. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物・黄褐色土粒  
5. 10YR4/4 褐色 粘土質  
6. 10YR5/4 褐色 粘土質  
P<sub>4</sub>(g-h)  
層位 色調 土性  
1. 7.5YR4/4 褐色 粘土質, 含炭化物(少量)・焼土  
2. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(多量)  
3. 7.5YR5/8 明褐色 粘土質  
4. 7.5YR3/3 暗褐色 含黄褐色土粒(多量)・炭化物(微量)  
5. 7.5YR4/4 褐色 粘土質, 含黄褐色土粒(多量)・炭化物(少量)

第22図 IV D-1号、IV E-1号住居跡



#### Ⅳ E - 1号住居跡（第22図、写真図版16）

〈検出状況〉ⅣD-1号住を精査中に多数の柱穴を検出、住居跡として扱ったが削平が激しく、確証はない。周辺は大小のピットが検出されており、削平された遺構がさらに存在していた可能性もある。

〈形状・規模・柱穴〉深さからすると支柱穴となりえるのはP<sub>1-4</sub>であるが、P<sub>1</sub>は位置的に外れる。P<sub>2-4</sub>と調査区域外にあるであろう柱とが支柱と推定される。規模は柱間隔からするとⅢD-1号住とほぼ同じである。

〈ピット〉P<sub>3</sub>の東側と（ピット1）、P<sub>2</sub>の南側で（ピット2）検出。前者は深さ70cmあり、埋土上層には土器が、下層には礫を含んでいた。柱穴よりは大きく、掘り方も丁寧である。同様のピットはⅢG-2号住にもあり、その位置は東南の柱の近く（当住居跡は未検出であるが）であることも共通している。さらには両住居跡とも炉が検出されていない。埋土に炭化物は少量含まれてはいるが、焼土はなく炉とみなす根拠は少ない。当住居の場合は削平された可能性も考えられなくはないが、類例のあることからすれば最初から炉は存在せず、ピット1は異なる目的を有する施設と考えられる。ピット2は深さ65cmでやや斜めに掘られている。中からは多量の炭化物が出土した。肉眼で観察したかぎりでは、炭化した堅果類と細い木材であった。資料の一部をパリオ・サーヴェイ株式会社に同定委託したところ、次のような結果を得た。「炭化材、炭化したクリの種子である。ほとんど果皮をつけずに炭化しているものと考えられる。種子の大きさの推定値は、幅1.4~1.8cm、高さ1.3~1.8cmである」（抜粋）。同定委託しなかった資料のなかにはクルミの種子と思われるものも含まれている。ピット内は少量の土以外は多量の堅果類と炭化材片が詰まっていた。柱穴とするには曲がった穴で適さず、もともとこのような堅果類を貯蔵するための施設と考えられる。ナッツ・ピットと仮称しておく。

#### 遺物（第21図、写真図版17）

〈出土状況〉13、14は床面として取り上げたが、確実性はない。15はP<sub>4</sub>の埋土、16はピット1の埋土上層で1/4残。17、18もピット1埋土中でいずれも底部に近い5層の出土である。

〈土器〉13は小型鉢、14、15は深鉢片で後者は撚糸文、16は隆沈線文をもつ深鉢で、内面に炭化物付着、底部網代の上からミガキ。

〈石器〉17は無加工の角礫と思われるが、三角形に打ち欠いた可能性はある。18は扁平な川原石、台石と思われる。

〈時期〉土器はすべて大木8b式であり、中期に属する。

#### Ⅳ D - 2 号住居跡 (第23図、写真図版14)

〈検出状況〉ⅢD-1号住とⅣD-1号住の中間に位置する。水田客土を除去した後、焼土、柱穴を検出した。埋土、壁等は一切削平されており、炉の断面から判断すると床面も削られている。

〈形状・規模〉形状は不明。規模も不明であるが、東西の柱間隔2.6m、南北2.3m、これを炉、柱穴の位置が類似しているⅢD-1号住に比例させると長径6.2、短径5.3mとなる。他の住居の例からすると隅丸形状と推定される。ただし、この規模とすると東側にあるピットが壁にかかることになる。埋土は判断材料とならず、この住居に伴う施設であるかどうか不明である。

〈柱穴〉炉の周囲に4本を検出。間隔は上記のとおりで支柱穴となる。

〈炉〉中央と思われる位置にあり皿状の掘り込みがある。焼土の上面が削平されているため石があったかどうかは不明である。検出面では痕跡は認められなかった。

#### 遺物 (第23図、写真図版15)

〈検出状況〉すべて土器片である。1、2は柱穴内の出土ではあるが、他は上記の理由により必ずしも原位置を保っていないと推定される。

〈土器〉1はP<sub>1,2</sub>はP<sub>3</sub>の埋土から、他の検出面での出土。いずれも深鉢片で、隆沈線の施文縄文はRLとLRの両者がある。

〈時期〉5点とも同時期であり、柱穴内の土器が原位置を保っているとすれば大木8b式で中期に属する。

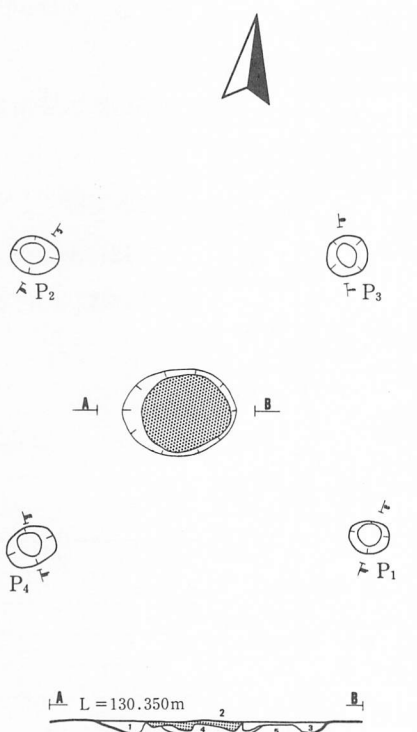
#### Ⅳ E - 2 号住居跡 (第24図、写真図版18)

〈検出状況〉ⅣE-1号住の南側、農道を挟んだ位置で検出された。距離的にみるとⅣE-1号住とほぼ接している。水田客土の下で焼土と柱穴を検出したが、炉断面から判断すると、床面下まで削平されている。調査区域外に見える土層は、農道の客土である。

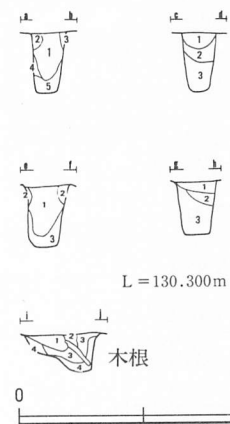
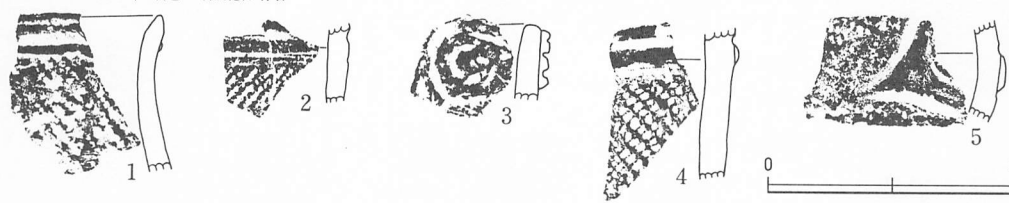
〈形状・規模・柱穴〉壁、床ともになく形状は不明である。柱穴は周辺を含めて7本検出されたがP<sub>1,3</sub>は直接的に関係のない位置にある。配置からするとP<sub>2,5,6</sub>と未検出の4本柱も想定可能であるが、焼土の広がり方を考慮すると炉が北側に寄りすぎている。他の住居の炉が柱穴内の中央に在ることからすると、北側に伸びて6本の長方形となるか、あるいはP<sub>4</sub>を含めた六角形の配置が考えられる。その場合は径6m以上の規模が想定される。

〈炉〉半分が農道下にあるため形状は不明であるがP<sub>5,6</sub>に平行するような方形の炉と思われる炉石を伴うかどうかは削平のため不明。浅い掘り方は残っており万遍なく焼土が詰まっている。北側に寄った位置に深鉢体部下半の埋設土器がある。

#### 遺物 (第25図、写真図版20)



- 坑(A-B)  
 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR3/2 黒褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)  
 2. 5YR4/6 赤褐色 含燧土・炭化物  
 3. 7.5YR4/4 褐色 粘土質、含炭化物(微量)  
 4. 7.5YR5/6 明褐色 混黑色土  
 5. 10YR4/6 褐色 含炭化物・浮石



- P<sub>1</sub>(a-b)  
 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR2/2 黒褐色 含土層に単炭化物(多量)  
 2. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(微量)  
 3. 7.5YR4/6 褐色  
 4. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質  
 P<sub>2</sub>(c-d)  
 1. 10YR3/4 暗褐色 含燧土粒・炭化物  
 2. 10YR5/6 黄褐色 含炭化物(微量)  
 3. 10YR5/8 黄褐色 地山にちかいか、黒い汚れ入る  
 P<sub>3</sub>(e-f)  
 1. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(多量)  
 2. 7.5YR5/6 明褐色 含燧土  
 3. 7.5YR3/3 暗褐色 粘土質、含炭化物(少量)  
 P<sub>4</sub>(g-h)  
 1. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(多量)  
 2. 7.5YR5/6 明褐色 含炭化物(多量)  
 3. 10YR3/3 暗褐色 含炭化物(多量)  
 IV D-2号住居跡内ピット  
 1. 7.5YR2/2 黒褐色 含黄褐色土粒・炭化物  
 2. 7.5YR4/3 褐色 含炭化物(微量)  
 3. 7.5YR4/4 褐色 粘土質、含炭化物(微量)  
 4. 7.5YR4/6 褐色 地山に近くやや汚れ入る

		(cm)			
P Na	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	
径(上場)	32	38	33	40	
	26	32	32	32	
径(下場)	18	20	20	20	
	18	18	16	19	
深	48	47	33	42	

第23図 IV D-2号住居跡・遺物

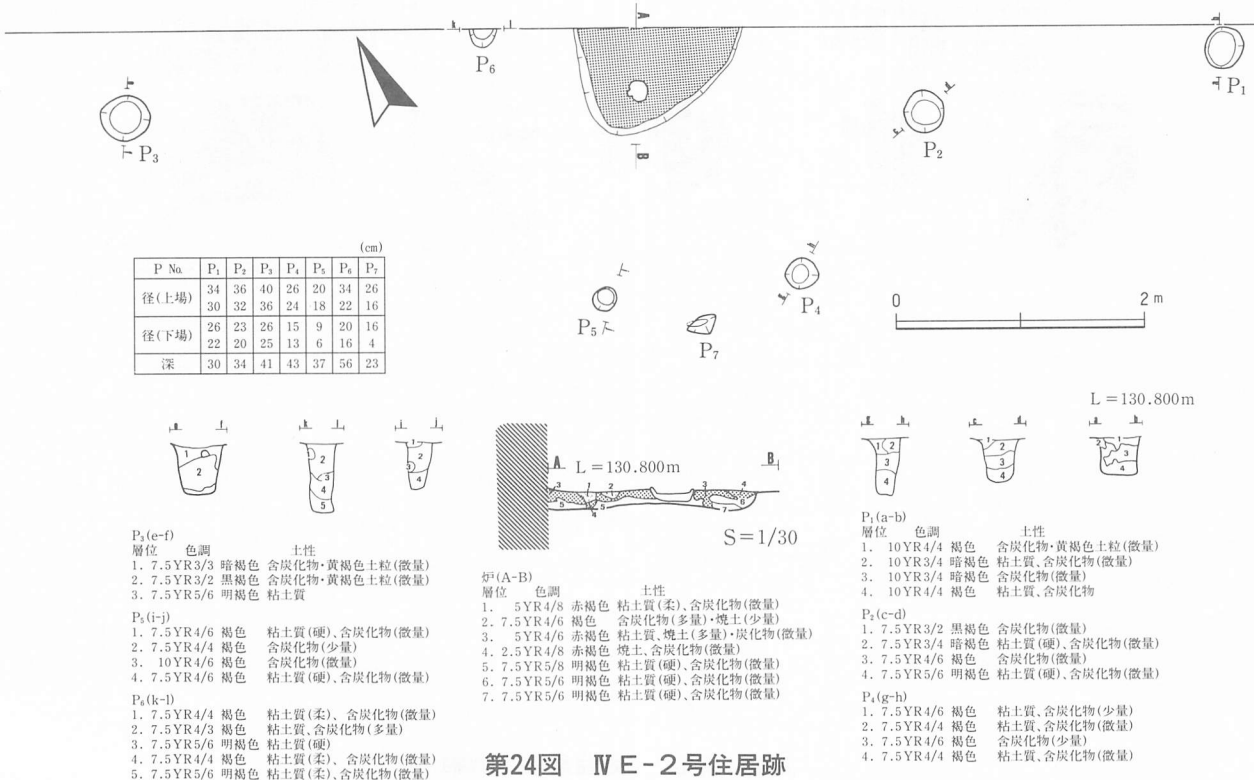
〈出土状況〉床面として取り上げた遺物は上記の理由により確実性に欠ける。3、9は炉内、4～8、12は柱穴埋土の出土。

〈土器〉いずれも深鉢、小形鉢の破片である。炉埋設土器の新しい割目は開田の際の破損であろう。

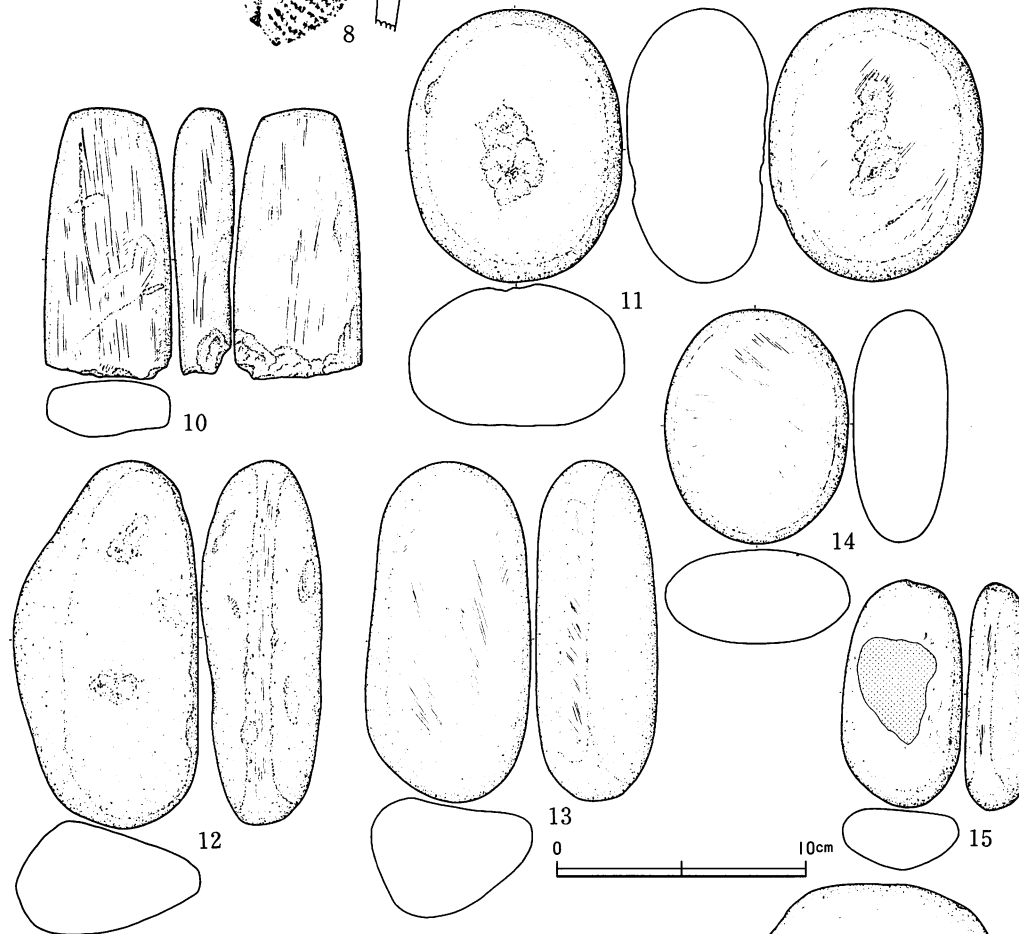
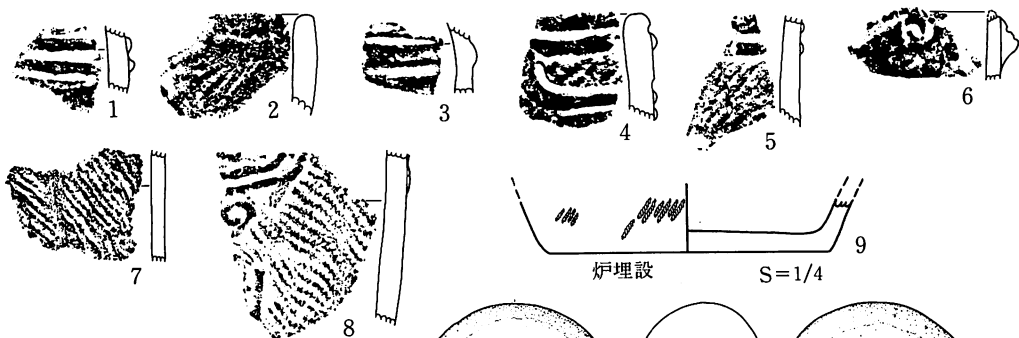
〈石器〉12がP<sub>3</sub>埋土柱であるが、この住居に伴う柱穴であるかどうか不明。これを除くとすべて検出面の出土である。10は破損した石斧を再利用した敲石、11、12は凹石で12は側面が擦石となっている。13は側面使用の、14、15は平面使用の擦石で、15の片面には黒い煤状の付着物がある。16は中央部が少し凹む石皿。

〈時期〉炉、柱穴出土の土器はすべて大木8b式で、中期に属する。

No.	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	床面?	深鉢	キャリパー部分、平行隆沈線
2	〃	〃	粗製、LRヨコ
3	炉下層	〃	キャリパー部分、太い隆帯、ミガキ
4	P <sub>2</sub> 、4層	〃	平縁、太い隆線文、RLタテ
5	〃	〃	口縁～体部、隆沈線、RLタテ
6	〃、2層	小型鉢	波状口縁、頂部貼付の上から渦文
7	P <sub>1</sub> 、3層	深鉢	体部下半、LRタテ
8	P <sub>3</sub> 、2層	〃	〃、隆線文、LRタテ
9	炉埋設	〃	底部、網代の上からナデ、外面炭化物、内面加熱でボロボロ

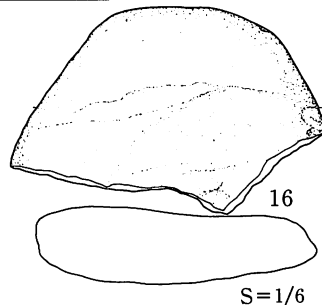






IV E-2号住

図版No.	出土地点	器 種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石 質	産 地
10	床直?	撥石	10.7	5.1	2.5	(230)	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
11	"	凹石	10.8	8.5	5.6	699	軽石質凝灰角礫岩	川尻附近、"
12	柱P <sub>1</sub>	凹石・撥石	14.5	7.4	4.8	640	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
13	床直?	撥石	13.5	6.7	4.8	650	(透)緑色凝灰岩	奥羽山地
14	"	"	9.3	7.3	3.8	290	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
15	"	"	9.0	4.8	2.5	141	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
16	"	石皿	16.6	25.1	6.4	(3,350)	(透)緑色凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統



第25図 IV E-2号住居跡遺物

IV F-1号住居跡 (第26図、写真図版19)

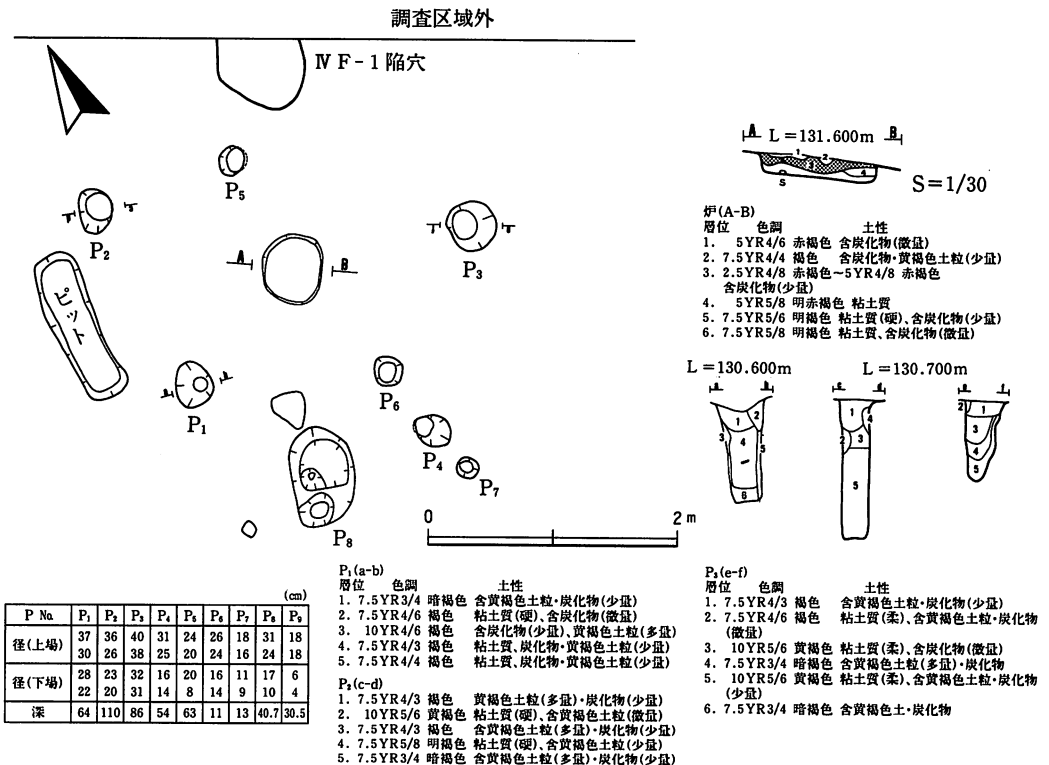
〈検出状況〉IVE-1号住の東側18mの位置にある。この間には複数の住居跡と思われる柱穴群 (IV F柱穴群) が存在している。この住居跡も著しく削平されており、炉、柱穴、ピットを検出できたのみである。写真で見ると検出面は重機のキャタピラー跡で波打っている。

〈形状・規模・柱穴〉壁、床とも検出できず、形状は不明である。柱穴は9本検出しているが、方形を基本配置と考えると径、深さからしてP<sub>1,3-5</sub>の4本が相当する。ただ、その場合炉が西側に寄ることとなる。柱間隔東西2.0、南北1.8mを他の住居にあてはめると、径4.8×4.1mの規模が想定される。西側の浅い長方形のピットの正確は不明、埋土から土器片が出土している。北側調査区域外にかけてIV F-1号陥穴と重複している。埋土削平のため新旧の判断材料に乏しいが、陥穴の開口部が比較的残りが良いことからすると (第70図) この方が新しい。

〈炉〉上部を削平されたやや楕円形の地床炉と推定される。残存する部分には純粋な焼土は少なく、粘土が加熱された状況にある。

遺物 (第27図、写真図版20)

〈出土状況〉1~6、10~13は検出面の出土で、確実性に欠ける。7~9はピット内から出土。

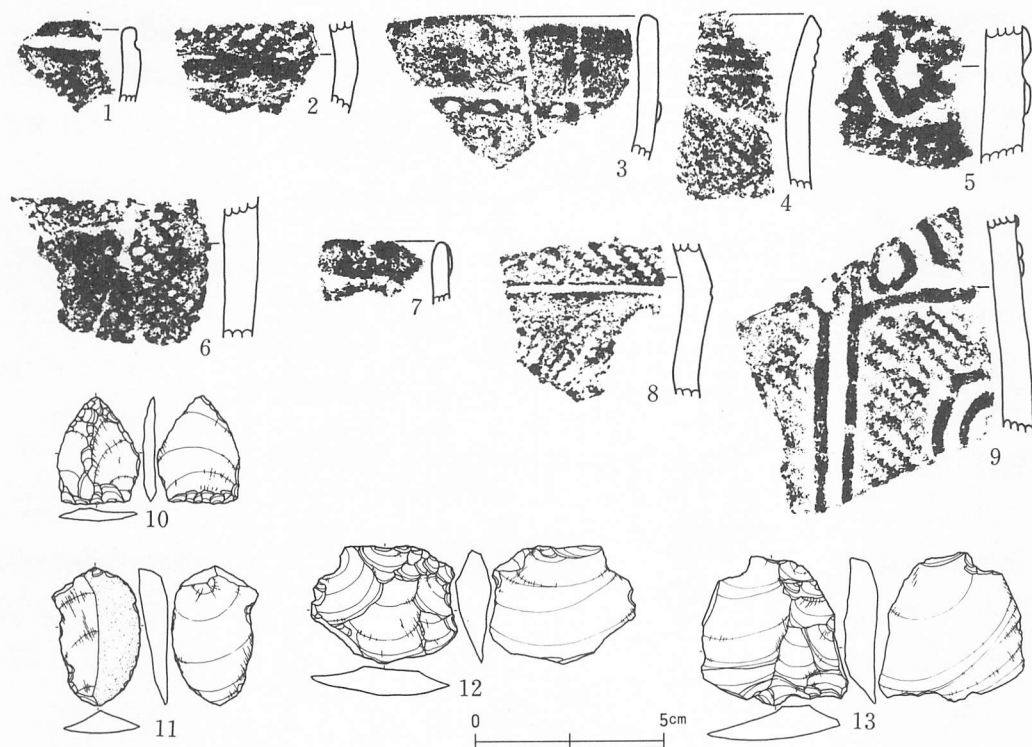


第26図 IV F-1号住居跡

〈土器〉 いずれも深鉢か小形鉢の破片である。7は複合口縁の小形鉢、8はキャリパー型、9は隆線文の深鉢。縄文はLRとRLの2種類を使用。

〈石器〉 いずれも剝片の一部に刃部調整を加えた不定形な石器で、10は2辺に、11は両側面に12、13は一辺に刃がある。なお、写真図版19の床面に大型の礫が写っているが、自然石でありかつ原位置を留めていないので、遺物として扱わなかった。

〈時期〉 ピット内および5を除く土器は大木8b式で、中期に属する。



図版No.	出土地点	器種	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	産地
10	住居跡検出面	不定形石器	2.8	2.2	0.4	1.5	珪質泥岩	奥羽山地、新第三系中新統
11	"	"	3.7	2.4	0.6	4.6	硬質泥岩	" "
12	"	"	3.1	3.9	1.0	9.8	珪質泥岩	" "
13	"	"	4.0	3.9	0.9	13.6	硬質泥岩	" "

第27図 IV F-1号住居跡遺物

### Ⅲ G-1号住居跡（第28図、写真図版21）

〈検出状況〉F区を縦に走る農道の東側で検出、西側にⅢG-3号住居が、西側にⅢG-1がそれぞれ接して在る。他の遺構との重複はない。この住居も削平を受けており、検出面にカタピラー跡が走っており、炉石の一部は移動し、東側の最も大きな石は撤去され痕跡を残すのみである明瞭な埋土は検出できなかったが、炉の周辺には薄く褐色土が残っていた。

〈形状・規模〉壁は確認できなかったが支柱穴が一周しており、知ることができた。長径7.8、短径7.1m以上の楕円形を呈する。

〈柱穴〉炉の周囲で方形をなす4本の主柱穴と、25本の支柱穴とからなる。主柱穴のうちP<sub>2</sub>のみ42cmと浅いが、この周辺特に削平を受けており、本来は50cm以上あったと思われる。支柱穴は一部で検出できない箇所もあったが、狭い所で50cm、広い所で1mの間隔でめぐっている。このような柱穴を持つ例はこの1棟のみであり、かつ最も大型の住居でもある。

〈炉〉ほぼ中央に位置する円形の石囲炉であるが、炉石の一部は上記の理由は移動している。掘り込みは炉に比較して大きく、径1.6mを計る。炉石を設置後、外側を埋めもどしている。焼土は中央部で良く発達しており、層高は10cmである。

〈焼土〉P<sub>1</sub>の東側に150×65cmの焼土の詰まった浅い掘り込みを検出した。カタピラーに踏み荒されているので断定はできないが、二次堆積と思われる。遺物はない。

### 遺物（第29図、写真図版22）

〈出土状況〉部分的に残っていた床面、炉、柱穴埋土、客土中から出土した。主柱穴4本のいずれからも遺物が出土したことは注目に値する。特に1の吊り手、2の手捏は元来特殊な器種であり、13、14は精製の大破片である程度意識されている。このことは手捏土器と17、18の石器がP<sub>3</sub>から出土していることでも言えよう。柱穴撤去後に埋設した可能性が高い。

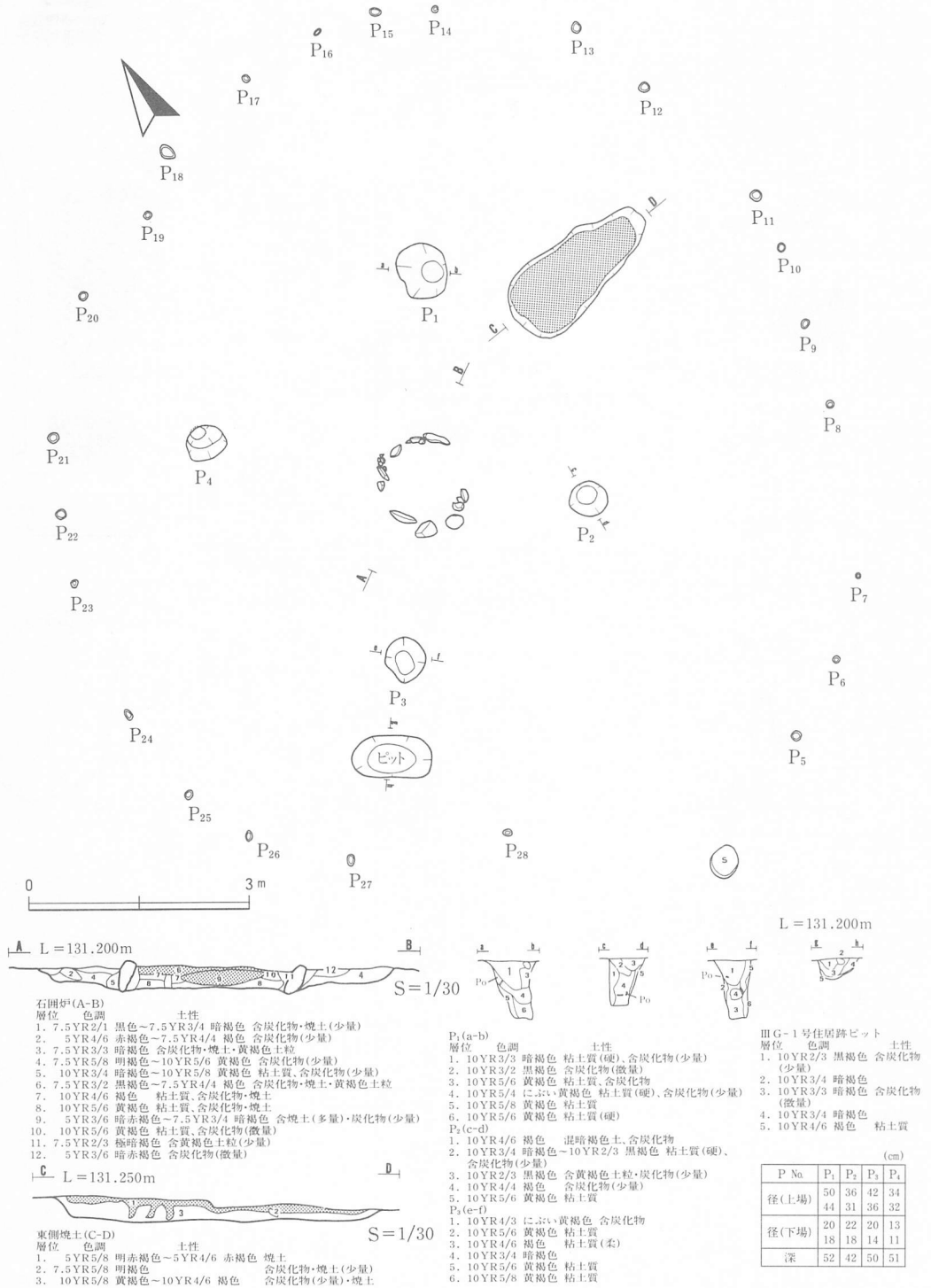
〈土器〉すべて破片資料で、器種は深鉢、小形鉢、手捏土器、浅鉢は見当たらない。

〈石器〉16は先端部両面加工で炉中から、17、18は一部分に再調整でP<sub>3</sub>から、19はフレイク、20は両面と側面に擦痕のある擦石で床面からの出土。

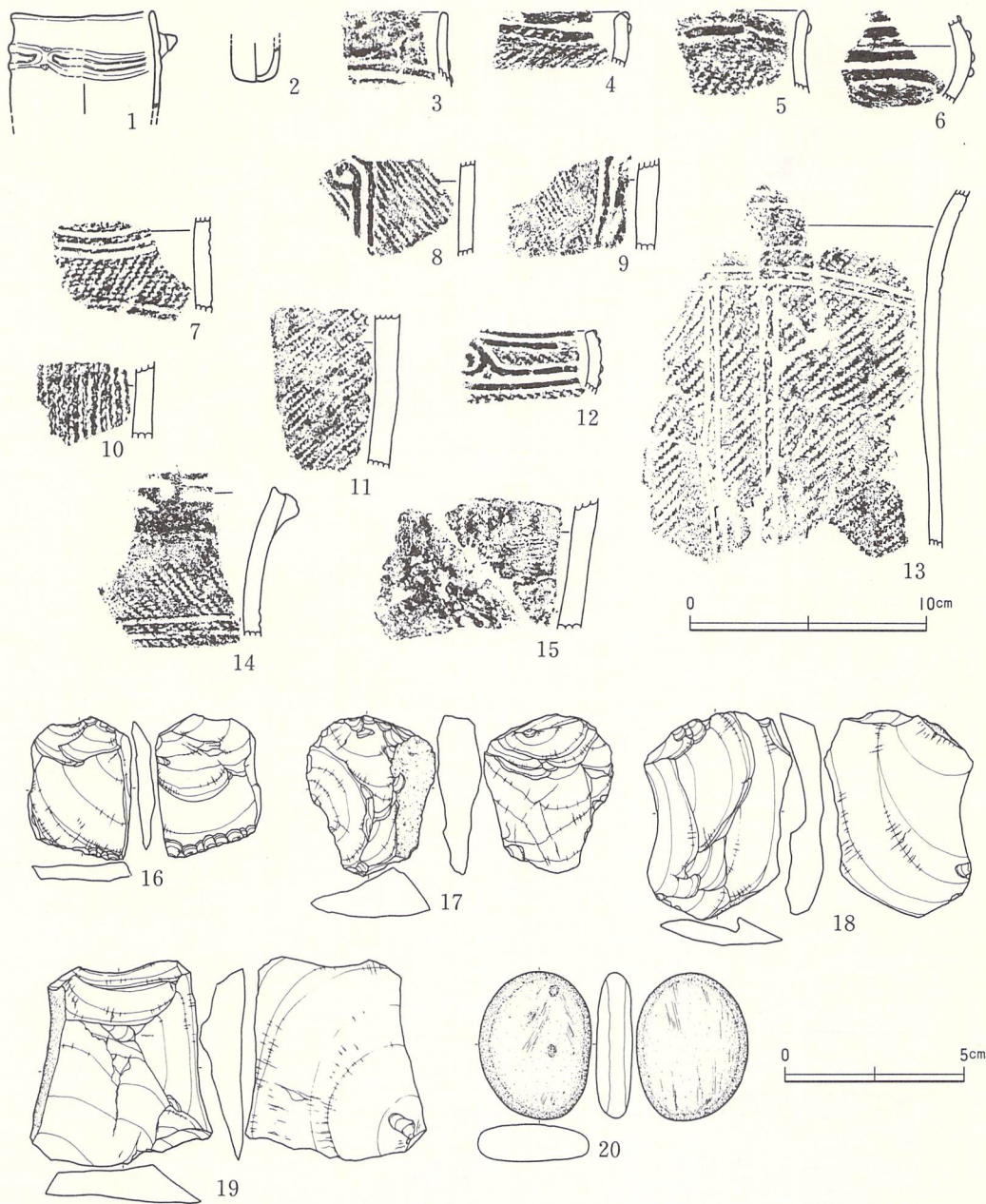
〈時期〉図示した土器すべて大木8b式であり、中期に属する。

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	P <sub>2</sub> 埋土	小型鉢	無文、頸部に二本隆線・突起、突起4単位でタテ・ヨコ貫通、吊手土器か
2	P <sub>3</sub> //	手捏	口縁部欠
3	床面	小型鉢	平縁、隆沈線、口縁部ミガキ
4	//	//	平縁、キャリパー型、口縁隆線、LRヨコ（隆線にかかる）
5	//	//	小波状口縁、隆線1本のみ、RLRタテの上をナデ
6	//	深鉢	キャリパー型、隆線文、頸部縄文（RL）の上をヨコナデ
7	//	//	体部、三本沈線、RLタテ





第28図 III G-1号住居跡



図版No	出土地点	器種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
16	炉 <sup>3</sup>	搔削器	4.0	2.9	0.6	7.7	粘板岩	夏油川、古生界
17	柱穴 <sup>3</sup> 埋土	不定形石器	4.4	3.6	1.4	16.7	"	" "
18	"	"	5.8	4.2	1.1	21.3	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
19	床面	剣片	5.7	5.1	1.3	31.6	珪質泥岩	" "
20	"	擦石	4.1	3.1	1.0	17.7	淡綠色細粒凝灰岩	" "

第29図 III G-1号住居跡遺物

No	出土地点	器形	特 徴・文 様・その他
8・9	床面	深鉢	体部、隆沈線（渦文）LRタテ
10	〃	〃	〃、捺糸文
11	床	深鉢	体部下半、太さの異なるLとLの単節RLタテ
12	P <sub>1</sub> 埋土	〃	平縁、キャリパー型、隆沈線文、RLヨコ
13・14	〃	〃	同一個体、口唇部渦文と二本沈線、体部も二本沈線文、口縁RLヨコ・体部タテ
15	P <sub>4</sub> 埋土	〃	体部下半、RLタテ?の上からミガキ、外面炭化物

### Ⅲ G-2号住居跡（第30図、写真図版23）

〈検出状況〉ⅢG-1号住の東側と接するような位置で楕円形状の褐色土の広がりを検出、住居跡と確認した。住居跡の周辺は地山まで削平されており、かろうじて埋土と壁が残されていたが、東側では一部壁が不明瞭である。この住居に接して炉、柱穴、ピットを検出、ⅢH-1号住とした。埋土が無いので新旧の判断は困難であるが、C-D断面の3層貼床状の堆積を示している。これを根拠とすれば当住居のほうが古い。

〈形状・規模〉長径4.8、短径3.75mの不整形な楕円形を呈する。炉は無く、P<sub>1</sub>の北側にピットが検出された。東側により空間がある。

〈埋土〉上半部は削平されているが、自然堆積と考えられる。殆どの層で量の多寡はあるが炭化物を含む。遺物は上層にあたる1、5層および床面に多い。

〈壁・床面〉残存壁高10cmで直立に近い。床面はほぼ水平で堅い。

〈柱穴〉住居内に8本を検出したが、何本かはⅢH-1号住に伴う。支柱穴は方形の配置を基本とするとP<sub>1-4</sub>となるが、P<sub>1</sub>が他に比べて浅い。この4本と対応する位置に小さくて浅いP<sub>14,15</sub>がある。入口施設よりは東側の広い空間を支えるための支柱穴と考えられる。柱全体は西と南側に寄っている。

〈ピット〉P<sub>1</sub>の北側に径55、深さ70cmのピットを検出、上面で31図1の土器が出土した。埋土中に焼土は認められない。同様のピットはⅣE-1号住にもあり、位置もほぼ同じである。炉がない代わりにこのピットがあるようにも思われるが、炉の機能は果たしていない。

#### 遺物（第31・32図、写真図版24）

〈出土状況〉床面および直上、埋土中から出土している。特に床面および直上からは復原可能な土器が3個体出土したがいずれも口縁部の一部が山形を呈したり、突起を持つなどの特徴を備えている。柱穴からの遺物は皆無である。11のみは異例で大木7b式。

〈石器〉16は石鏃で基部欠損、17は両側にノッチが入り両端部を調整している異形石器、19、20は錐、21は側面使用の擦石、22は擦石の破片で部分的に熱を受けて変色している。23、24はP<sub>3,4</sub>の傍にあった扁平な礫、台石として使用か。

〈時期〉埋土上層中に1点大木7a式が含まれているが、他は8b式で中期に属する。

No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	ピット	深鉢	略宍形、口縁部のみ山形(図になし)、口縁部文様帯、体部無文、隆沈線文、底部ナデ、内面炭化物、口縁RLヨコ・体部タテ
2	床直上	〃	略宍形、口縁部一部山形、口縁部隆沈線、頸部無文、体部沈線文、口縁部RLヨコ・体部タテ・底部欠損
3	床面	〃	平縁、口縁突起1カ所、口縁下にも突起(数不明)、口縁部隆沈線、体部沈線文、原体RLヨコ・タテ
4	床直	〃	口縁下に太い隆線、無文、沈線間に炭化物
5	〃	〃	体部片、隆線文、LRタテ
6	埋土上層	〃	平縁、口縁部太い隆帯、LRヨコ
7	〃	小型鉢	波状口縁、隆線、無文
8	〃	深鉢	〃、〃 体部太さの異なるR2本の単節LRタテ
9	〃	小型鉢	波状口縁、波頂部刺突文、隆線、RLヨコ
10・12	〃	〃	平縁、隆沈線、RLヨコ
11	〃	深鉢	頸部、太い隆帯の上に刻目文
13	〃	〃	〃、2本単位の隆沈線、RLヨコ
14・15	〃	〃	粗製、平縁、RLヨコ

### Ⅲ H-1号住居跡(第30図、写真図版37)

〈検出状況〉ⅢG-1号住に同じ。

〈形状・規模・柱穴〉形状は不明。当住居に係わる柱穴は8または9本と推定される。他の住居にならない炉を中心とした配置を想定すると、西側では深さの近似するP<sub>5,7,10</sub>が相当するが東側では全く対応しない。深さ50cm以上のP<sub>6,9,12</sub>では1本不足で、かつ炉が西に寄りすぎる。削平された際に地山の土で埋められ、それを我々が検出できなかった可能性もある。したがって規模を推定することも不可能である。

〈炉〉上部を削られているが、円形の地床炉であったと思われる。残存する掘り方の深さは10cmである。焼土の残りは5cm前後である。

〈ピット〉炉の東1.3mのところに深さ10cmの円形ピットを検出、東西に細い柱穴状のピットをもつ。単独の遺構か、当住居に付属する施設かは判断材料がなく不明である。

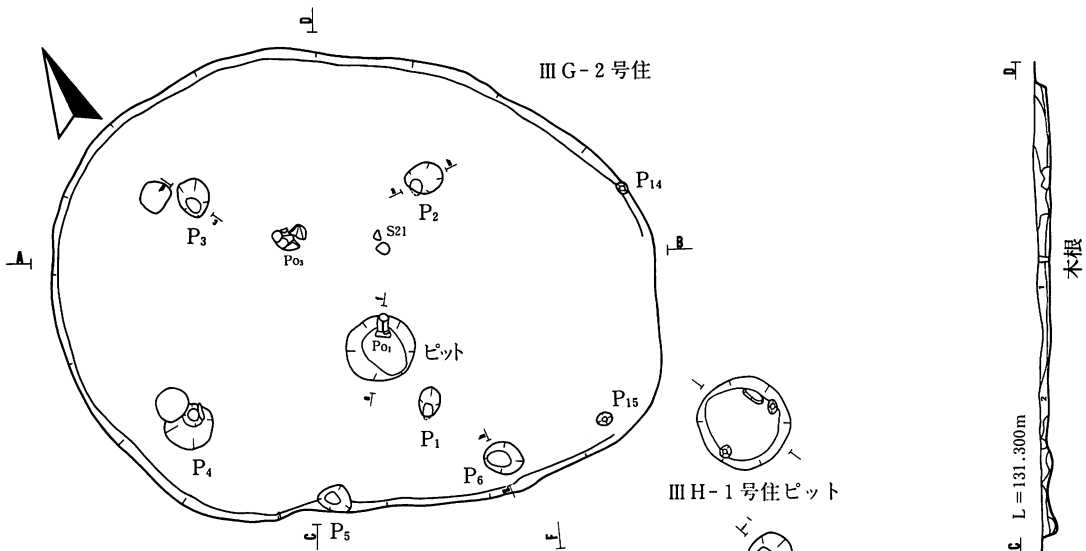
### 遺物(第33図、写真図版39)

〈出土状況〉いずれも住居の検出面で出土したが、当然のことながら原位置は保っていない。石器のみの出土である。

〈石器〉1は石槍あるいは石筥の基部、2は磨製石斧の破損品、3はフレークの一部分に刃があり、片側は自然面。4は石棒、五あるいは六角に面取りしていると思われるが縦に割れており不明、荒く磨きがかかっている。5は多面を使用している擦石。

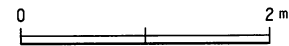
〈時期〉土器が出土せず不明であるが、ⅢG-2号住が当住居よりは古く大木8b式期あることからすると、同時期かそれよりは新しい時期となる。大木8b式期以外の住居がないことからすると、この時期とみなすのが妥当であろう。





III G-2、III H-1号住柱穴 (cm)

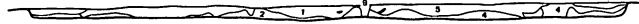
P Na	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>
径(上場)	24	29	32	38	26	32	30	23	20	23	20	34	34		
径(下場)	18	24	24	37	22	26	29	22	19	23	20	23	32		
深	13	13	13	8	10	20	18	18	12	16	16	16	20		
	8	10	9	7	9	12	16	10	14	13	12	14			
	13	48	57	46	19	49	20	11	52	30	21	63	52		



III H-1号住

- 埋土断面  
層位 色調 土性
- 10YR3/2 暗褐色 粘土質(硬)、含炭化物(多量)・焼土
  - 10YR2/3 暗褐色 粘土質(硬)、含炭化物・焼土(少量)
  - 7.5YR3/6 暗褐色 含黄褐色土粒(少量)・炭化物(微量)
  - 7.5YR3/4 暗褐色 ~7.5YR4/4 褐色 含黄褐色土粒(少量)・炭化物(微量)
  - 10YR3/4 暗褐色 ~7.5YR3/2 黑褐色 粘土質(硬)、含炭化物(多量)
  - 7.5YR2/2 黑褐色 含炭化物・焼土(少量)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(柔)、含炭化物(少量)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(柔)、含炭化物(微量)
  - 10YR4/4 暗褐色 含炭化物(少量)
  - 10YR3/4 暗褐色 含炭化物(微量)・黄褐色土粒(少量)
  - 10YR5/8 黄褐色 粘土質(硬)
  - 10YR4/4 褐色 粘土質(硬)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質

L = 131.300m



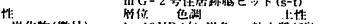
L = 131.200m



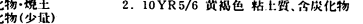
L = 121.200m



L = 121.200m



L = 121.200m



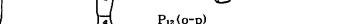
L = 121.200m



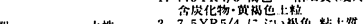
L = 121.200m



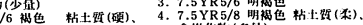
L = 121.200m



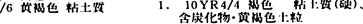
L = 121.200m



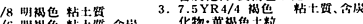
L = 121.200m



L = 121.200m



L = 121.200m



L = 121.200m

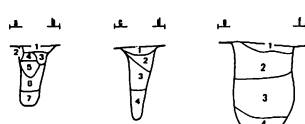


L = 121.200m



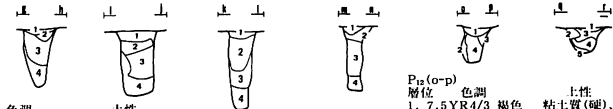
L = 121.200m

L = 131.200m



- P<sub>3</sub>(a-b) 層位 色調 土性
- 10YR5/6 黄褐色 粘土質(柔)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)
  - 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土質(硬)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(柔)
  - 10YR5/4 に近い黄褐色 粘土質(柔)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質(柔)
  - 10YR5/8 黄褐色 粘土質(柔)
- P<sub>3</sub>(c-d)
- 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 10YR4/4 褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 7.5YR4/4 褐色 粘土質(柔)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質(柔)
- III G-2号住居跡ピット(e-f)
- 10YR4/4 褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)
  - 10YR4/6 褐色 含炭化物・黄褐色土粒(多量)
  - 10YR3/4 暗褐色 含炭化物(少量)・黄褐色土粒(多量)
  - 10YR5/8 黄褐色 含黄褐色土粒

L = 131.250m

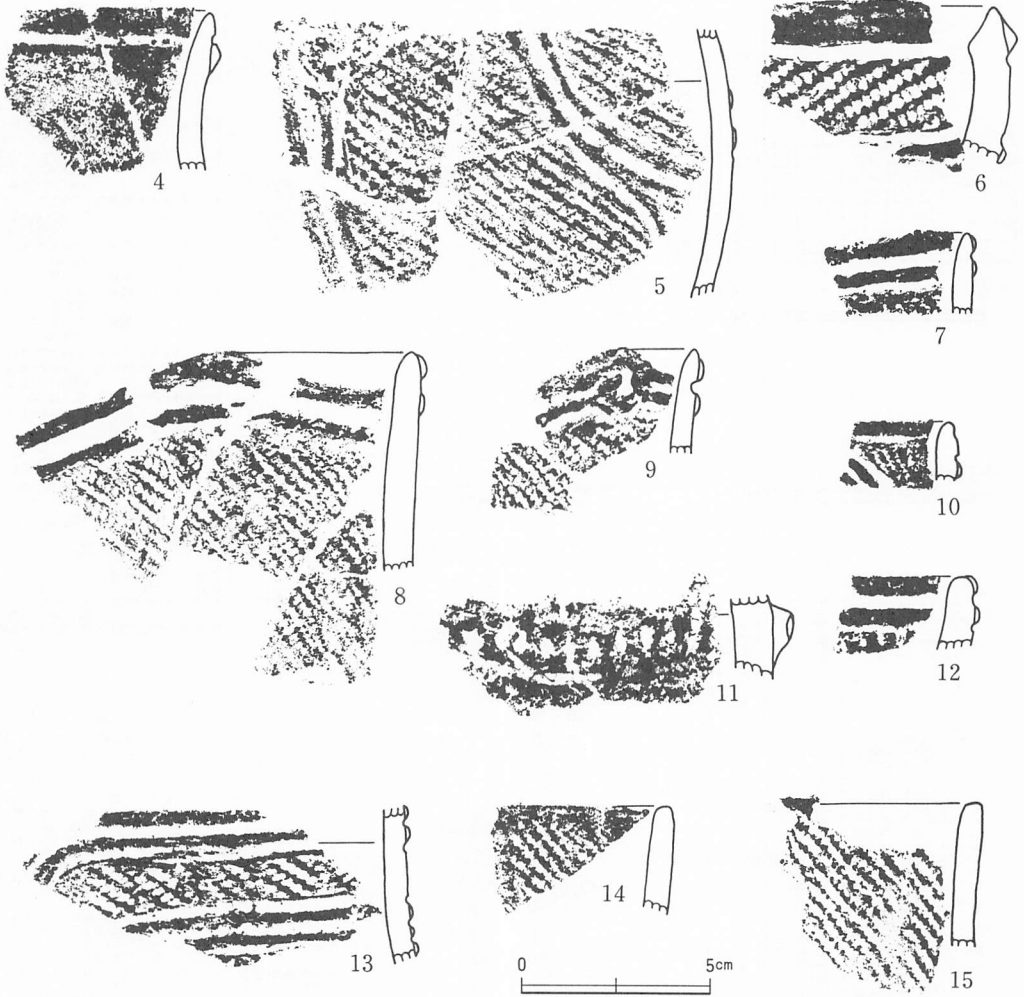
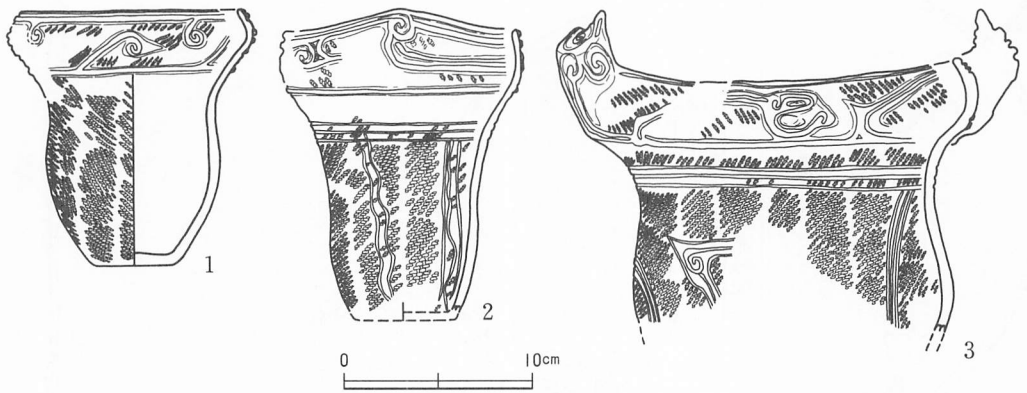


- P<sub>4</sub>(g-h) 層位 色調 土性
- 10YR3/4 暗褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 10YR4/6 褐色 含炭化物(少量)
  - 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質 含炭化物(少量)
  - 7.5YR5/6 明褐色 粘土質
- P<sub>5</sub>(i-j)
- 7.5YR3/4 暗褐色 粘土質、含黄褐色土粒
  - 7.5YR3/2 黑褐色 粘土質(硬)、含黄褐色土粒
  - 7.5YR4/3 褐色 粘土質、含炭化物(多量)
  - 10YR3/4 暗褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 7.5YR5/6 明褐色 粘土質
- P<sub>6</sub>(k-l) 層位 色調 土性
- 10YR3/4 暗褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質(硬)、含炭化物
  - 7.5YR4/4 褐色 粘土質
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質
- P<sub>7</sub>(m-n) 層位 色調 土性
- 7.5YR4/6 褐色 粘土質(硬)、含浮石
  - 7.5YR5/8 明褐色 粘土質
  - 7.5YR5/6 明褐色 粘土質、含炭化物
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質、含浮石

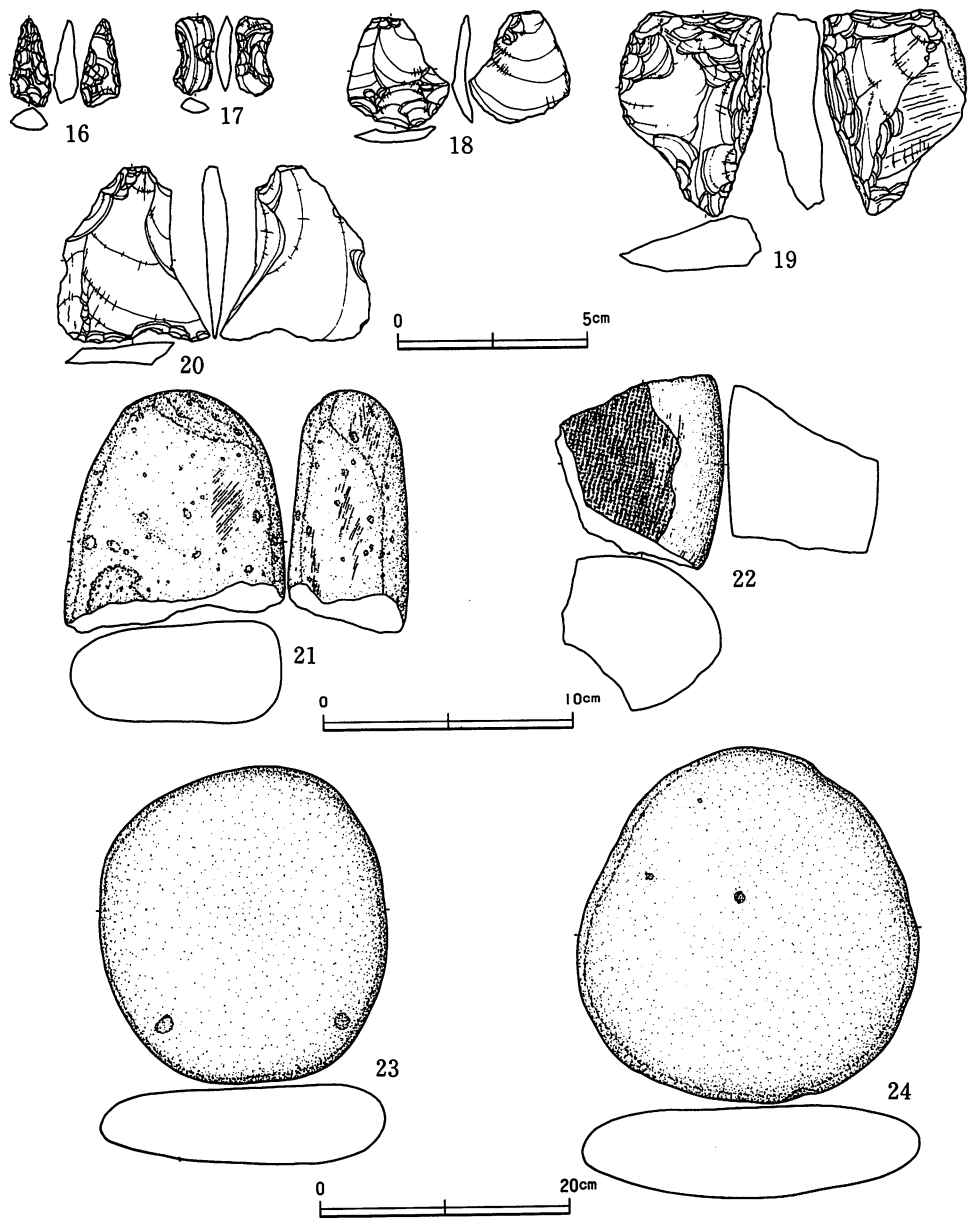
- III G-2号住居跡ピット(s-t) 層位 色調 土性
- 10YR4/4 褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質、含炭化物

Po(土器)、S(石器)番号は図版の遺物番号と同じ

第30図 III G-2号、III H-1号住居跡

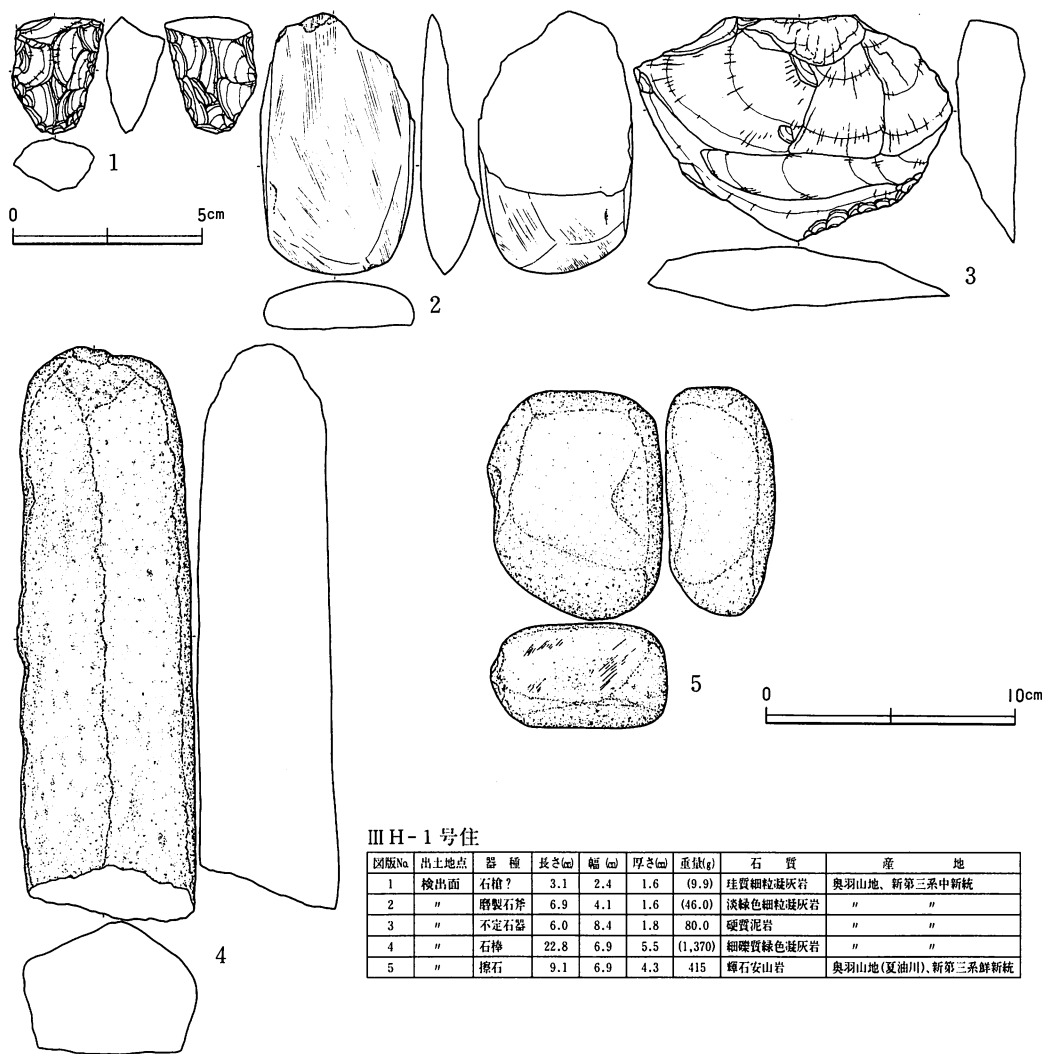


第31图 Ⅲ G-2号住居迹遗物(1)



図版No.	出土地点	器種	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	産地
16	埋土上層	石鏃	2.4	1.1	0.6	(1.35)	珪質泥岩	奥羽山地、新第三系中新統
17	"	異形石器	2.1	1.0	0.4	0.9	黒曜石	産地、時代不詳
18	"	不定形石器	3.0	2.7	0.5	2.7	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
19	床直	石鏃	5.4	3.9	1.4	29.2	玉ずい	産地、時代不詳
20	埋土上層	"	4.7	4.0	0.6	8.76	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
21	"	擦石	9.6	8.7	4.8	(530)	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
22	床直	"	7.7	6.6	6.2	(325)	"	" "
23	床面	白石	27.4	16.4	5.8	5,980	"	" "
24	"	"	28.2	26.8	7.2	7,840	"	" "

第32図 III G-2号住居跡遺物(2)



Ⅲ H-1 号住

図版No	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
1	検出面	石椀?	3.1	2.4	1.6	(9.9)	珉質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
2	"	磨製石斧	6.9	4.1	1.6	(46.0)	淡緑色細粒凝灰岩	" "
3	"	不定石器	6.0	8.4	1.8	80.0	硬質泥岩	" "
4	"	石棒	22.8	6.9	5.5	(1,370)	細礫質緑色凝灰岩	" "
5	"	擦石	9.1	6.9	4.3	415	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統

第33図 Ⅲ H-1 号住居跡遺物

### Ⅲ G-3号住居跡（第34図、写真図版25）

〈検出状況〉F区を走る農道際にかかって褐色土の広がり多数の遺物を検出し、住居跡と確認した。西側はキャタピラー跡があり、さらにその西は農道にかかっている。東南にはⅢG-1号住居が接している。

〈形状・規模〉西側は推定によるが、柱穴の配置は確認しておりこれから判断すると長径5.8m、短径4.0mの隅丸長方形となる。東側の床面でⅢG-2号陥穴と重複するが、陥穴を貼って床としており当住居のほうが新しい。

〈埋土〉大半を削平されているため層位全体の把握ができず、脈絡のない分層にせざるを得なかった。自然堆積と思われるが、大量の遺物の廃棄が認められた。

〈壁・床面〉壁の残存高10cm。床面は堅くしまっており、陥穴の上には貼床が認められた。

〈柱穴〉主柱穴となりうる4本と、壁際と床に不規則にある8本を検出した。P<sub>1-4</sub>は深さ50cm以上で方形の配置となるが、南側に寄っている。壁際にあるものは支柱穴と思われるが、他は用途不明である。

〈炉〉床面直上で2箇所の焼土を検出したが柱穴の中央にあるのが炉で、その東側にあるのは投げ捨てである。地床炉であるが木根による攪乱が著しく、明瞭なプランを確認できなかった焼土は広い範囲に渡っているが、一部は炉からはみ出したものと思われる。

### 遺物（第35～42図、写真図版26～31）

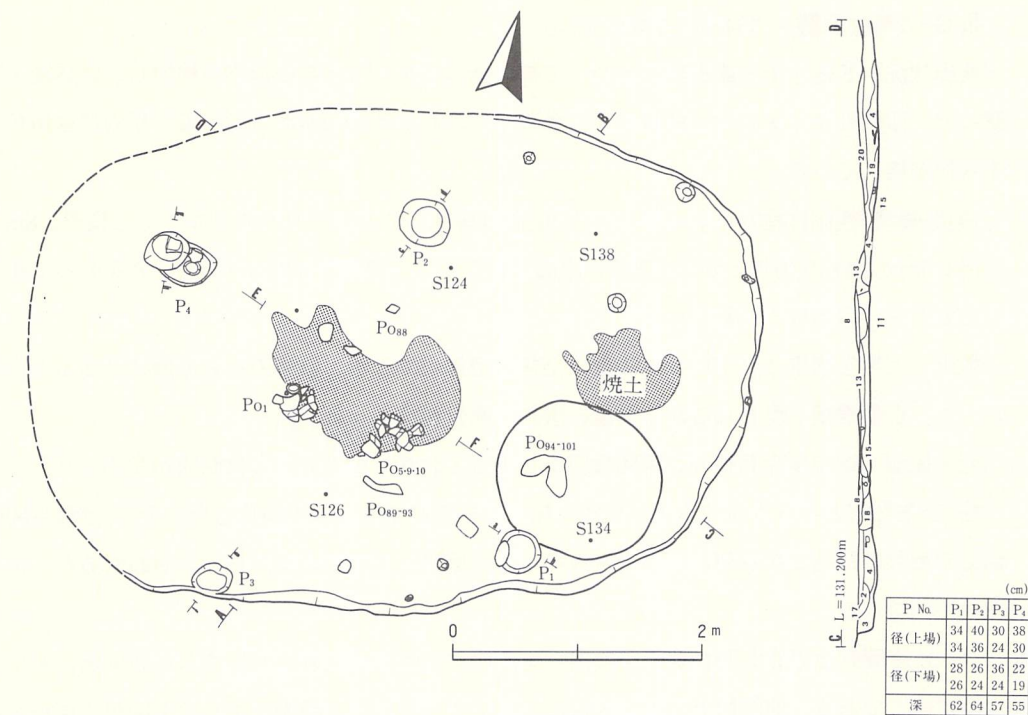
〈出土状況〉床面、埋土中から多量の遺物が出土したが、床面を除いては小さな破片資料が多い。炉の焼土上から最も多く出土しているが、廃棄された遺物の可能性が高い。焼土自体も廃棄されているものを含んでいると思われるが、炉のそれと区別はつかなかった。この他には柱穴、焼土から少量の土器が出土している。

〈土器〉器種は深鉢、小型鉢、浅鉢で、小型鉢の占める割合は他の住居跡よりは多い。1、4、60などのように、装飾的な突起を有する土器も含まれている。

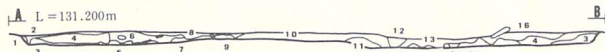
〈石器〉115は不整形の石に両側から穿孔、それ以外の加工はない。116～120は剥片の一部分に調整を加えた不定形石器。121、122は片面加工の石筥、123は石斧片。124は擦石の先端部を打ち欠いた敲石、125は唯一の凹石で側面を擦っている。129～134は楕円形の礫の側面を主な擦り面とする擦石で、134には赤褐色の顔料のようなものが付着している。128は方形で折れているが破損部に細かい打痕がある。135～140は扁平、球形、楕円形の川原石の一面あるいは両面に擦痕のある擦石。141は焼土面出土で加熱痕がある。廃棄された炉石の可能性もある。142は床面からで周辺を擦り中央部がやや凹んでいる。143は柱穴出土の角礫。144、145は埋土下層からで、前者は中央が凹む石皿状、後者は扁平な台石。

〈時期〉床面、炉出土の土器は大木8b式の特徴を示しており、中期に属する。





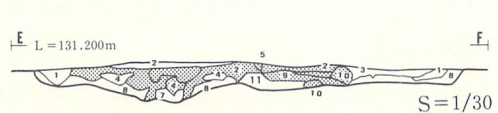
(cm)				
P No	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>
径(上場)	34	40	30	38
	34	36	24	30
径(下場)	28	26	36	22
	26	24	24	19
深	62	64	57	55



埋土断面

- 層位 色調 土性
- 10YR5/6 黄褐色 粘土質(硬)
  - 10YR4/4 褐色 粘土質(硬)、含黄褐色土粒
  - 7.5YR4/5 褐色 粘土質、含炭化物(少量)
  - 10YR3/4 暗褐色 粘土質、含炭化物・黄褐色土粒
  - 10YR4/5 褐色 粘土質、含炭化物
  - 7.5YR3/4 暗褐色 粘土質、含黄褐色土粒
  - 10YR2/3 黒褐色 粘土質、含炭化物
  - 10YR3/3 暗褐色 粘土質、含焼土(少量)・黄褐色土粒・盛り土
  - 7.5YR3/3 暗褐色 粘土質、含焼土(少量)・黄褐色土粒
  - 10YR3/3 暗褐色 粘土質、含焼土・炭化物・黄褐色土粒

- 層位 色調 土性
- 7.5YR5/5 にぶい褐色 粘土質、含明褐色粒土ブロック
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質、含炭化物(少量)
  - 7.5YR3/2 黒褐色 混褐色土、含黄褐色土粒・炭化物(少量)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質
  - 10YR5/5 にぶい黄褐色 粘土質、含炭化物
  - 10YR4/4 褐色 粘土質(硬)、含黄褐色土粒
  - 7.5YR4/4 褐色 粘土質、含炭化物
  - 10YR3/4 暗褐色 粘土質、含焼土・ブロック・炭化物
  - 7.5YR2/2 黒褐色 含炭化物(少量)・盛り土
  - 10YR2/2 黒褐色 含炭化物(少量)・盛り土



炬(E-F)

- 層位 色調 土性
- 7.5YR4/4 褐色 含焼土(微量)
  - 2.5YR4/4 赤褐色~5YR4/8 赤褐色 焼土、含炭化物(少量)
  - 7.5YR4/3 褐色 焼土、含炭化物(微量)
  - 7.5YR3/3 暗褐色 含炭化物・焼土(少量)・黄褐色土粒
  - 7.5YR4/3 褐色~7.5YR4/6 褐色 含焼土・黄褐色土粒
  - 7.5YR5/6 明褐色 焼土、含炭化物(微量)
  - 10YR5/8 黄褐色 粘土質(硬)
  - 10YR5/8 黄褐色~10YR6/6 明黄褐色 含炭化物(微量)
  - 10YR3/3 暗褐色 含焼土・炭化物
  - 10YR3/4 暗褐色 含焼土・炭化物(微量)
  - 5YR4/6 赤褐色 含炭化物(少量)

P<sub>1</sub>(a-b)

- 層位 色調 土性
- 10YR4/4 褐色 含黄褐色土粒・炭化物(少量)
  - 10YR5/8 黄褐色 粘土質
  - 10YR3/3 暗褐色 含黄褐色土粒(多量)
  - 10YR5/8 黄褐色 粘土質

P<sub>2</sub>(c-d)

- 層位 色調 土性
- 10YR2/2 黒褐色 含炭化物(少量)・焼土
  - 10YR4/6 褐色 含炭化物(少量)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質
  - 10YR5/8 黄褐色 粘土質
  - 10YR3/4 暗褐色 含黄褐色土粒(多量)・炭化物(少量)
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質
  - 10YR4/6 褐色 粘土質、含炭化物

P<sub>3</sub>(e-f)

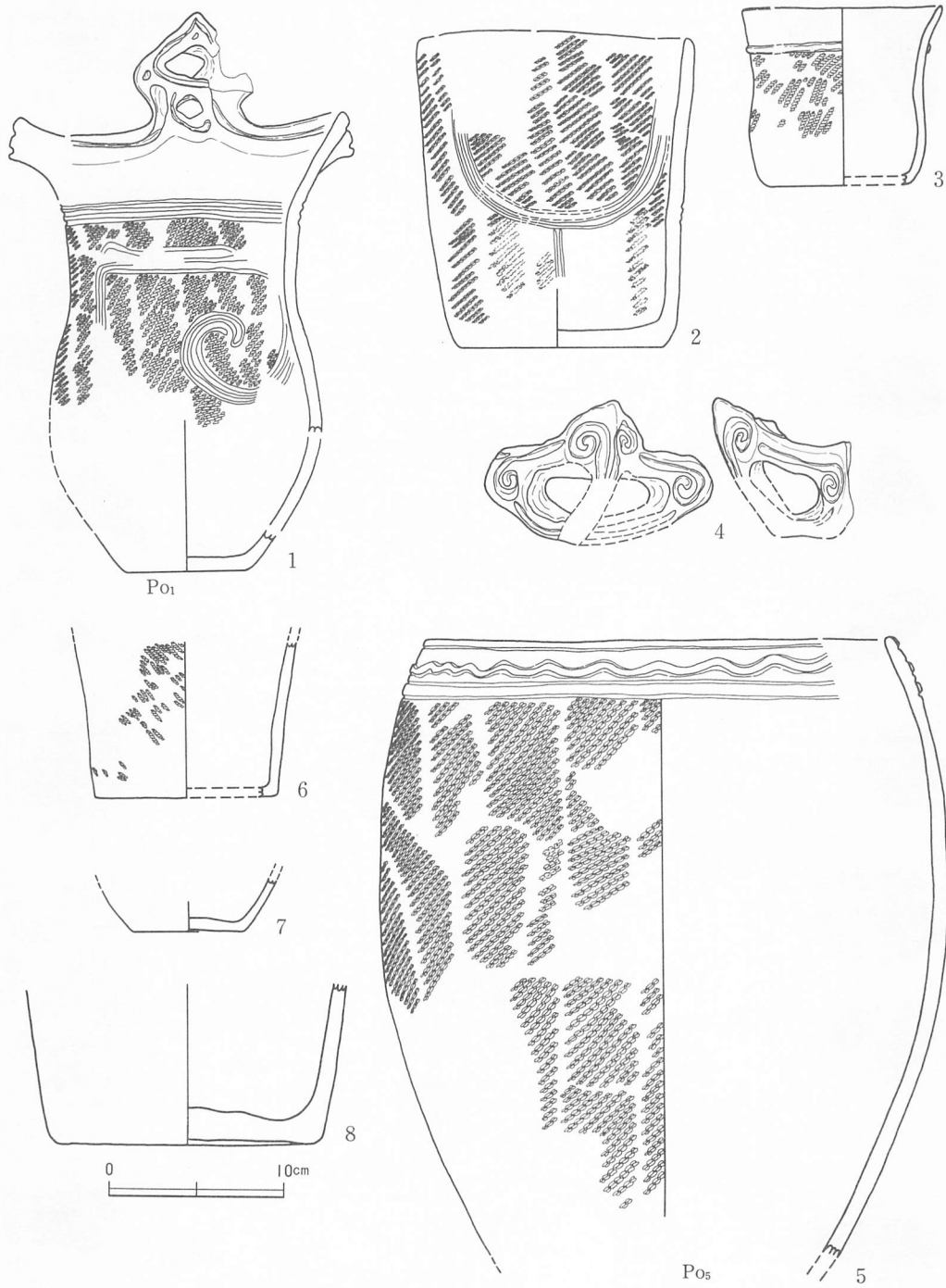
- 層位 色調 土性
- 10YR3/3 暗褐色 含炭化物・焼土
  - 10YR3/4 暗褐色 粘土質、含炭化物・焼土(少量)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質
  - 10YR5/8 黄褐色 粘土質
  - 10YR4/6 褐色 含黄褐色土粒(多量)・炭化物(少量) 粘土質
  - 10YR5/6 黄褐色 粘土質

P<sub>4</sub>(g-h)

- 層位 色調 土性
- 10YR4/4 褐色 粘土質、含炭化物(微量)・黄褐色土粒(多量)
  - 10YR4/6 褐色 粘土質、含炭化物(微量)
  - 10YR5/8 黄褐色 粘土質、含炭化物(多量)

P<sub>0</sub>(土器)、S(石器)番号は図版の遺物番号と同じ

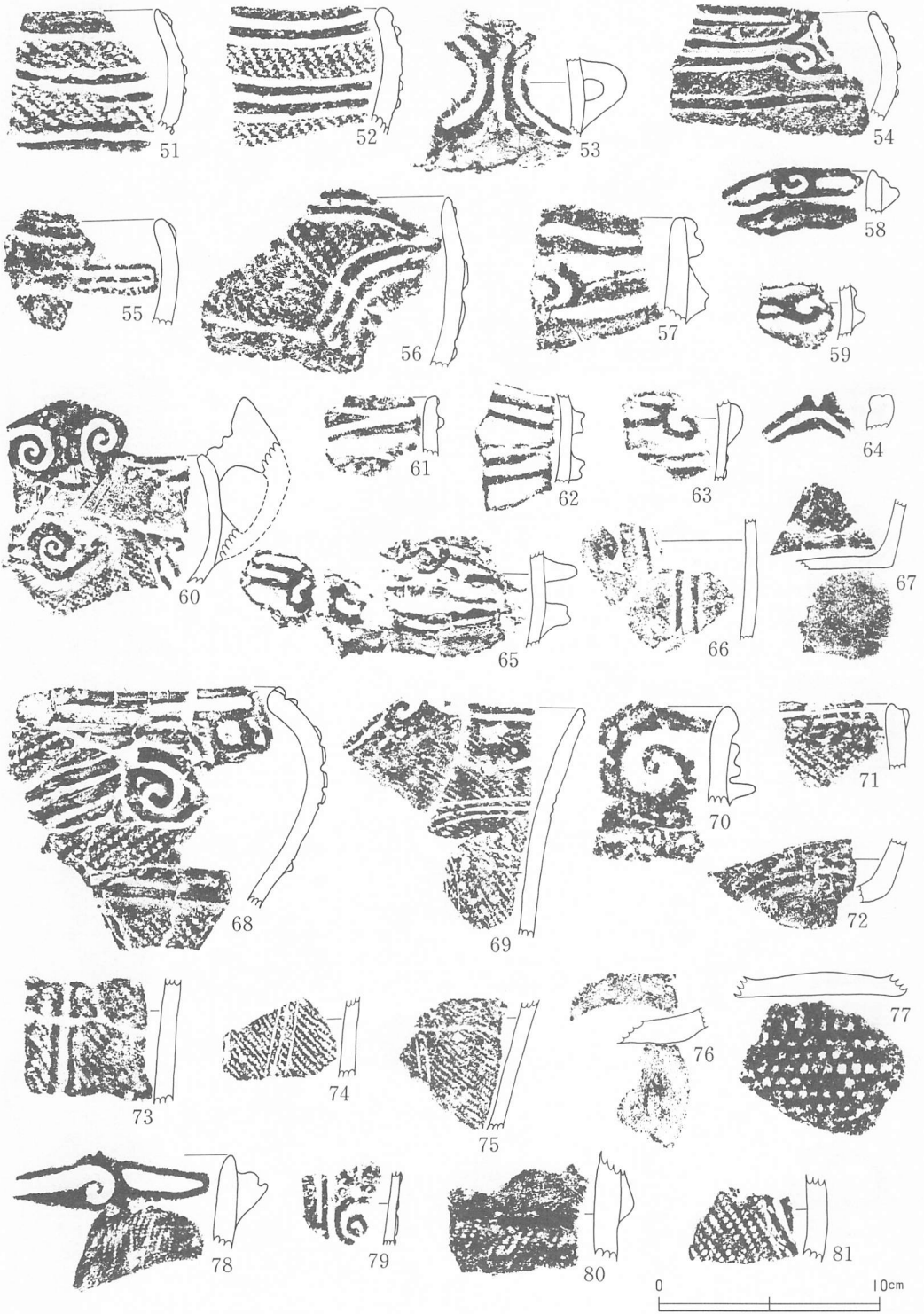
第34図 III G-3号住居跡



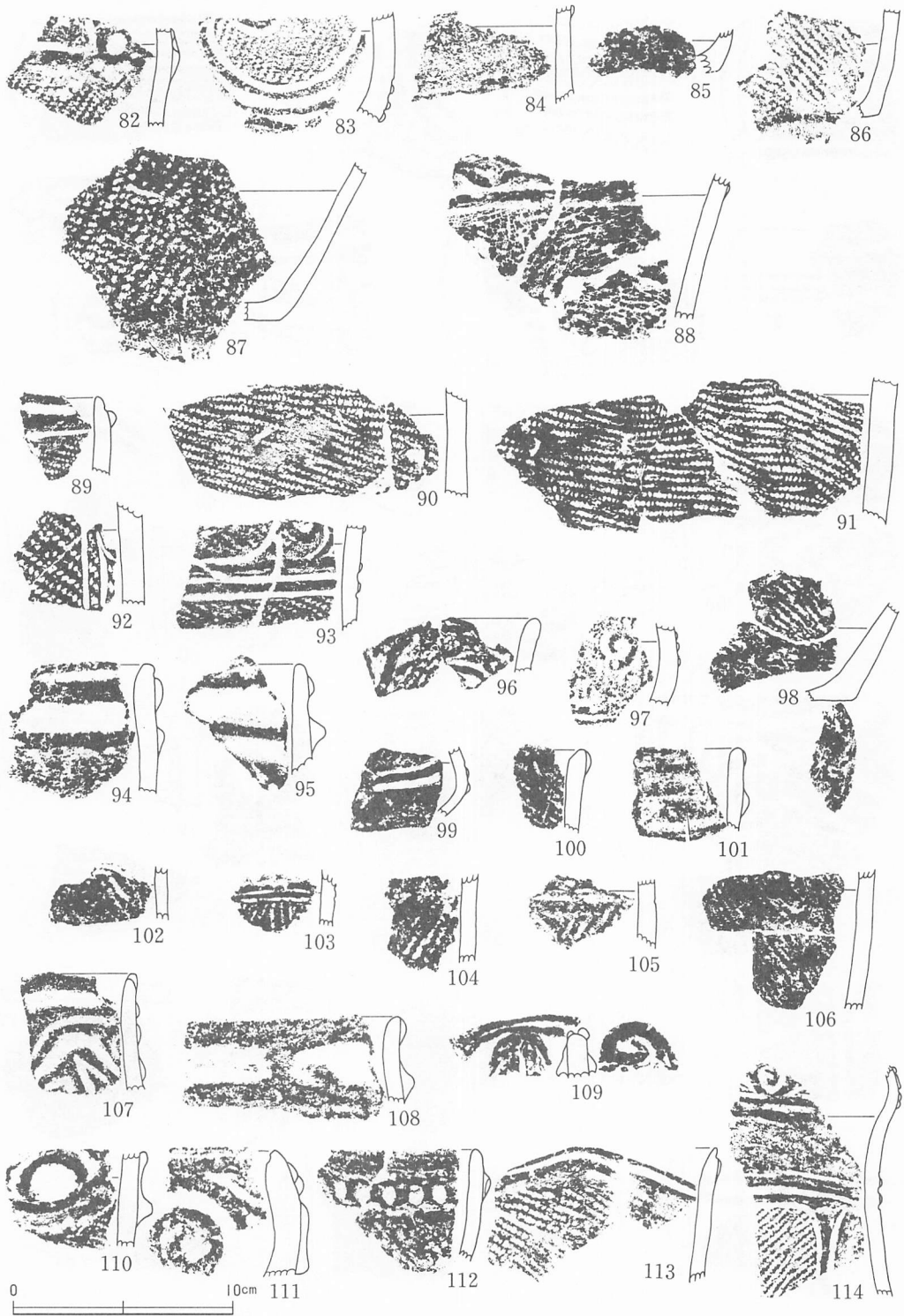
第35图 III G-3号住居跡遺物(1)



第36图 III G-3号住居迹遗物(2)



第37图 III G-3号住居跡遺物(3)



第38图 III G-3号住居跡遺物(4)

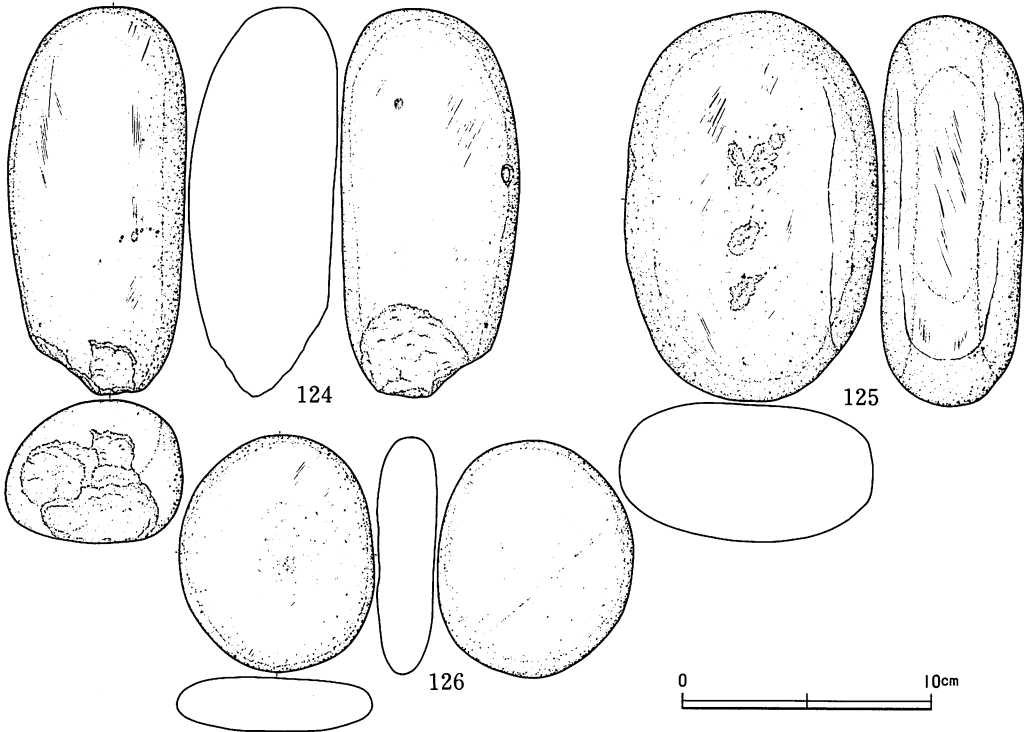
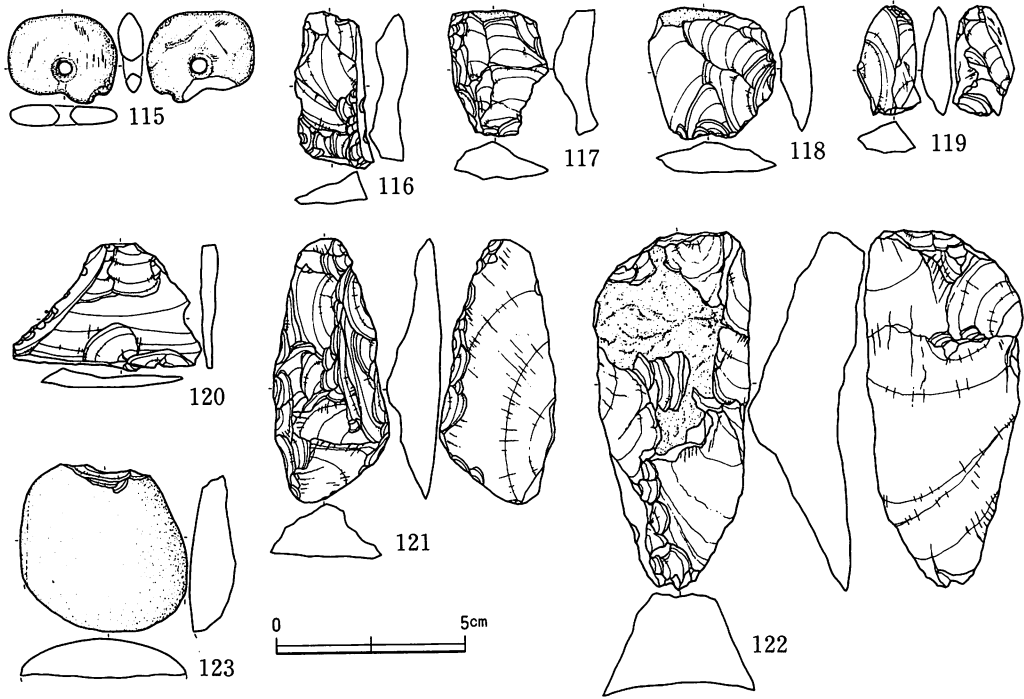


No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	炉焼土上	深鉢	4単位の波状、正面装飾突起、他は頂部渦文、頸部無文、体部沈線文、RLタテ
2	埋土	〃	破損した部分を擦り上げ、口縁として再利用、沈線文、底部ミガキ、RLRタテ
3	〃	鉢	平縁、頸部に隆線、RLタテ
4	〃 10層	深鉢?	口縁部装飾突起、基本的モチーフは1と同じ
5	炉焼土上	深鉢	平縁、口縁隆線間に隆線波状文、外面部分的に炭化物、RLRタテ
6	〃	〃	体部下半～底部(ミガキ)、LRタテ、柱穴P <sub>3</sub> 出土の土器と接合
7	P <sub>4</sub> 埋土	浅鉢?	〃、無文、内面ミガキ、底部ナデ
8	埋土	深鉢	〃(ナデ)
9	炉焼土上	〃	口縁部三角の隆帯、平縁、内湾、器面ミガキ
10	〃	小型鉢	口縁部装飾突起
11	床面	〃	平縁、隆線、無文
12・13	〃	深鉢	体部片、隆沈線文
14	炉焼土上	〃	頸部片、頸部無文、体部三本沈線、LRヨコ
15	〃	小型鉢	体部片、沈線、RLヨコ
16	〃	深鉢	口縁部～頸部、隆沈線、頸部無文、キャリパー型
17	〃	〃	体部下半、縄文のみ、LRタテ
18～20	〃	〃	縄文、捺糸文、隆線文
21	〃	浅鉢	体部下半～底部、LRタテ、内面・底部ミガキ
22～24	炉3～4層	小型鉢	波状と平縁、隆線、RLヨコ
25～26	炉4・1層	深鉢	体部片、LR、RLタテ
27	床面	小型鉢	RLタテ、底部擦痕のあるナデ
28	〃	浅鉢	LRヨコ、内面ミガキ・底部ナデ
29～39	炉内	深鉢	口縁～体部片
40～43	〃	鉢	頸部、無文
45・46	埋土7層	深鉢	平縁、隆沈線、RLヨコ
47	〃 〃	〃	体部、隆線文、RLタテ
48	〃 12層	〃	頸部三本沈線、RLヨコ
49	〃 6層	小型鉢	体部、細い沈線文、LRタテ
50	〃 10層	〃	〃、沈線渦文、LRタテ
51・52	〃 9層	深鉢	平縁、キャリパー型、隆沈線文、RLヨコ
53	〃 〃	〃	口縁部片、橋状把手、ミガキ
54～56	〃 10層	〃	平縁、キャリパー型、細い隆沈線文、54LR・55、56RLヨコの上からナデ
57	〃 10層	〃	波状口縁、太い隆線二本単位、間に刺突
58・59	〃 10層	小型鉢	〃、頂部渦文、両側沈線、ミガキ
60	〃 〃	深鉢	口縁部装飾突起(両側渦文)、ブリッジ部分欠落、キャリパー型、RLヨコ
61	〃 〃	〃	波状口縁、隆沈線、器面ナデ
62～65	〃 〃	〃	同1個体、隆帯・隆沈文、器面他粒粘土、内面丹塗痕跡、器面ミガキ
66	〃 〃	小型鉢	口縁部装突起
67	〃 〃	〃	体部下半～底部(ナデ)、LRヨコ?
68	〃 15層	浅鉢	平縁、口縁部隆線で区画、渦文、内面ミガキ、口縁部LRヨコ・体部タテ
69	〃 〃	深鉢	波状口縁外反、頂部渦文、三本沈線、太きの異なるLRタテ
70	〃 〃	〃	波状口縁、隆帯による渦巻の突起、RLヨコ
71	〃 〃	深鉢	粗製、平縁、口縁部隆線、RLヨコ
72	〃 〃	浅鉢	体部下半～底部、内外面ナデ
73	〃 〃	深鉢	体部片、隆線文、LRタテ
74・75	〃 〃	小型鉢	〃、細い沈線、LRタテ

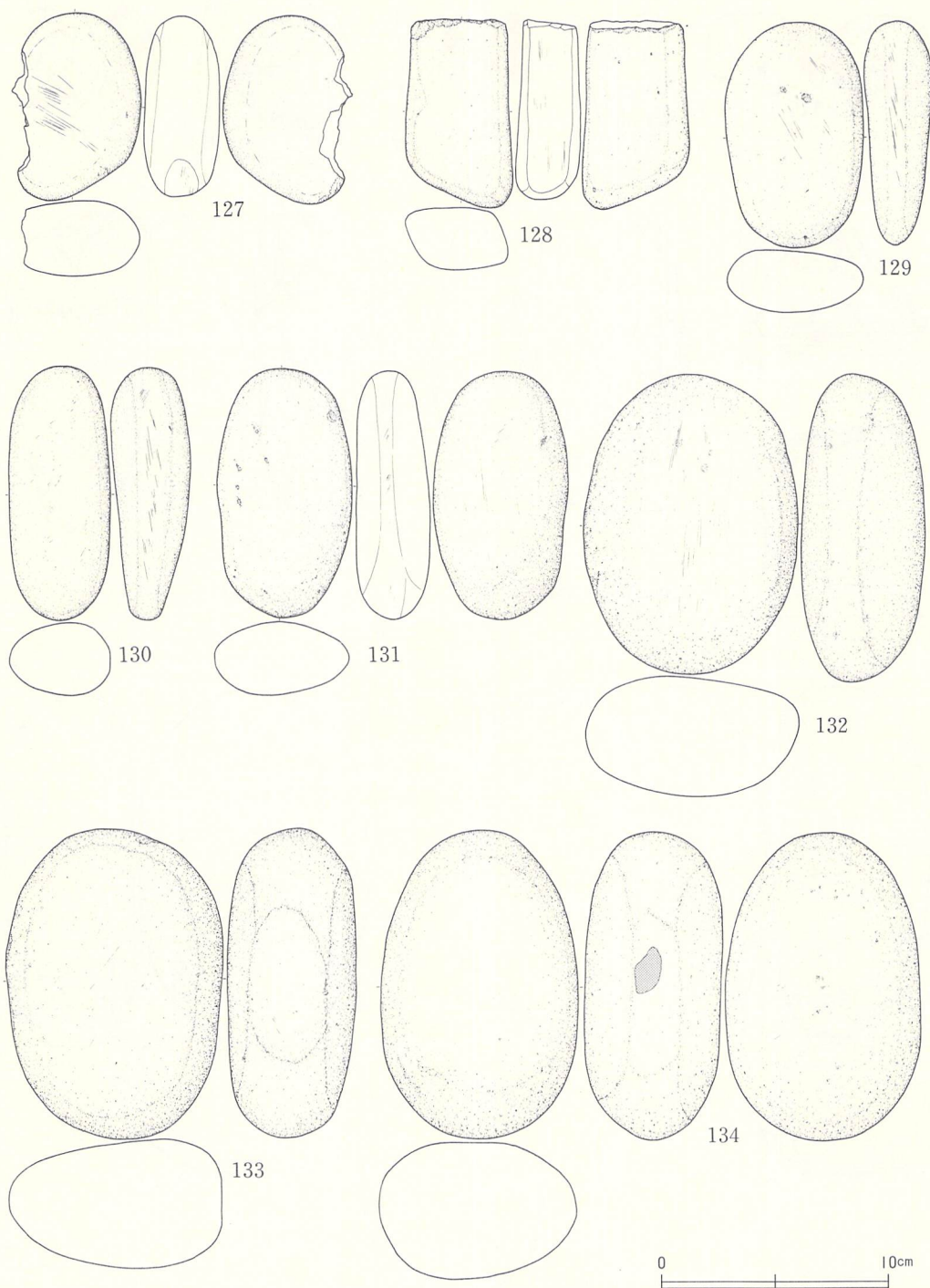
No	出土地点	器形	特 徴・文 様・その他
76	埋土15層	浅鉢	底部、ミガキ
77	〃 〃	深鉢	内面に炭化物、網代痕、1本越え1本潜り1本送り
78	〃 13層	深鉢	波状口縁、頂部渦文、RLタテ、加熱でポロポロ
79	〃 〃	小型鉢	体部片、隆沈線、原体摩滅
80	〃 〃	深鉢	体部、隆帯区画、ミガキ
81	〃 〃	〃	〃、隆線渦文、RLヨコ
82	P <sub>1</sub> の上面	〃	口縁～頸部、隆線区画、楕円形の刺突文、RLタテ
83	〃	〃	口縁部片、キャリパー型、隆沈線渦文、LRヨコ
84	〃	〃	頸部？無文
85・86	〃	小型鉢	体部下半～底部（ナデ）、86LRタテ
87	〃	深鉢	〃（〃）、RLRタテ
88	床直	〃	体部片、隆線区画、内外面ナデ
89	〃	〃	平縁、口縁部隆線、RLヨコ
90・91	〃	〃	同一個体、体部片、LRナナメ
92	〃	〃	体部片、沈線文、LRタテ
93	〃	〃	〃、隆沈線、LRタテ
94・95	III G-2号陥穴 上面(床直)	〃	平縁、隆帯貼付、器面ナデ
96・97	〃	〃	波状口縁(96)、隆沈線、渦文、LRヨコ？
98	〃	〃	体部下半～底部（ミガキ）LRタテ
99	〃	小型鉢	頸部、キャリパー型、隆沈線、LRヨコ
100・101	〃	深鉢	平縁直立、隆線貼付、RLヨコ（100）
102～104	P <sub>1</sub> 埋土	〃	102体部片、隆線文、103沈線文LRヨコ
105・106	P <sub>1</sub> 埋土	〃	体部片、RLタテ
107	埋土上層	〃	波状口縁、隆線文
108	〃	〃	平縁、隆線の間「の」字文、ナデ
109	〃	小型鉢	口縁突起、内面渦文、外面隆線（欠落）文
110・111	〃	深鉢	平縁、太い隆線文、円形・渦文、RLヨコ
112	〃	〃	〃、隆帯に刻目文、RLヨコの上をナデ
113	〃	〃	波状口縁、口縁部隆線、RLヨコ
114	〃	〃	口縁～体部、頸部無文、隆沈線、RLタテ

床面からで周辺を擦り中央部がやや凹んでいる。143は柱穴出土の角礫。144、145は埋土下層からで、前者は中央が凹む石皿状、後者は扁平な台石。

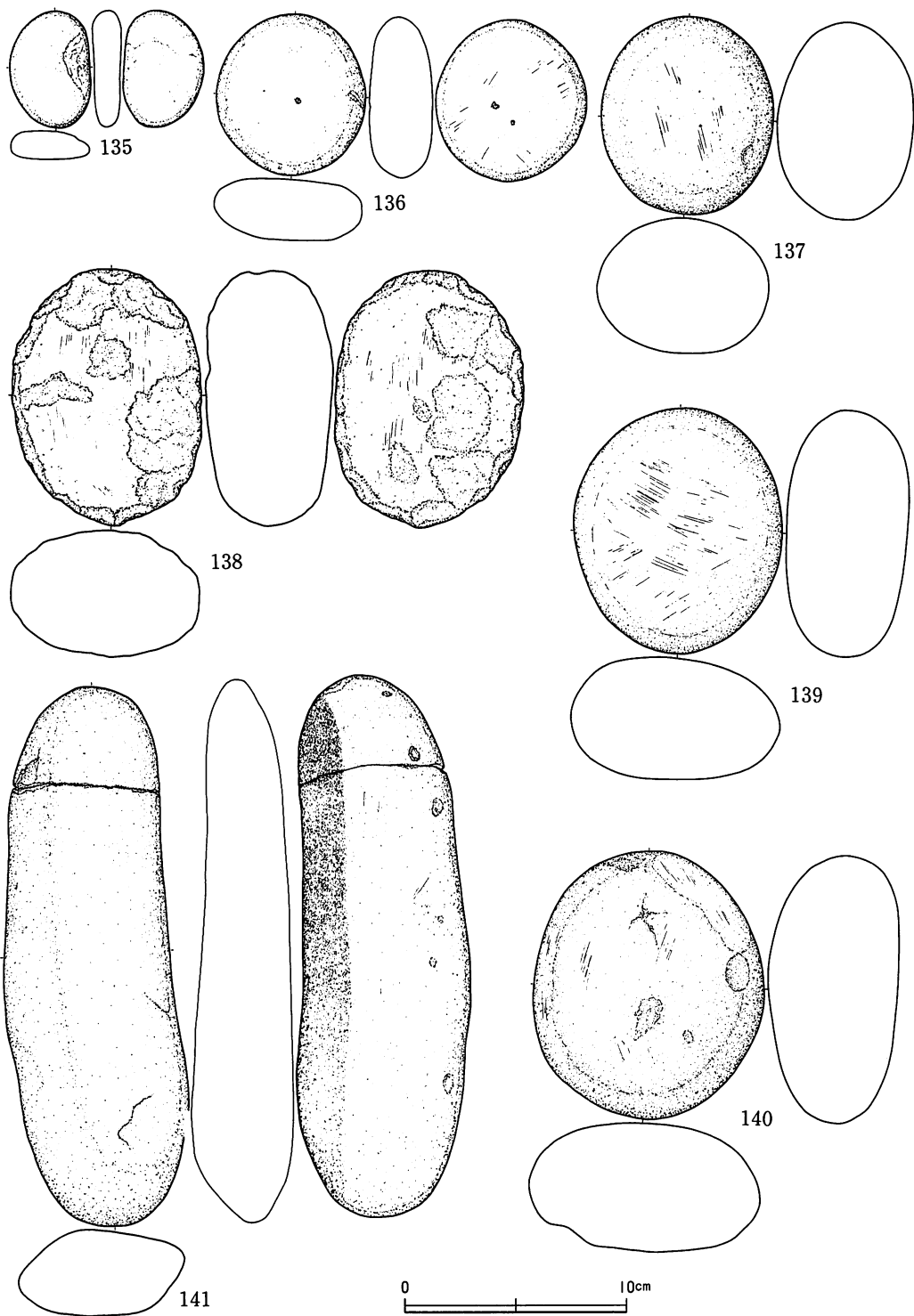
〈時期〉床面、炉出土の土器は大木8b式の特徴を示しており、中期に属する。



第39图 III G-3号住居跡遺物(5)

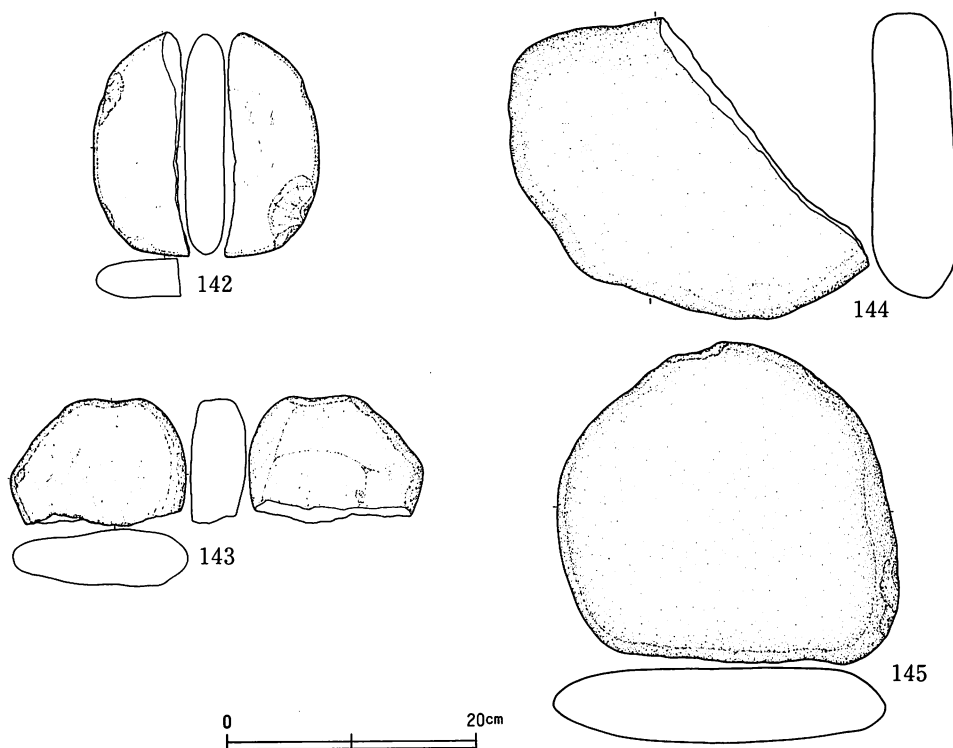


第40图 III G-3号住居跡遺物(6)



第41图 III G-3号住居跡遺物(7)





図版No	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
115	埋土上層	裝飾品	2.4	2.9	0.6	4.2	淡綠色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
116	床面	不定形石器	4.2	2.0	1.0	7.1	玉ずい	産地、時代不詳
117	焼土上面	"	3.4	2.7	1.1	8.3	粘板岩	夏油川、古生界
118	埋土1層	"	3.5	3.4	0.8	9.9	珪質泥岩	奥羽山地、新第三系中新統
119	攪乱	"	2.9	1.7	0.8	3.8	玉ずい	産地、時代不詳
120	埋土	"	3.4	5.0	0.5	6.4	珪質泥岩	奥羽山地、新第三系中新統
121	"	石筥	7.0	3.1	1.5	27.1	淡綠色細粒凝灰岩	"
122	攪乱	"	9.5	4.2	3.1	100.5	玉ずい	産地、時代不詳
123	埋土	石斧片	4.5	4.4	1.2	(25.7)	淡綠色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
124	床直	高支石	15.5	7.0	5.8	(880)	"	"
125	埋土	凹石・擦石	15.4	10.1	5.7	1,372	軽石質凝灰角礫岩	川尻附近、新第三系中新統
126	床直	擦石	9.5	7.8	2.3	220	淡綠色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
127	P <sub>2</sub> 埋土上層	"	8.1	5.6	3.3	(199)	細礫質綠色凝灰岩	"
128	攪乱	"	8.2	4.7	2.8	(180)	(濃)綠色凝灰岩	"
129	埋土	"	9.8	6.0	3.0	265	細礫質綠色凝灰岩	"
130	"	"	11.0	4.4	3.4	251	(濃)綠色凝灰岩	"
131	焼土上面	"	10.8	5.9	3.2	285	細礫質綠色凝灰岩	"
132	埋土	"	13.0	9.4	5.4	930	軽石質凝灰角礫岩	川尻附近、新第三系中新統
133	"	"	13.4	9.5	5.6	1,065	"	"
134	床直	"	13.4	8.6	6.0	1,075	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
135	埋土上層	"	5.2	3.6	1.3	45.0	淡綠色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
136	攪乱	"	7.2	6.7	2.8	140	"	"
137	埋土	"	8.8	7.7	6.1	520	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
138	床直	"	11.4	8.5	5.7	800	軽石質凝灰角礫岩	川尻附近、新第三系中新統
139	埋土	"	11.0	9.3	5.5	842	(濃)綠色凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
140	"	"	11.9	10.3	5.9	1,045	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
141	焼土上面	"	24.2	8.0	4.7	1,230	テイスイト	鈴鳴川-夏油川、新第三系鮮新統
142	床直	"	17.9	7.6	3.3	(611)	細礫質綠色凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
143	P <sub>2</sub> 柱穴	"	10.1	13.9	4.6	(895)	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
144	埋土下層	"	25.2	20.6	6.4	(6,400)	(濃)綠色凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
145	"	"	25.4	27.2	6.3	6,780	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統

第42図 III G-3号住居跡遺物(8)

#### IV G-1 号住居跡（第43図、写真図版32・33）

〈検出状況〉 III G-3 号住と同様、農道にかかって検出された。従って西側は未検出である。調査区最南端に位置する遺構であり、集落自体はさらに南に伸びることが予想される。

〈形状・規模〉 円形あるいは隅丸方形のプランと推定され、規模は径 6 m 以上と思われる。石囲炉検出以前にピット、数本の柱穴を検出しており建替あるいは重複の可能性がある。その場合は写真図版32の上段が新しく、下段が古い。そして、新しい時期は炉を持たず深い円形ピットを有する III G-2 号住タイプに、古い時期は柱穴間の中央に炉が位置するタイプとなろう。

〈埋土〉 北側は削平を免れているが、東側は上部を削られている。自然堆積で壁に近い層は遺物を多く含んでいる。2 層は殆ど無遺物である。各層とも炭化物を含んでいる。

〈壁・床面〉 古期の壁はピット 2 と溝の東側壁に沿うラインと推定される。床面はこの推定ラインより内側で、若干レベルが下がっている。新規の壁はほぼ直立するが、上面は削平されている床面は凹凸はあるが堅くしまっている。

〈柱穴〉 12本検出したが、おおまかに30cm以下のものと、50cm以上のものとに分けられる。前者は P<sub>7,9,10,13</sub> などでピット 1 に伴う柱穴で、ピット 2 と溝の東側の掘り込み部分が壁の推定ラインとなろう。後者は P<sub>1,3,5</sub> などが相当するものと思われる。古期に伴う P<sub>3</sub> の埋土は埋め戻された状況である。

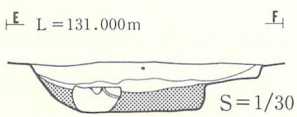
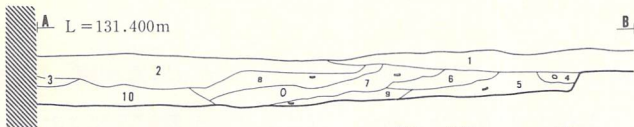
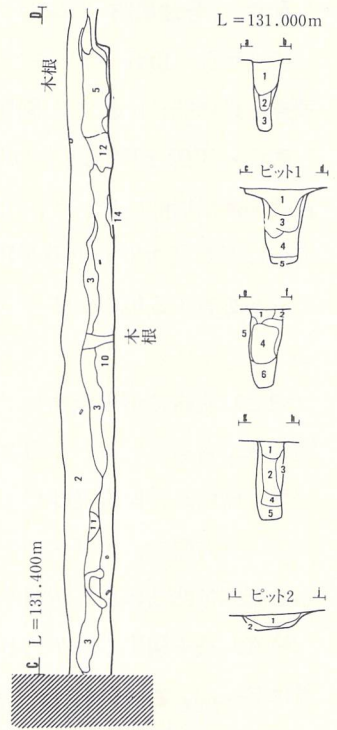
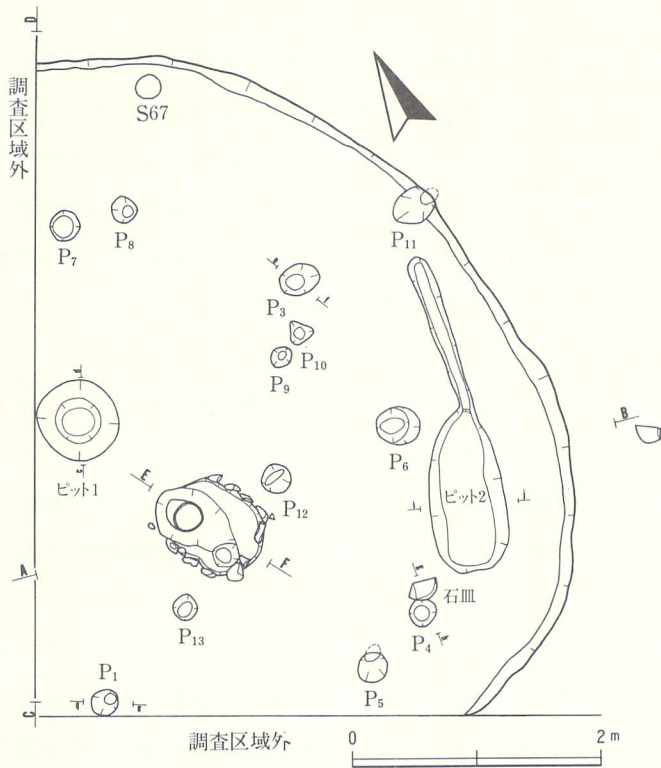
〈炉〉 新期の床面、柱穴検出の段階ではくすんだ焼土の拡がりであったが（写真図版 ）、掘下げた結果、埋設土器を伴う方形の石囲炉と判明した。石は三方に巡り、土器が埋設されている北側には設置されていない。炉の奥にあたる南側には丸い掘り込みがあり、以前の埋設土器の掘り方とも考えられる。土器はこの方向に向かって斜位に立っている。埋土 1 層は埋められたような土であるが、その下層は焼土が底面まで残っている。

〈ピット〉 ピット 1 は円形で深さ 62cm、遺物はなく、焼土もなく埋土は自然堆積であり、III G-2 号住のそれと全く同じである。ピット 2 は長方形の掘り方に溝が続いているが、溝の方がやや浅い。同じようなピットは III G-1、IV F-1 号住にもあり、同一の機能を果たしていたと考えられる。このピットは検出された位置、状況からすると石囲炉の住居に伴う施設である。

#### 遺物（第44～47図、写真図版34～36）

〈出土状況〉 炉の脇、床面直上、各層から万遍なく出土しているが接合はしない。廃棄された状況を示している。1 層水田の客土にも遺物が含まれていたもので、いくつかを掲載した。

〈土器〉 完形品は炉埋設土器のみで、他は破片資料で、小型鉢の割合が比較的大きい。36は器面の剝落した部分の奥に赤色顔料が付いている。57は客土からで晩期大洞 C<sub>2</sub> 式。



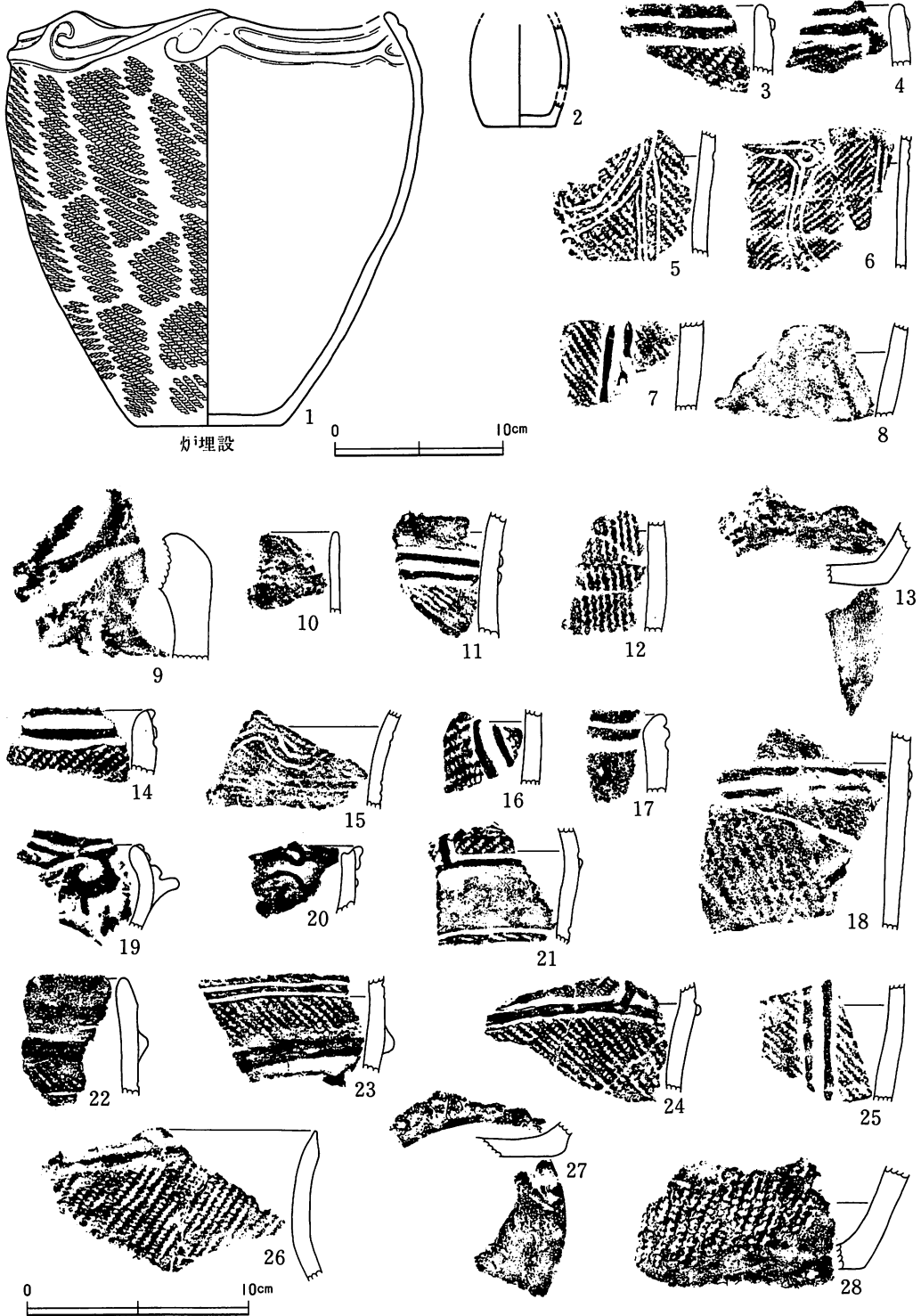
石皿 (E-F)  
 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(少量)・黄褐色土粒  
 2. 7.5YR4/4 褐色 含炭化物(微量)・焼土(少量)  
 3. 7.5YR4/8 赤褐色 焼土含炭化物(微量)

層位 色調 土性  
 1. 7.5YR3/1 黒褐色 盛り土  
 2. 7.5YR2/1 黒色-10YR5/4 にふい黄褐色  
 3. 7.5YR4/4 褐色 2層の漸位層, 含炭化物(微量)  
 4. 7.5YR3/3 暗褐色 含炭化物(少量)  
 5. 7.5YR3/3 暗褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)  
 6. 7.5YR4/3 褐色 含炭化物・黄褐色土粒・粒土小ブロック  
 7. 7.5YR4/4 褐色 含炭化物(少量)  
 8. 7.5YR3/3 暗褐色 含炭化物(少量)・焼土  
 9. 7.5YR4/4 褐色 含炭化物(微量)・粒土小ブロック  
 10. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)  
 11. 10YR2/2 黒褐色-10YR3/2 黒褐色 含炭化物(少量)  
 12. 10YR3/2 黒褐色 含炭化物・黄褐色土粒(微量)  
 13. 10YR3/3 暗褐色 粘土質  
 14. 10YR4/6 褐色 粘土質(硬), 含炭化物(微量)

P<sub>1</sub>(a-b)  
 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR3/3 暗褐色 含炭化物(少量)・粘土小ブロック  
 2. 7.5YR5/8 明褐色 粘土質(硬)  
 3. 7.5YR6/8 褐色 粘土質(硬)  
 Pिट1(c-d)  
 1. 7.5YR4/4 褐色 含炭化物(微量)・黄褐色土粒  
 2. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(硬)  
 3. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)  
 4. 7.5YR4/3 褐色 含炭化物(少量)  
 5. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(硬)  
 P<sub>3</sub>(e-f)  
 1. 7.5YR4/4 褐色 粘土質, 含炭化物(微量)・黄褐色土粒  
 2. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(柔)  
 3. 7.5YR4/6 褐色 粘土質(柔), 含炭化物(微量)  
 4. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(微量)・粘土小ブロック  
 5. 7.5YR5/8 明褐色 粘土質(硬)  
 6. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質  
 P<sub>4</sub>(g-h)  
 1. 7.5YR4/4 褐色 粘土質, 含炭化物(微量)  
 2. 7.5YR4/3 褐色 粘土質, 含炭化物(多量)  
 3. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(硬), 含炭化物(微量)  
 4. 7.5YR5/4 にふい黄褐色 粘土質(硬)  
 5. 7.5YR6/6 橙褐色 粘土質(硬), 含炭化物(微量)  
 Pिट2(j-j)  
 1. 7.5YR3/4 暗褐色 粘土質(硬), 含炭化物(少量)  
 2. 7.5YR4/6 褐色 含炭化物(少量)

		(cm)												
P Na	P <sub>1</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>		
径(上場)	22	32	22	24	36	24	22	16	20	36	24	22		
	22	24	20	24	30	24	20	14	18	26	22	20		
径(下場)	10	16	12	16	20	17	10	8	10	16	18	13		
	8	12	12	11	12	16	8	7	9	11	6	10		
深	56	63	63	52	53	22	43	27	31	38	14	22		

第43図 IV G-1号住居跡



第44図 IV G - 1号住居跡遺物(1)



第45图 IV G-1号住居迹遗物(2)

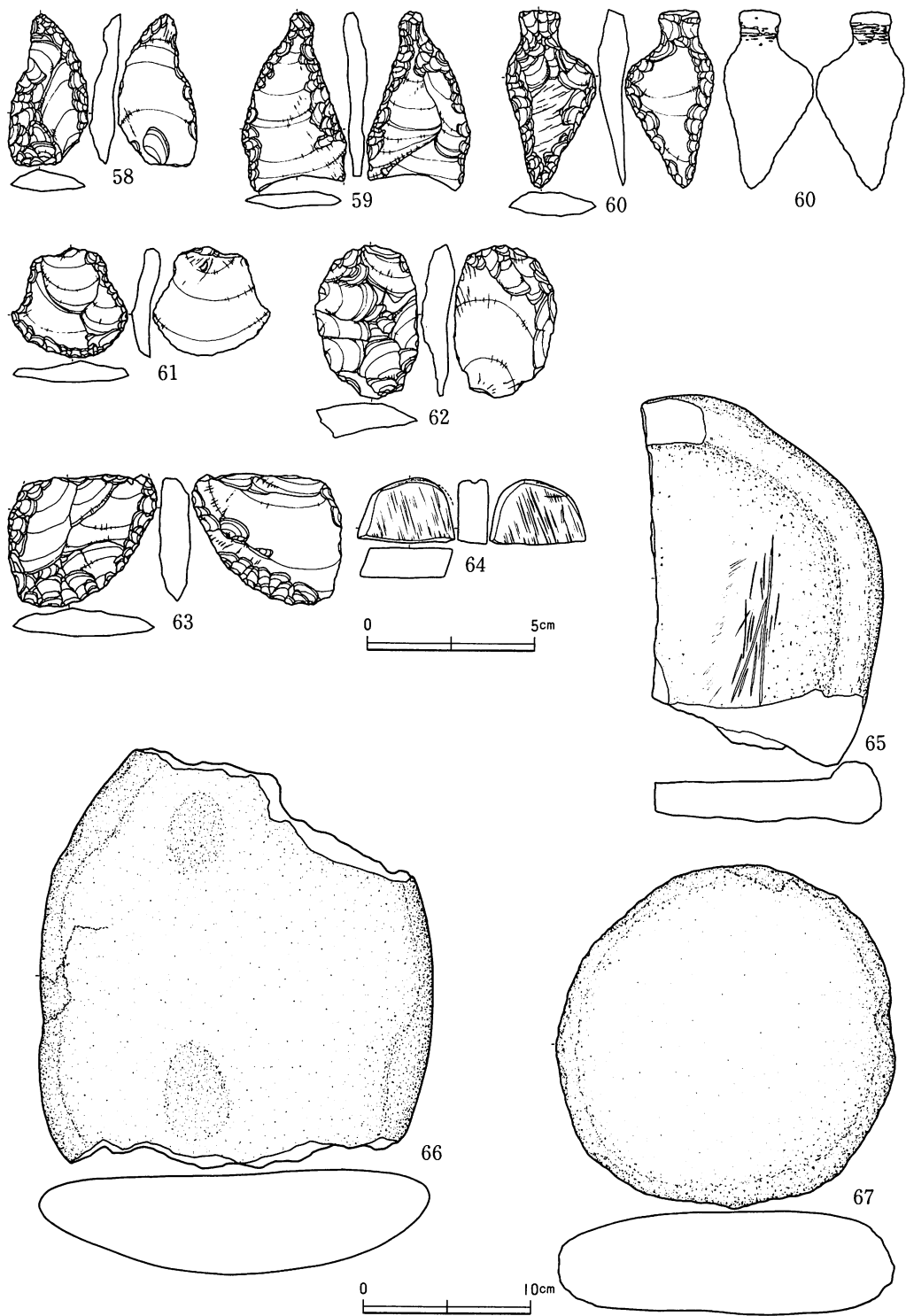


No	出土地点	器形	特徴・文様・その他
1	炉埋設	深鉢	口縁片側欠、波状口縁（6単位?）、口縁部隆線横「の」文字、LRタテ
2	埋土8層	小型鉢	体部～底部、無文、ナデ
3・4	床面	深鉢	平縁、隆沈線、LRヨコ
5・6	〃	〃	体部、沈線文、LR・RLそれぞれタテ
7	炉の脇	〃	〃、隆線文、LRタテ
8	床直	〃	体部下半、無文
9	P埋土下層	〃	口縁突起部分、大木8a式
10	炉の脇	小型鉢	平縁、無文、ナデ
11	床直	深鉢	頸部（無文）～体部、隆沈線、LRタテ
12	炉3層	〃	体部片、擦糸文
13	炉の脇	浅鉢	体部下半～底部（ナデ）、原体（不明）の上からナデ
14	埋土9層	深鉢	平縁、口縁部、隆沈線、LRヨコ
15	〃	〃	頸部部片、沈線文、RLヨコ
16～18	〃	〃	隆沈線、17平縁、16・18RLタテ
19・20	〃8層	〃	平縁、隆沈線渦文、19は突起に渦文、ナデ
21	〃10層	〃	キャリパー型、頸部無文、口縁部隆沈線LRヨコ、体部沈線LRタテ
22	〃8層	〃	平縁、口縁部下太い横隆線、頸部RLヨコ
23・24	〃	〃	頸部を隆線区画、RLヨコ
25	〃5層	〃	体部片、縦の隆沈線、LRタテ
26	〃8・10層	〃	接合資料、口縁部外反、RLタテ
27・28	〃8層	〃	体部下半～底部（ナデ）28RLタテ
29・30	〃6～7層	〃	小波状口縁、口縁部隆帯「の」字文、円文、LRタテ
31・32	〃	〃	平縁、隆沈線、口縁部突起に渦文、キャリパー型、LRヨコ
33	〃	小型鉢	小波状口縁、頂部隆沈線渦文、RLヨコ
34・35	〃	深鉢	体部片、沈線文、34LRナナメ、35RLタテ
36	埋土7層	〃	体部下半、下部剝落部分に丹の痕跡、外面炭化物付着、RLRタテ
37	埋土中～上層	〃	波状口縁外反、口唇部渦文、ミガキ
38	〃	〃	平縁、キャリパー型、隆沈線、RLナナメ
39	〃	〃	波状口縁、口縁部隆帯「の」字文、RLヨコ、体部沈線文
40	〃	〃	平縁、やや外反、頸部に隆線、体部RLタテ、外面炭化物
41	〃	〃	キャリパー型頸部無文、口縁部隆沈線LRヨコ、体部沈線LRタテ
42	〃	〃	体部片、隆沈線渦文、RLナナメ
43	〃	〃	平縁、キャリパー型、平行隆沈線、RLヨコ
44	〃	小型鉢	小波状口縁、口縁下浅い沈線、ヘラケズリ
45	〃	深鉢	体部片、沈線文、RLタテ
46	〃	〃	キャリパー型、頸部隆線区画、ミガキ
47	〃	〃	体部下半、RLヨコ、一部ミガキ
48	水田客土	小型鉢	平縁、隆沈線渦文、LRヨコ
49～51	〃	深鉢	平縁、キャリパー型、隆沈線文、LR・RLヨコ
52	〃	〃	波状口縁、粗製、ヘラケズリ
53	〃	〃	平縁?隆帯、渦文、沈線文、RLナナメ
54～56	〃	〃	平縁、口縁部隆線、粗製、LR、RL
57	〃	浅鉢	口縁部B突起、磨消縄文・大洞C2式

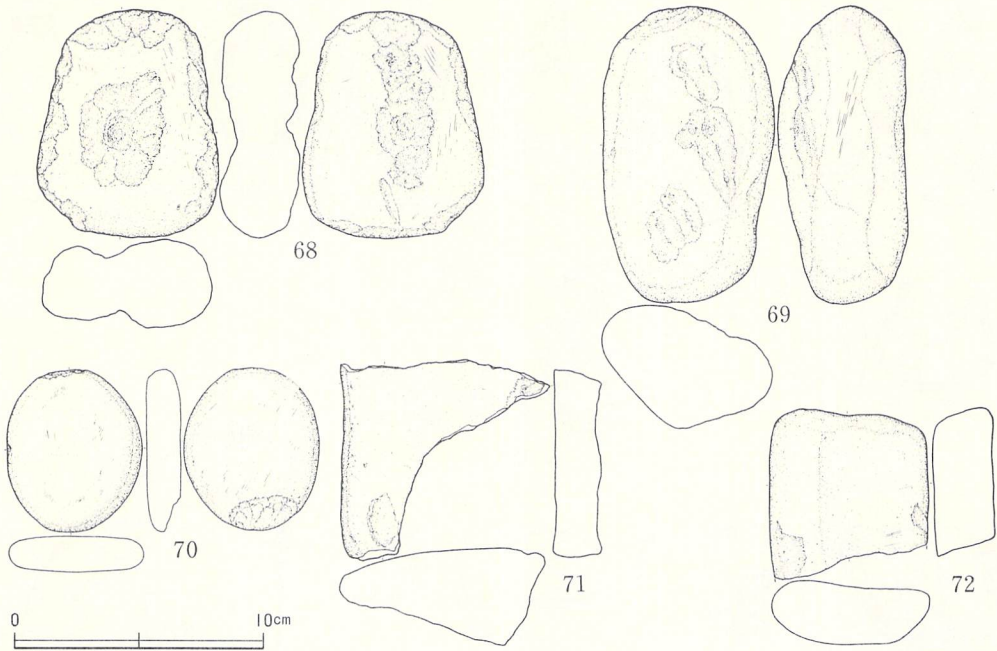
〈石器〉 77は石鏃の形態を呈するが先端部が左側に湾曲する。秋田県八木遺跡で数多く出土し嘴状石器と呼ばれているものと同じである(注)。59、60は石匙で59は刃部破損、60は床直出土でつまみ部分に横に走る糸状のタール状付着物がある。61はエンドスクレーパー、62、63は側面、全面に刃の付くスクレーパー。64は装飾品の破片と推定される。両面には整形のための擦痕が無数に走り、側面には溝が巡っている。65はP<sub>4</sub> 脇にあった石皿で、隅丸長方形と推定される。高い側縁を有し、裏側は無加工である。皿の面は良く擦られているが、一部に細くて鋭利な溝が走る。66は中央がやや凹む台石、67は北側床面にあった円形のおそらく台石。68は両面使用の凹石、69は片面凹石・側面擦石、70、72は擦石、71は台石と思われるが、全面に煤状の炭化物が付着している。

(注)小林 克・大野憲司他：1989「八木遺跡発掘調査報告書」秋田県文化財調査報告書181

〈時期〉 炉内、床面の土器は大木8b式であり、中期に属する。



第46图 IV G-1号住居跡遺物(3)



IV G-1号住

図版No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
58	P <sub>2</sub> 埋土	嘴状石器	4.6	2.4	0.9	6.8	珉質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
59	水田客上下層	石匙	5.4	3.1	0.7	(7.1)	珉質泥岩	" "
60	床直	"	5.3	2.7	0.9	8.0	珉質細粒凝灰岩	" "
61	P <sub>2</sub> 埋土	スクレーパー	3.3	3.5	0.9	7.1	珉質泥岩	" "
62	水田客上下層	"	4.6	3.1	1.0	12.5	珉質細粒凝灰岩	" "
63	P <sub>2</sub> 埋土	"	3.9	4.5	0.9	17.8	珉質泥岩	" "
64	水田客上下層	石製裝飾品	2.0	2.9	0.9	(4.9)	珉質細粒凝灰岩	" "
65	床直	石皿	22.0	14.5	3.7	(1,140)	花崗閃緑岩	夏油川一和賀仙人、中生界
66	埋土4～5層	台石	25.2	23.4	6.4	(5,360)	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
67	床直	"	20.8	20.4	6.4	4,150	花崗閃緑岩	仙人一夏油川、中生界
68	水田客上下層	凹石	9.0	7.2	3.5	290	"	夏油川一和賀仙人、中生界
69	埋土4層	凹石・擦石	11.8	6.8	5.1	510	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
70	水田客上下層	擦石	6.5	5.4	1.4	56.1	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
71	埋土上・中層	台石	8.0	8.3	3.9	(160)	デイサイト	鈴鴨川一夏油川、新第三系中新統
72	水田客上下層	擦石	6.7	6.4	2.6	(160)	細礫質緑色凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統

第47図 IV G-1号住居跡遺物(4)

#### IV G-2号住居跡（第48図、写真図版37）

〈検出状況〉IVG-1号住の東側3mの地点、4本の柱穴とこれらの中央で炉跡を検出した。壁、床面、埋土は削平されており、南側は調査区域外にかかる。北側の壁付近と推定される位置にIVG-2号フラスコピットを検出したが、削平のため新旧は不明である。

〈形状・規模〉形状は不明。柱穴の間隔はほぼ2mで、この数値を他の住居と比較すると4.7m前後と推定される。

〈柱穴・炉〉柱穴はほぼ方形で、残存する深さ50cm前後である。炉は残存径50cmの円形で、柱穴やや東寄りに位置している。埋設土器はなく炉石の存在も不明である。西側の焼土下に凹みがある。

#### 遺物（第49図1～8、写真図版39）

〈出土状況〉炉、柱穴検出面から1、7、8が、P<sub>4</sub>埋土から2～5、P<sub>2</sub>から6が出土している。柱穴以外の遺物は原位置を留めていない。

〈土器・石器〉1～7は精・粗製の深鉢で、1の底部はナデ。7は内外面ミガキの浅鉢。8は剝片の一部に刃を持つ不定形石器。

〈時期〉出土している土器はすべて大木8b式であり、中期に属する。

#### IV H-1号住居跡（第48図、写真図版38）

〈検出状況〉IVG-3号住の東側に接して検出、南側は調査区域外にのびている。区域外にかかってIV-3フラスコピットと截合しているが、2号炉を載っており当住居の方が古い。

〈形状・規模〉埋土、壁、床面削平されているため不明である。4本の柱穴を主柱穴とすれば柱間隔は2.5mで、推定径5.8m前後の規模となる。

〈柱穴・炉〉柱穴は4本で深さは30cm以上ある。炉は2基検出されたが、当住居に伴うものか別ものであるかを判断する材料に欠けるので不明である。本遺跡では往々にして炉が柱穴間の中央からずれる傾向があり、それからすると1号炉の位置は妥当である。ただ、2号炉のように柱穴間の線上に位置する例はない。従って、この炉が当住居に伴うという確証は乏しい。調査区外南側の遺構に伴う可能性もある。2基とも上部を削平されているが地床炉と思われる。

#### 遺物（第49図9～18、写真図版39）

〈出土状況〉9～16は検出面からの出土で、原位置は保っていない。17、18はP<sub>1</sub>の埋土1、2層の出土である。土器のみで石器はない。

〈土器〉いずれも深鉢の破片である。9は隆帯に刺突文、その他の文様は隆沈線である。10は一部に条痕が走る。

〈時期〉柱穴内、検出面いずれの土器も大木8b式であり、中期に属する。



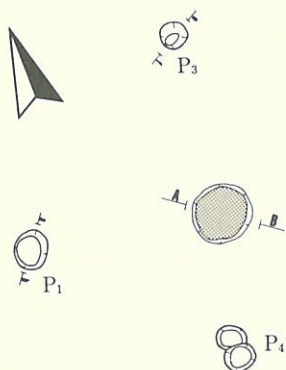
#### IVH-2、IV I-1、IV I-2号住居跡（第48図、写真図版40）

〈検出状況〉 H、I 区の南端で4本単位の柱穴が東西に3基並んで検出された。残された柱穴の深さ、配置などから住居跡と判断した。かなりの深さで削平されており、炉はもとより焼土すら確認できなかった。当然、遺物は皆無である。

〈規模・柱穴〉 残された柱穴から判断すると、径4 m前後のプランと推定される。3棟ほぼ一列に並ぶがIVH-2号住の柱穴方向若干異なっている。

〈時期〉 遺物が皆無であるので不明であるが、規模、柱穴の配置は他の住居と同様の傾向を示しているので、中期に位置づけて大過ないものと思われる。

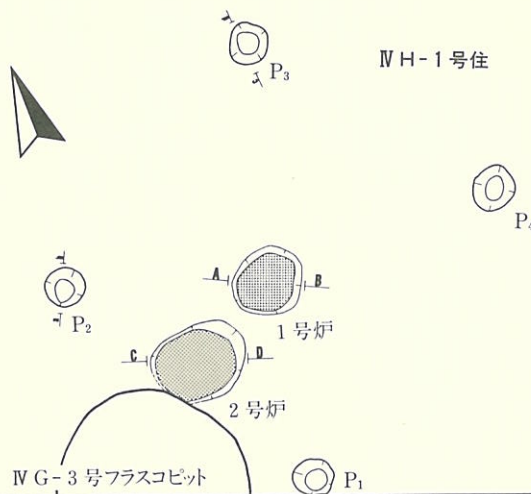
IV G-2号住



IV G-2号住

P No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>
径(上場)	34	32	22	25
	27	27	21	21
径(下場)	23	20	12	18
	20	18	8	16
深	46	53	66	51

IV H-1号住



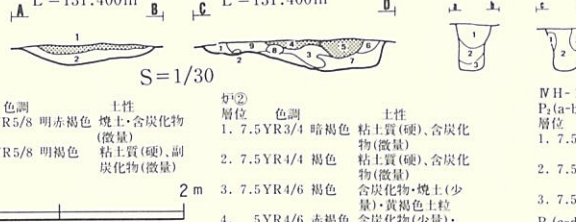
IV H-1号住

P No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>
径(上場)	32	32	32	32
	28	30	29	37
径(下場)	18	18	19	20
	16	16	16	14
深	47	37	34	40

調査区域外

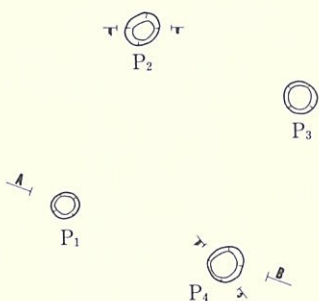
- P<sub>2</sub>(c-d) 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR6/6 褐色 粘土質・含炭化物(微量)  
 2. 7.5YR4/3 褐色 含炭化物・黄褐色土粒(微量)  
 3. 7.5YR3/3 暗褐色 含炭化物(微量)・黄褐色土粒  
 4. 7.5YR4/4 褐色 粘土質(硬)
- P<sub>3</sub>(e-f) 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(微量)・黄褐色土粒(少量)  
 2. 7.5YR5/4 褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)  
 3. 7.5YR5/6 明褐色 含粘土ブロック  
 4. 7.5YR4/6 褐色 粘土質(硬)・含炭化物(微量)  
 5. 7.5YR5/8 明褐色 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(硬)・含炭化物(微量)

L = 131.400m

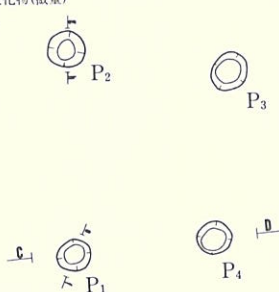


0 2m

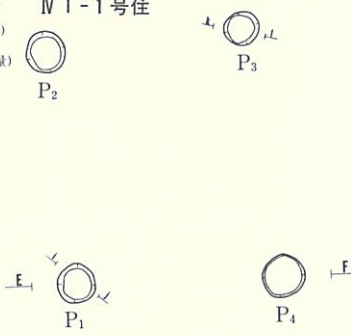
IV H-2号住



IV I-2号住



IV I-1号住

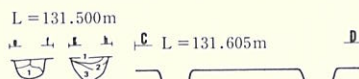


IV H-2号住

P No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>
径(上場)	22	30	26	29
	21	24	26	27
径(下場)	16	18	19	22
	16	13	18	19
深	15	21	21	18

IV H-2号住居跡

- P<sub>2</sub>(a-b) 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物・黄褐色土粒(微量)  
 2. 7.5YR4/4 褐色 粘土質  
 3. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(硬)  
 4. 7.5YR6/6 褐色 粘土質(硬)・含炭化物(微量)
- P<sub>3</sub>(c-d) 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR4/4 褐色 粘土質(硬)・含黄褐色土粒(多量)  
 2. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物(微量)・粘土小ブロック  
 3. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(硬)

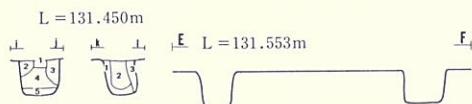


IV I-2号住居跡

- P<sub>3</sub>(e-f) 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR4/3 褐色 粘土質(硬)・含炭化物(少量)・黄褐色土粒  
 2. 7.5YR4/6 褐色 粘土質(硬)・含炭化物(微量)  
 3. 7.5YR3/3 暗褐色 粘土質(柔)・含炭化物(少量)・焼土(微量)
- P<sub>3</sub>(g-h) 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR4/3 褐色 粘土質(硬)・含炭化物(微量)・黄褐色土粒(多量)  
 2. 7.5YR3/4 暗褐色 粘土質(硬)・含黄褐色土粒(多量)・炭化物(微量)  
 3. 7.5YR4/4 褐色 粘土質(柔)・含炭化物(少量)・焼土(少量)

IV I-2号住

P No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>
径(上場)	27	30	32	28
	26	28	28	26
径(下場)	17	16	20	20
	15	14	18	17
深	16	19	11	14



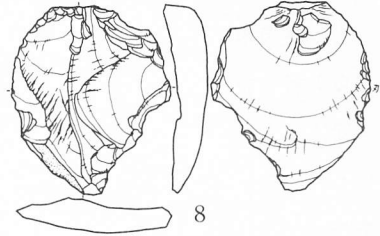
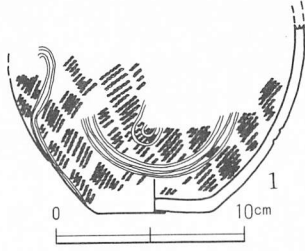
IV I-1号住居跡

- P<sub>3</sub>(i-j) 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)  
 2. 7.5YR3/3 暗褐色 含炭化物(少量)・黄褐色土粒(微量)  
 3. 7.5YR4/3 褐色 混暗褐色土・粘土質(柔)・含炭化物(微量)  
 4. 7.5YR3/2 暗褐色 含黄褐色土粒(少量)  
 5. 7.5YR4/4 褐色 粘土質(柔)・含炭化物(微量)
- P<sub>3</sub>(k-l) 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR4/3 褐色 粘土質(硬)・含炭化物(微量)  
 2. 7.5YR3/2 暗褐色 粘土質(柔)・含炭化物(少量)  
 3. 7.5YR4/4 褐色 7.5YR3/4 暗褐色 粘土質(柔)・炭化物(少量)

IV I-1号住

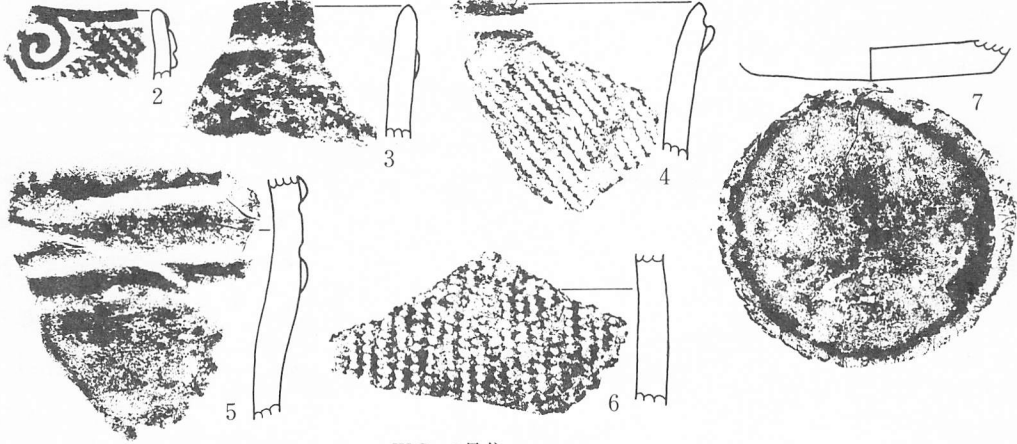
P No.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>
径(上場)	30	33	28	34
	29	32	25	32
径(下場)	24	28	22	30
	21	24	20	28
深	29	30	28	26

第48図 IV G-2、IV H-1、IV H-2、IV I-1、IV I-2号住居跡

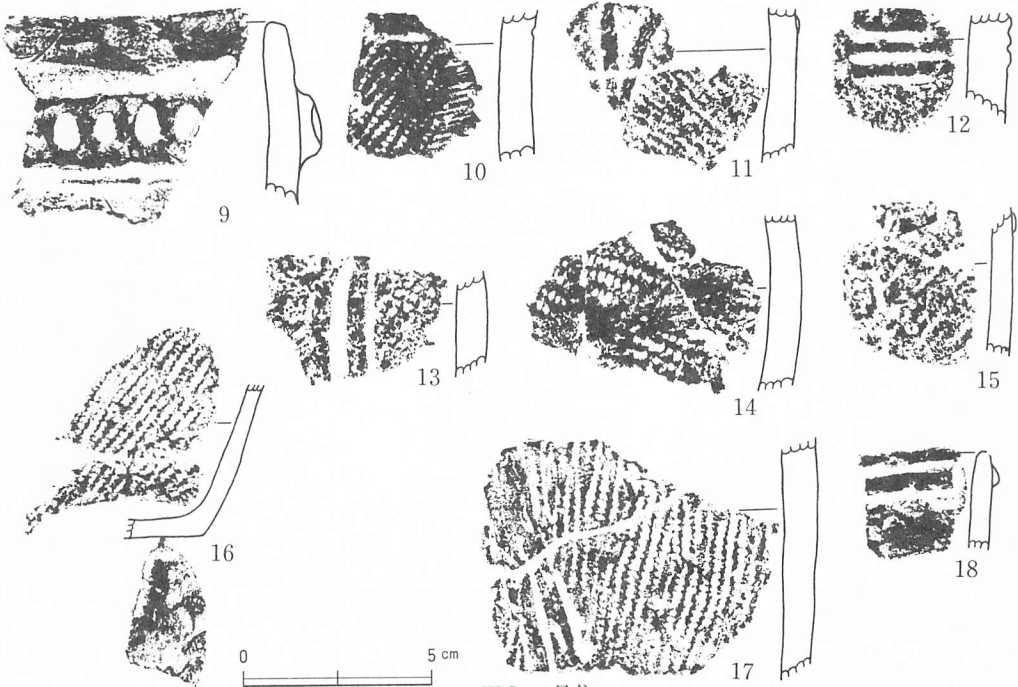


IVG-2号住

図版No	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
8	床(?)	不定形石器	5.0	43	1.1	18.5	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統



IVG-2号住



IVG-1号住

第49図 IVG-2、IVH-1号住居跡遺物

## (2) 柱穴群

### IV F 柱穴群 (第50図、写真図版41)

〈検出状況〉 F区の南端、IVE-2号住とIVF-1号住の間で多数の柱穴を検出した。いずれも浅い柱穴のみで、かなりの削平を受けている。おそらく竪穴住居に伴う柱跡と思われるが、調査区域が狭く南北方向は未検出であるためプランを確認できない。最低3棟以上の住居が重複しているものと考えられるが、推定の域をでない。

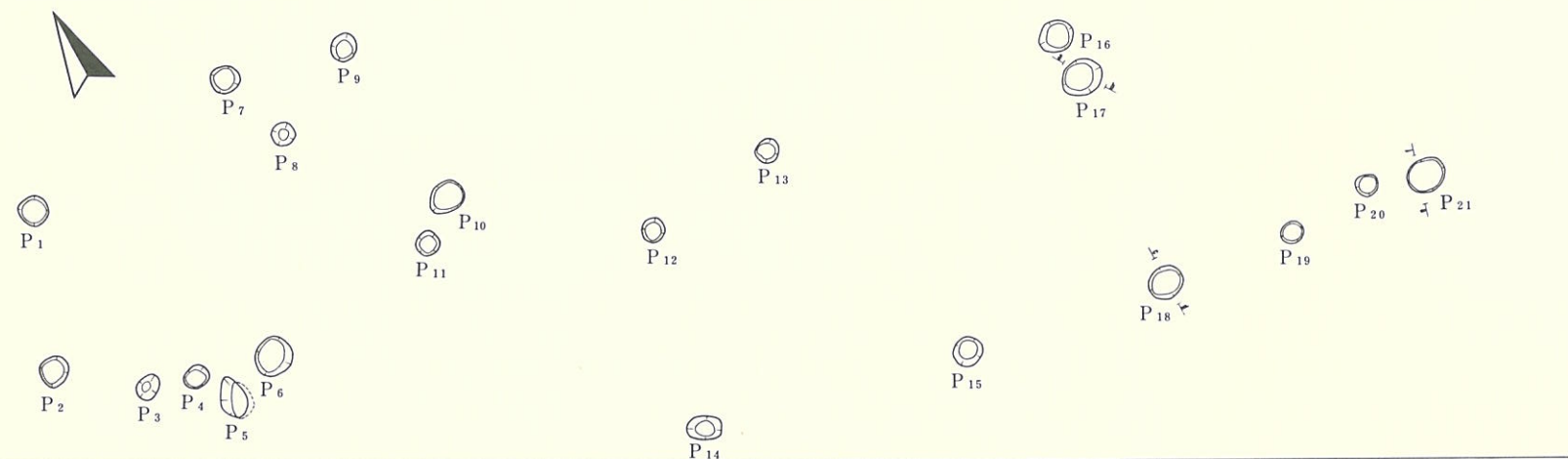
〈遺物〉 柱穴P<sub>1</sub>、P<sub>5</sub>埋土中からそれぞれ剥片、深鉢底部片が出土したのみである。

〈時期〉 土器は大木8b式と思われるので、中期に属する。

## (3) フラスコピット (第51～60図、写真図版42～51)

11基のうち8基は調査区西端のへりに集中しており、他の3基はIVG区に集中し住居跡と重複している。西端A、B区の8基は規模も大体同じであり、同一時期の遺構と考えられる。ただし、IIA-3号とIIB-1号は重複しており、後者が古い。IVG-1、2、3号はいずれも近接しており、かつ規模も類似しており同一時期の遺構である。IVG-3号がIVH-1号住の炉を截っており、この3基はIVG区の住居よりは新しく位置づけられる。11基の詳細なデータは83ページの通りである。

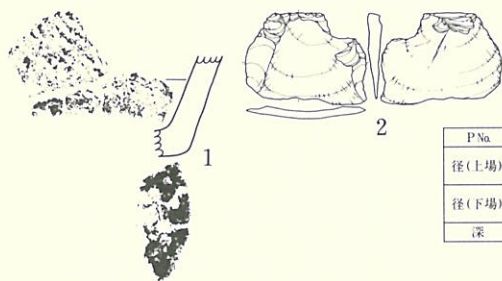
調査区域外



調査区域外

0 2m

L = 130.650m



PNo.	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>	P <sub>17</sub>	P <sub>18</sub>	P <sub>19</sub>	P <sub>20</sub>	P <sub>21</sub>
径(上場)	24	26	22	21	34	33	34	20	24	30	20	20	20	28	24	28	36	30	18	18	32
径(下場)	24	24	18	18	22	30	22	18	22	24	17	20	18	19	24	26	28	26	18	18	29
深	20	20	8	17	6	26	18	10	16	24	14	15	16	16	20	24	28	16	15	30	
	19	18	6	14	5	20	16	8	14	20	13	14	15	14	15	18	22	20	14	14	24
	12	10	19	15	58	13	21	30	16	44	17	19	11	12	12	29	25	27	13	10	23

★IV F柱穴群

P<sub>21</sub>(a-f)

- 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR4/3 褐色 含炭化物(少量)  
 2. 7.5YR5/5 明褐色 粘土質(硬),含炭化物(微量)

P<sub>18</sub>(c-d)

- 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR4/4 褐色 含黄褐色土粒(微量),炭化物  
 2. 7.5YR4/6 褐色 含黄褐色土粒・炭化物  
 3. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質,含炭化物(少量)

P<sub>12</sub>(a-b)

- 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR4/4 褐色 含炭化物(微量)  
 2. 7.5YR4/3 褐色 含炭化物(多量)・黄褐色土粒(少量)  
 3. 7.5YR4/5 褐色 粘土質(硬),含炭化物・黄褐色土粒(少量)

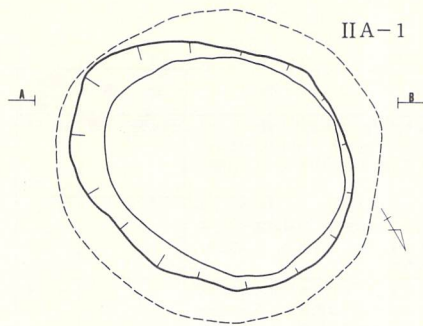
IV F柱穴群

図版No.	出土地点	器種	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	産地
2	P21下層	不定形石器	3.6	4.8	0.6	8.4	硬質泥岩	奥羽山地、新第三系中新統

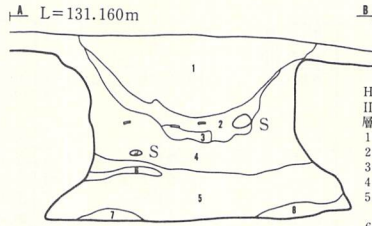
第50図 IV F柱穴群・遺物



遺構名	形状	規模 (cm)		埋土	遺物	時期	図版	
		上面×下面×深さ					写図	
II A-1	上面楕円形 下面円形	235×260×150		自然堆積、2層中から土器と礫石器、下層は遺物無し。	1は略1個体の深鉢、大木10式土器であるが、埋土上層からの出土であり、フラスコ自体が、土器と同一時期かどうかは不明。2は側面使用の擦石。	縄文時代中期	51、54	43、47
II A-2	円形	195×195×143		自然堆積、2層に数点の遺物が出土、他の層は無遺物。	3は底面に貼り付いて出土、口縁部透しのある装飾突起、頸部無文帯、口縁部隆沈線、体部沈線施文。4～6は2層出土、6は側縁に部分的な再調整。	〃	51、54	43、47
II A-3	円形、部分的に崩落	250×240×95		自然堆積、II B-1号と重複部分に粘土ブロックの壁がある。これはII B-1号の埋土が崩れ易いために、II A-3号構築の際に貼り付けたものと思われる。II A-3がII B-1の床を載っており、新しい。自然堆積、底面に細く長い炭化材。	7、8は1層出土、2点とも深鉢、7は鎖状の隆帯、9は縦長剥片の先端をスクレーパー状に加工、10は最下層(13層)出土の扁平な擦石。	〃	51、54	44、47
II B-1	隅丸方形	240×200×110		自然堆積、底面に細く長い炭化材。	1点のみ2層から出土(55図-13)。自然面を残す大型の剥片。	不明	51、55	44、48
III A-1	円形(一部崩壊)	190×220×163		下層人工堆積、上層自然堆積、遺物は1と7層から出土。	石器のみ2点出土、11は最下層7層でクツペラ状両面調整、11は1層出土で、中央部に粗い凹み面あり、他の面も整形されている。	〃	52、55	44、48
III A-2	円形	250×260×162		自然堆積、1層に焼土を含む、遺物は1層の下からのみで他は無遺物。	石器のみ3点、1層より出土、14はタテ型の石匙で上・下折損、15は片面調整の石ペラ、上半欠、16はタテ長の剥片。	〃	52、55	44、48
III B-1	上面隅丸方形 下面円形	170×182×112		自然堆積、東側検出面の壁際に大きな礫。	埋土中からの出土は無し、東側壁上に長径54cmの自然礫。	〃	52 45	
III B-2	隅丸方形	185×180×155		自然堆積、東側でIII B-2陥穴と重複するが、当フラスコが新しい。	石器のみ3点出土、17は床面に貼り付いていた円形の装飾品、側縁、裏裏面とも細かい擦痕が走り、文様はない。18は1層出土の剥片。19は9層出土で表面凹石、側縁擦石の機能を有する石器。	〃	52、55	45、48
IV G-1	円形(北側調査区外に かかり不明)	100×180×110		自然堆積であるが、3層、5層、4層下部に遺物が多く、下層は無遺物に近い。III B-1号と同様検出面壁にかかって礫が出土。	20～31は4層、32～38、50～53は5層、39～49は1～3層出土の土器である。殆んどが深鉢で浅鉢は無文の1点のみ(42)。5層からは小型の土器が数点出土(52、53)。深鉢は口縁の外反するもの、キャリバー状となるもの、直立するものがあり、文様は隆線、沈線、隆沈線によるが、上層は太い隆帯によるものが目立つ(41、46、48)。底部はナデとミガキ、石器の出土状況も土器と同様である。54は両面加工のスクレーパー、55～57は剥片の一部に調整のある不定形石器、58は面取りのある小礫、59は側面、60は両面使用の擦石、61は壁際にあった偏平な礫で、左上を打欠いている。土器は大木8b式に含まれる。	縄文時代中期	53、56、57	45、49
IV G-2	円形	105×155×120		自然堆積とおもわれるが、各層にまんべんなく遺物と炭化物が含まれている。	各層から出土しているが内訳は、9層62～73、8層74～78、7層79～83、6層84～89、5層90～97、3層98～107、1層108～110である。深鉢が殆んどで、浅鉢は1層から2点のみ出土(109、110)深鉢はキャリバー型が多数を占めている。69、73は別個体であるが、キャリバー型には珍しく無文で焼成前の穿孔である。特殊な土器であろう。同じくキャリバー型では、頸部無文帯の土器が含まれる(70、90)。底部はすべてミガキ、大木8b式。石器は116が3層出土で他はすべて7層出土である。112はピエスエスキュー、113は片面に太目の擦痕が走る。114、115は側面利用の116は両面利用の擦石。111は8層出土の唯一の土製品で、頂部の孔は焼成前、体部下半を欠き、両面、側面とも縄文のみ他と土器片と共に出土。	〃	53 58～60	46、50、51
IV G-3	円形(南側調査区域外)	155×150×88		上部は少し削平されている。レンズ状に自然堆積、他の2基と比較して土器は極端に少ない。	土器は3～4層中で出土、いずれも深鉢片で120は粗製。121は断面3層にある石皿状の石器で片面がやや凹み擦痕が走る。他に数点自然礫出土、土器は大木8b式。	〃	53、60	46、51

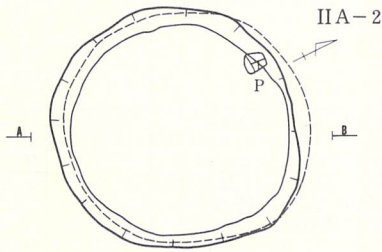


IIA-1

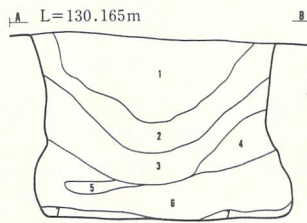


L=131.160m

- H Z90 フラスコピット (11蓋) 土層注記  
IIA-1号フラスコピット
- | 層位 | 色調         | 土性                     |
|----|------------|------------------------|
| 1. | 7.5YR1.7/1 | 黒色 混明褐色土               |
| 2. | 10YR3/4    | 暗褐色 混黒色土               |
| 3. | 7.5YR5/8   | 明褐色                    |
| 4. | 7.5YR4/4   | 褐色 含炭化物・浮石             |
| 5. | 7.5YR5/6   | 明褐色 粘土質(硬)、含炭化物(微量)・浮石 |
| 6. | 7.5YR4/6   | 褐色 粘土質(柔)              |
| 7. | 7.5YR5/8   | 明褐色 粘土質(柔)             |
| 8. | 7.5YR5/6   | 明褐色 粘土質(柔)・含浮石(少量)     |

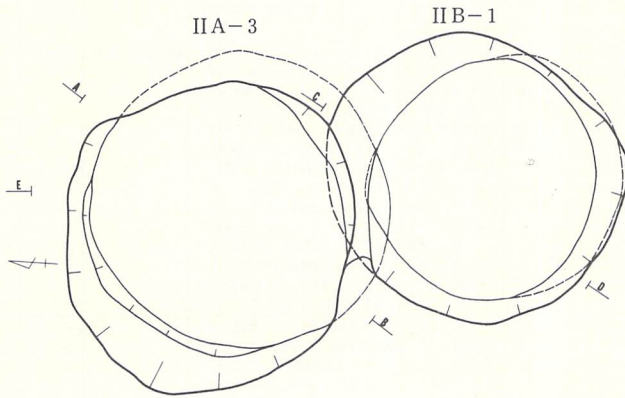


IIA-2



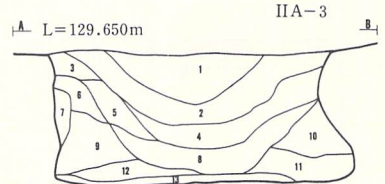
L=130.165m

- IIA-2号フラスコピット
- | 層位 | 色調       | 土性                     |
|----|----------|------------------------|
| 1. | 5YR1.7/1 | 黒色 含炭化物・浮石             |
| 2. | 7.5YR4/6 | 褐色 粘土質(硬)、含炭化物(少量)     |
| 3. | 7.5YR4/6 | 褐色 粘土質、含炭化物(微量)        |
| 4. | 7.5YR4/4 | 褐色 粘土質、含炭化物(微量)・浮石     |
| 5. | 7.5YR3/4 | 暗褐色 粘土質(柔)             |
| 6. | 7.5YR5/6 | 明褐色 粘土質(硬)、含炭化物・浮石(微量) |
| 7. | 7.5YR5/6 | 明褐色 粘土質(柔)、含浮石         |



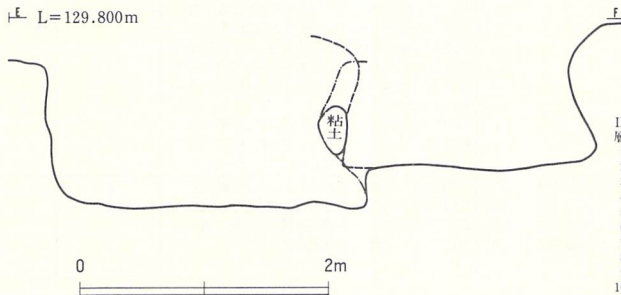
IIA-3

IIB-1

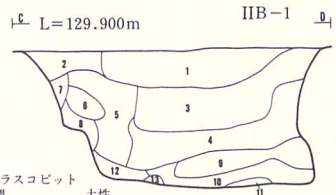


L=129.650m

- F 3号フラスコピット
- | 層位  | 色調       | 土性           | 土性                        |
|-----|----------|--------------|---------------------------|
| 1.  | 7.5YR3/3 | 暗褐色~7.5YR4/6 | 褐色 含炭化物(少量)               |
| 2.  | 7.5YR4/6 | 褐色~7.5YR3/4  | 暗褐色 含炭化物・浮石(少量)           |
| 3.  | 7.5YR5/6 | 明褐色~7.5YR4/6 | 褐色 粘土質(硬)、含炭化物(微量)        |
| 4.  | 7.5YR4/4 | 褐色           | 粘土質(柔)、含炭化物(微量)・浮石(少量)    |
| 5.  | 7.5YR3/2 | 黒褐色          | 粘土質(柔)、含炭化物(微量)・浮石(少量)    |
| 6.  | 7.5YR5/8 | 明褐色~7.5YR3/4 | 暗褐色 粘土質、含炭化物(微量)          |
| 7.  | 7.5YR5/8 | 明褐色          | 粘土質(硬)、本来の壁この部分のみ崩れず残っている |
| 8.  | 7.5YR4/4 | 褐色           | 粘土質(柔)、含炭化物(微量)・浮石(少量)    |
| 9.  | 7.5YR5/6 | 明褐色          | 粘土質(硬)                    |
| 10. | 7.5YR4/4 | 褐色           | 粘土質(柔)、含炭化物(微量)           |
| 11. | 7.5YR5/8 | 明褐色~10YR4/6  | 褐色 粘土質(柔)、明褐色土の部分(硬)      |
| 12. | 7.5YR4/6 | 褐色           | 粘土質(柔)、含炭化物(微量)・含炭化物(微量)  |
| 13. | 7.5YR5/8 | 明褐色          | 粘土質(柔)、含浮石                |



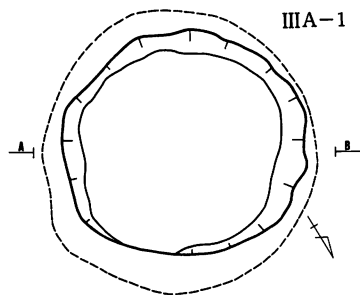
L=129.800m



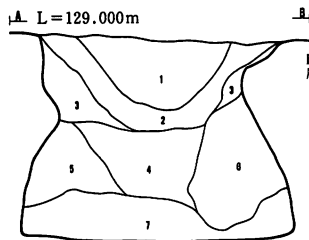
L=129.900m

- IIB-1号フラスコピット
- | 層位  | 色調         | 土性                    |
|-----|------------|-----------------------|
| 1.  | 7.5YR1.7/1 | 黒色 含炭化物(微量)・浮石        |
| 2.  | 7.5YR3/1   | 黒褐色 含炭化物(微量)          |
| 3.  | 7.5YR3/3   | 暗褐色 含炭化物(微量)・浮石       |
| 4.  | 10 YR4/6   | 褐色 粘土質、含炭化物・浮石(少量)    |
| 5.  | 7.5YR5/6   | 混黒褐色土、粘土質、含炭化物(微量)    |
| 6.  | 7.5YR5/6   | 明褐色 粘土質(硬)            |
| 7.  | 7.5YR4/4   | 褐色 粘土質(硬)、含炭化物(微量)    |
| 8.  | 7.5YR5/6   | 明褐色 粘土質(柔)、含炭化物(微量)   |
| 9.  | 7.5YR5/8   | 混褐色土、含浮石・炭化物(微量)      |
| 10. | 7.5YR4/4   | 褐色 粘土質(硬)、含浮石・炭化物(微量) |
| 11. | 7.5YR3/2   | 黒褐色 粘土質、含炭化物(微量)      |
| 12. | 7.5YR5/6   | 明褐色 粘土質(硬)、含炭化物(微量)   |
| 13. | 7.5YR4/4   | 褐色 含浮石、含土層に炭化物(多量)    |

第51図 フラスコピット(1): IIA-1、IIA-2、IIA-3、IIB-1号

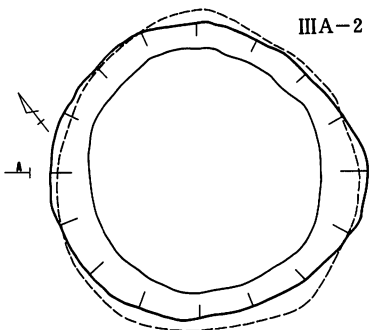


ⅢA-1

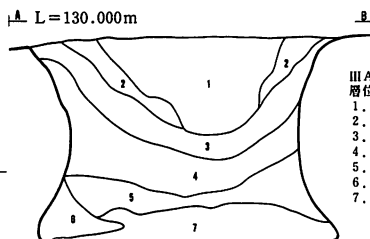


ⅢA-1号フラスコビット

層位	色調	土性
1.	7.5YR1.7/1 黒色	含炭化物
2.	7.5YR4/6 褐色	混黒色土、含炭化物・浮石
3.	7.5YR4/4 褐色	含浮石・炭化物
4.	7.5YR4/6 褐色	粘土質、含浮石・炭化物(少量)
5.	7.5YR4/6 褐色	粘土質、含浮石(少量)
6.	7.5YR4/4 褐色	粘土質
7.	10 YR3/4 暗褐色	浮石層

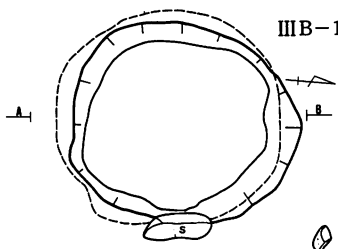


ⅢA-2

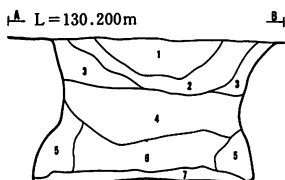


ⅢA-2号フラスコビット

層位	色調	土性
1.	10 YR1.7/1 黒色	上層黒褐土混り、含炭化物・焼土
2.	7.5YR2/3 極暗褐色	含炭化物(微量)
3.	7.5YR4/6 褐色	混黒色土、含炭化物(微量)
4.	7.5YR4/4 褐色	粘土質、含浮石(微量)
5.	7.5YR5/8 明褐色	混褐色土、粘土質、含浮石(微量)
6.	7.5YR5/6 明褐色	黄褐色、浮石層
7.	7.5YR明褐色	含浮石(微量)

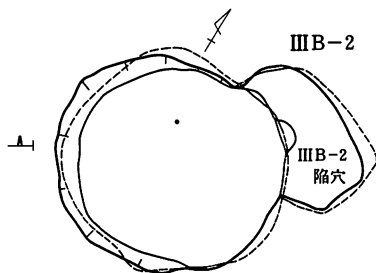


ⅢB-1

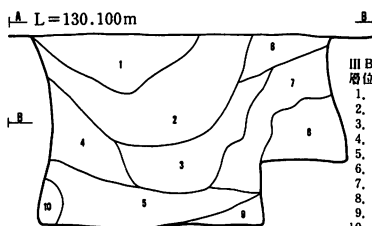


ⅢB-1号フラスコビット

層位	色調	土性
1.	7.5YR2/1 黒色	含黄褐色土粒(少量)
2.	7.5YR4/4 褐色	含浮石(少量)
3.	7.5YR4/4 褐色	粘土質
4.	7.5YR4/6 褐色	含浮石(少量)・炭化物(微量)
5.	7.5YR5/8 明褐色	含浮石(少量)
6.	7.5YR5/6 明褐色	含浮石(少量)
7.	7.5YR2/3 極暗褐色	腐植土



ⅢB-2



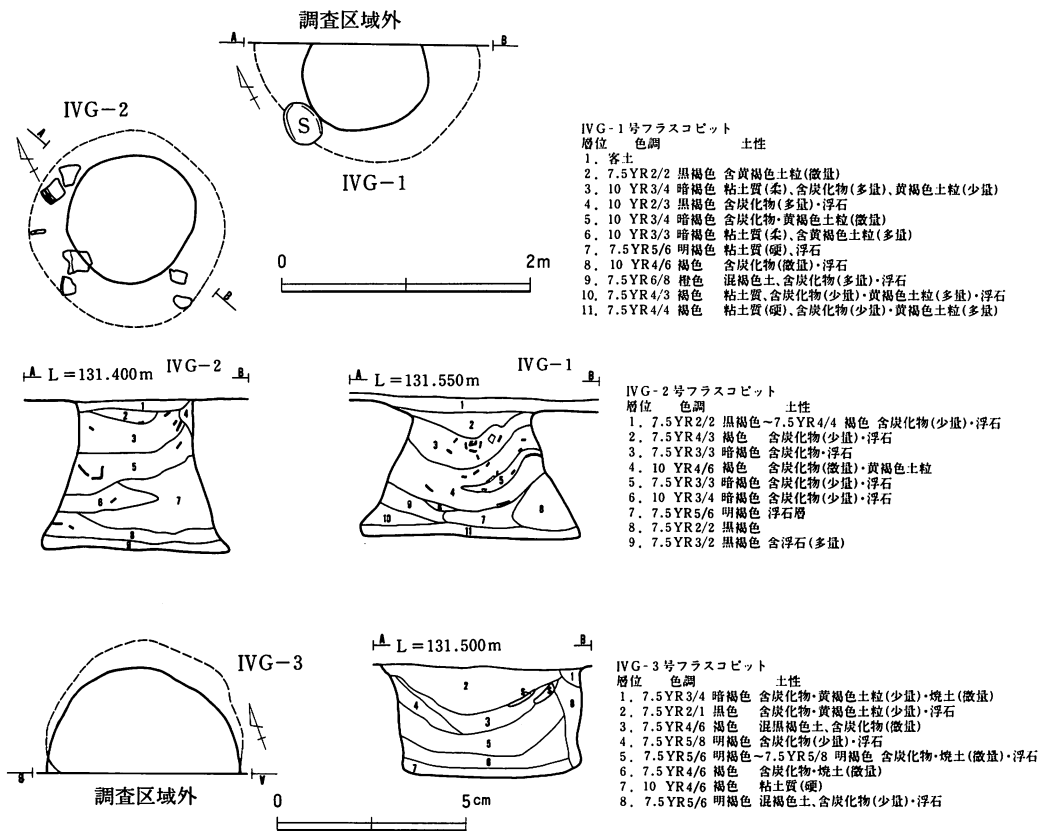
ⅢB-2号フラスコビット

層位	色調	土性
1.	7.5YR1.7/1 黒色	含炭化物(多量)
2.	7.5YR4/4 褐色	粘土質、含炭化物(少量)
3.	7.5YR4/6 褐色	粘土質、含炭化物(少量)
4.	7.5YR4/4 褐色	粘土質(柔)、含炭化物(少量)・浮石(多量)
5.	7.5YR4/4 褐色	粘土質(硬)、含炭化物・浮石(少量)
6.	7.5YR3/4 暗褐色	含炭化物(微量)
7.	7.5YR4/4 褐色	含炭化物(微量)・浮石(少量)
8.	7.5YR2/2 黒褐色	含炭化物(微量)、ⅢB-2号陥穴埋土
9.	7.5YR3/3 暗褐色	粘土質(柔)、含炭化物・浮石(少量)
10.	7.5YR5/6 明褐色	粘土質(硬)、含炭化物・浮石

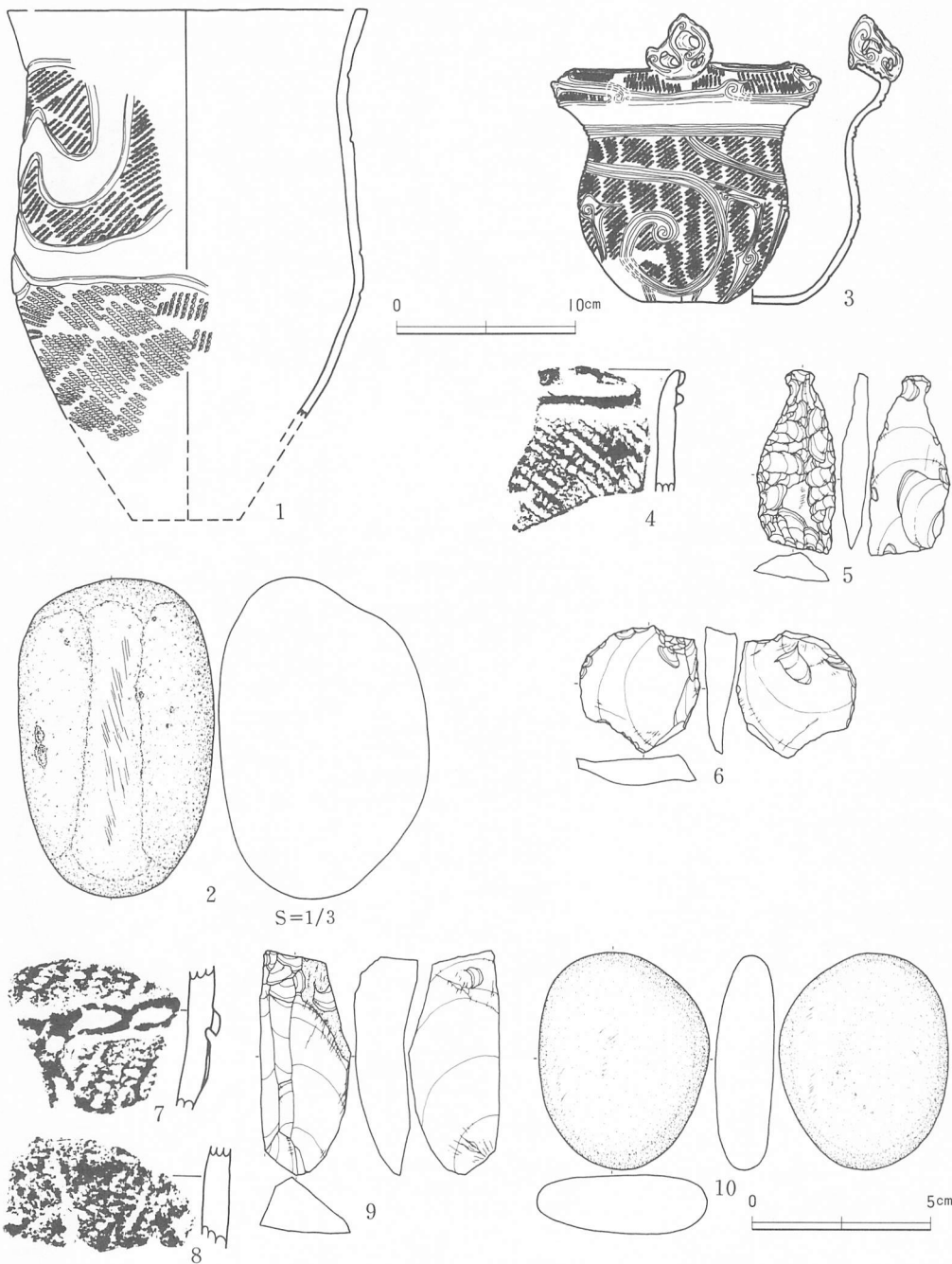
0 2m

第52図 フラスコビット(2)：ⅢA-1、ⅢA-2、ⅢB-1、ⅢB-2号

西端の中には石器のみ出土し、時期を決定する材料に乏しいピットもあるが、周辺の遺構・遺物から判断して、すべて大木8b式期に属するものと考えられる。ただし、IIA-1号のみは埋土上層から大木10式の深鉢が完形に近い形で出土している。調査区域内からの大木10式はこれ1例のみである。後世の廃棄と考えておきたい。他に特徴的な事項としては、2基の底面から完形品の土器と、装飾品が出土したことである。前者はIIA-2号の北側壁に近い位置で検出された。土圧で潰れてはいたが、装飾突起を有する特殊な器形である。土器中からは何も検出されなかった。後者はIII B-2号で、中心からやや北寄りの位置で検出された。2基とも墓へ転用し遺物は副葬品との考えもあるが、埋土が自然堆積であり墓説は成り立たない。ただ、偶然の廃棄とも考えられず、何らかの意味を有する出土状況と捉えたい。2基のみ対して廃棄の儀礼を施したとするのも不自然であるが、これに近いような状態にあったと考えたい。



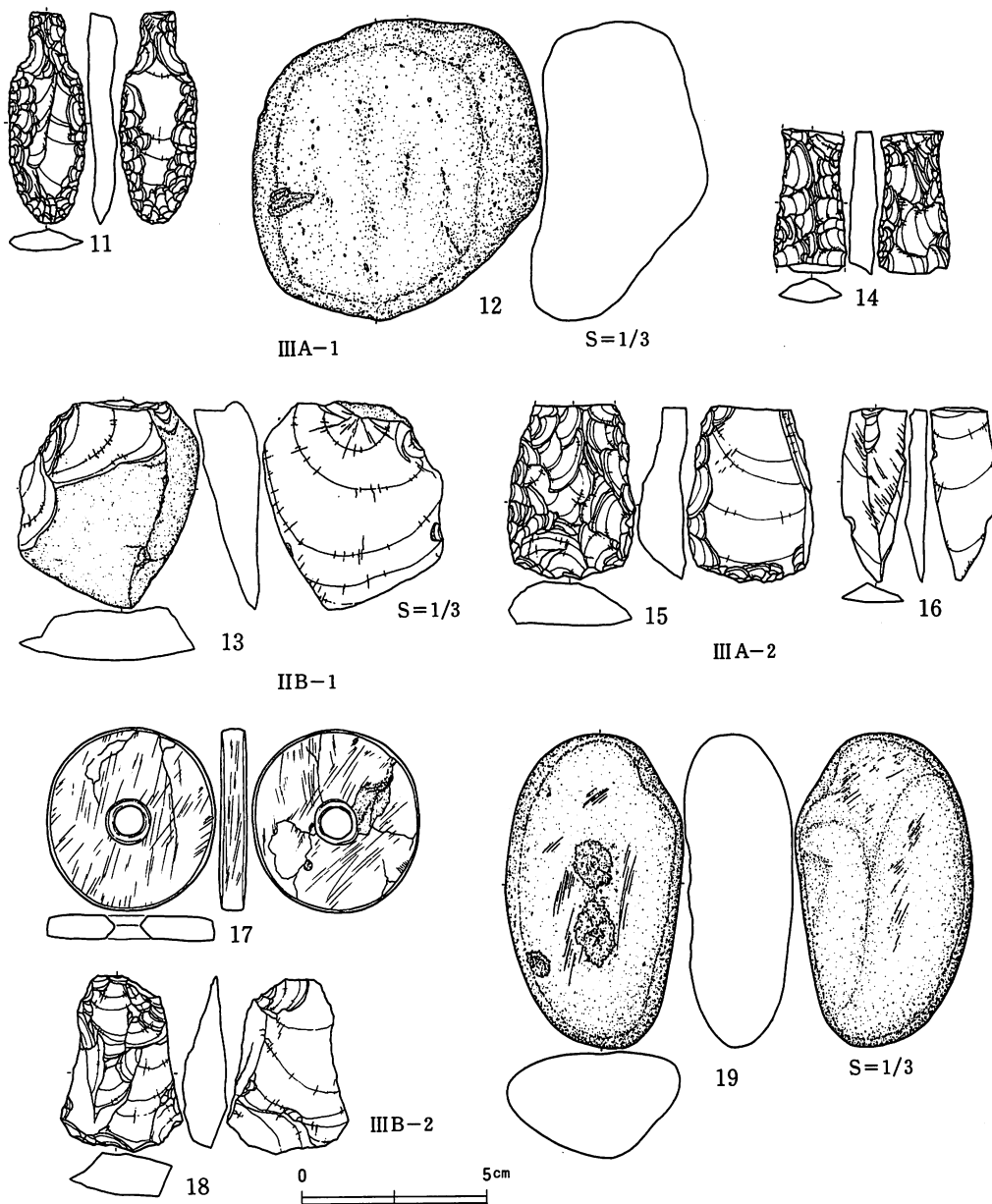
第53図 フラスコピット(3)：IVG1、2、3号



図版No	出土地点	器種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
2	IIA-1号フラスコピット2層	擦石	13.4	8.2	8.8	1,261	細礫質緑色凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
5	IIA-2号フラスコ 埋土2層褐色	石匙	5.1	2.2	0.8	8.9	硬質泥岩	" "
6	" 埋土2層	不定形石器	3.5	3.4	0.9	11.6	珩質細粒凝灰岩	" "
9	IIA-3号フラスコ	"	6.3	2.5	1.8	26.0	珩質細粒凝灰岩	" "
10	IIA-3号フラスコ 断面13層	擦石	5.1	4.8	1.7	57.1	淡緑色細粒凝灰岩	" "

第54図 フラスコピット遺物(1)：IIA-1、IIA-2、IIA-3号



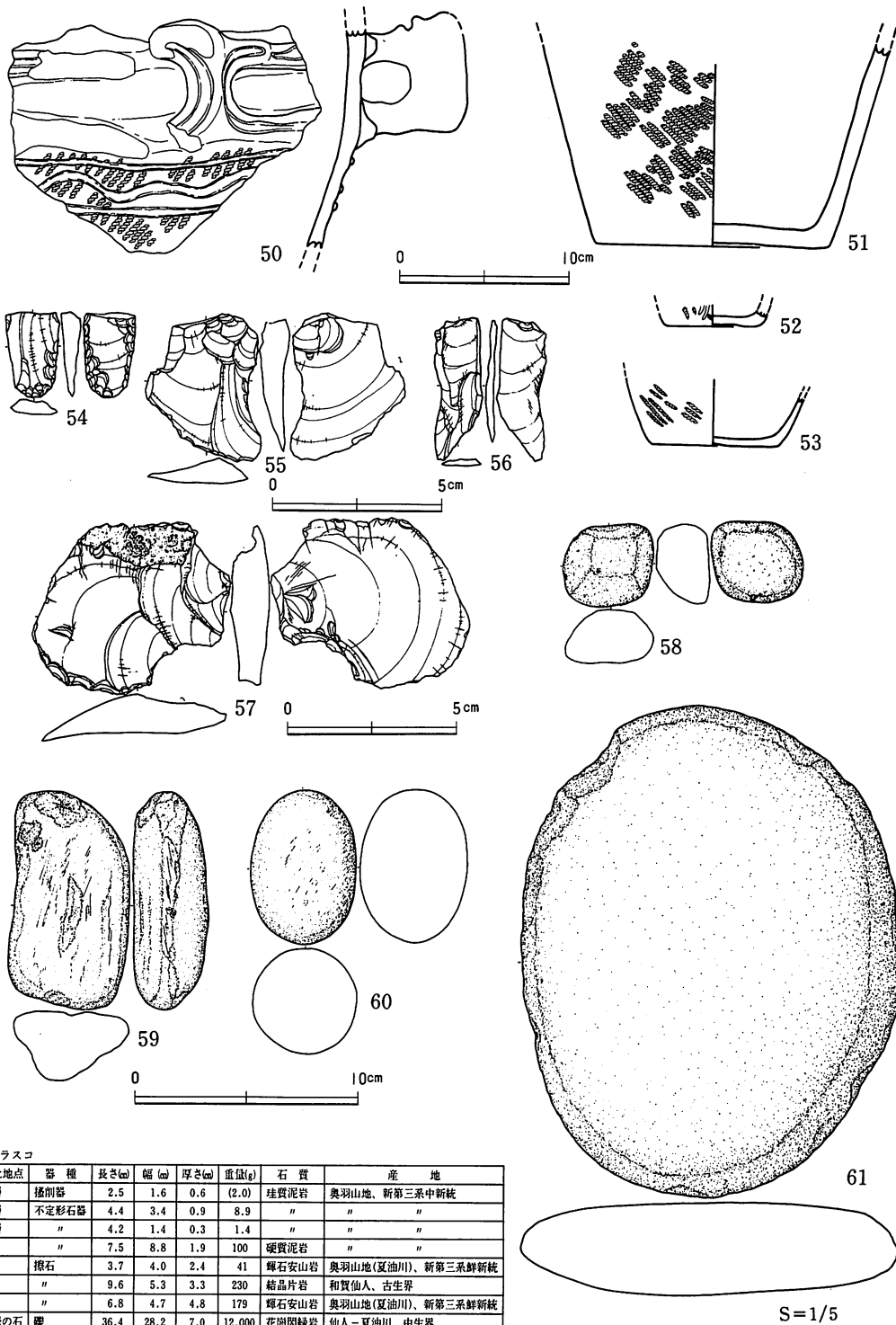


図版No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
11	ⅢA-1号フラスコ 8層暗褐色	石匙	5.7	2.1	0.8	7.95	珪質泥岩	奥羽山地 新第三系中新統
12	ⅢA-1号フラスコ 埋土黒色土中	石皿	12.1	11.7	7.1	1.112	輝石安山岩	" (夏油川)新第三系鮮新統
13	ⅡB-1号フラスコ 2層褐色	剝片	8.4	7.3	2.7	130	硬質泥岩	" 新第三系中新統
14	ⅢA-2号フラスコ 埋土1層褐色	石匙(伊)	3.9	2.0	0.7	(5.8)	珪質細粒凝灰岩	" "
15	" "	石籠	4.8	3.5	1.3	(22.2)	"	" "
16	" 4層褐色	剝片	4.7	1.8	0.5	3.2	"	" "
17	ⅢB-2号フラスコ 床面	裝飾品	4.9	4.5	0.7	16.75	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三紀
18	ⅢB-2号小フラスコP, 裏土	剝片	4.7	3.3	1.2	16.7	玉ずい	産地・時代不詳
19	ⅢB-2号フラスコ 9層褐色	凹石	12.7	7.2	4.3	50.5	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川) 新第三系鮮新統

第55図 フラスコピット遺物(2)：ⅢA-1、ⅢA-2、ⅡB-1、ⅢB-2号



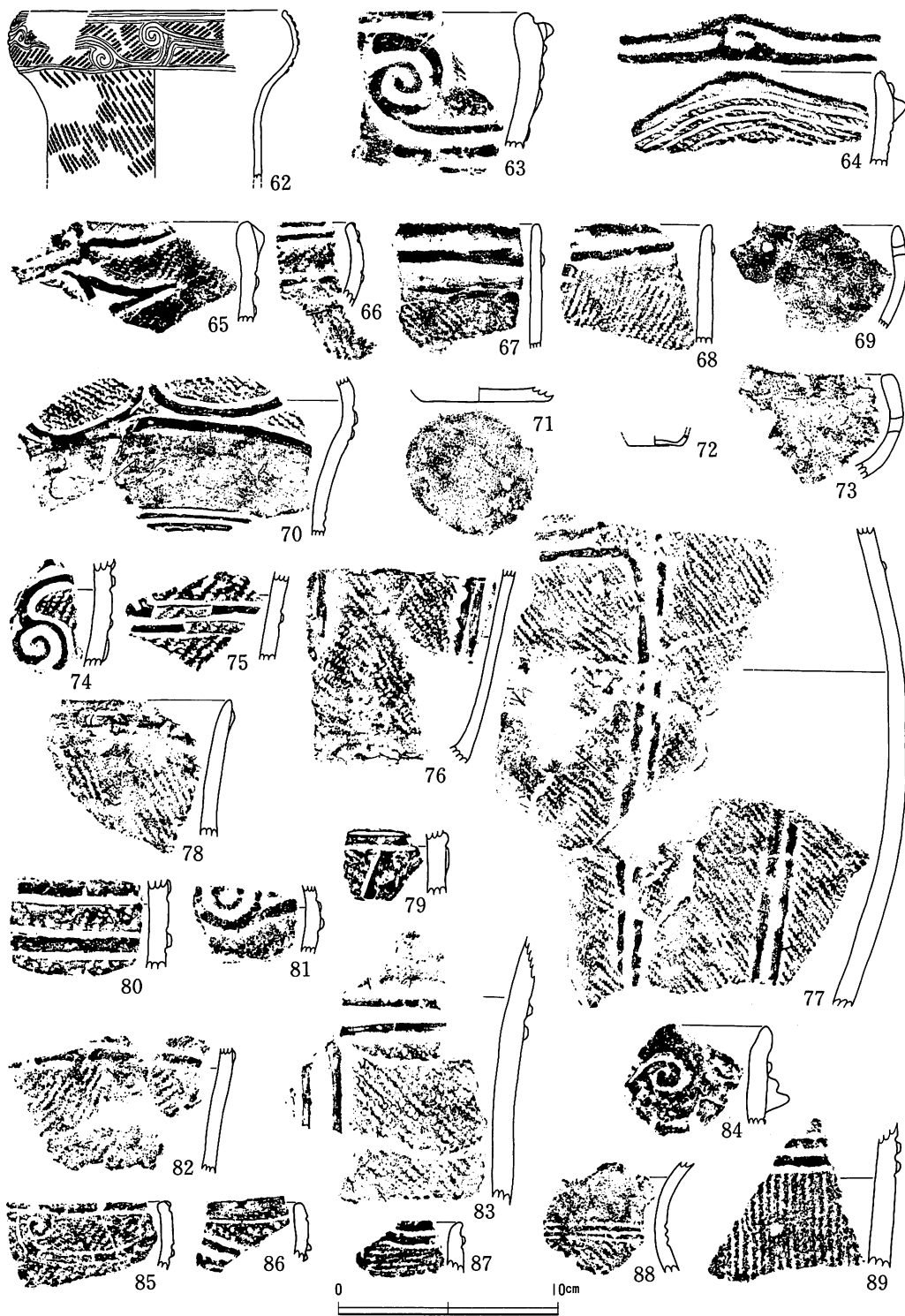
第56図 フラスコピット遺物(3)：VG-1号[1]



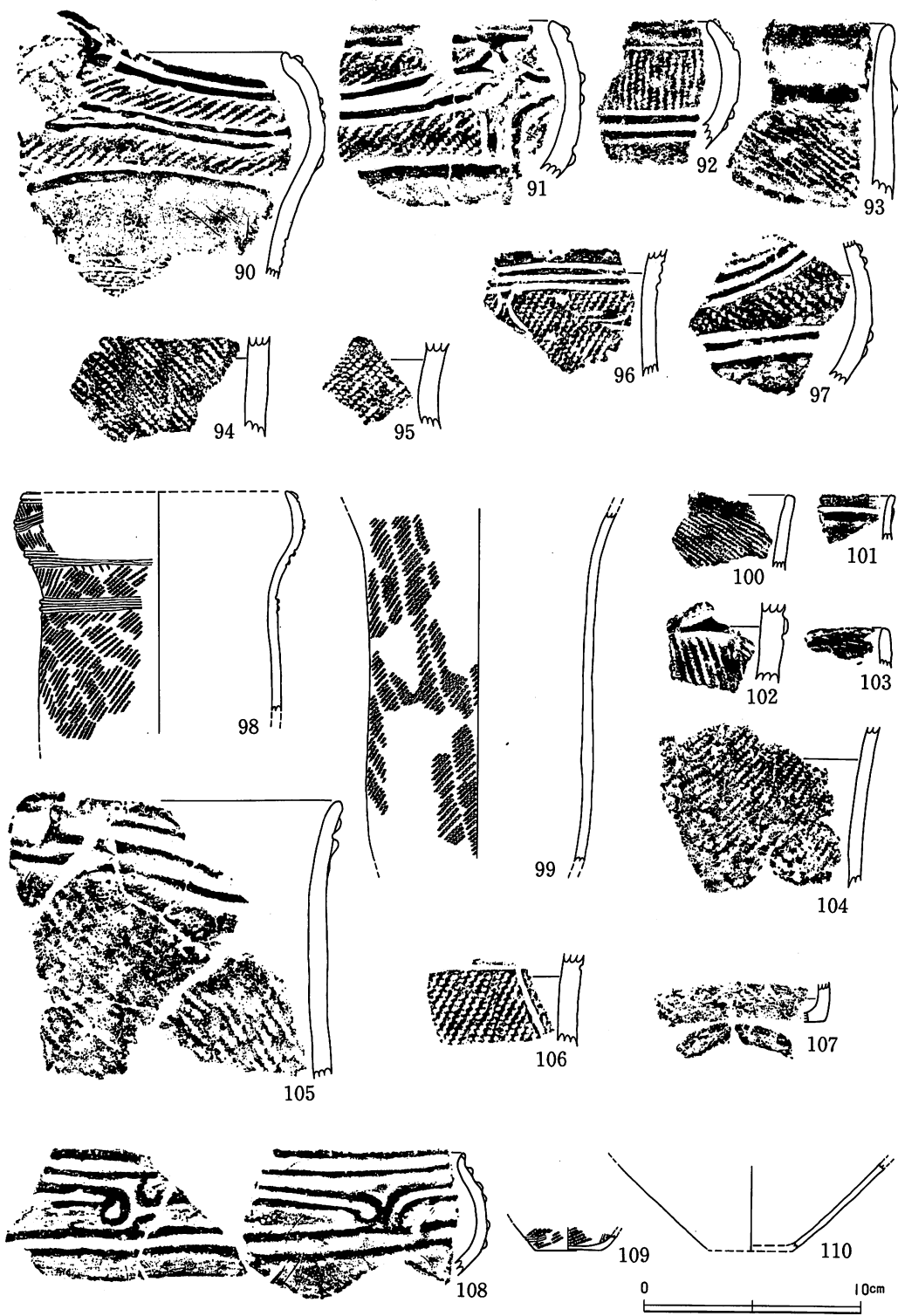
WG-1号フラスコ

図版No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	産地
54	下層	撻削器	2.5	1.6	0.6	(2.0)	珪質泥岩	奥羽山地、新第三系中新統
55	3層	不定形石器	4.4	3.4	0.9	8.9	"	"
56	下層	"	4.2	1.4	0.3	1.4	"	"
57	"	"	7.5	8.8	1.9	100	硬質泥岩	"
58	"	撻石	3.7	4.0	2.4	41	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
59	"	"	9.6	5.3	3.3	230	結晶片岩	和賀仙人、古生界
60	"	"	6.8	4.7	4.8	179	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
61	壁際の石	礫	36.4	28.2	7.0	12,000	花崗閃緑岩	仙人-夏油川、中生界

第57図 フラスコピット遺物(4) : WG-1号[2]

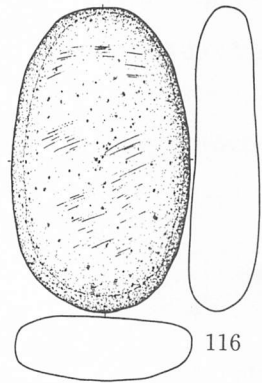
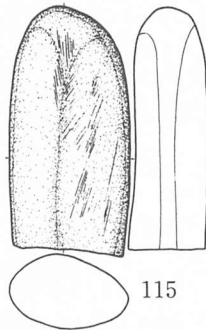
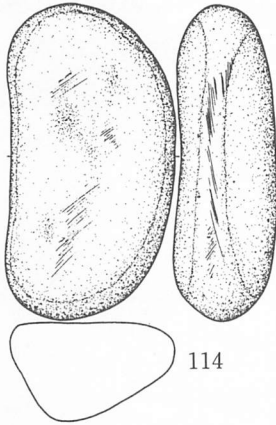
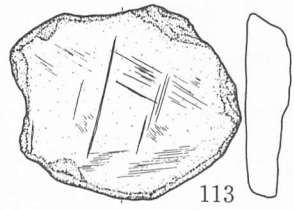
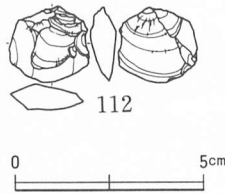
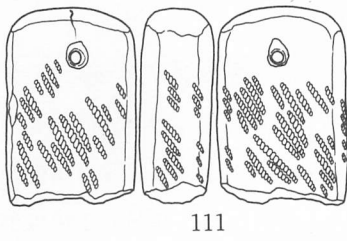


第58図 フラスコピット遺物(5)：ⅣG-2号[1]

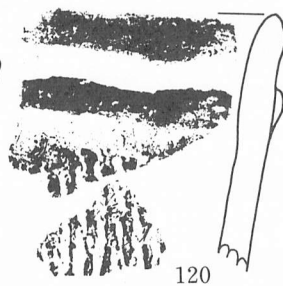
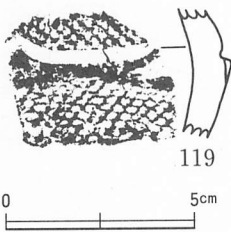


第59図 フラスコピット遺物(6)：NG-2号[2]





IVG-2



● IVG-2号フラスコ

図版No.	出土地点	器種	長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重量(g)	石質	産地
112	埋土7層	刮削片	2.0	2.1	0.7	2.3	珩質細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
113	"	石製品	6.2	5.1	1.2	45.4	淡緑色細粒凝灰岩	" "
114	"	擦石	12.5	6.7	4.1	400	"	" "
115	"	"	9.9	4.8	3.3	(19.5)	"	" "
116	"3層	"	12.0	7.0	2.8	260	花崗閃緑岩	夏油川-和賀仙人、中生界

● IVG-3号フラスコ

121	埋土3層	石皿	38.8	30.6	5.8	(9,500)	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)、新第三系鮮新統
-----	------	----	------	------	-----	---------	-------	-------------------

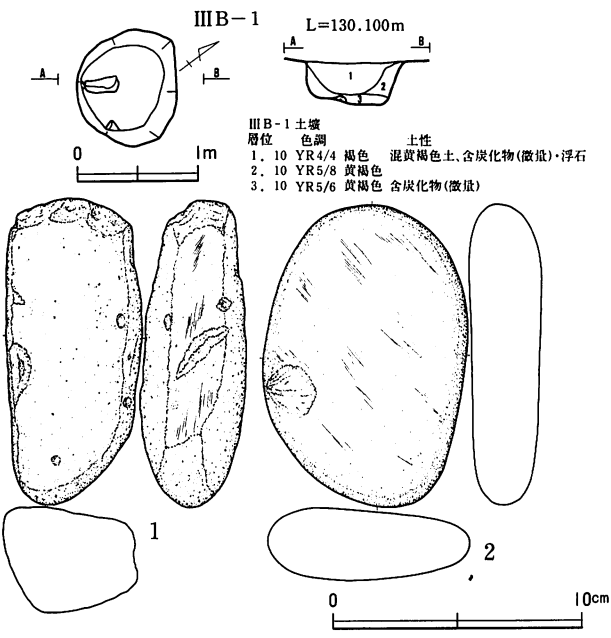
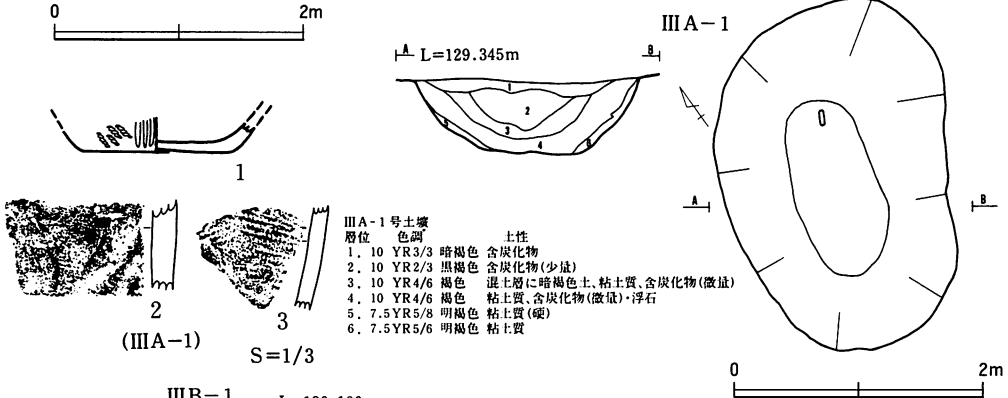
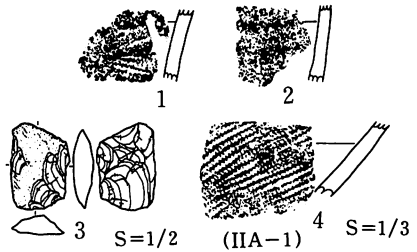
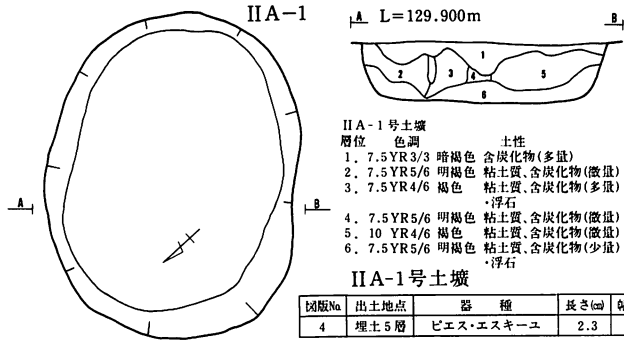
IVG-3

第60図 フラスコピット遺物(7)：IVG-2号[3]、IVG-3号

(4) 土壌 (第61～63図、写真図版52～55)

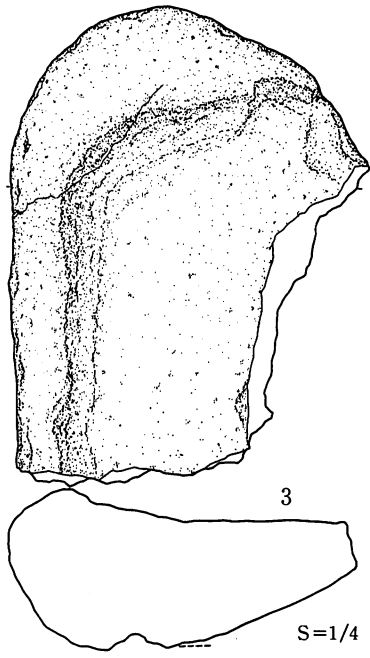
隅丸方形、楕円形、不整円形のプランを持つ8基が検出された。分布は調査区西側フラスコピット群と同じ位置に4基、中央部に2基、東端に2基である。このうち、隅丸方形の4基II A-1、II B-1、II C-1、II I-1号は形状、埋土とも類似しており、同じ正確の遺構と思われる。性格としては墓墳が考えられるが、それを証明する材料は乏しい。III B-1号は小さな土壌で、中から組石状に石器、礫が出土した。同様の遺構は隣接する本郷遺跡で多数検出されているが、性格については不明である。仮に墓墳としても、石の間に遺髓あるいは遺骨を納めるスペースは少ない。焼土も無く、炉、調理施設ともなりにくい。東端の2基は陥穴の上部が流失した可能性もある。時期は埋土の土器から判断して、すべて大木8b式期であろう。8基のデータは下表の通りである。

遺構名	形状	規模 (cm)		埋土	遺物	時期	図版
		上面×下面×深さ					写図
II A-1	隅丸方形	255×200×50		人工堆積、炭化物を含む粘土質土ブロック状に入る。	土器はすべて1層出土、1、2は小型鉢の体部、3は浅鉢、4は5層上部出土のビエスエスキュー。	縄文時代中期	61 52、55
III A-1	楕円形	275×190×57		自然堆積、土宛状の断面となる。堆積土には炭化物を含む。	3点とも2層の出土。1の深鉢は三本単位の沈線文、底部ミガキ、2、3は鉢の体部。	〃	〃 52、55
II B-1	隅丸方形	160×60×35		炭化物を含む褐色土の人工堆積か。	埋土中と土壌検出面の壁際で多量の土器が出土した。土壌内出土は1、2が2層5～8が1層9が床面、3、4、10～12が外である。1層の7、8は大木10式、10、11は胎土に少量の繊維を含む前期の土器で大木2式か。2層以下の土器は大木8b式である。	〃	72 52、55
III B-1	不整円形	92×80×33		黄褐色土ブロックの人工堆積。	埋土中より石器のみ3点出土、1は側面を、2は両面を使用した擦石、3は石皿の破損品で裏側は全く加工されていない。他に自然礫も出土しており、組石状の状況であった。	不明	61 53、55
II C-1	隅丸方形	162×130×25		上面削平されている、小さなブロック土による人為堆積。	検出面と1～2層にかけて、小さな破片の状態で出土、本来完形品であったと推定されるが削平の際に破損したものとと思われる。地文のみで文様はない。底部ミガキ。	縄文時代中期	63 53
II I-1	〃	125×107×40		上面削平されている、人為堆積。	なし。	不明	63 54
I O-1	長楕円形	258×60×24		壁面で検出、上面が流された陥穴の可能性が有る。自然堆積。	〃	〃	63 54
I O-1	楕円形	170×85×45		同上。	〃	〃	63 54



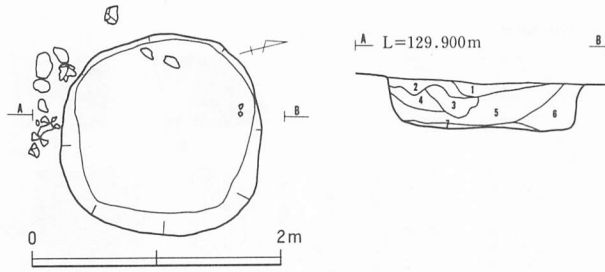
III B-1号土壌構成礫

図版No	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地
1	土壌構成礫	擦石	12.2	5.5	4.2	391	輝石安山岩	夏油川、新第三系中新統
2	"	"	12.0	8.2	2.9	405	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地、新第三系中新統
3	"	石皿	25.4	19.0	8.7	3,360	テイサイト	鈴嶋川-夏油川、中生界

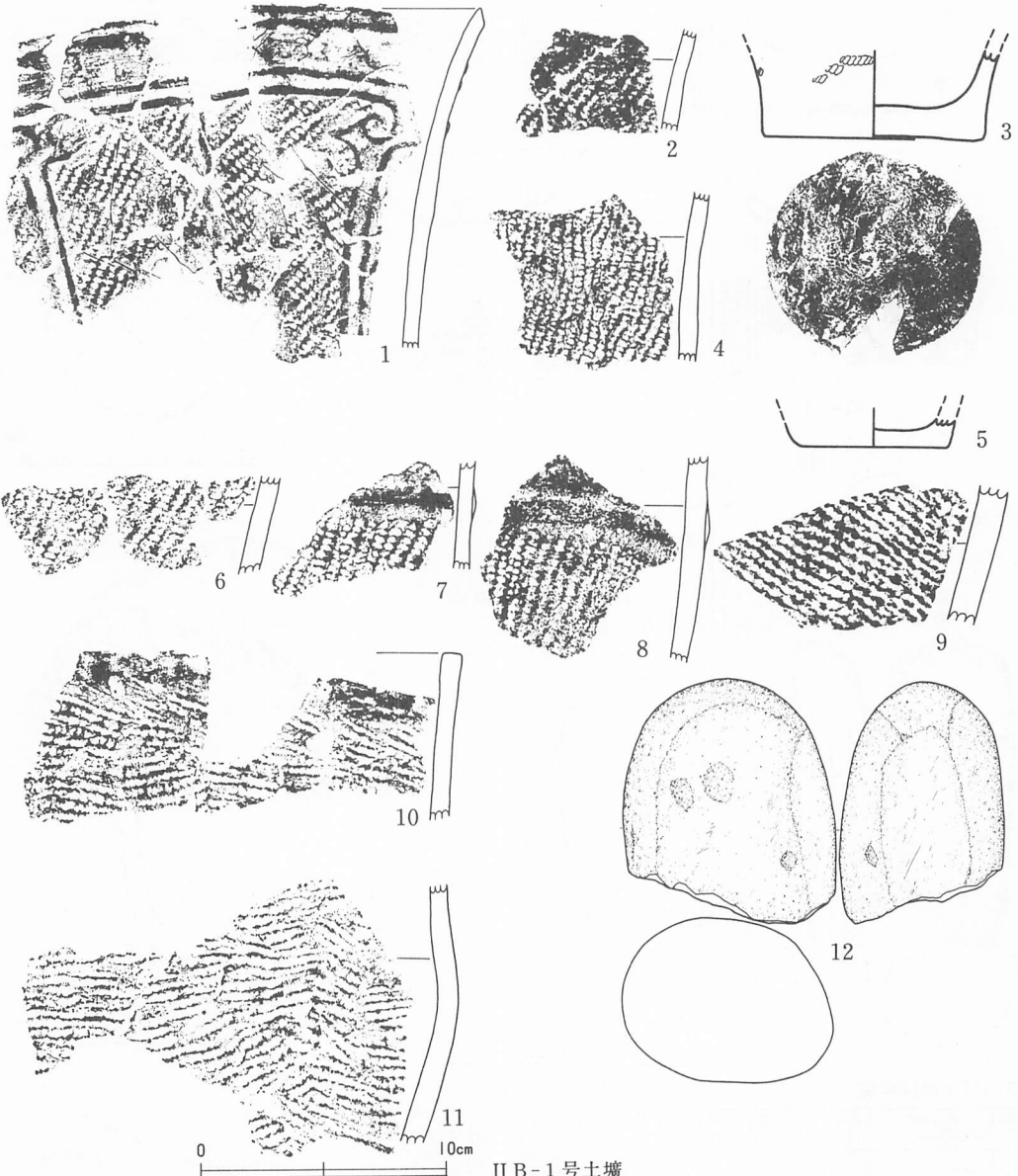


III B-1

第61図 IA-1、III A-1、III B-1号土壌・遺物



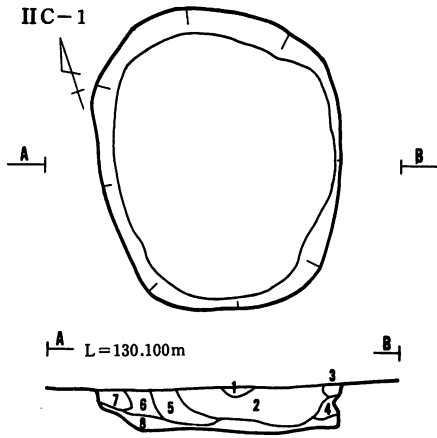
II B-1号土壤  
 層位 色調 土性  
 1. 7.5YR2/2 黑褐色 含炭化物(少量)  
 2. 7.5YR4/6 褐色 含炭化物(少量)  
 3. 10 YR4/6 褐色 含浮石  
 4. 7.5YR4/4 褐色 含炭化物(微量)・浮石  
 5. 7.5YR4/6 褐色 含炭化物(微量)・浮石  
 6. 7.5YR4/6 褐色 含炭化物(微量)・浮石  
 7. 7.5YR4/6 褐色 粘土質(硬)



II B-1号土壤

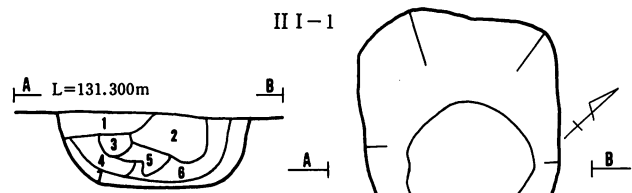
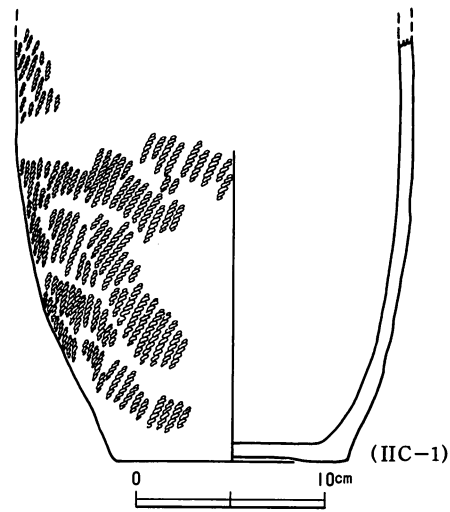
図版No.	出土地点	器種	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	産地
12	埋土4層	擦石	9.8	8.6	6.7	(745)	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川)・新第三系鮮新統

第62図 II B-1号土壤・遺物



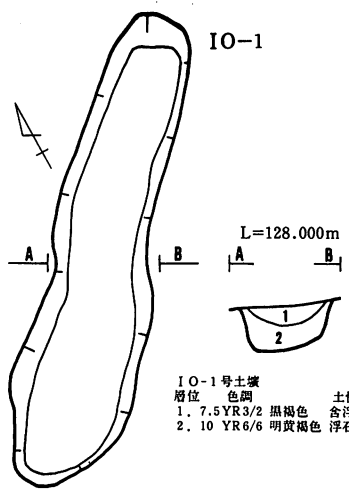
II C-1号土壤

- | 层位 | 色调       | 土性                     |
|----|----------|------------------------|
| 1. | 10 YR2/3 | 黑褐色 含炭化物(少量)·黄褐色土粒(微量) |
| 2. | 10 YR3/4 | 暗褐色 含炭化物·烧土            |
| 3. | 10 YR4/6 | 褐色 粘土质(硬)              |
| 4. | 7.5YR4/3 | 褐色 含炭化物·黄褐色土粒          |
| 5. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 粘土质(柔),含炭化物        |
| 6. | 7.5YR4/4 | 褐色 含黄褐色土粒·炭化物          |
| 7. | 7.5YR3/1 | 黑褐色 含黄褐色土粒             |
| 8. | 7.5YR5/6 | 明褐色 混黑色土               |



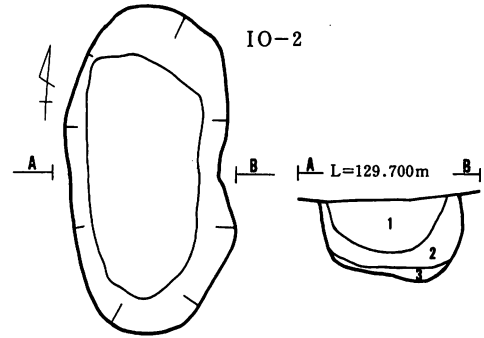
II I-1号土壤

- | 层位 | 色调       | 土性                     |
|----|----------|------------------------|
| 1. | 10 YR4/6 | 褐色 粘土质(硬),含炭化物(少量)     |
| 2. | 10 YR3/3 | 暗褐色 含炭化物(微量)·黄褐色土粒(少量) |
| 3. | 10 YR5/8 | 黄褐色 粘土质(柔)             |
| 4. | 10 YR4/4 | 褐色 含炭化物(微量)            |
| 5. | YR5/4    | 红土+黄褐色 含黄褐色土粒          |
| 6. | 10 YR3/3 | 暗褐色 含炭化物·黄褐色土粒(少量)     |
| 7. | 10 YR5/8 | 黄褐色 粘土质(柔)             |



IO-1号土壤

- | 层位 | 色调       | 土性       |
|----|----------|----------|
| 1. | 7.5YR3/2 | 黑褐色 含浮石  |
| 2. | 10 YR6/6 | 明黄褐色 浮石层 |



IO-2号土壤

- | 层位 | 色调       | 土性              |
|----|----------|-----------------|
| 1. | 7.5YR3/2 | 黑褐色 含炭化物(微量)·浮石 |
| 2. | 7.5YR5/6 | 明褐色 浮石(多量)      |
| 3. | 7.5YR6/8 | 橙褐色 浮石层         |

第63图 II C-1、II I-1、IO-1、IO-2号土壤

(5) 陥 穴 (第64～75図、写真図版56～68)

タイプの異なる陥穴が調査区のほぼ全域にわたって分布している。総数で42基検出されているが、これを6つのタイプに分類した。なお、42基の半数以上が上部を削平されており、それぞれのタイプに含みずらい例もある。プライマリーな状況を保っている遺構は、埋土上層に炭化物を含む層がある。

アのタイプ (第64図、写真図版65・66)

やや大型の楕円形プランで、底面に小さな副穴を持つ。I O—1号は湧水のため下部を調査できなかったが形態、規模から同一タイプとして扱った。3基の検出で、分布は東西に離れており直接的な関連に乏しい。データは下表。

遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上面×下面×深さ					写 図	
II B-1	西寄りに副穴2本	186×135×120		自然堆積、上層に炭化物含む。	なし。	不明	64	66
III C-1	東寄りに副穴2本	190×138×130		自然堆積、3層中に礫、上層に炭化物。	なし。	〃	64	66、68
I O-1	底面不明	(190)×(115)×x		自然堆積。	東端部低位面の検出、湧水激しく下部検出できなかった。	〃	64	65

イのタイプ (第65～68・75図、写真図版57・59～61・68)

隅丸方形を基本形とする一群で、原則的に底面の中央に副穴を有する。11基検出されたが、B、C、G区はそれぞれ2基のみで配置は不明であるが、D、E区の4基はほぼ線上にあり一連の施設と考えられる。やや距離はあるが、このラインを延長するとII C-1、2に辿りつく。

遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上面×下面×深さ					写 図	
III B-1	中央に副穴	124×80×130		自然堆積。	なし、検出面の南側に長方形の自然礫、上面削平。	不明	65	57
III B-3	中央やや東寄りに副穴	130×80×136		〃 上層に炭化物含む。	なし、上面削平。	〃	65	57
III D-1	中央に副穴	103×93×125		〃	〃 〃	〃	65	57
III G-1	中央に副穴、ピーカー状	95×115×132		〃 1層中に礫。	〃		66	60
III G-2	〃 〃	132×135×110		〃 上層に焼土と炭化物。	埋土2～5層中から出土、11は5層、12、13は3～4層、14～22は2層、いずれも破片で19は浅鉢、キャリパー型は少なく口縁外反するもの多い。22は刺片III G-3号住居跡と重複、1層は貼床で、2層も人為的に埋めた土である。	縄文時代中期 大木8b式	66、75	60、68
III E-1	中央に副穴	95×78×88		〃	なし、上面削平されている。	不明	67	59
III E-2	やや西寄りに小さな副穴隅丸長方形	113×105×100		〃	〃 〃	〃	67	62
IV E-1	中央に副穴、フラスコ状	85×100×68		〃	〃 〃	〃	67	59
II C-1	副穴2本、フラスコ状	120×100×130		〃	いずれも1層上面からの出土、深鉢体部片で4は隆沈線文、他は沈線文上部若干、削平されている。あるいはその時に動いた土器か。	縄文時代中期 大木8b式	68、75	61、68
II C-2	中央に3本の副穴	133×118×122			なし、上部若干の削平。	不明	68	61
III B-2	中央に1本の副穴ピーカー状	118×125×155		自然堆積、6層はIII B-2号フラスコピットの埋土。	なし、III B-2号フラスコピットに截られており、当陥穴の方が古い。	〃	68	



### ウのタイプ (第69・70・75図、写真図版60～63・68)

楕円形あるいは隅丸方形のプランが基本形で、断面形はフラスコ、ピーカー、筒形と様々である。9基検出された中の6基はC、D区を少し蛇行しながら南北に配置されている。ほかの3基はそれぞれ一基ずつ散在している。

遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上面×下面×深さ					写 図	
II B-2	上面隅丸方形、下面円形	106×120×110		自然堆積、上層は炭化物含む。	なし、下面のフラスコ状は壁崩落か。	不明	69 60	
II C-3	上面楕円、下面隅方形	115×120×78		〃	なし、上面削平。	〃	69 60	
II D-2	楕円形	138×148×75		〃	〃 〃	〃	69 63	
II D-3	〃	112×112×65		〃	〃 〃	〃	69 61	
II D-1	〃	130×95×68		〃	〃 〃	〃	70 63	
III D-3	隅丸方形	118×105×83		〃	〃 〃	〃	70 62	
III D-2	〃	110×115×73		〃	〃 〃	〃	70 62	
IV F-1	〃 (?)	( )×( )×95		〃 1層は盛土、上層に炭化物。	埋土2層から土器片4、石器1点が出土、土器は深鉢片で3点が隆沈線文、9は縦長刺片の一边を刃部としている。北側は道路の法面のため未調査。	縄文時代中期 大木8b式	70、75 63、68	
II M-1	〃	135×115×75		〃	なし、上面削平。	不明	70 63	

### エのタイプ (第71図、写真図版58・59・61)

円形プランで径は短く、原則的に副穴を有する一群。II E区でまとまって検出されたもので狭い間隔でほぼ一線上に並んだ配置である。第71図は実際の配置図で、副穴の無いもの1基ある。北に向かうほど削平されており、浅くなっている。

遺構名	形 状	規 模 (cm)		埋 土	遺 物	時 期	図版	
		上面×下面×深さ					写 図	
II E-1	円形、中央に副穴	95×80×95		自然堆積。	なし、上部削平。	不明	71 58	
II E-2	不整形、細い副穴	74×75×150		〃	〃 〃	〃	71 58	
II E-3	円形、中央に副穴	60×68×110		〃	〃 〃	〃	71 58	
II E-4	〃 副穴なし	65×73×90		〃	〃 〃	〃	71 61	
II E-5	〃 3本の副穴	70×68×116		〃	〃 〃	〃	71 58	
II E-6	〃 中央に副穴	65×76×134		〃	〃 上部は若干削平されているのみ。	〃	71 59	
II E-7	楕円形、東寄りに副穴	80×90×130		〃	〃 〃	〃	71 59	

### オのタイプ (第72・73図、写真図版62・64・65)

上面楕円形あるいは卵形で、底面は長楕円形を基本形とする一群である。小型のプランに比較して深く、当遺跡では最も深い陥穴である。8基検出されたが、すべてL区に集中しており

ほぼ南北線上に位置している。II 1—4号はこのラインからはずれており、深さもなく土壌として扱うべきであろう。配置の間隔はエのタイプと異なり、5～7 mであり、さらに南北方向に延びる気配がある。

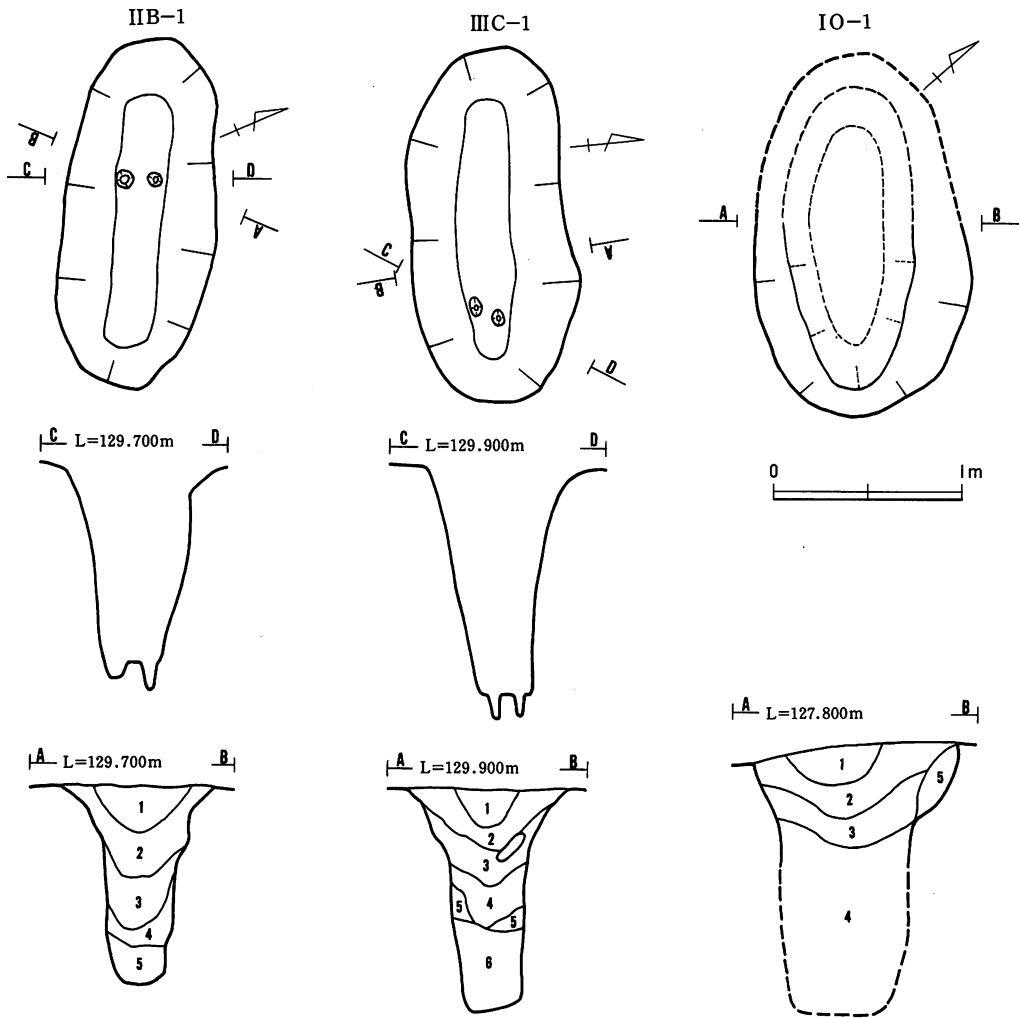
遺構名	形 状	規 模 (cm)	埋 土	遺 物	時 期	図版
		上面×下面×深さ				写図
I L-3	卵形	110×74×137	自然堆積、上層に炭化物含む。	なし、上面の壁崩落してふくらむ。	不明	72 64
I L-2	〃 底面楕円形	87×102×122	〃 〃	〃、両側壁崩落部分あり。	〃	72 64
I L-1	〃 〃	85×82×110	〃	〃	〃	72 64
II L-4	〃	122×114×45	〃	〃 上面削平されているが、他とは規模も異なり、土壌の可能性もある。	〃	72 62
II L-1	〃 底面楕円形	105×110×128	〃	〃 両側壁崩落。	〃	73 64
II L-2	〃 〃	120×90×146	〃 〃	〃	〃	73 65
III L-1	〃 〃	97×90×198	〃 上層に炭化物含む。	〃 削平を受けていない。	〃	73 65
III L-2	〃 〃	112×92×195	〃 〃	〃	〃	73 65

#### カのタイプ (第74図、写真図版66・67)

溝状の細長いタイプである。4基検出された中の2基は調査区域外にかかっている。4基とも散在しており、関連性に乏しい。

遺構名	形 状	規 模 (cm)	埋 土	遺 物	時 期	図版
		上面×下面×深さ				写図
II L-3	溝状	360×25×80	自然堆積。	なし、上面削平。	不明	74 67
IV L-1	〃	( )×55×124	〃	〃 北側調査区域外に延びる。	〃	74 66
III M-1	〃	320×25×128	〃	〃 南側調査区域外。	〃	74 67
I M-1	〃	330×25×130	〃	〃	〃	74 67

以上、42基の陥穴の概要であるが、これらのなかで埋土中から土器が出土したのは4基のみである。それも殆どが上層からの出土で、底面からは皆無である。出土した土器はすべて大木8b式であり、また各タイプの陥穴から出土していることからすると、所属する時期は大木8b式期を含む前後、中期として大きな誤りはないものと考えられる。



**II B-1 号陷穴**

- | 层位 | 色调           | 土性              |
|----|--------------|-----------------|
| 1. | 7.5YR3/3 暗褐色 | 含炭化物(少量)·浮石     |
| 2. | 7.5YR3/3 暗褐色 | 含炭化物(少量)·浮石     |
| 3. | 7.5YR3/2 黑褐色 |                 |
| 4. | 7.5YR5/6 明褐色 | 粘土质             |
| 5. | 10 YR4/6 褐色  | 混黑褐色土, 含炭化物(微量) |

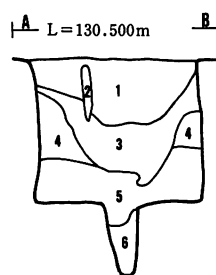
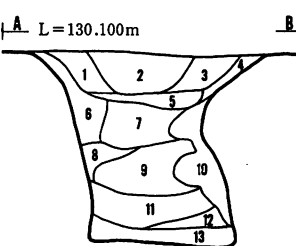
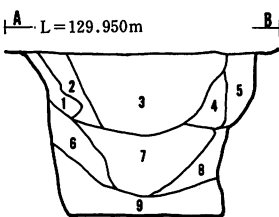
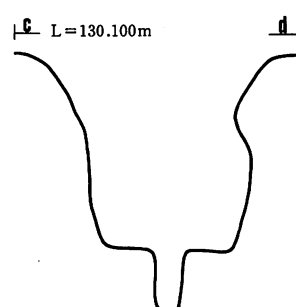
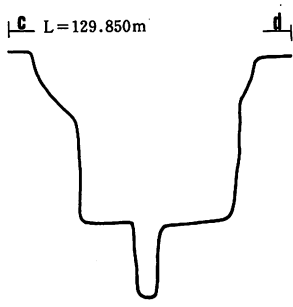
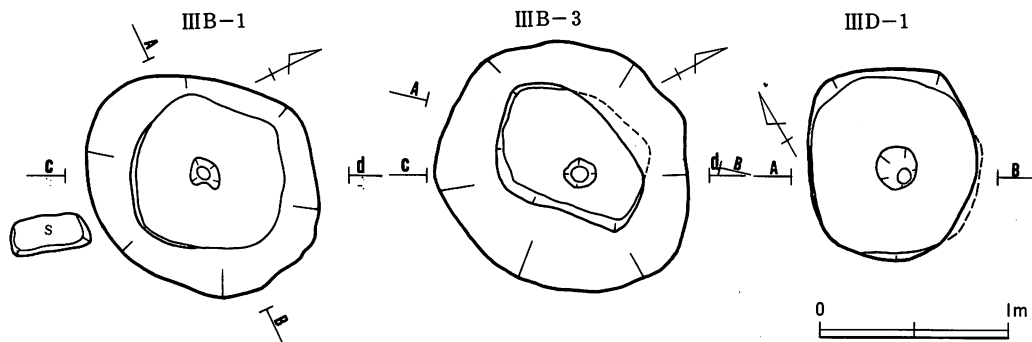
**IIIC-1 号陷穴**

- | 层位 | 色调           | 土性              |
|----|--------------|-----------------|
| 1. | 7.5YR3/3 暗褐色 | 含炭化物(多量)·浮石(微量) |
| 2. | 7.5YR3/2 黑褐色 | 含炭化物(微量)        |
| 3. | 7.5YR2/2 黑褐色 | 含炭化物(少量)·浮石     |
| 4. | 10 YR2/3 黑褐色 |                 |
| 5. | 7.5YR4/4 褐色  | 粘土质             |
| 6. | 10 YR3/4 暗褐色 | 粘土质(柔)          |

**IO-1 号陷穴**

- | 层位 | 色调           | 土性               |
|----|--------------|------------------|
| 1. | 7.5YR2/1 黑色  | 粘土质, 含炭化物(少量)·浮石 |
| 2. | 7.5YR3/3 暗褐色 | 粘土质, 含炭化物(少量)·浮石 |
| 3. | 7.5YR3/2 黑褐色 | 粘土质, 含炭化物(少量)·浮石 |
| 4. | 7.5YR2/2 黑褐色 | 含浮石              |
| 5. | 7.5YR3/4 暗褐色 | 粘土质, 含炭化物(微量)·浮石 |

第64图 陷穴(1): II B-1、IIIC-1、IO-1号



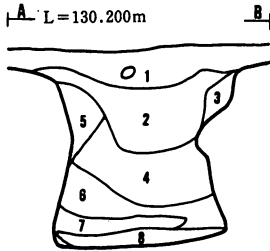
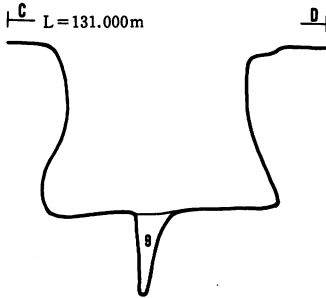
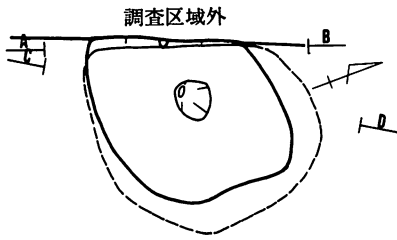
- III B-1号陷穴
- | 層位 | 色調                       | 土性       |
|----|--------------------------|----------|
| 1. | 10 YR4/6 褐色~7.5YR3/3 暗褐色 |          |
| 2. | 10 YR3/2 黒褐色             |          |
| 3. | 10 YR2/1 黒色              | 含黄褐色土粒   |
| 4. | 10 YR3/3 暗褐色             |          |
| 5. | 10 YR4/6 褐色              | 混黒色土     |
| 6. | 10 YR3/2 黒褐色             | 混にぶい黄褐色土 |
| 7. | 10 YR2/3 黒褐色             | 含黄褐色土粒   |
| 8. | 10 YR3/4 暗褐色             | 含炭化物(少量) |
| 9. | 10 YR2/2 黒褐色             | 含黄褐色土粒   |

- III B-3号陷穴
- | 層位  | 色調                       | 土性                |
|-----|--------------------------|-------------------|
| 1.  | 10 YR3/3 暗褐色             | 含炭化物(少量)・黄褐色土粒    |
| 2.  | 10 YR2/3 黒褐色             | 含炭化物(微量)・黄褐色土粒・浮石 |
| 3.  | 10 YR3/4 暗褐色             | 含炭化物(微量)・黄褐色土粒    |
| 4.  | 10 YR5/8 黄褐色             | 粘土質(柔)            |
| 5.  | 10 YR3/4 暗褐色             | 含炭化物(微量)・黄褐色土粒    |
| 6.  | 10 YR6/8 明黄褐色~10YR4/4 褐色 | 粘土質(硬)            |
| 7.  | 10 YR3/3 暗褐色             | 含炭化物(微量)・黄褐色土粒    |
| 8.  | 10 YR5/6 黄褐色~10YR4/4 褐色  | 含炭化物(微量)          |
| 9.  | 10 YR3/4 暗褐色             | 含黄褐色土粒(多量)・浮石     |
| 10. | 10 YR5/8 黄褐色~10YR4/4 褐色  | 含炭化物(微量)・浮石       |
| 11. | 10 YR6/8 明黄褐色~10YR4/4 褐色 | 粘土質、含炭化物(微量)      |
| 12. | 10 YR3/4 暗褐色             | 炭化物(微量)           |
| 13. | 10 YR4/4 褐色              | 含炭化物(微量)          |

- III D-1号陷穴
- | 層位 | 色調           | 土性        |
|----|--------------|-----------|
| 1. | 7.5YR2/2 黒褐色 | 含黄褐色土粒・浮石 |
| 2. | 7.5YR2/1 黒色  | 含黄褐色土粒    |
| 3. | 7.5YR2/2 黒褐色 | 含黄褐色土粒    |
| 4. | 10 YR3/4 暗褐色 | 粘土質       |
| 5. | 10 YR4/6 褐色  | 含浮石       |
| 6. | 10 YR4/6 褐色  | 粘土質、含浮石   |

第65図 陷穴(2): III B-1、III B-3、III D-1号

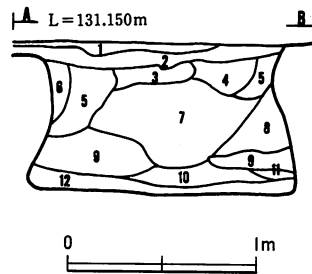
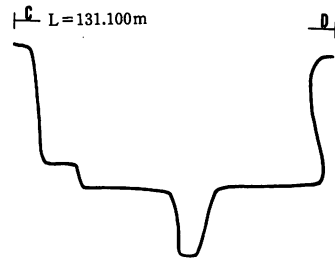
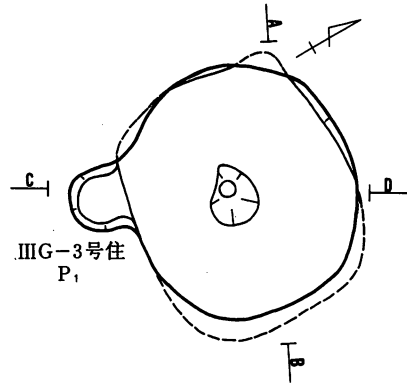
III G-1



III G-1号陥穴

- | 層位 | 色調       | 土性                   |
|----|----------|----------------------|
| 1. | 10 YR2/2 | 黒褐色 含炭化物・黄褐色土粒(少量)   |
| 2. | 10 YR3/3 | 暗褐色 含黄褐色土粒(多量)       |
| 3. | 10 YR4/4 | 褐色~10YR5/8 黄褐色、混暗褐色土 |
| 4. | 10 YR4/4 | 褐色~10YR5/8 黄褐色、混暗褐色土 |
| 5. | 10 YR5/8 | 黄褐色                  |
| 6. | 10 YR4/4 | 褐色                   |
| 7. | 10 YR5/8 | 黄褐色~10YR4/4 褐色       |
| 8. | 10 YR3/4 | 暗褐色 粘土質(硬)、含浮石       |

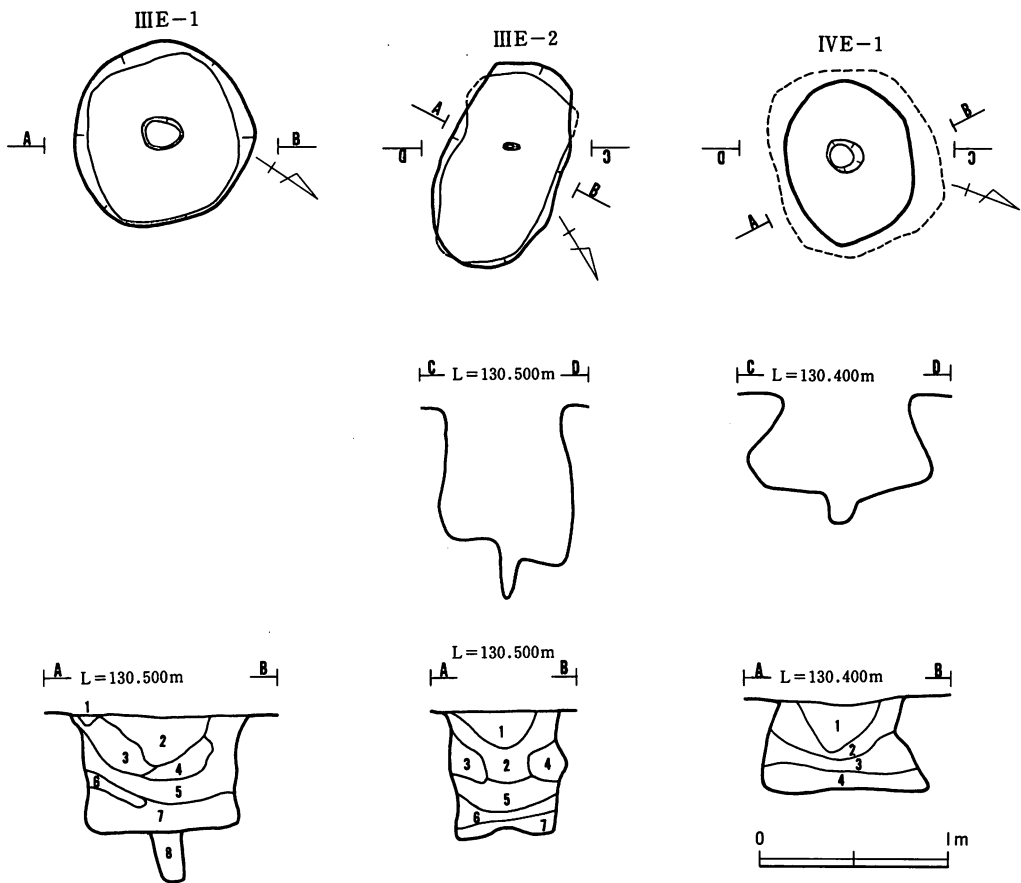
III G-2



III G-2号陥穴

- | 層位  | 色調       | 土性                          |
|-----|----------|-----------------------------|
| 1.  | 7.5YR4/2 | 灰褐色 含炭化物・黄褐色土粒              |
| 2.  | 7.5YR4/4 | 褐色 含炭化物                     |
| 3.  | 7.5YR4/6 | 褐色 含炭化物・焼土(微量)              |
| 4.  | 7.5YR3/4 | 暗褐色 含炭化物・焼土(少量)、3層の黒色化      |
| 5.  | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 粘土質、含焼土(微量)           |
| 6.  | 10 YR5/8 | 黄褐色 地山によごれ入る                |
| 7.  | 7.5YR2/2 | 黒褐色 含炭化物・焼土・黄褐色土粒・黄褐色土粒(少量) |
| 8.  | 10 YR4/6 | 褐色 混黒色土                     |
| 9.  | 10 YR5/8 | 黄褐色 地山のくずれたもの               |
| 10. | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 含炭化物・焼土(少量)            |
| 11. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 含黄褐色土粒(少量)              |
| 12. | 7.5YR4/4 | 褐色 粘土質(硬)                   |

第66図 陥 穴(3) : III G-1、III G-2号



III E-1 陷穴

层位	色型	土性
1.	7.5 YR 4/4	褐色 夹土
2.	10 YR 2/1	黑色 含浮石
3.	10 YR 3/3	暗褐色 含黄褐色土粒
4.	10 YR 2/2	黑褐色 含浮石(少量)
5.	10 YR 3/2	黑褐色 混黑色土、含浮石
6.	10 YR 4/6	褐色 粘土质
7.	10 YR 3/4	暗褐色 含浮石

III E-2 号陷穴

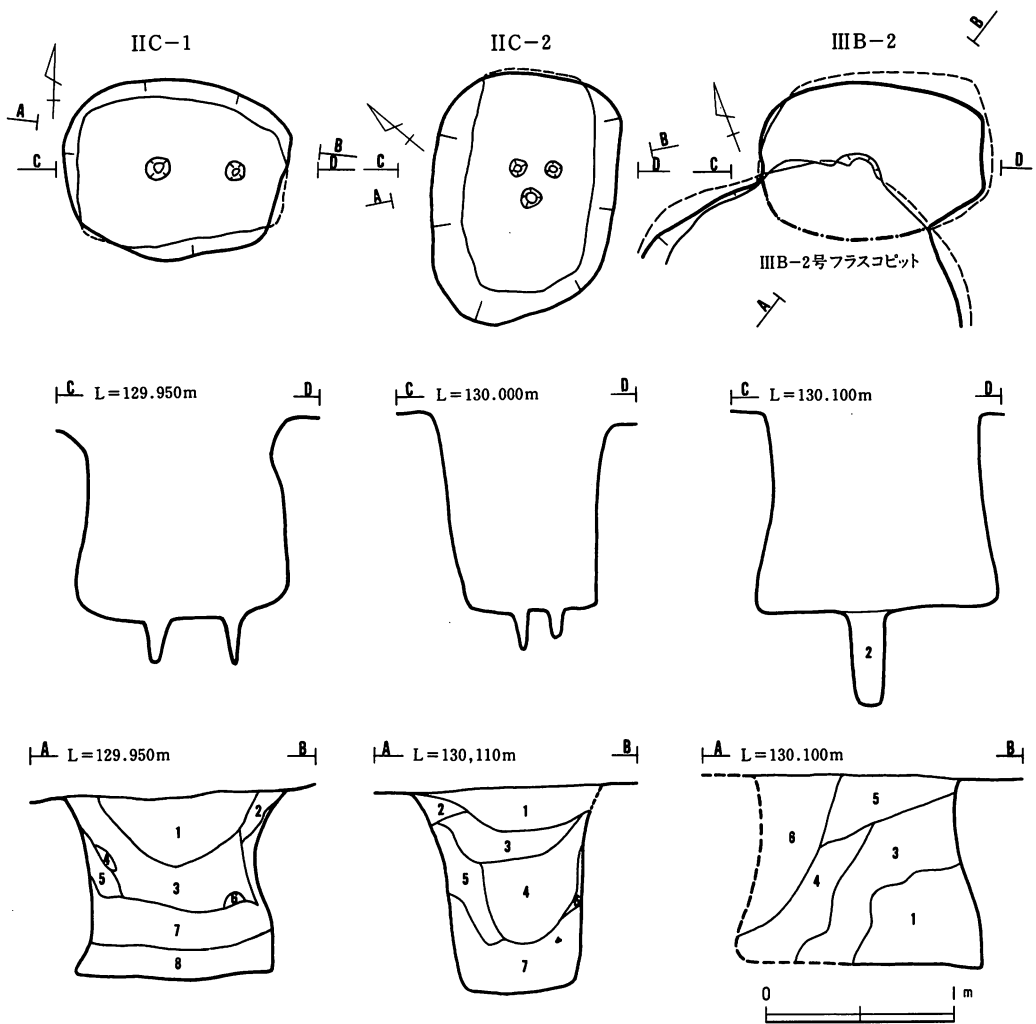
层位	色调	土性
1.	7.5 YR 3/2	黑褐色 含黄褐色土粒·浮石
2.	7.5 YR 2/2	黑褐色 含黄褐色土粒
3.	7.5 YR 4/4	褐色 混暗褐色土
4.	7.5 YR 4/3	褐色 含炭化物(少量)
5.	7.5 YR 3/2	黑褐色 含黄褐色土粒
6.	7.5 YR 4/4	褐色 混黑色土
7.	10 YR 4/6	褐色 含浮石(多量)

IV E-1 号陷穴

层位	色调	土性
1.	7.5 YR 2/2	黑褐色 含黄褐色土粒(多量)·浮石
2.	7.5 YR 4/4	褐色 混黑色土
3.	7.5 YR 4/4	褐色 含黄褐色土粒(多量)
4.	7.5 YR 3/3	暗褐色 含浮石

第67图 陷穴(4): III E-1、III E-2、IV E-1号





II C-1号陥穴

- | 層位 | 色調            | 土性              |
|----|---------------|-----------------|
| 1. | 7.5YR1.7/1 黒色 | 含炭化物(微量)・浮石(少量) |
| 2. | 7.5YR3/3 暗褐色  | 粘土質(硬)、含浮石(微量)  |
| 3. | 7.5YR3/2 黒褐色  | 含炭化物(微量)・浮石(多量) |
| 4. | 7.5YR5/6 明褐色  | 粘土質(硬)、含浮石(微量)  |
| 5. | 7.5YR4/3 褐色   | 含浮石             |
| 6. | 10YR4/6 褐色    | 粘土質(柔)          |
| 7. | 10YR4/6 褐色    | 粘土質(硬)、含浮石      |
| 8. | 10YR4/3 褐色    | 粘土質(柔)、含浮石(多量)  |

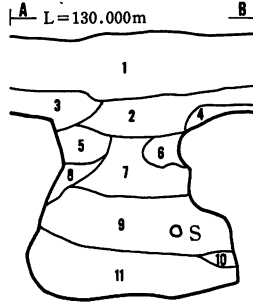
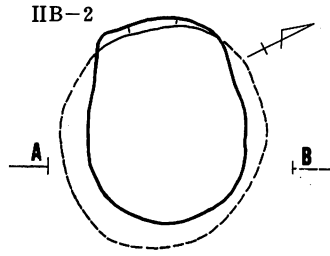
II C-2号陥穴

- | 層位 | 色調            | 土性                                 |
|----|---------------|------------------------------------|
| 1. | 7.5YR2/2 黒褐色  | 含炭化物(微量)・黄褐色土粒(多量)                 |
| 2. | 10YR3/3 暗褐色   | 含黄褐色土粒                             |
| 3. | 10YR2/3 黒褐色   | 含黄褐色土粒(多量)                         |
| 4. | 7.5YR1.7/1 黒色 | 7.5YR5/8 明褐色 含黄褐色土粒(多量)・炭化物(微量)・浮石 |
| 5. | 7.5YR2/2 黒褐色  | 7.5YR5/6 明褐色 粘土質(柔)、含黄褐色土粒(少量)     |
| 6. | 7.5YR4/4 褐色   | 粘土質(柔)                             |
| 7. | 7.5YR5/6 明褐色  | 粘土質(柔)                             |

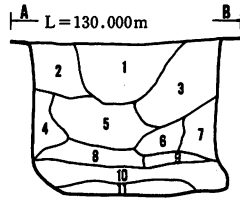
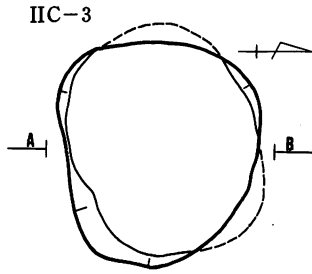
II B-2号陥穴

- | 層位   | 色調                | 土性       |
|------|-------------------|----------|
| 1.   | 7.5YR2/2 黒褐色      | 含炭化物(微量) |
| 2.   | 7.5YR3/3 暗褐色      | 含黄褐色土粒   |
| 3-6. | II B-2号フラスコビットの埋土 |          |

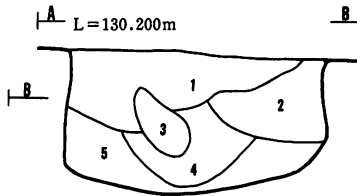
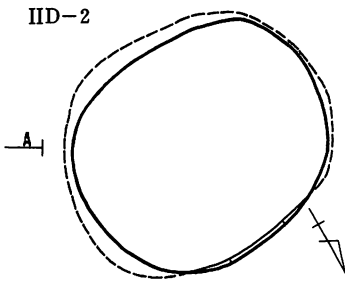
第68図 陥 穴(5)：II C-1、II C-2、II B-2号



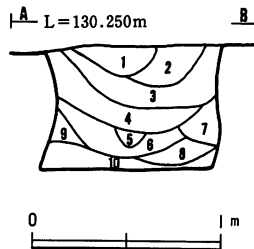
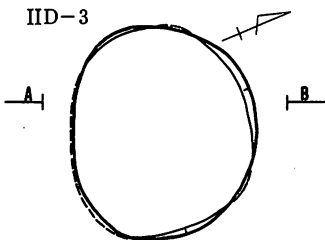
- II B-2号陷穴**
- | 层位  | 色调                       | 土性                   |
|-----|--------------------------|----------------------|
| 1.  | 10YR2/3 黑褐色              | 含炭化物(少量)·浮石(微量)      |
| 2.  | 7.5YR2/2 黑褐色             | 含炭化物·浮石(微量)          |
| 3.  | 7.5YR2/2 黑褐色             | 搅乱                   |
| 4.  | 7.5YR3/4 暗褐色             | 粘土质                  |
| 5.  | 7.5YR4/4 褐色~7.5YR2/2 黑褐色 | 粘土质                  |
| 6.  | 7.5YR5/6 明褐色             | ~7.5YR3/3 暗褐色 粘土质(硬) |
| 7.  | 7.5YR2/2 黑褐色             | 含炭化物(微量)             |
| 8.  | 7.5YR5/6 明褐色             |                      |
| 9.  | 7.5YR2/2 黑褐色             | 含黄褐色土粒·炭化物(微量)       |
| 10. | 7.5YR5/6 明褐色             | 粘土质(硬)               |
| 11. | 7.5YR2/3 暗褐色             | 含黄褐色土粒·炭化物(微量)       |



- II C-3号陷穴**
- | 层位  | 色调           | 土性                  |
|-----|--------------|---------------------|
| 1.  | 7.5YR2/2 黑褐色 | 含炭化物(微量)·浮石(多量)     |
| 2.  | 7.5YR4/4 褐色  | 粘土质·含炭化物(微量)·浮石(多量) |
| 3.  | 7.5YR4/3 褐色  | 含炭化物(微量)·浮石(多量)     |
| 4.  | 7.5YR5/6 明褐色 | 粘土质                 |
| 5.  | 7.5YR3/2 黑褐色 | 含炭化物(多量)·浮石         |
| 6.  | 7.5YR3/4 暗褐色 | 含炭化物(微量)·浮石(多量)     |
| 7.  | 7.5YR4/4 褐色  | 粘土质(柔)·含浮石          |
| 8.  | 7.5YR3/3 暗褐色 | 粘土质(硬)·含浮石(少量)      |
| 9.  | 7.5YR4/3 褐色  | 粘土质(硬)·含浮石(多量)      |
| 10. | 7.5YR3/4 暗褐色 | 粘土质(硬)·含浮石(多量)      |
| 11. | 7.5YR3/2 黑褐色 | 含浮石(多量)             |

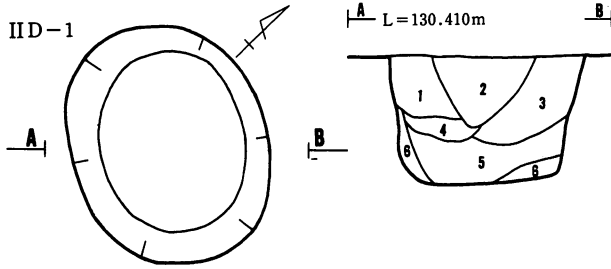


- II D-2号陷穴**
- | 层位 | 色调                     | 土性            |
|----|------------------------|---------------|
| 1. | 10YR2/2 黑褐色~10YR2/1 黑色 | 含黄褐色土粒(少量)·浮石 |
| 2. | 10YR3/3 暗褐色            | 含黄褐色土粒(少量)·浮石 |
| 3. | 10YR5/6 黄褐色            | 含黄褐色土粒(少量)·浮石 |
| 4. | 10YR2/2 黑褐色            | 含浮石           |
| 5. | 10YR3/4 暗褐色            | 粘土质           |



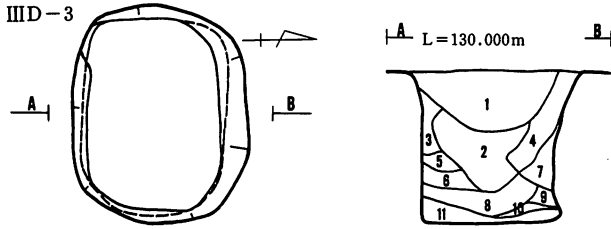
- II D-3号陷穴**
- | 层位  | 色调          | 土性                    |
|-----|-------------|-----------------------|
| 1.  | 10YR2/2 黑褐色 | 含黄褐色土粒(多量)            |
| 2.  | 10YR3/4 暗褐色 | 含黄褐色土粒(多量)            |
| 3.  | 10YR3/3 暗褐色 | ~10YR4/6 褐色 含黄褐色土粒·浮石 |
| 4.  | 10YR5/6 黄褐色 | 含炭化物(微量)              |
| 5.  | 10YR4/6 褐色  |                       |
| 6.  | 10YR3/4 暗褐色 | 含炭化物(微量)·黄褐色土粒(少量)    |
| 7.  | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土质                   |
| 8.  | 10YR4/6 褐色  | 粘土质(硬)                |
| 9.  | 10YR4/6 褐色  |                       |
| 10. | 10YR4/4 褐色  | 粘土质(硬)·含浮石            |

第69图 陷穴(6) : IB-2、IC-3、ID-2、ID-3号



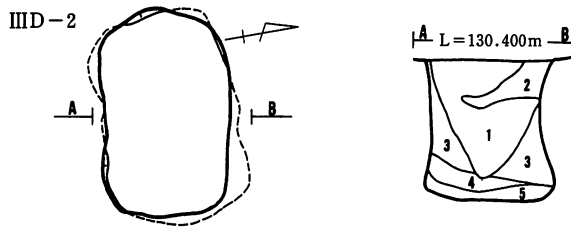
IID-1号陥穴

- | 層位 | 色調          | 土性                      |
|----|-------------|-------------------------|
| 1. | 10YR4/6 褐色  | 含黄褐色土粒(少量)・浮石           |
| 2. | 10YR3/1 黑褐色 | 含黄褐色土粒・浮石               |
| 3. | 10YR4/4 褐色  | 含黄褐色土粒・浮石               |
| 4. | 10YR2/3 黑褐色 | 含浮石                     |
| 5. | 10YR4/4 褐色  | ~10YR3/1 黑褐色 含黄褐色土粒(少量) |
| 6. | 10YR5/6 黄褐色 |                         |



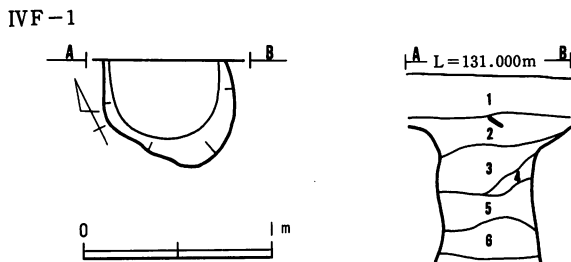
IID-3号陥穴

- | 層位  | 色調          | 土性         |
|-----|-------------|------------|
| 1.  | 10YR3/2 黑褐色 | 含黄褐色土粒・浮石  |
| 2.  | 7.5YR4/3 褐色 | 含黄褐色土粒     |
| 3.  | 10YR2/2 黑褐色 | 含黄褐色土粒     |
| 4.  | 7.5YR4/3 褐色 | 含黄褐色土粒(少量) |
| 5.  | 10YR4/6 褐色  | 混黑色土       |
| 6.  | 10YR3/3 暗褐色 |            |
| 7.  | 10YR4/6 褐色  | 粘土質        |
| 8.  | 10YR4/6 褐色  | 混黑色土       |
| 9.  | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土質        |
| 10. | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質        |
| 11. | 10YR4/4 褐色  |            |



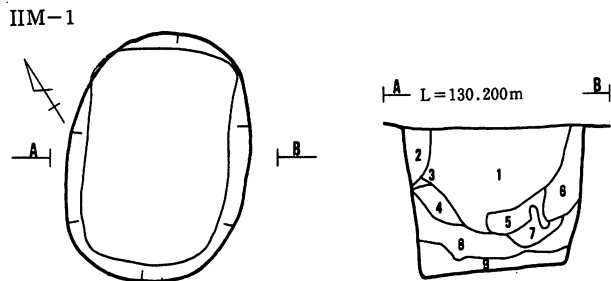
IID-2号陥穴

- | 層位 | 色調          | 土性            |
|----|-------------|---------------|
| 1. | 10YR2/1 黑色  | 含黄褐色土粒(少量)・浮石 |
| 2. | 10YR2/3 黑褐色 | 含浮石           |
| 3. | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質           |
| 4. | 10YR3/4 暗褐色 | 粘土質           |
| 5. | 10YR2/3 黑褐色 | 含浮石           |



IVF-1号陥穴

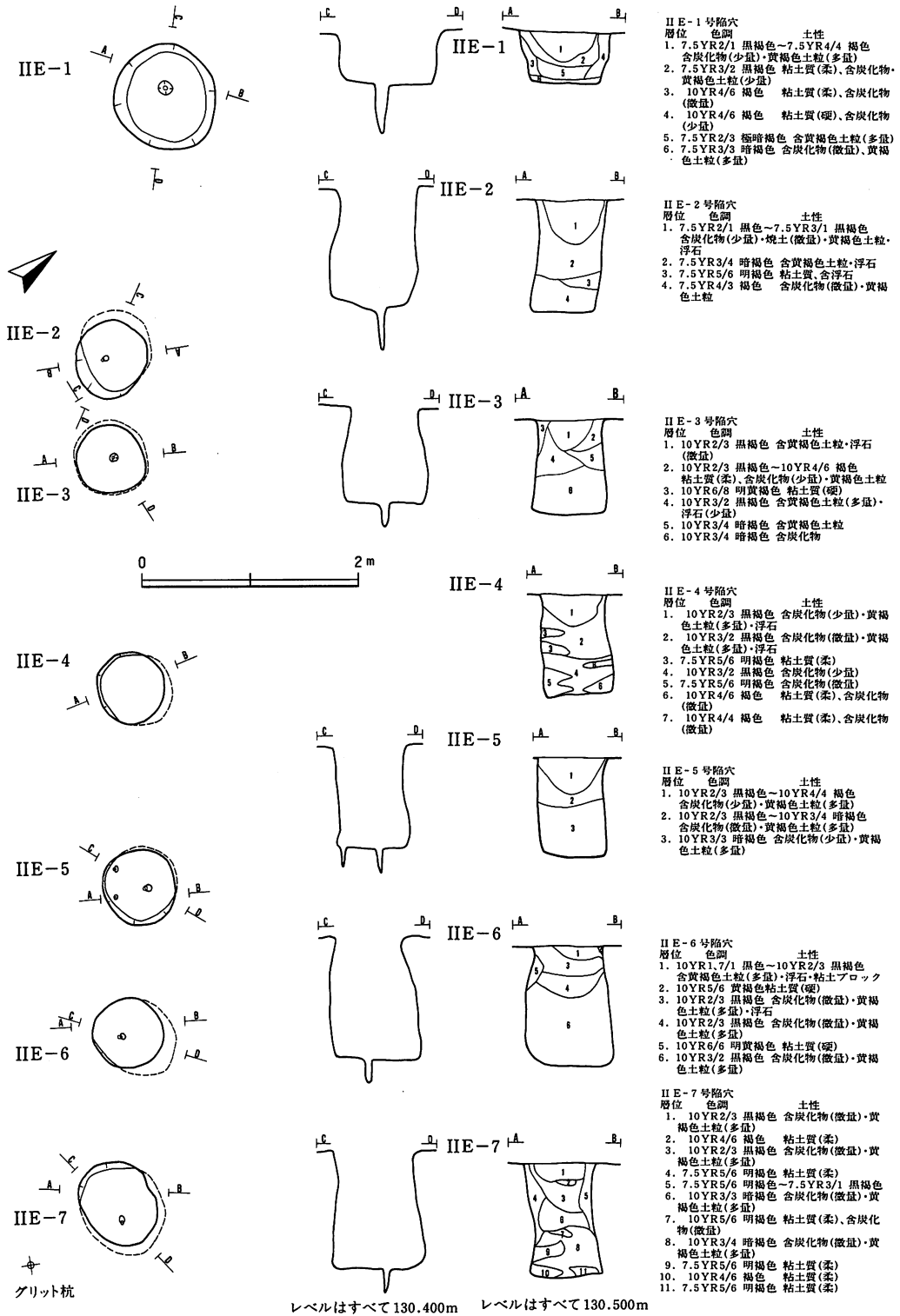
- | 層位 | 色調             | 土性             |
|----|----------------|----------------|
| 1. | 7.5YR2/2 黑褐色   | 盛り土            |
| 2. | 7.5YR4/4 褐色    | 含炭化物(少量)・浮石    |
| 3. | 7.5YR3/4 暗褐色   | 含炭化物(少量)・黄褐色土粒 |
| 4. | 7.5YR4/3 褐色    | 含焼土(少量)・炭化物・浮石 |
| 5. | 7.5YR4/4 褐色    | 含焼土(少量)・炭化物・浮石 |
| 6. | 7.5YR5/6 明褐色   | 含浮石・粘土ブロック     |
| 7. | 10YR5/4 におい黄褐色 | 粘土質(硬)・含浮石     |



IIM-1号陥穴

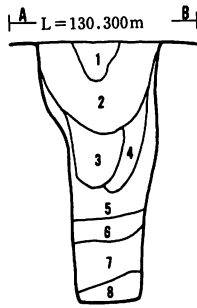
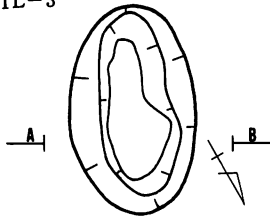
- | 層位 | 色調             | 土性                       |
|----|----------------|--------------------------|
| 1. | 10YR2/1 黑色     | 含黄褐色土粒(多量)               |
| 2. | 10YR4/3 におい黄褐色 | 粘土質(硬)                   |
| 3. | 10YR3/2 黑褐色    |                          |
| 4. | 10YR5/4 におい黄褐色 | 混黑色土                     |
| 5. | 10YR2/1 黑色     | 含黄褐色土粒                   |
| 6. | 10YR4/3 におい黄褐色 | 含浮石                      |
| 7. | 10YR5/6 黄褐色    | 混黑色土                     |
| 8. | 10YR5/6 黄褐色    | ~10YR5/8 黄褐色 含炭化物(微量)・浮石 |
| 9. | 10YR4/4 褐色     | ~10YR5/6 黄褐色 含浮石         |

第70図 陥穴(7): IID-1、IID-3、IID-2、IVF-1、IIM-1号



第71図 陥穴(8): II E-1~7号陥穴配置図

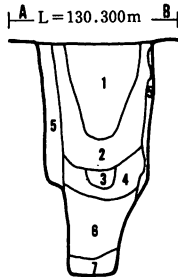
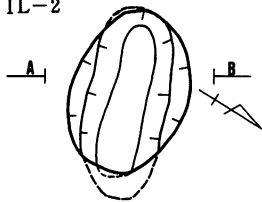
IL-3



I L-3号陥穴

- | 層位 | 色調          | 土性                              |
|----|-------------|---------------------------------|
| 1. | 10YR2/3 黒褐色 | 含炭化物・黄褐色土粒(多量)                  |
| 2. | 10YR5/6 黄褐色 | 混暗褐色土・粘土質(硬)・含炭化物(少量)・浮石        |
| 3. | 10YR5/6 黄褐色 | 混暗褐色土・粘土質(柔)・含炭化物(少量)・黄褐色土粒(多量) |
| 4. | 10YR5/6 黄褐色 | 混にふい黄褐色・粘土質(柔)・含炭化物(少量)         |
| 5. | 10YR4/6 褐色  | 粘土質(柔)・含炭化物(少量)                 |
| 6. | 10YR5/8 黄褐色 | 粘土質(柔)・含炭化物(微量)                 |
| 7. | 10YR5/8 黄褐色 | 粘土質(柔)・含炭化物(微量)・黄褐色土粒(多量)       |
| 8. | 10YR4/4 褐色  | 含炭化物・黄褐色土粒(多量)                  |

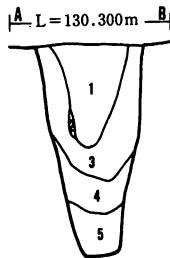
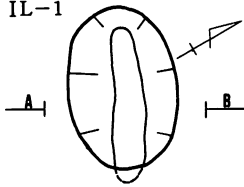
IL-2



I L-2号陥穴

- | 層位 | 色調          | 土性                     |
|----|-------------|------------------------|
| 1. | 10YR2/1 黒色  | 含炭化物(少量)・黄褐色土粒(多量)・浮石  |
| 2. | 10YR5/6 黄褐色 | ~10YR6/8 明黄褐色 混黒色土・含浮石 |
| 3. | 10YR4/6 褐色  | 粘土質(柔)                 |
| 4. | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土質                    |
| 5. | 10YR5/8 黄褐色 | 粘土質(硬)・含浮石             |
| 6. | 10YR4/6 褐色  | 粘土質・含黄褐色土粒(少量)・浮石      |
| 7. | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土質                    |

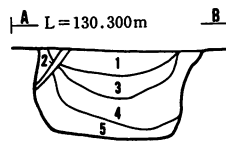
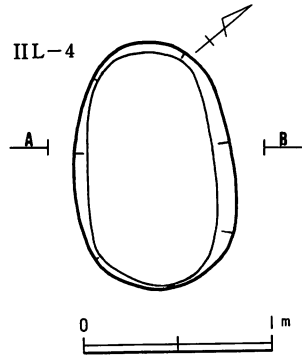
IL-1



I L-1号陥穴

- | 層位 | 色調          | 土性                    |
|----|-------------|-----------------------|
| 1. | 10YR3/2 黒褐色 | 含炭化物(微量)・浮石           |
| 2. | 10YR3/3 暗褐色 | 含浮石                   |
| 3. | 10YR3/6 黄褐色 | ~10YR5/8 黄褐色 混黒色土・含浮石 |
| 4. | 10YR5/8 黄褐色 | 粘土質(柔)                |
| 5. | 10YR5/6 黄褐色 | 粘土質(柔)                |

II L-4



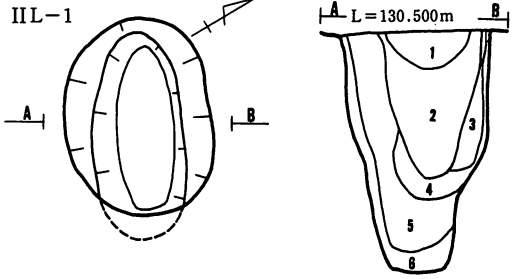
II L-4号陥穴

- | 層位 | 色調             | 土性                |
|----|----------------|-------------------|
| 1. | 10YR4/2 灰黄褐色   | 含炭化物・黄褐色土粒(少量)・浮石 |
| 2. | 10YR3/3 暗褐色    | ~10YR4/6 褐色 含浮石   |
| 3. | 10YR4/3 にふい黄褐色 | 含焼土粒・炭化物          |
| 4. | 10YR4/6 褐色     | 含焼土粒・炭化物・浮石       |
| 5. | 10YR5/6 黄褐色    | 含炭化物(少量)          |

第72図 陥穴(9): I L-1~3、II L-4号

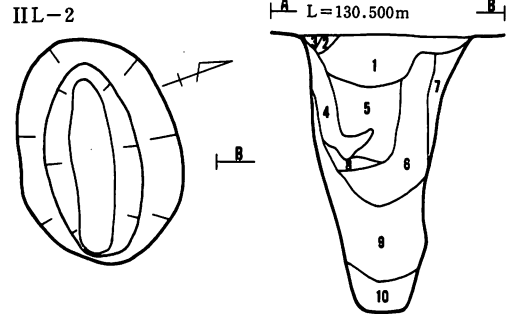
II L-1 号陷穴

- | 層位 | 色調         | 土性                             |
|----|------------|--------------------------------|
| 1. | 10 YR 3/3  | 暗褐色 含黄褐色土粒(多量)・浮石              |
| 2. | 10 YR 3/3  | 暗褐色~10 YR 4/4 褐色 含黄褐色土粒(多量)・浮石 |
| 3. | 10 YR 5/6  | 黄褐色 含浮石                        |
| 4. | 10 YR 5/6  | 黄褐色 混黑色土                       |
| 5. | 7.5 YR 4/6 | 褐色~10 YR 5/6 黄褐色 混黑色土、含浮石      |
| 6. | 10 YR 5/6  | 黄褐色 含浮石                        |

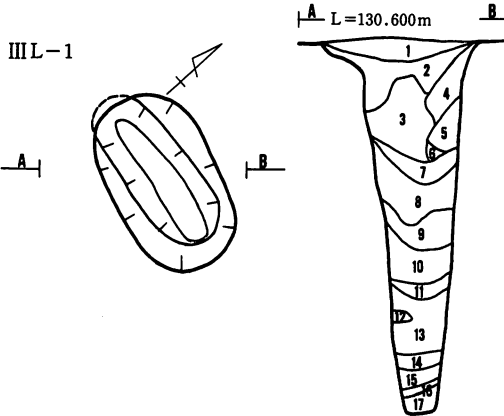


II L-2 号陷穴

- | 層位  | 色調        | 土性                        |
|-----|-----------|---------------------------|
| 1.  | 10 YR 2/3 | 黑褐色 含烧土(微量)・炭化物・黄褐色土粒(少量) |
| 2.  | 10 YR 5/6 | 黄褐色                       |
| 3.  | 10 YR 4/6 | 褐色 含黄褐色土粒                 |
| 4.  | 10 YR 5/6 | 黄褐色~10 YR 6/8 明黄褐色 混黑色土   |
| 5.  | 10 YR 2/1 | 黑色 含炭化物・黄褐色土粒             |
| 6.  | 10 YR 5/6 | 黄褐色~10 YR 4/6 褐色 含炭化物     |
| 7.  | 10 YR 5/8 | 黄褐色 粘土質(硬)、含浮石            |
| 8.  | 10 YR 3/4 | 暗褐色 含炭化物(多量)              |
| 9.  | 10 YR 6/8 | 明黄褐色 含粘土小ブロック             |
| 10. | 10 YR 5/6 | 黄褐色                       |



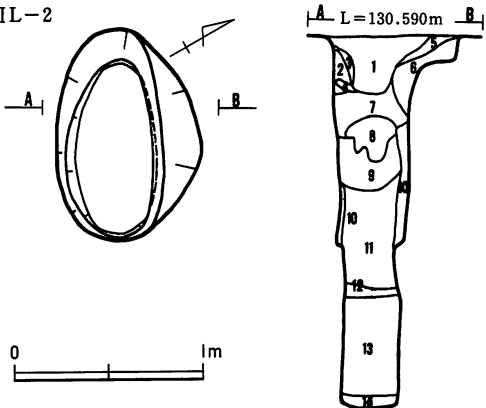
III L-1



III L-1 号陷穴

- | 層位  | 色調         | 土性                            |
|-----|------------|-------------------------------|
| 1.  | 10 YR 2/3  | 黑褐色 含炭化物(微量)                  |
| 2.  | 10 YR 3/4  | 暗褐色 粘土質・含浮石                   |
| 3.  | 10 YR 2/3  | 黑褐色~10 YR 3/4 暗褐色 含炭化物・含浮石    |
| 4.  | 10 YR 4/6  | 褐色 粘土質(柔)、含炭化物(微量)・浮石         |
| 5.  | 10 YR 4/6  | 褐色 粘土質(柔)                     |
| 6.  | 10 YR 4/4  | 褐色 粘土質(柔)                     |
| 7.  | 10 YR 3/4  | 暗褐色 粘土質(柔)、含炭化物(微量)・浮石        |
| 8.  | 10 YR 5/6  | 黄褐色 粘土質(柔)                    |
| 9.  | 10 YR 4/6  | 褐色 粘土質(柔)、含炭化物(微量)            |
| 10. | 7.5 YR 5/6 | 明褐色 粘土質(柔)                    |
| 11. | 7.5 YR 4/6 | 褐色 粘土質(柔)、含炭化物(微量)            |
| 12. | 7.5 YR 5/6 | 明褐色 粘土質(柔)                    |
| 13. | 7.5 YR 4/4 | 褐色 含炭化物・黄褐色土粒(多量)             |
| 14. | 10 YR 5/4  | にぶい 黄褐色 含炭化物・黄褐色土粒(多量)        |
| 15. | 7.5 YR 5/6 | 明褐色 粘土質・含炭化物・黄褐色土粒(少量)        |
| 16. | 10 YR 4/6  | 褐色 粘土質(柔)、含炭化物(微量)            |
| 17. | 7.5 YR 5/6 | 明褐色 粘土質(硬)、含炭化物(微量) 黄褐色土粒(少量) |

III L-2



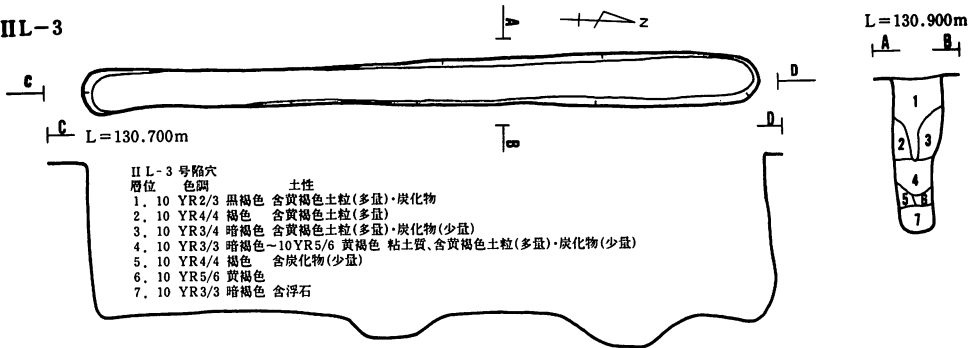
III L-2 号陷穴

- | 層位  | 色調         | 土性                           |
|-----|------------|------------------------------|
| 1.  | 10 YR 2/2  | 黑褐色 含炭化物・黄褐色土粒(微量)           |
| 2.  | 7.5 YR 4/6 | 褐色 粘土質(柔)、含炭化物(微量)           |
| 3.  | 10 YR 3/4  | 暗褐色 粘土質(柔)                   |
| 4.  | 10 YR 2/3  | 黑褐色 含黄褐色土粒(多量)               |
| 5.  | 10 YR 3/4  | 暗褐色 粘土質                      |
| 6.  | 10 YR 4/6  | 褐色 粘土質                       |
| 7.  | 10 YR 3/3  | 暗褐色 含炭化物(微量)・黄褐色土粒(少量)       |
| 8.  | 10 YR 2/1  | 黑色 含炭化物(微量)・黄褐色土粒(多量)・浮石     |
| 9.  | 10 YR 4/6  | 褐色 粘土質(硬)、含炭化物(微量)・黄褐色土粒(少量) |
| 10. | 10 YR 6/6  | 明黄褐色 粘土質(硬)、含炭化物(微量)         |
| 11. | 10 YR 6/6  | 明黄褐色 含炭化物(微量)                |
| 12. | 10 YR 2/2  | 黑褐色 含炭化物(多量)・黄褐色土粒(少量)       |
| 13. | 10 YR 6/6  | 明黄褐色 粘土質(柔)、含炭化物・黄褐色土粒(少量)   |
| 14. | 10 YR 5/4  | にぶい 黄褐色 粘土質、含炭化物・黄褐色土粒(多量)   |

第73图 陷穴(10)：II L-1、II L-2、III L-1、III L-2号

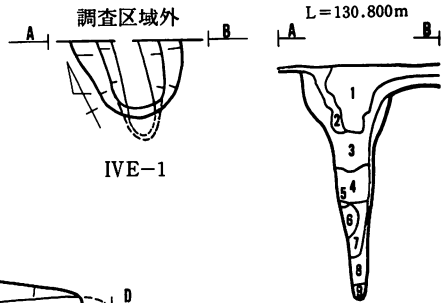


III-L-3

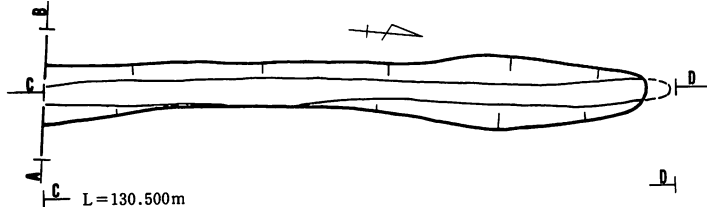


IV L-1 号陷穴

- 层位 色调 土性
- 7.5YR2/2 黑褐色 含炭化物(少量)·黄褐色土粒(多量)
  - 10 YR2/2 黑褐色 含炭化物(少量)·黄褐色土粒(多量)
  - 10 YR3/2 黑褐色 含炭化物(少量)·黄褐色土粒(多量)
  - 10 YR3/4 暗褐色 含炭化物·黄褐色土粒(多量)
  - 10 YR4/6 褐色 粘土质(柔)
  - 10 YR4/3 二·三 黄褐色 含炭化物(少量)·黄褐色土粒(多量)
  - 10 YR3/2 黑褐色 粘土质、含炭化物(多量)·黄褐色土粒(少量)
  - 10 YR5/6 黄褐色粘土质 含炭化物(少量)·黄褐色土粒(多量)
  - 7.5YR4/2 灰褐色 含炭化物·黄褐色土粒(多量)

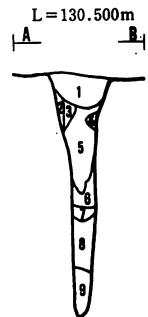


III-M-1

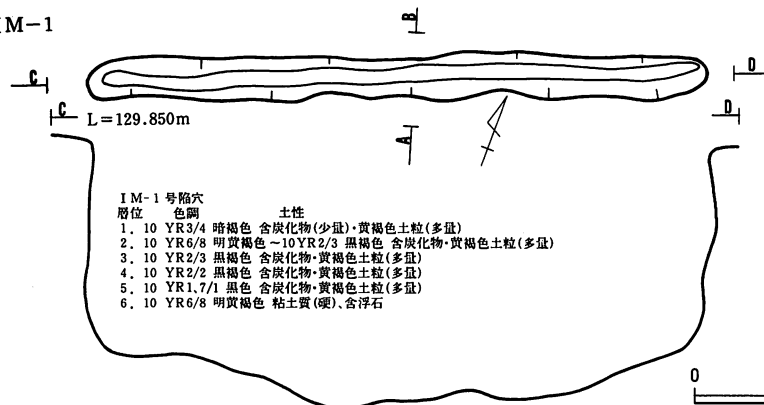


III-M-1 号陷穴

- 层位 色调 土性
- 10 YR2/2 黑褐色 含炭化物·黄褐色土粒(微量)
  - 10 YR6/8 明黄褐色 粘土质(柔)
  - 7.5YR2/2 黑褐色 含黄褐色土粒(少量)
  - 7.5YR5/6 明褐色 粘土质(柔)
  - 7.5YR5/6 明褐色-7.5YR2/2 黑褐色 含黄褐色土粒(多量)·炭化物
  - 7.5YR6/8 橙色 粘土质(柔)·含炭化物(微量)
  - 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物·黄褐色土粒(多量)
  - 7.5YR5/6 明褐色 粘土质·炭化物(微量)
  - 7.5YR3/4 暗褐色 含炭化物·黄褐色土粒(多量)

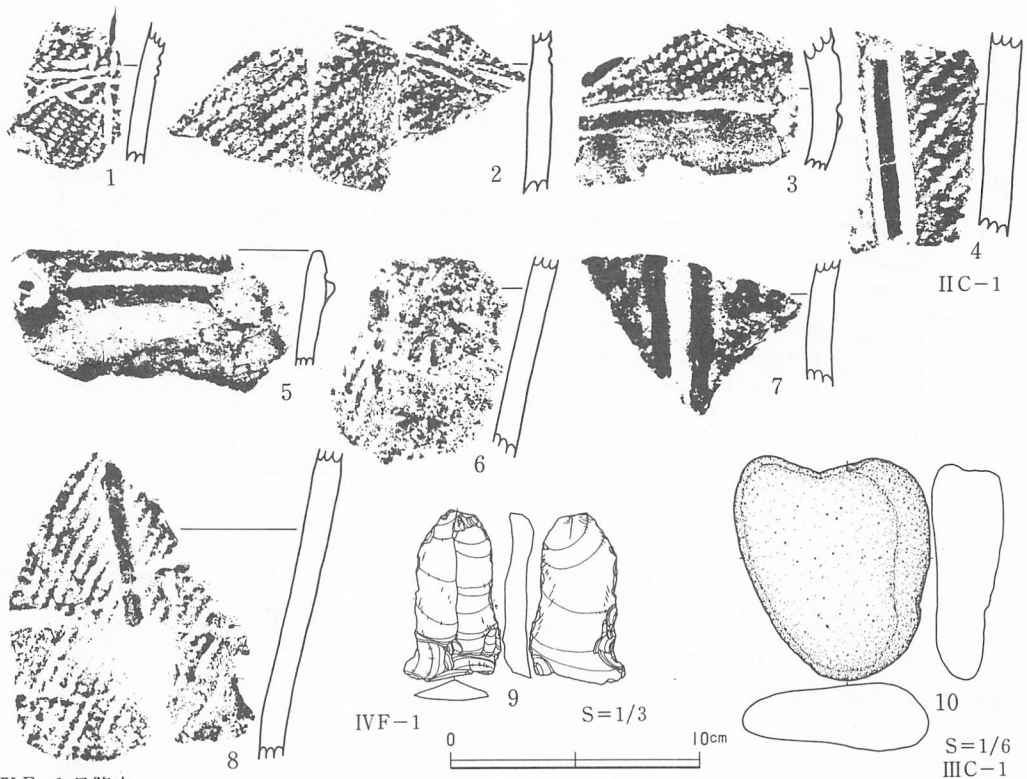


IM-1



L = 129.850m

第74图 陷穴(II): II-L-3、IV-E-1、IM-1、III-M-1号

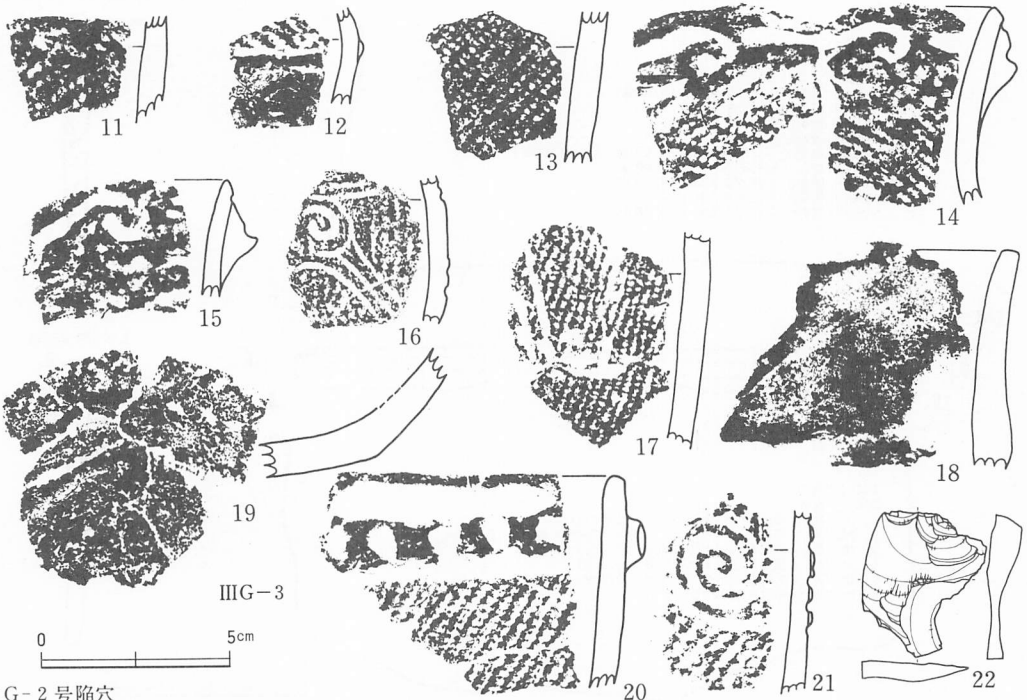


IV F-1 号陥穴

図版No	出土地点	器種	長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	産地
9	埋土2層	不定形石器	6.8	3.9	1.1	23.2	珪質泥岩	奥羽山地・新第三系中新統

III C-1 号陥穴

図版No	出土地点	器種	長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	産地
10	埋土3層褐色土	自然礫	17.8	15.5	5.9	1,560	輝石安山岩	奥羽山地(夏油川) 新第三系鮮新統



III G-2 号陥穴

図版No	出土地点	器種	長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	産地
22	III G-2号陥穴貼床	剝片	2.9	3.3	0.9	6.5	珪質泥岩	奥羽山地 新第三系中新統

1~4: III C-1号、5~9: IV F-1号  
10: III C-1号、11~22: III G-2号

第75図 陥穴出土遺物

## V. 遺構外出土の遺物

### 1. 一括廃棄土器群 (第76～78図、写真図版69・70)

IVC区西側、調査区域外に近い地点で、一括して廃棄された土器群を検出した。大きくは一つの地域であるが、間に無遺物の空間があったのでA群とB群に分けた。両群とも完形品を廃棄したものではなく、一部欠損あるいはバラバラになった土器片で構成されている。復原できたのはA群の5点のみで、他は破片のみである。B群には1点擦石が含まれている。土器はいずれも大木8b式の範疇に属するもので、A、B群ともキャリパー型の深鉢が多く、浅鉢は見られない。周辺には焼土、炭化物、灰などは確認できなく、特殊な遺物も存在しなかった。たんなる土器の捨て場とみなすべきであろう。

### 2. 縄文時代の土器 (第79～84図、写真図版71・72)

再三述べているように、当遺跡は昭和40年代の開田の際に地山まで削平されており、遺構と遺物の保存状態は不良である。特に、遺構外出土の遺物は破損が甚だしく、かつ原位置を保っていない。包含層が移動しているため、各グリットから遺物が出土するが、それでも遺構の集中する周辺からより多く出土する傾向は認められた。図化できた土器の殆どは開田されていないA～C区出土である。原位置を保っている土器の図には出土地点を記載したが、そうでないものはナンバーのみを付してある。

器種は深鉢と浅鉢が基本で、これに少量の小型深鉢と手捏土器(14)および注口土器(15)が含まれる。深鉢型土器は口縁部が直立気味で隆線文および突起、橋状肥手が付くもの(17～23)、キャリパー状で隆沈線文による渦文、平行沈線を主体とする一群(24～58)、口縁部にのみ隆沈線のある粗製土器(76～106)等に分類される。浅鉢は数が少なく、破片で5点(124～128)を確認したのみである。いずれも無文で底部は磨かれている。これらの土器は総じて大木8b式に含まれるが、数例他型式の土器が存在する。17、18は大木8a式に、12、119は大木7式に相当するものであろう。

### 3. 平安時代の土器 (第80図16、写真図版71)

土師器が一点のみ、ほぼ完形で出土した。地点は調査区東端に近いIII区N区の斜面黒色土中である。付近では焼土も若干検出されており、遺構にからむ土師器の可能性が高い。黒色土中に構築された住居跡が流失あるいは破壊され、土器と焼土の一部が残ったものと考えられる。糸切痕のある坏で、10世紀代の年代が与えられる。

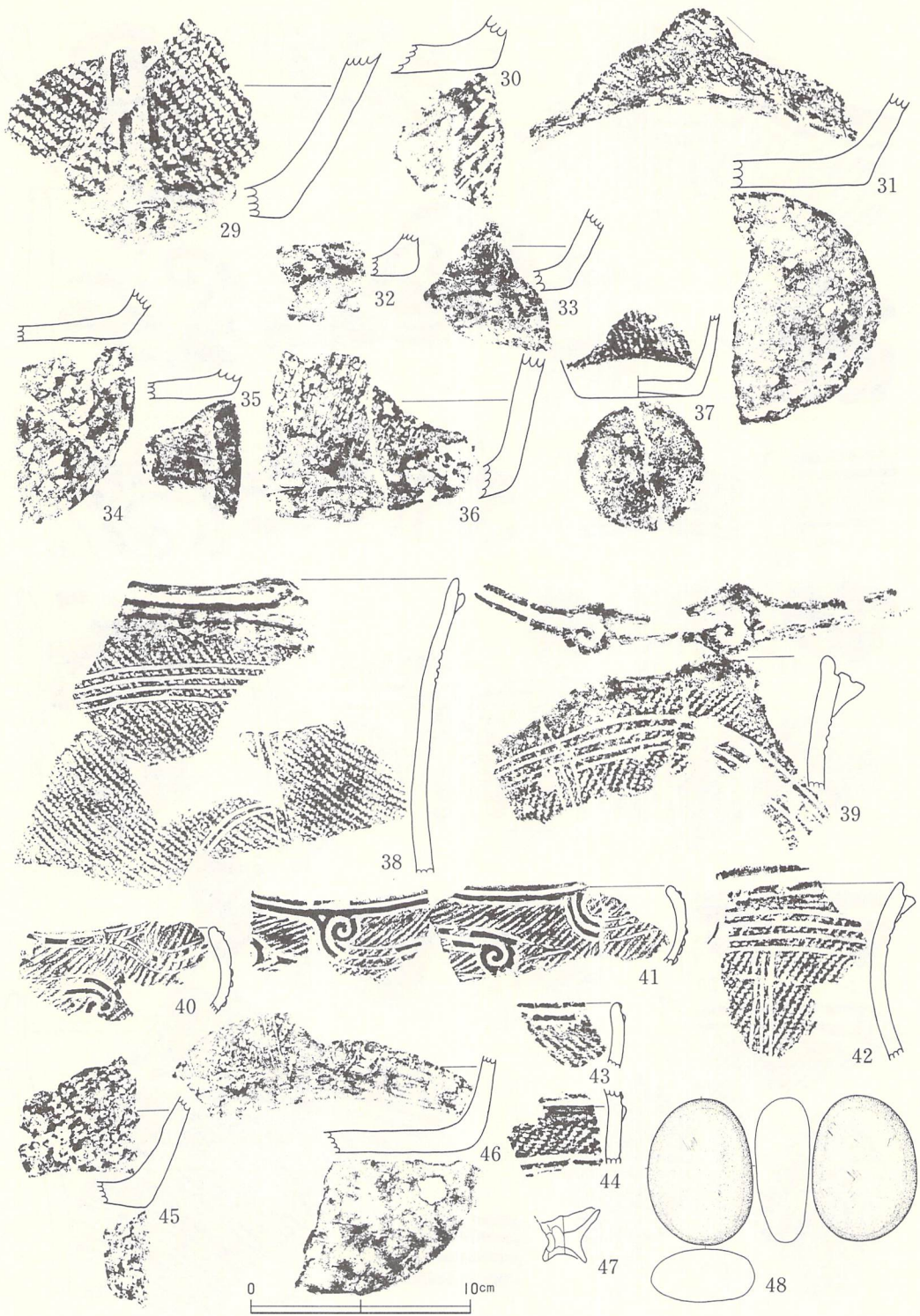


第76图 一括廃棄土器群：ⅣC区A群(1)



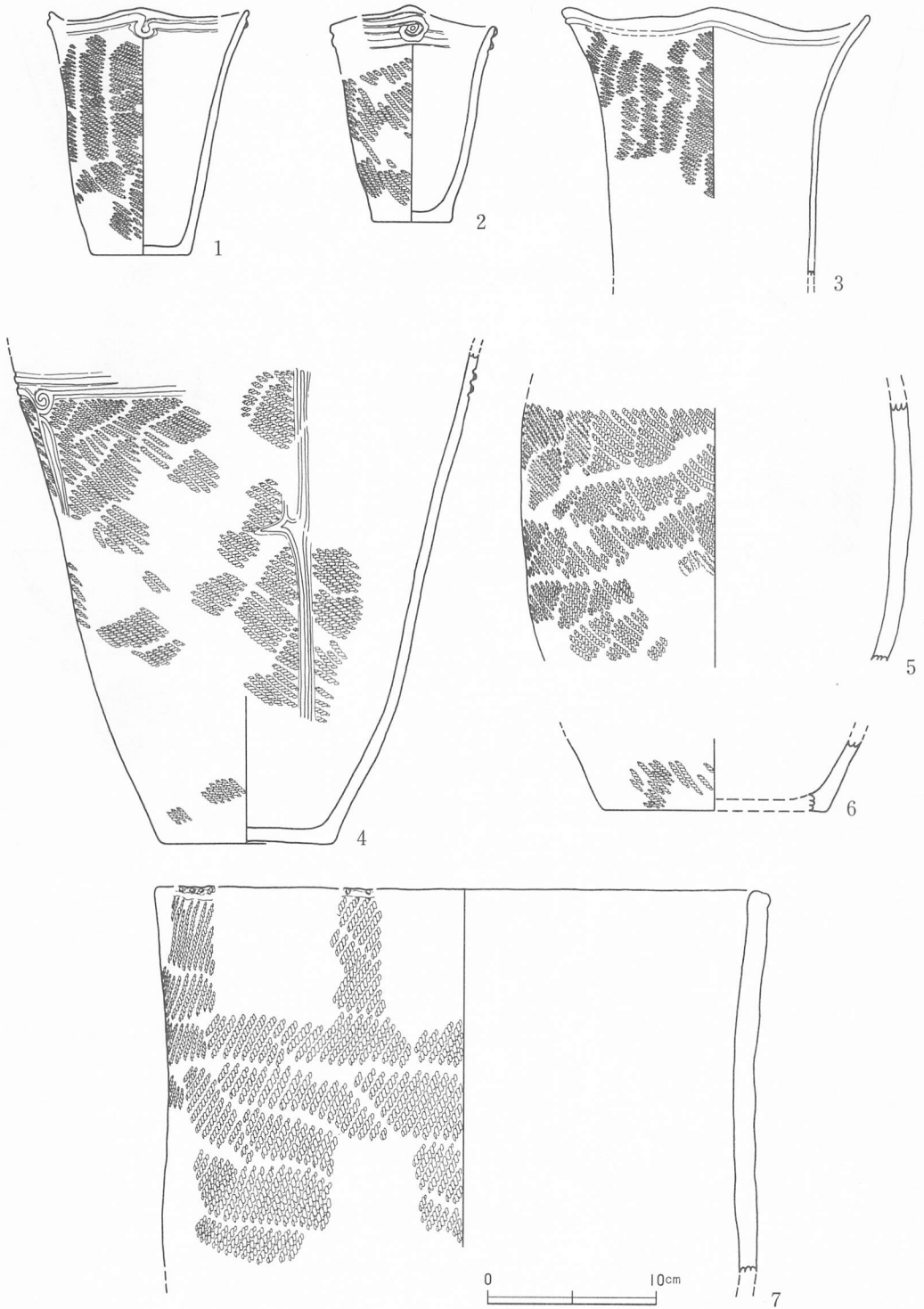
第77图 一括廃棄土器群：IVc区A群(2)



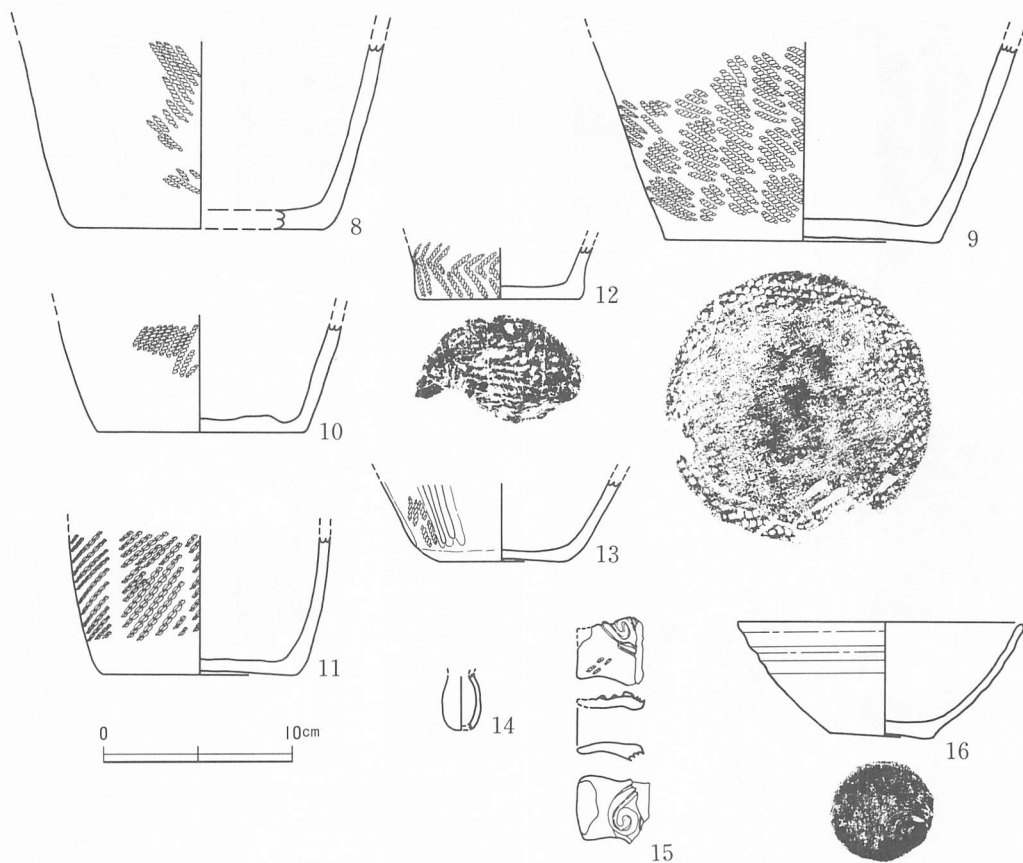


第78图 一括鹿棄土器群：IVC区A群(3)・B群

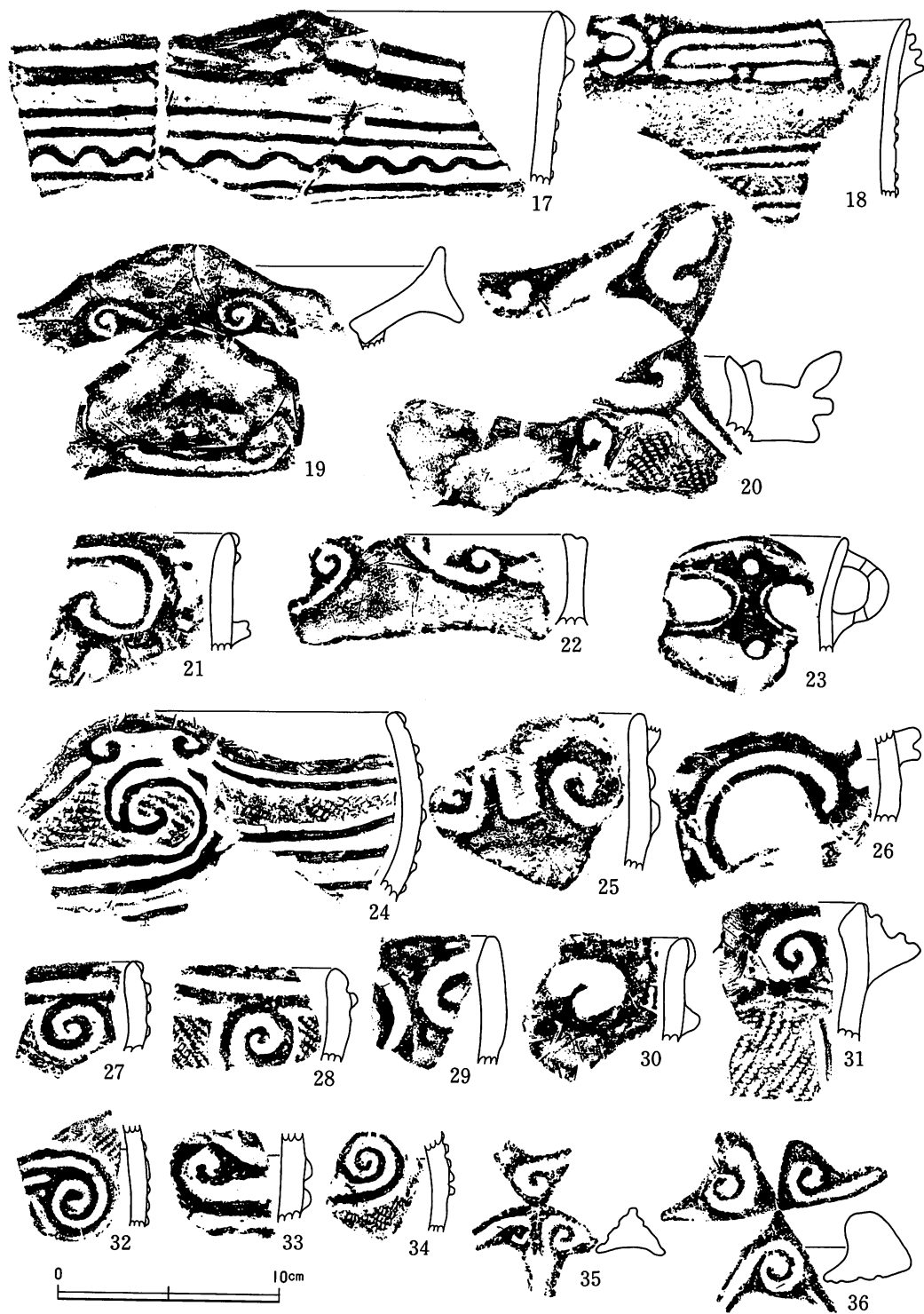




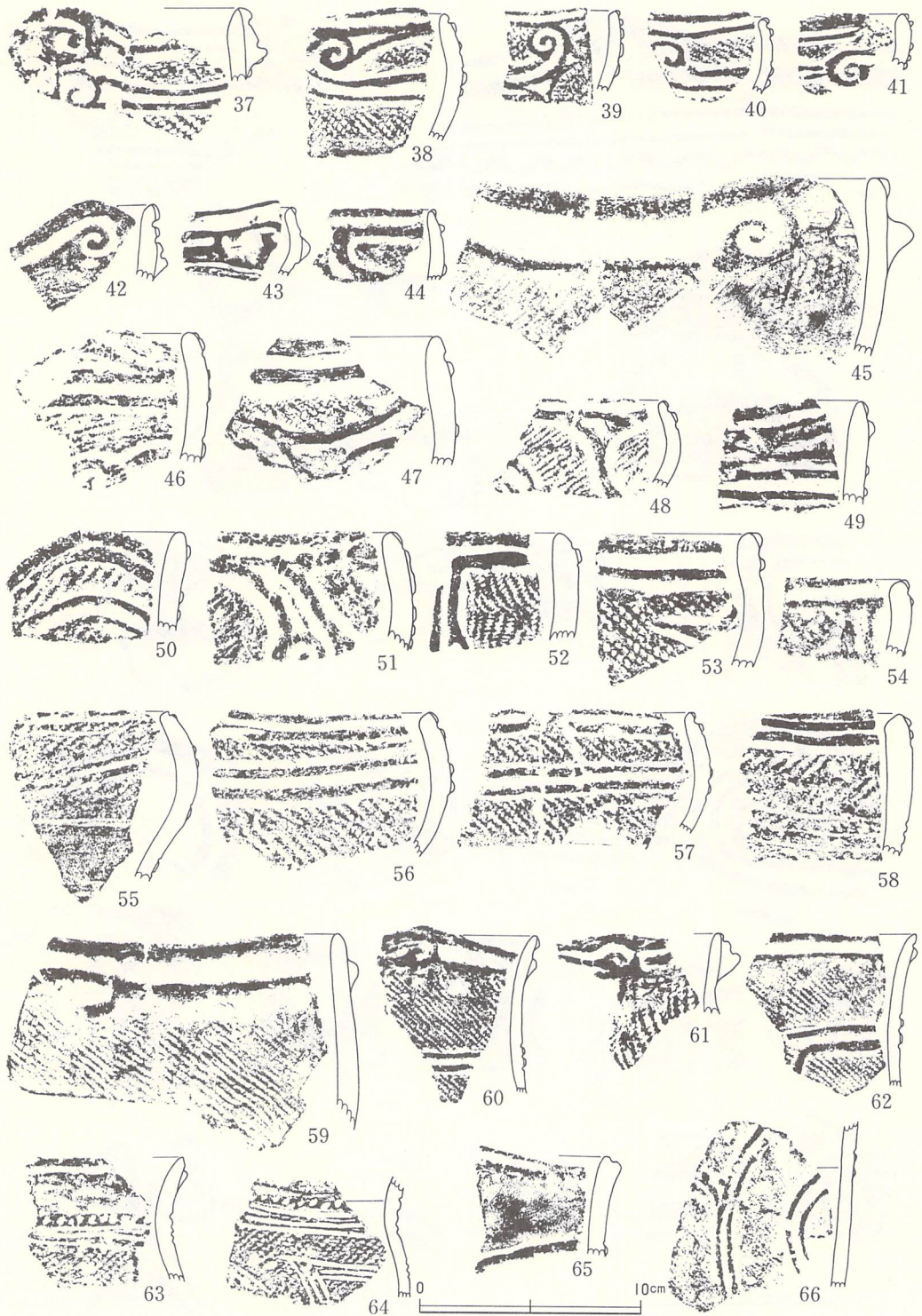
第79図 遺構外遺物：土器(1)



第80図 遺構外遺物：土器(2)



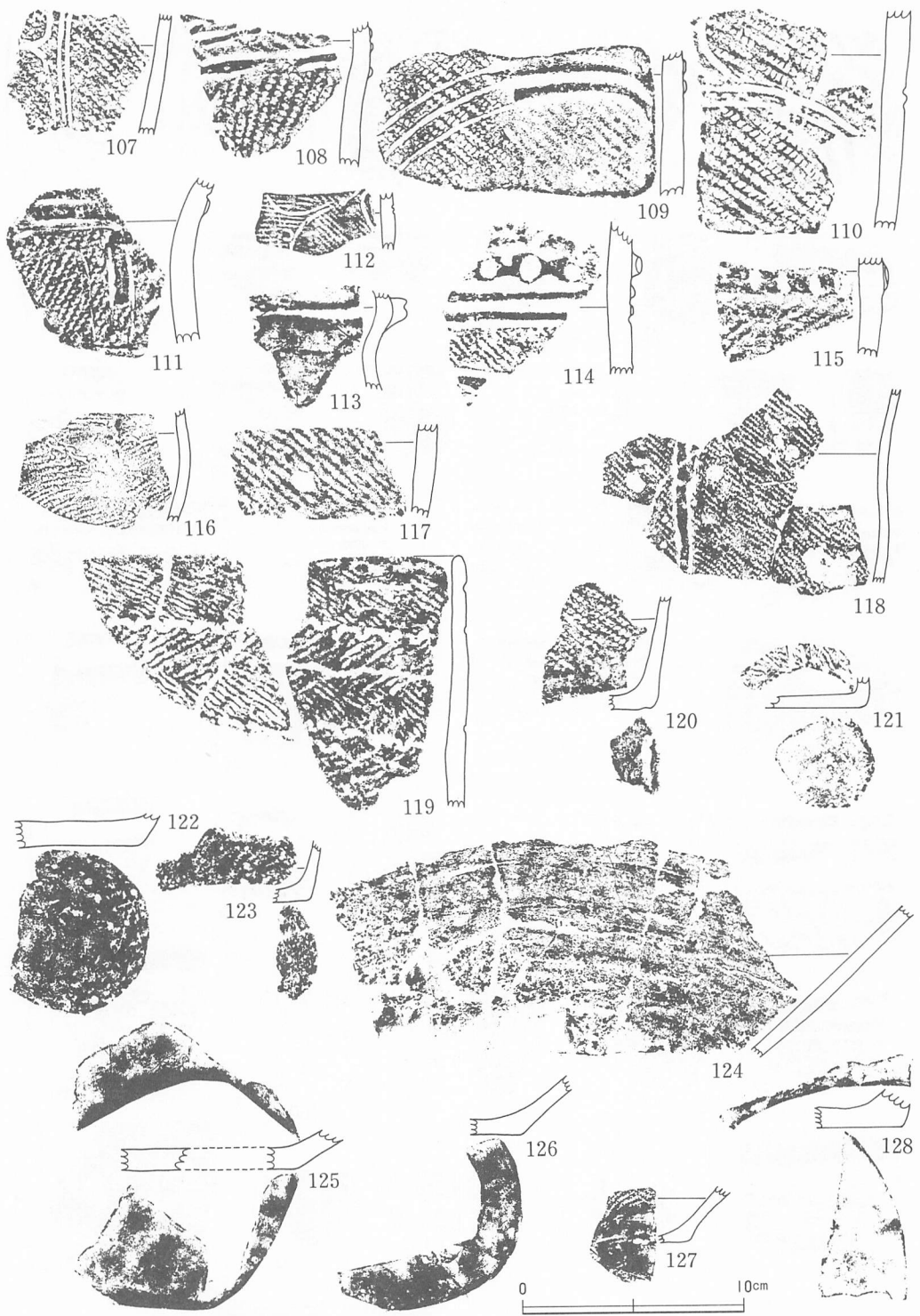
第81圖 遺構外遺物：土器(3)



第82図 遺構外遺物：土器(4)



第83圖 遺構外遺物：土器(5)



第84図 遺構外遺物：土器(6)



#### 4. 石器 (第85～94図、写真図版73・74)

出土した石器のうち、形の判明している定形的な剥片石器の類はすべて図示したが、擦石、不定形石器等のいくつかは省略したものがあつた。以下に記述する各石器は、すべて縄文時代に属するものと考えられる。出土地点と層位は一覧表に示してあるが土器と同様、原位置を保っているものは少ない。

##### 石鏃 (第85図1～3、写真図版73)

3点出土した。いずれも無茎であるが、3のみは片面加工で先端部が湾曲し、基部は欠損している。嘴状石器と呼ばれている石器で、岩手県では稀に出土しているが、一遺跡から多数の例はない。秋田県八木遺跡(秋田県文化財調査報告書181集・1989)では52点が出土している。八木遺跡は縄文時代中期～後期に属するが、本遺跡は大木8b式期であり、隣接する本郷遺跡では大木7、8a式の土器に伴って出土している(岩手県埋文報告164集・1992)。

##### 尖頭器 (第85図4～6、写真図版73)

3点出土。4は両面の周辺を丁寧加工しているが、5、6はより大型で調整も粗く、背面に自然面を残している。

##### 石錐 (第85図7～9、写真図版73)

同じく3点の出土。7は改端部菱形で、基部は薄く平坦である。8は方形に近い断面で、先端部は磨耗している。9は剥片の一端を加工して錐部としている。

##### 石匙 (第85図10～13、写真図版73)

横型2点、縦型2点の計4点の出土。10は刃部が内湾し、片刃状となっている。11は両面とも丁寧な調整。12も両面調整で、丸みのある器形。13は刃部欠損。

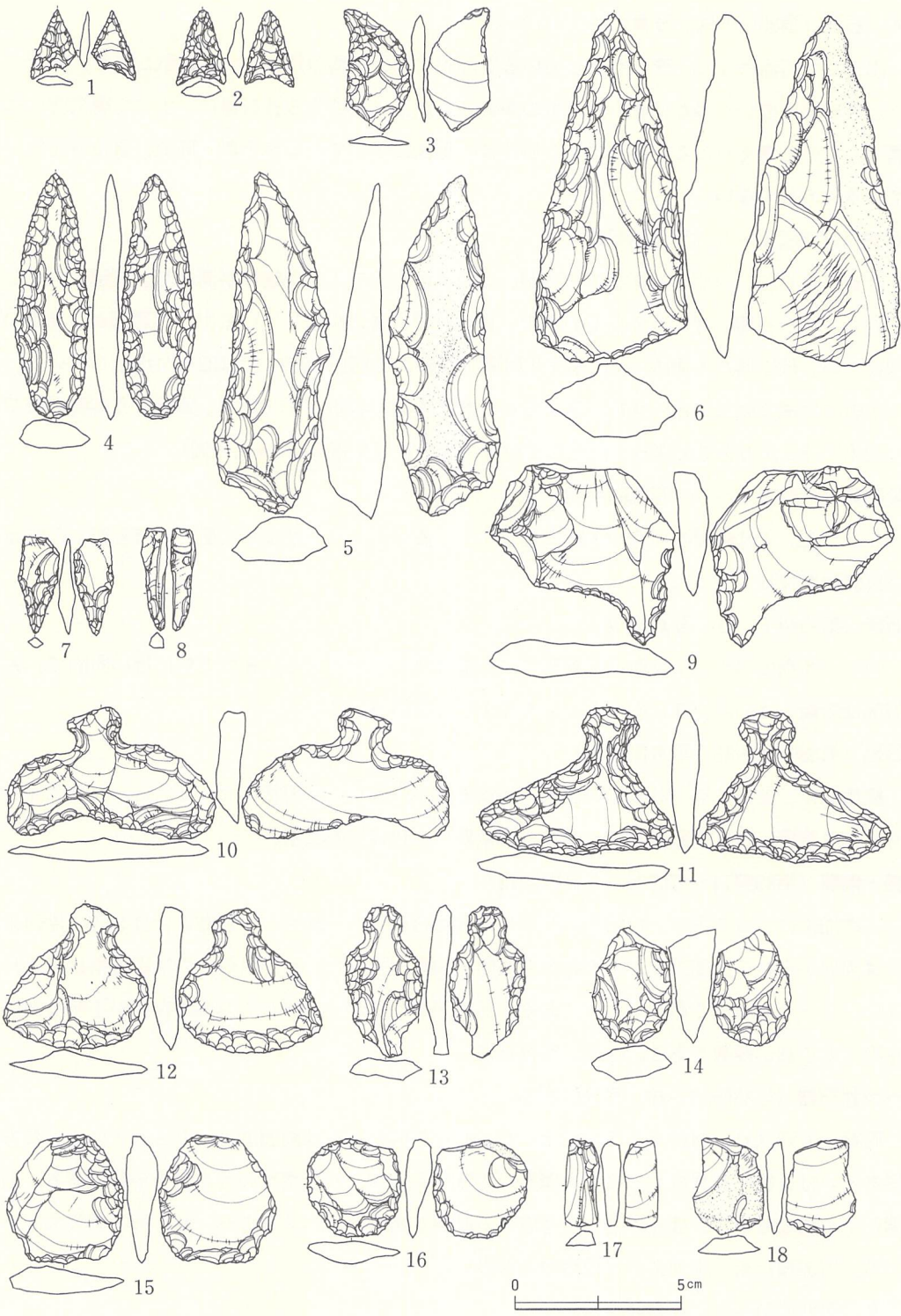
##### 搔・削器 (第85図14～87図38、写真図版73)

二次加工によって円形、楕円形に整形した搔器(14～16)、剥片の1辺あるいは2辺に片面または両面からの二次加工による刃部をもつ削器類を一括した。刃部以外への二次調整は見られない。ノッチを有する石器も含めてある。25点図示したが、破損して刃部の存在が不明な剥片を除くとこれが総数である。なお、39は石核。

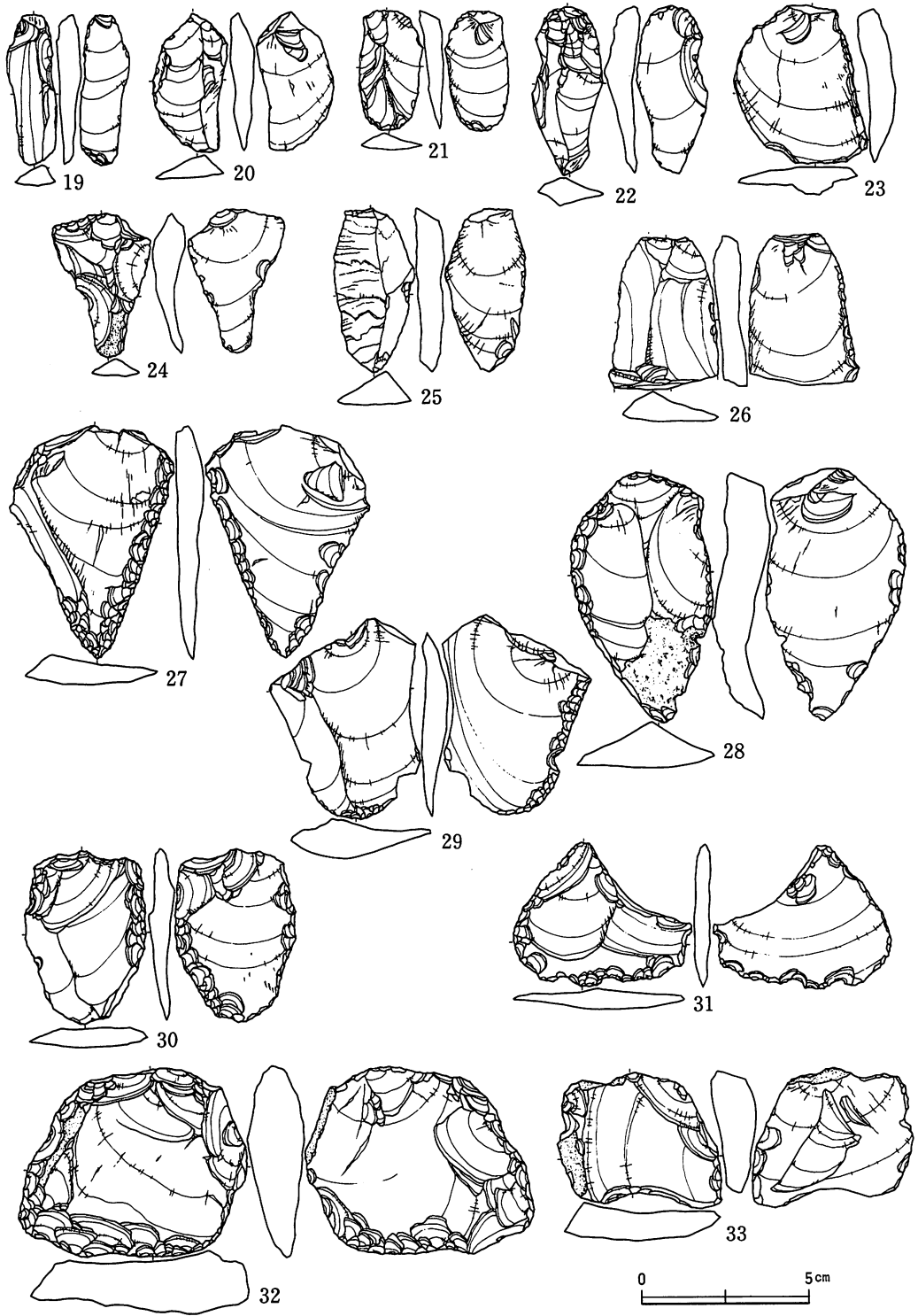
##### へら状石器 (第88図40～49、写真図版73)

石篋とも呼ばれる器種で9点が出土した。43を除いた8点は両面加工がなされている。長方形あるいは長楕円形状のものは二次調整が丁寧であるが、バチ形状のものはやや雑である。形態がやや異なるので、機能の違いも考慮する必要があるであろう。バチ型の48、49とも刃部欠損している。刃部は片刃、両刃あるが後者の方が多い。

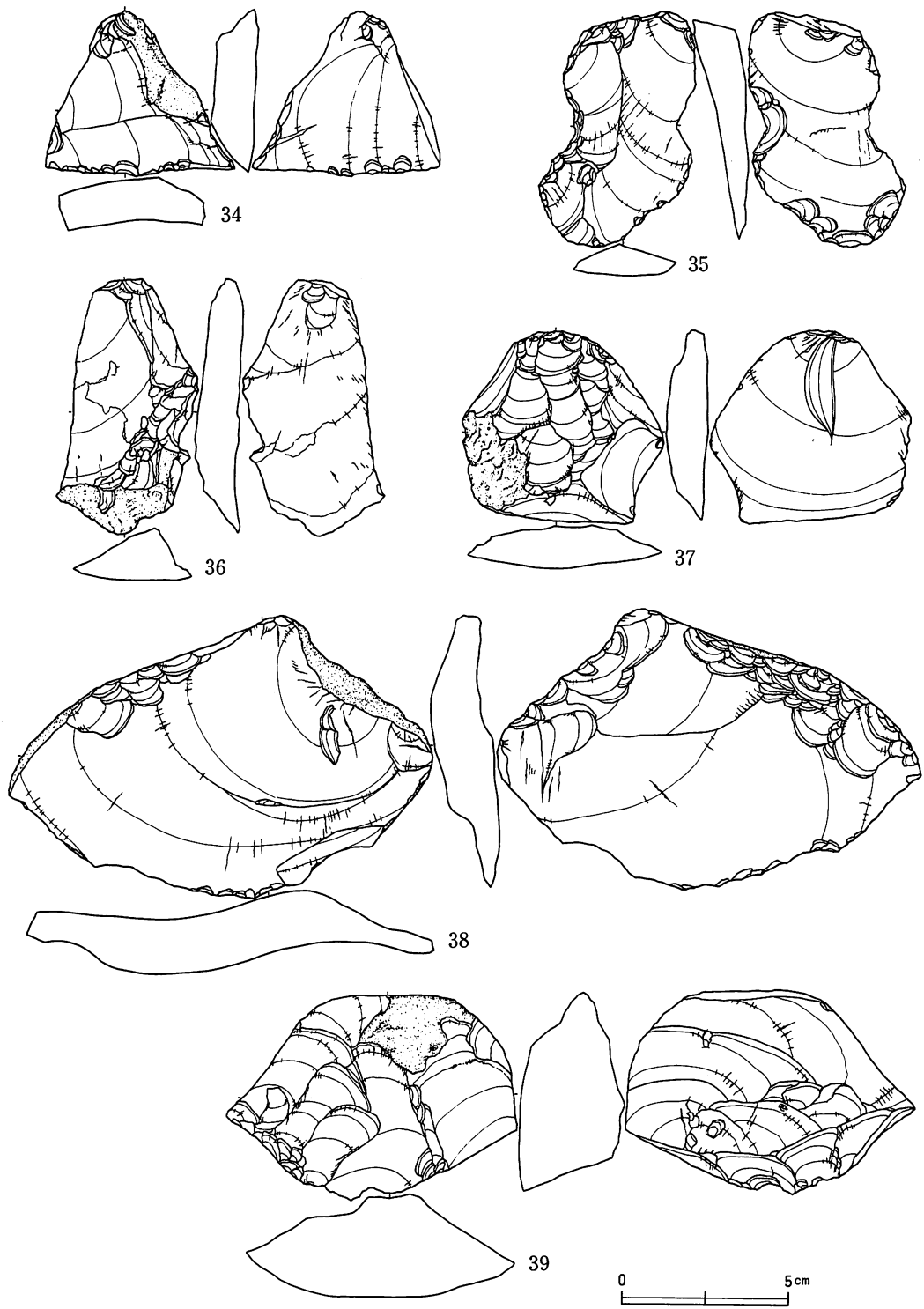
##### 石斧 (第89図51～59、写真図版74)



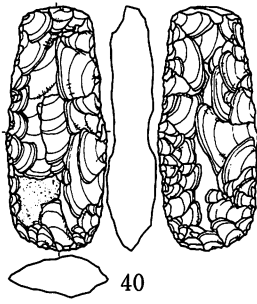
第85圖 遺構外遺物：石器(1)



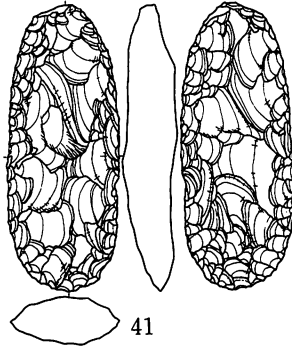
第86図 遺構外遺物：石器(2)



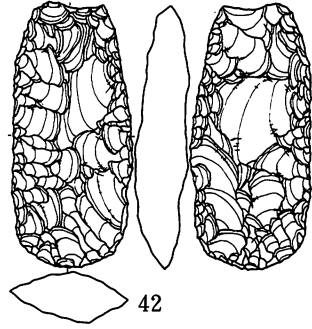
第87図 遺構外遺物：石器(3)



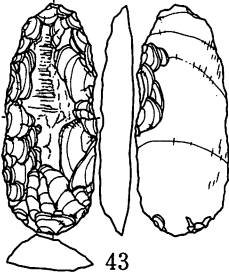
40



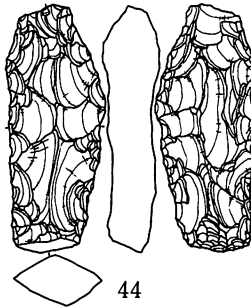
41



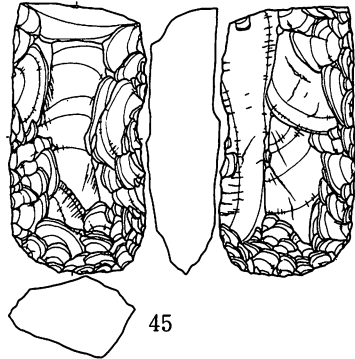
42



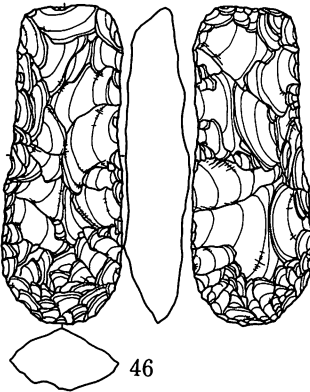
43



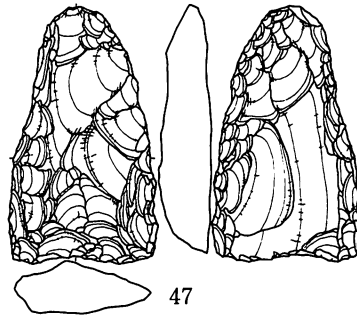
44



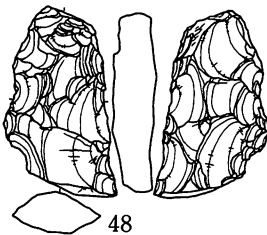
45



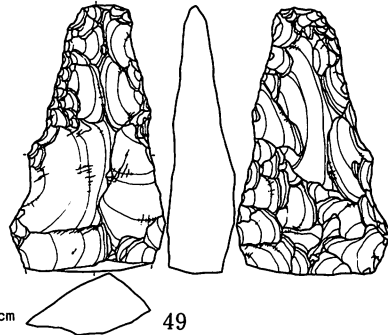
46



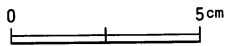
47



48



49



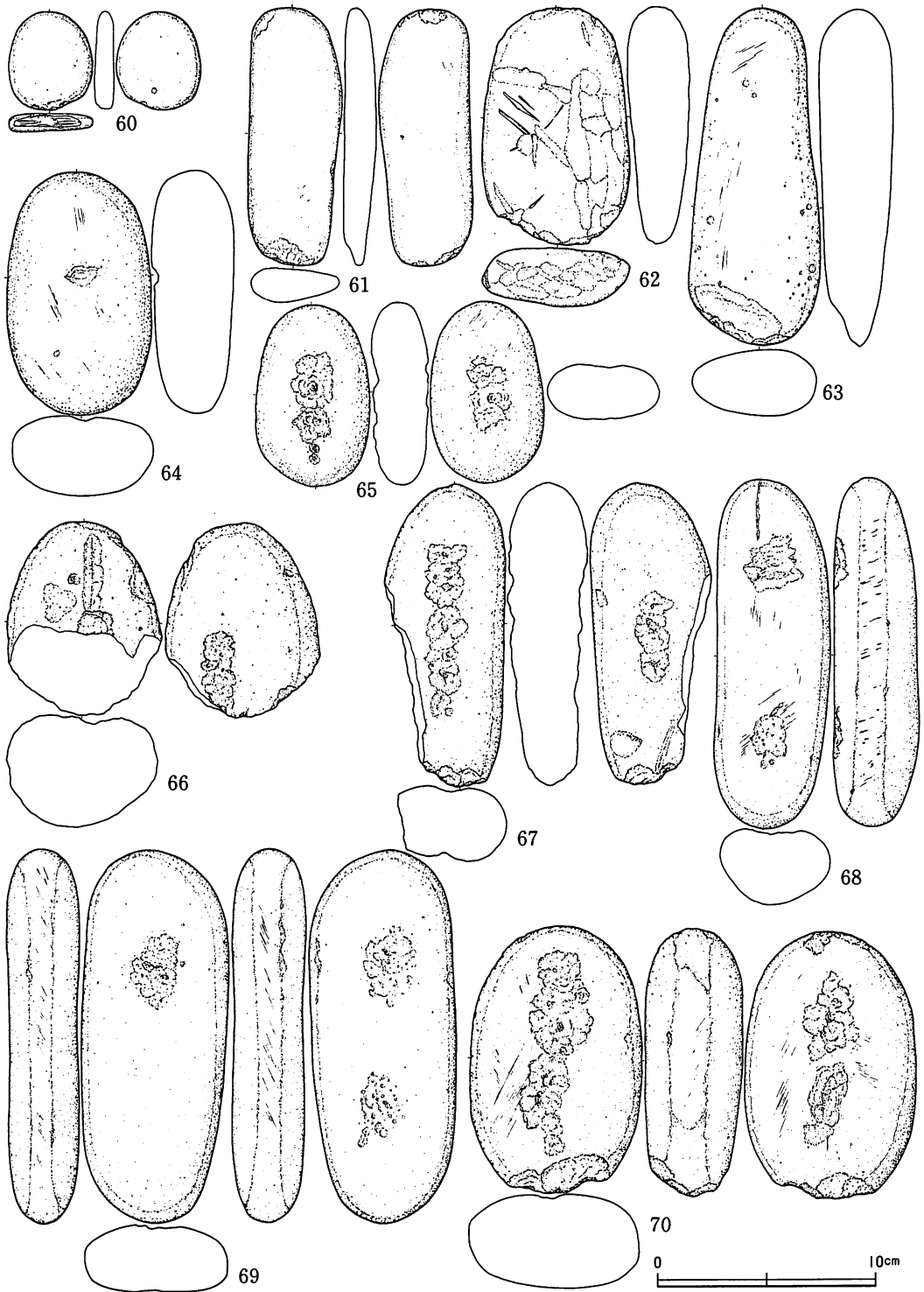
第88図 遺構外遺物：石器(4)



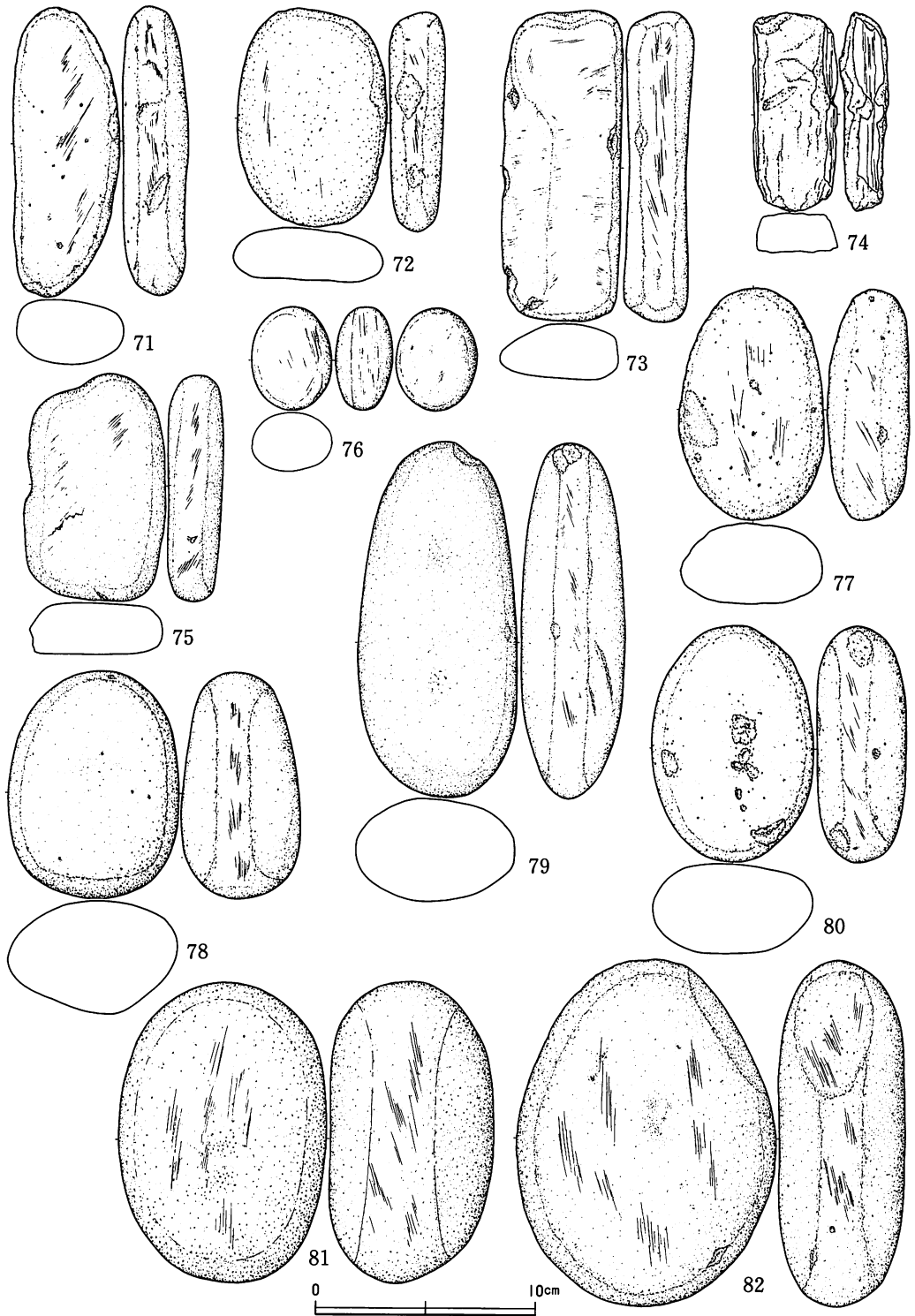


第89図 遺構外遺物：石器(5)

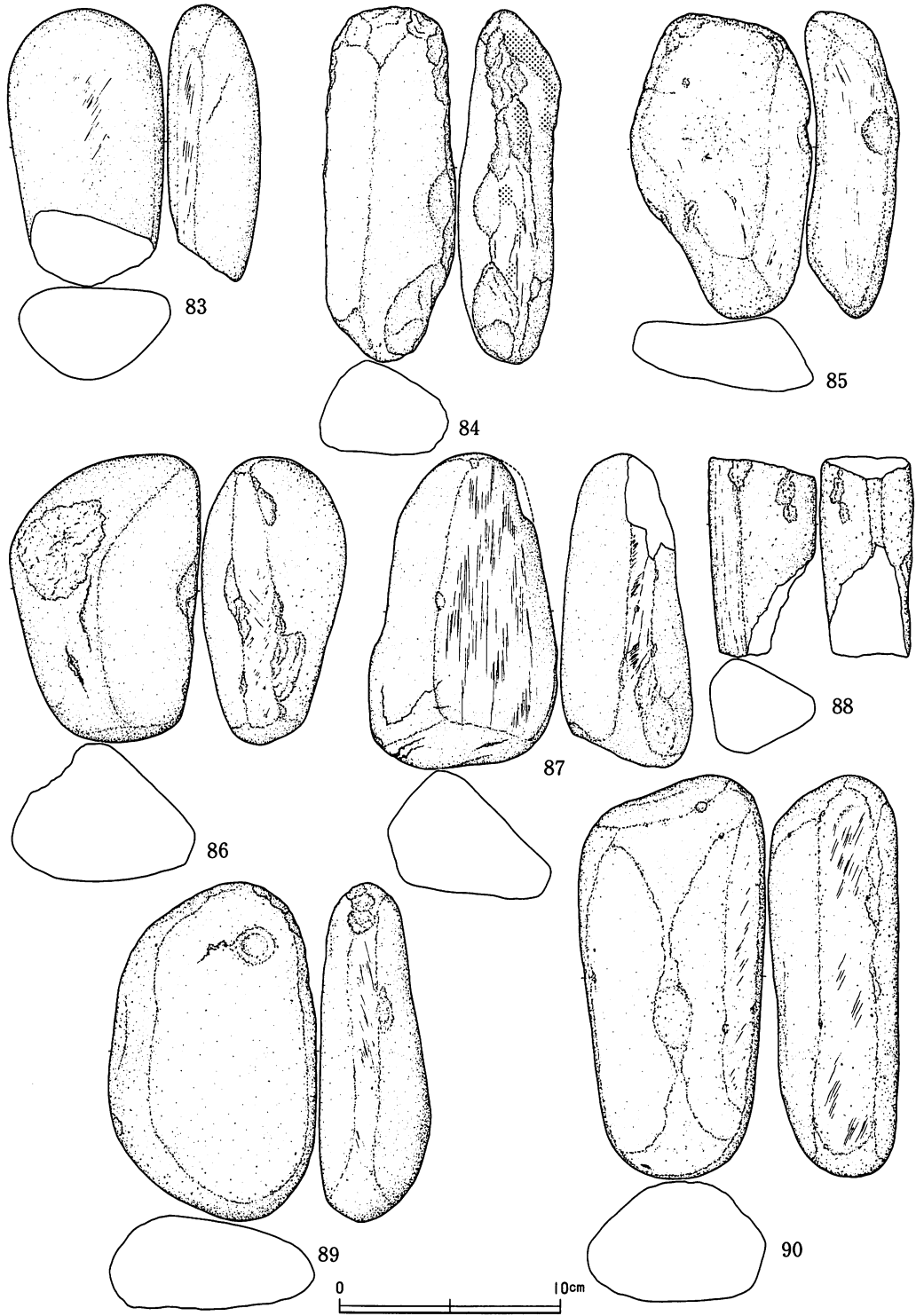




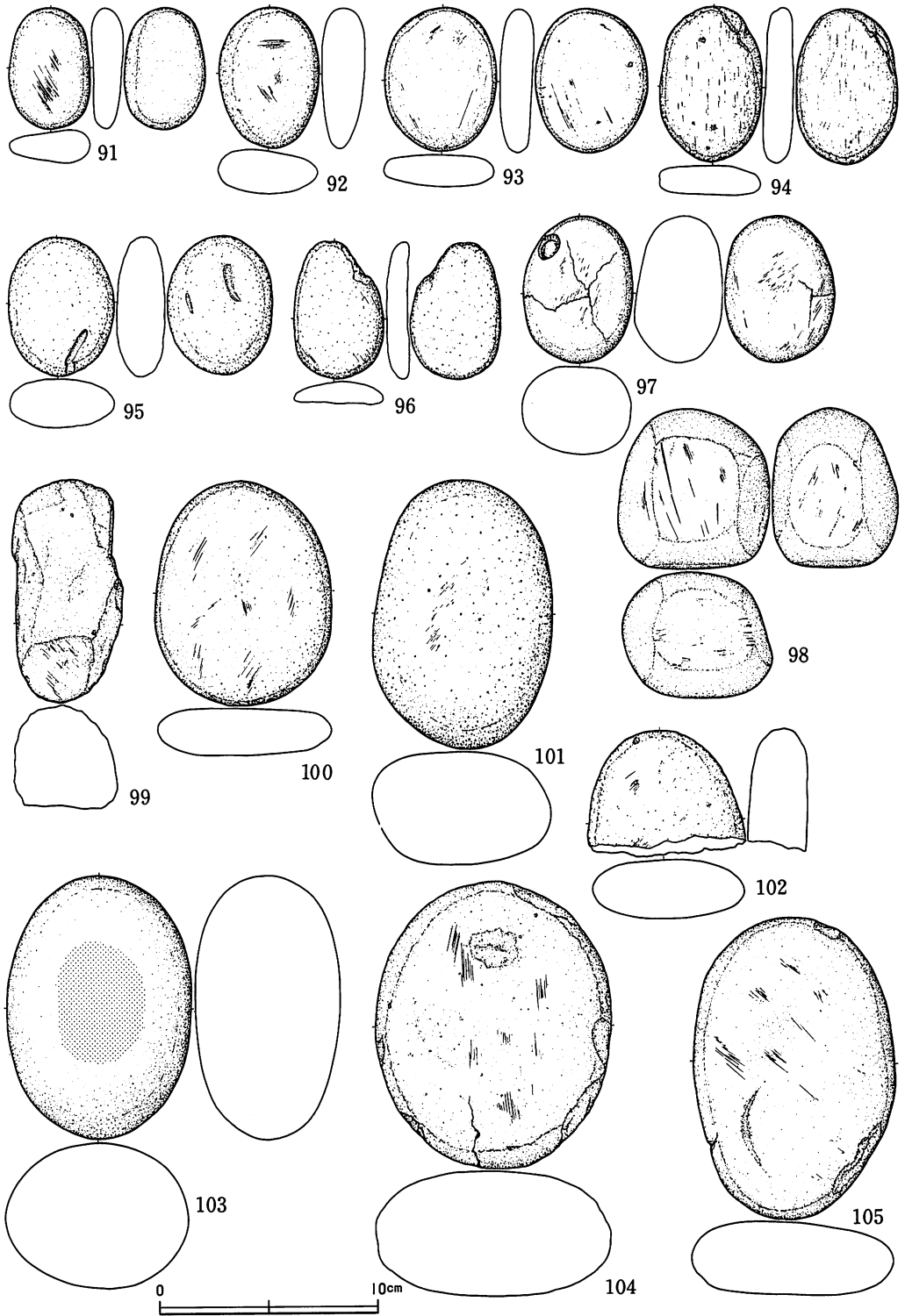
第90図 遺構外遺物：石器(6)



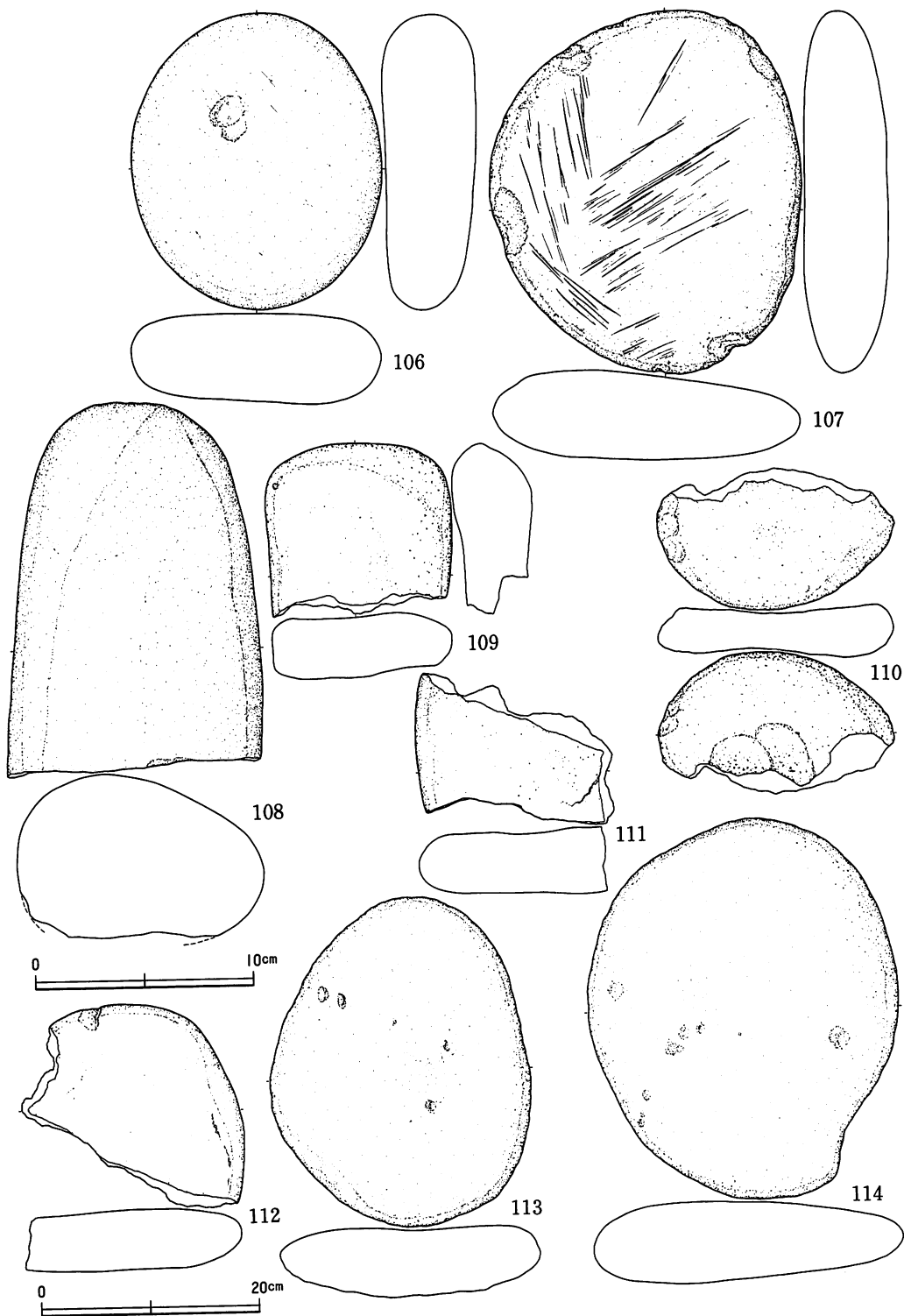
第91図 遺構外遺物：石器(7)



第92図 遺構外遺物：石器(8)



第93図 遺構外遺物：石器(9)



第94図 遺構外遺物：石器(10)

磨製・打製あわせて9点が出土。磨製の5点中、2点は破損した刃部のみ、53、54は破損した部分を再調整して敲石として使用している。55は両面は磨いているが基部および両側面を剝離調整している。56、57は打製で、後者は刃部欠損。58、59は石鍬の類で下部は三角形状となり刃は厚く鈍い。

#### 敲石（第90図60～63、写真図版74）

楕円形あるいは長方形の礫の短い1辺を敲いているもので4点出土した。擦石や凹石の1辺を加工するものもあるが、この一群は敲き面のみを有する。62は器面に細い溝が走る。

#### 凹石（第90図64～70、写真図版74）

9点出土したうちから8点を図示した。擦石の項で扱った中に1点凹みを有するものが含まれている（91図80）。64～66は片面および両面の凹みのみであるが、67は下端が敲き面となっており、68、69は片側および両側面が擦石として機能しており、70は擦石兼敲石と、三つの機能を有している。凹石に関しては単一の機能よりは、複数の機能を持たせる傾向が認められそうである。

#### 擦石（第91～93図71～105、写真図版74）

擦石とした石器は形態からして二つに分類される。一つは長方形あるいは楕円形、三角形の長辺の側面を使用しているもので、断面が三角形のものも多々含まれる（92図）。片側面を擦っているのが最も多いが、両側面を使用している例もある。当然、平面も擦り面として利用しているものも含まれる。なかには、側面を調整した上で擦っている例もあり（92図84）この擦石には部分的に炭化物が付着している。48点出土したうち20点を図示した。もう一つのは扁平な礫の片面あるいは両面を擦っているものであるが、中には98のような多面を使用しているものや、98のように先端部分のみを擦っている例もある。103は中央部に光沢面を持つ。32点出土したうち15点を図示した。遺構外の石器のなかでは最も多い数量である。

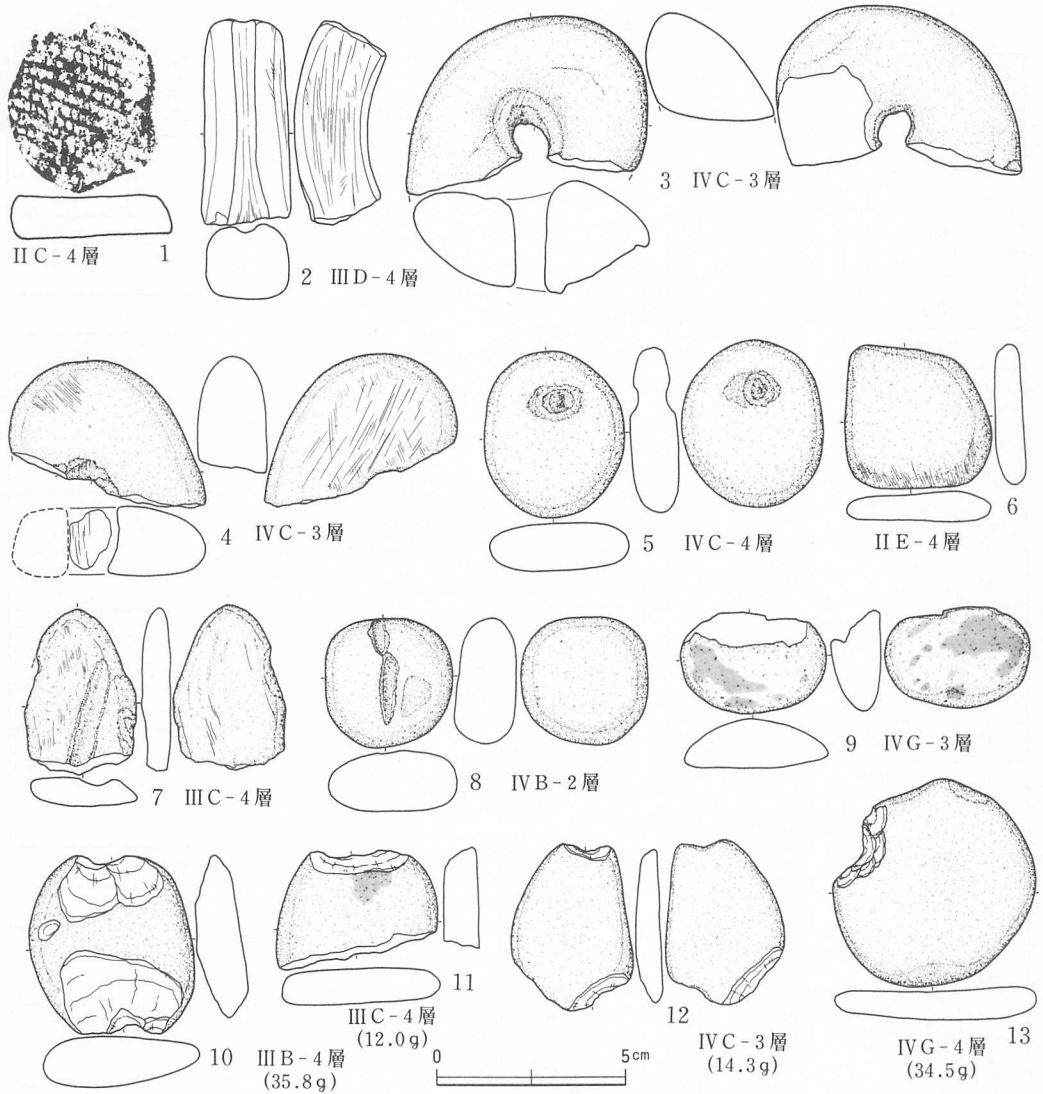
#### その他の石器（第94図106～114、写真図版74）

106、107は器面に擦痕が走る扁平な礫。108はおそらく石棒の破片。109、110は器面にゆるやかな凹みをもつ石皿的な石器。111～114は台石と思われる。

#### 5. 土・石製品（第95図1～13、写真図版74）

1は土器片を利用した円盤状土製品、2は珪質凝灰岩製の側面に溝のある石製品であるが、破片のため形状は不明。3、4は淡緑色凝灰岩製の穿孔のある石製品で、4の両面には擦痕があり孔にはタール状の付着物が認められる。5は両側から穿孔しているが貫通はしていない、未製品か。6は擦痕、7・8は溝が刻まれているが用途は不明。9は斑状に炭化物が付着して





第95図 遺構外遺物：土・石製品

いる。5～7は淡緑色凝灰岩、7・8は輝石安山岩製。10～13は本来石器として扱う石錘である。紙数の関係でこのページに納めた。4点の出土であるが、13は1辺のみを欠いている。11の頂部には煤が付着している。重量は少なく、材質は淡緑色凝灰岩。土・石製品は図示した資料が全てであり、明瞭な装飾品や精神生活に係わる土偶等は出土しなかった。ただ、遺構内からは検出されているので遺跡自体の保存状況の劣悪さによるものと考えたい。

遺構外出土石器觀察表

図版No	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
1	IVC-3層 黒色	石鏃	2.1	1.4	0.3	1.0	珩質細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
2	IIID-4層 褐色	〃	2.3	1.5	0.5	(0.6)	〃	〃 〃
3	IVC-4層 褐色土	〃	3.8	2.1	0.5	2.6	珩質泥岩	〃 〃
4	IIC-4層 褐色	尖頭器	7.4	2.3	0.9	14.7	珩質細粒凝灰岩	〃 〃
5	IIIC-3層 黒色土	〃	10.3	3.5	1.9	52.8	硬質泥岩	〃 〃
6	II E-表採	〃	10.5	4.6	2.3	85.0	珩質細粒凝灰岩	〃 〃
7	IIIC-2層 黒色土	石錐	3.0	1.2	0.5	1.5	〃	〃 〃
8	IVC-4層 褐色土	〃	3.1	0.8	0.5	1.1	硬質泥岩	〃 〃
9	IIB-3層 黒色	〃	5.5	5.6	1.1	30.0	珩質細粒凝灰岩	〃 〃
10	IIIC-3層 黒褐色	石匙	4.0	6.3	0.8	13.4	〃	〃 〃
11	IVB-4層 褐色	〃	4.5	5.9	0.9	18.2	〃	〃 〃
12	IVG-4層 褐色	〃	4.4	4.4	0.8	14.2	珩質泥岩	〃 〃
13	IVF-3層 黒色下層	〃	4.6	2.3	0.8	6.6	珩質細粒凝灰岩	〃 〃
14	IVE-3層 黒色下層	播・削器	3.5	2.4	1.4	(11.0)	〃	〃 〃
15	IVC-2層 褐色	〃	3.9	3.5	1.0	13.0	〃	〃 〃
16	IVF-2層 褐色	〃	3.0	2.8	0.8	5.9	〃	〃 〃
17	IIIG-4層 褐色	〃	2.7	1.0	0.6	1.8	〃	〃 〃
18	IVC-3層 黒色	〃	3.0	2.1	0.6	3.4	珩質泥岩	〃 〃
19	I J-表土	〃	4.5	1.5	0.7	4.0	〃	〃 〃
20	IIIC-3層 黒色土	〃	4.1	2.3	0.7	7.0	輝緑凝灰岩	北上山地 〃
21	IVE-4層 褐色	〃	3.6	1.9	0.7	3.3	珩質細粒凝灰岩	奥羽山地 〃
22	IVC-3層 黒色	〃	5.0	2.1	1.1	7.1	〃	〃 〃
23	IVC-3層 黒色	〃	4.7	4.0	1.1	13.3	硬質泥岩	〃 〃
24	IVC-4層 褐色土	〃	4.3	2.9	1.0	7.1	珩質細粒凝灰岩	〃 〃
25	IIIB-2層 褐色	〃	4.9	2.4	1.0	3.7	〃	〃 〃
26	IIIC-2層 褐色土	〃	4.5	3.3	0.9	(15.4)	硬質泥岩	〃 〃
27	IVC-3層 黒色土	〃	7.0	5.0	0.9	26.5	珩質泥岩	〃 〃
28	IIA-4層 褐色	〃	7.5	4.3	1.8	41.0	〃	〃 〃
29	IIIB-4層 褐色	〃	4.4	6.0	1.3	18.8	硬質泥岩	〃 〃
30	IIIM-4層 褐色	〃	5.2	3.6	0.8	12.9	珩質細粒凝灰岩	〃 〃
31	IVF-3層 黒色下層	〃	4.3	5.4	0.6	12.8	〃	〃 〃
32	IVJ-2層 褐色	〃	5.7	6.9	1.9	79.0	〃	〃 〃
33	IVI-2層 褐色	〃	4.1	4.9	1.3	26.1	〃	〃 〃
34	IVG-4層 攪乱	〃	5.0	5.7	1.5	37.8	珩質泥岩	〃 〃
35	IVH-2層 褐色	〃	7.0	4.7	1.6	35.6	〃	〃 〃
36	IIIB-4層 褐色	〃	7.7	4.3	1.6	38.1	珩質細粒凝灰岩	〃 〃

図版No	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
37	IVC-3層 黒色	搔・削器	5.8	6.1	1.3	41.9	硬質泥岩	〃 〃
38	IVC-2層 褐色	〃	8.5	12.8	2.4	169	珪質細粒凝灰岩	〃 〃
39	II C-4層 褐色	石核	6.1	8.8	3.2	155	硬質泥岩	〃 〃
40	III C-2層 褐色	ヘラ状石器	6.5	2.7	1.3	21.2	珪質細粒凝灰岩	〃 〃
41	IVE-4層 褐色	〃	7.6	3.0	1.5	34.8	〃	〃 〃
42	IVH-2層 褐色	〃	7.0	3.2	1.4	34.8	珪質泥岩	〃 〃
43	III C-2層 褐色	〃	6.1	2.5	1.0	16.8	珪質細粒凝灰岩	〃 〃
44	IVH-2層 褐色	〃	5.6	2.6	1.5	(27.4)	硬質泥岩	〃 〃
45	II B-2層 褐色土	〃	7.1	3.7	2.1	64.0	珪質細粒凝灰岩	〃 〃
46	IVG-水田客土下面	〃	8.5	3.2	1.7	55.0	〃	〃 〃
47	III N-表土	〃	6.8	4.0	1.5	40.2	〃	〃 〃
48	IVH-2層 褐色	〃	5.1	3.0	1.1	(18.3)	硬質泥岩	〃 〃
49	IVB-2層 褐色土	〃	7.1	4.1	2.0	42.1	輝緑凝灰岩	〃 〃
50	—————	—————	—	—	—	—	—————	—————
51	III B-4層 褐色	石斧	4.0	4.8	1.7	35.4	粘板岩	夏油川 古生界
52	III C-3層 黒色	〃	4.0	4.4	1.6	21.1	〃	〃 〃
53	III C-2層 褐色	〃	12.6	4.9	3.0	(295)	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
54	III F-3層 黒土下層	〃	11.6	5.2	2.9	(310)	〃	〃 〃
55	IVG-水田客土下面	〃	14.1	5.1	2.3	225	粘板岩	夏油川 古生界
56	III B-4層 褐色	〃	14.7	6.1	3.4	355	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
57	III E-4層 褐色下部	〃	14.3	5.8	2.6	(210)	流紋岩	〃 〃
58	III B-4層 褐色	〃	15.5	9.7	1.8	250	粘板岩	夏油川 古生界
59	II B-2層 褐色	〃	19.3	9.4	3.5	572	輝石安山岩	〃 新第三系中新統
60	IVC-3層 黒色	敲石	4.5	3.8	0.9	16.5	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 〃
61	III C-2層 褐色	〃	11.7	4.3	1.7	121	粘板岩	夏油川 古生界
62	III B-4層 褐色	〃	10.8	6.7	2.8	290	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
63	IVC-3層 黒色	〃	15.3	6.0	3.4	365	淡緑色凝灰角礫岩	〃 〃
64	IVC-3層 黒色	凹石	11.0	6.6	3.8	420	輝石安山岩	夏油川 〃
65	III E 黒土下層	〃	8.3	5.2	2.6	170	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 〃
66	II E-4層 褐色	〃	8.8	7.0	5.0	(281)	デイサイト	鈴鴨川—夏油川 〃
67	III N-表土	〃	13.7	5.5	3.6	(320)	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 〃
68	III B-4層 褐色	〃	15.8	5.3	3.8	432	淡緑色細粒凝灰岩	〃 〃
69	II B-2層 褐色	〃	17.0	6.7	3.3	555	淡緑色凝灰角礫岩	〃 〃
70	III B-2層 褐色	〃	12.1	7.8	4.4	540	〃	〃 〃
71	III H-4層 褐色	擦石	12.9	4.8	3.0	24.5	輝石安山岩	夏油川 〃
72	II E-4層 褐色	〃	9.8	6.7	2.5	220	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 〃
73	IVO-2層 褐色	〃	13.9	5.4	3.0	34.5	〃	〃 〃

図版No	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
74	II B-4層 褐色	擦石	8.9	3.8	1.8	(77.0)	〃	〃 〃
75	IV F-3層 黒色下層	〃	10.2	6.4	2.5	259	〃	〃 〃
76	IV C-3層 黒色	〃	4.7	3.6	2.6	60.0	輝石安山岩	夏油川 新第三系中新統
77	III G-4層 褐色	〃	10.4	6.6	3.7	339	デイスайト	鈴鴨川-夏油川 〃
78	II G-4層 褐色	〃	10.2	7.7	5.4	599	輝石安山岩	夏油川 〃
79	III E-3層 黒土下層	〃	16.0	7.1	4.7	721	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 新第三系中新統
80	III G-4層 褐色	〃	10.6	7.3	4.0	440	デイスайト	鈴鴨川-夏油川 〃
81	II F-4層 褐色	〃	13.5	9.3	7.4	1,372	輝石安山岩	夏油川 〃
82	III E-4層 褐色土	〃	15.6	11.7	5.7	1,380	〃	〃 〃
83	II G-4層 褐色	〃	12.3	7.0	4.2	(520)	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 〃
84	IV F-3層 黒土下層	〃	15.8	6.0	4.5	560	淡緑色凝灰角礫岩	〃 〃
85	II A-4層 褐色	〃	13.7	8.1	4.2	490	輝石安山岩	夏油川 〃
86	IV C-3層 黒色土	〃	12.8	8.5	6.5	740	〃	〃 〃
87	III B-4層 褐色	〃	14.0	8.5	5.9	80.0	片麻岩	和賀仙人 古生界
88	II F-4層 褐色	〃	9.0	4.8	4.2	(230)	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 新第三系中新統
89	III B-4層 褐色土	〃	15.1	9.3	5.0	959	花崗閃緑岩	和賀仙人-夏油川 中生界
90	IV G-1層 表土	〃	18.0	8.4	5.8	1,298	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 新第三系中新統
91	IV C-3層 黒色上部	〃	5.5	3.7	1.5	40.0	淡緑色細粒凝灰岩	〃 〃
92	IV C-3層 黒色	〃	6.4	4.5	2.0	80.0	〃	〃 〃
93	IV C-3層 黒色	〃	6.5	5.1	1.5	67.0	〃	〃 〃
94	IV C-3層 黒色	〃	7.0	4.6	1.4	65.0	〃	〃 〃
95	III G-4層 褐色	〃	6.3	4.8	2.2	100	輝石安山岩	夏油川 〃
96	IV E-3層 黒土下層	〃	6.2	4.1	1.0	33.7	〃	〃 〃
97	III C-3層 黒色	〃	6.7	5.0	4.0	99.0	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 〃
98	IV C-3層 黒色	〃	7.2	6.9	5.7	439	〃	〃 〃
99	IV F-3層 黒土下層	〃	10.1	5.1	4.6	(300)	輝石安山岩	夏油川 〃
100	II B-2層 褐色	〃	10.2	8.0	2.2	231	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 〃
101	II F-4層 褐色	〃	12.2	8.1	5.1	800	輝石安山岩	夏油川 〃
102	IV G-4層 攪乱	〃	5.6	7.2	2.8	(135)	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 〃
103	II F-4層 褐色	〃	12.0	8.3	6.6	970	輝石安山岩	夏油川 〃
104	II F-4層 褐色	〃	13.0	10.7	5.7	1,165	〃	〃 〃
105	III C-4層 褐色	〃	13.6	9.2	3.3	580	淡緑色凝灰角礫岩	奥羽山地 新第三系中新統
106	II A-4層 褐色土	加工礫	13.4	11.4	4.3	971	輝石安山岩	夏油川 〃
107	III N-表土	〃	16.4	14.1	3.9	980	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地 〃
108	IV D-3層 黒色下層	石棒?	16.7	11.6	7.4	2,180	〃	〃 〃
109	II B-4層 褐色	石皿?	7.8	8.5	3.7	(320)	輝石安山岩	夏油川 〃
110	III B-4層 褐色	〃	10.7	6.5	2.4	(170)	デイスайト	鈴鴨川-夏油川 〃

図版No	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
111	III B-4層 褐色	台石?	13.8	18.0	6.1	2,120	輝石安山岩	夏油川 "
112	IV G-2号フラスコピット際	"	18.6	20.2	5.7	2,740	"	" "
113	IV E-3層 黒色下層	"	29.9	23.6	6.5	6,140	"	" "
114	II C-表土	"	34.4	28.2	7.6	9,990	花崗閃緑岩	和賀仙人-夏油川 中生界



## VI. 考察とまとめ

### 1. 住居跡

本遺跡で竪穴住居跡としたものは18棟であるが、柱穴群遺構とした中でも数棟の住居跡が含まれる可能性が高いので、最終的には20数棟を検出したことになる。地形的に見ると西側が高く、東側に向かうにしたがって低くなり段丘崖に連なる。縄文時代中期の集落立地を考えると調査区の南側にはまだ相当数の竪穴住居跡を含む遺構が存在しているものと思われる。検出された20数棟の住居跡のうち、確実にプラン、炉の位置と構造などが判明しているのは数棟にしかすぎない。特に、柱穴のみの検出で住居としたものは推定規模では重複が考えられるが、プランは全く不明で、新旧関係も一切把握できない状況にある。したがって、住居跡間の相互の関連性、同時期に存在した数の算定も困難である。壁が残っておりプランの確実な例をみると隅丸方形、隅丸長方形と楕円形のプランに分類できそうである。この三者が同時存在していたか、別々であったか、床面出土の土器を比較すると楕円形プランのそれは、頸部無文、キャリパー型が多いなどの同一性のある傾向を示すが、前二者のプランにはバラつきがありそうである。

傾向として西側に隅丸長方形の住居跡が分布するように見受けられるが、これは中央部のG、H区の住居を楕円形に推定復原していることにもよる。ただ、この区域には当遺跡最大の住居跡III G-1号住があり、プランは楕円形である。両側にある2棟III G-2、3号住も楕円形状であり、遺物を比較しても新旧の区別は見出し難く、一つのまとまりを示している。いずれ、当遺跡は大木8b式期に営まれた大規模な集落であり、かつ住居跡間に重複が見られることから、時間的には数10年の幅が認められよう。それが西側から東側へ、あるいはその逆に東側から西側に移動したのか、またはII-D、E、F区、III-D、E、F区に住居跡の存在しないことから(削平されている可能性もあるが)、この空間を囲み馬蹄形に住居が巡っており、そのなかで変遷があったか。以上の可能性が考えられるが、プラン不明、遺物皆無の住居が大半を占めるので、推定で留め置くしかない。

### 2. フラスコピット

検出された地点は西側段丘縁のA、B区と、G区の住居跡群の中の二箇所、それぞれ規模形態は異なっている。前者はC、Dの住居跡群に、後者はG、H区の住居跡群にそれぞれ伴うものであろうが、IV G-3号が住居跡を截ってつくられておりG、H区のいくつかの住居跡よりは新しく位置づけられる。前者のフラスコピットは埋土中に遺物は少ないが、底面に意識的



に安置したと思われる土器と装飾品が出土している(II A-2、III B-2)。2基とも埋土は自然堆積の状況を示しており、墓とは考えづらい。廃棄に伴うなんらかの遺物と考えておきたい。後者は、前者よりは規模が小さいが、埋土中に多量の遺物を含むのが特徴である。廃棄後は明らかに遺物の捨て場として再利用している。

### 3. 陥 穴

42基検出されたが、形態から6つに分類した。このうち3つのタイプは配置にまとまりをもっている。イのタイプはD、E区にかけて4基が並び、ウのタイプはC、D区のほぼ南北に並ぶ。エのタイプはII E区に狭い間隔で配置されている。オのタイプはL区にほぼ南北に等間隔で位置する。それぞれのタイプが時期差を示しているのかあるいは同時期で獲物の対象が異なっているのかは不明である。所属する時期については遺物が少なく断定はできないが、土器が検出できた3基はすべて大木8b式であり、多くの陥穴はこれと同時期あるいはそれ以前ということが可能である。

#### まとめ

林崎館遺跡の名称は隣接する中世の林崎館跡にちなんでいる。館跡は本遺跡の北側に位置しており、空堀を巡らす大規模な中世城館である。今回の調査ではこれら城館に係りのある遺構遺物は一切検出されなかった。調査区域は幅20数m、長さ約300mで、検出された遺構、遺物とも縄文時代中期に属するものが殆どで、遺跡の性格は集落跡と言える。住居跡はまだ南側に拡がっている可能性が高く、相当の規模の集落であったと想像される。出土した土器は殆どが大木8b式であるが、その特徴の示すところは同じ8b式の中でも大木9式に近い諸要素は少なく、中頃あるいはそれよりやや古い時期に属する様相を示している。

林崎館遺跡の東側には谷をへだてて煤孫遺跡が、西側には同じく谷をへだてて本郷遺跡が、その西隣には石曾根遺跡がある。煤孫遺跡は大木6式土器を伴う大規模な集落で(註1)、本郷遺跡は大木7a、7b、8a式期の集落であり(註2)、石曾根遺跡は同じく大木8a、8b式期の集落である(註3)。これらの遺跡は和賀川の段丘沿いに、開析された谷をはさんで隣接している。言葉を換えれば、ある限定された地域に長い期間(大木6式から8b式の間)少しづつ場所を移動して居住していたことを示している。

註1：当センター1990、1991年調査、1993年報告書刊行予定

2： 同 1989、1990年調査、1992年報告書刊行予定

3： 同 1990年調査 同

# 写 真 图 版

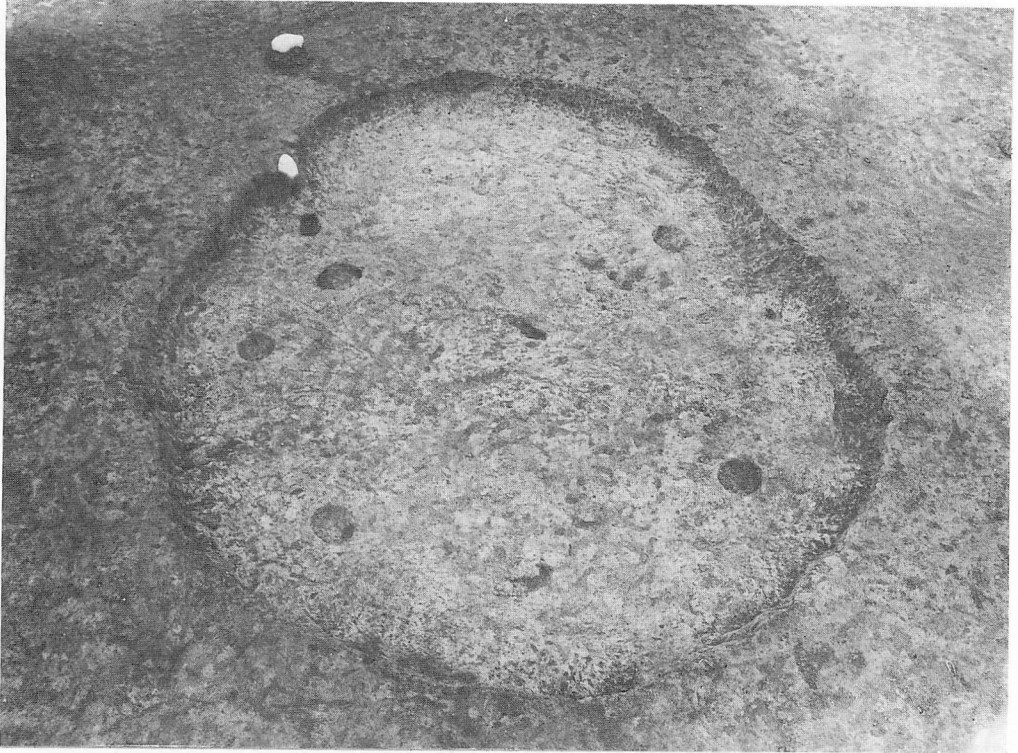


遺跡全景（北から）

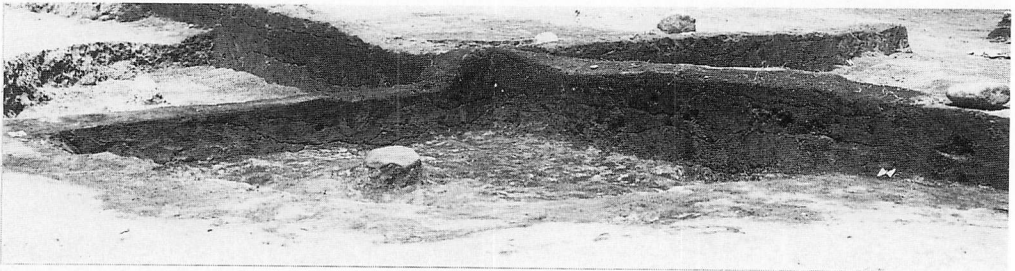


遺跡全景（西から）

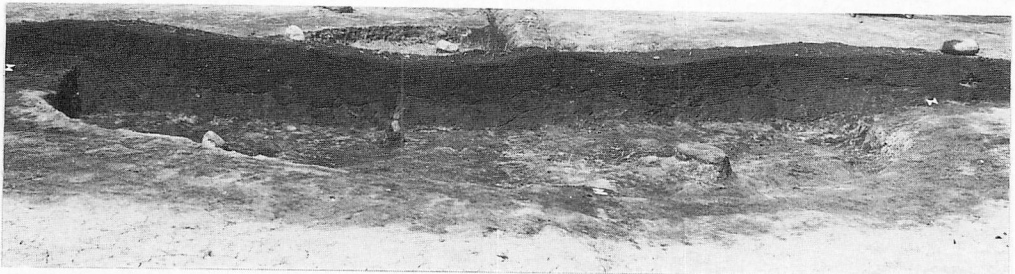
写真図版1 遺跡全景



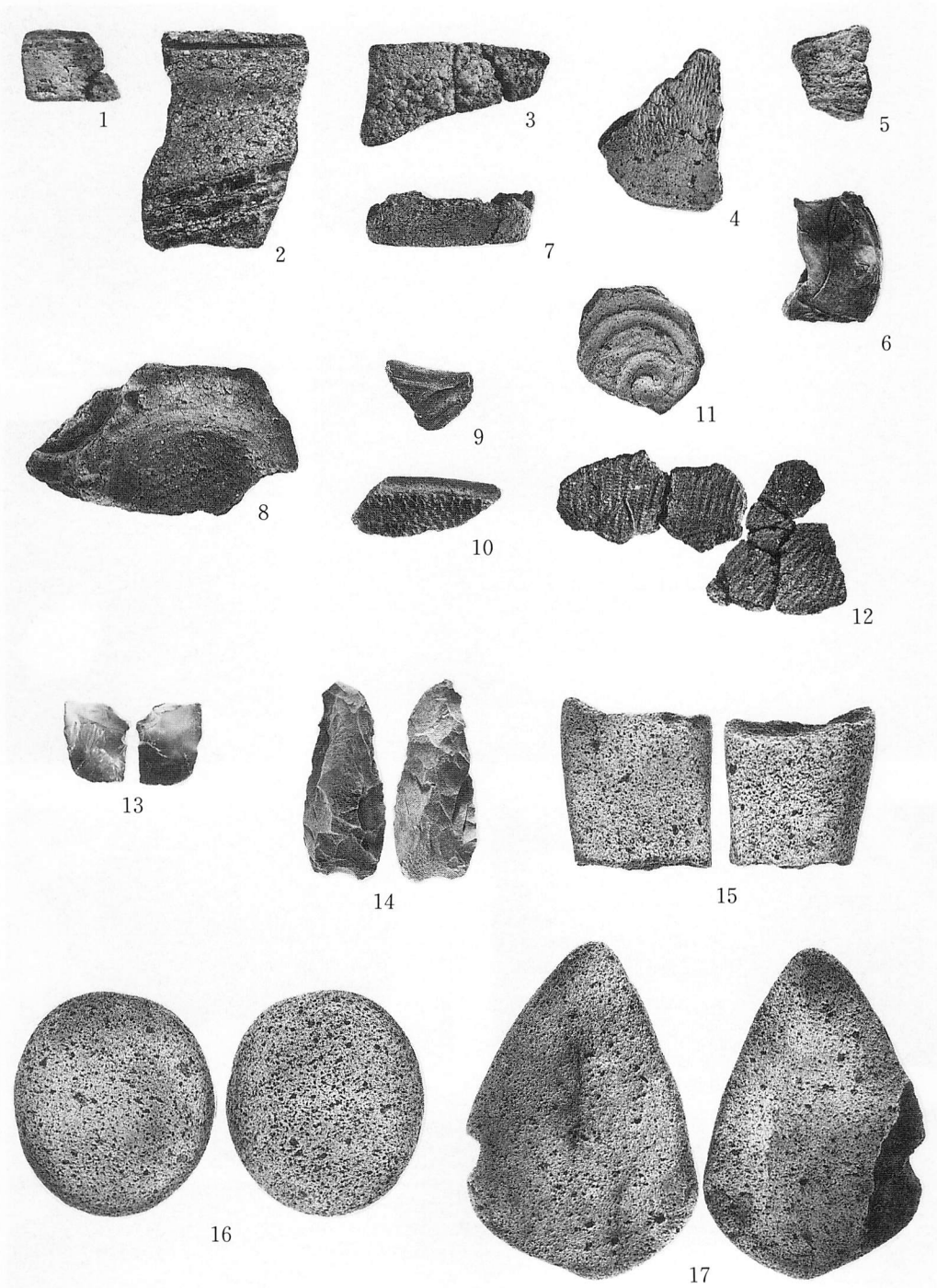
全 景 (北から)



埋土土層断面 (A - B)



埋土土層断面 (C - D)



S=1/3

写真図版3 II B-1号住居跡遺物

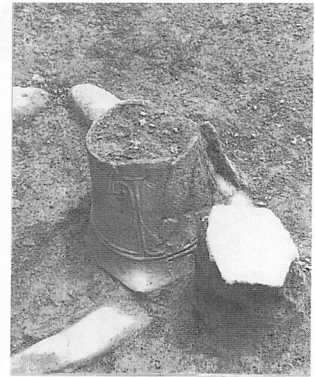




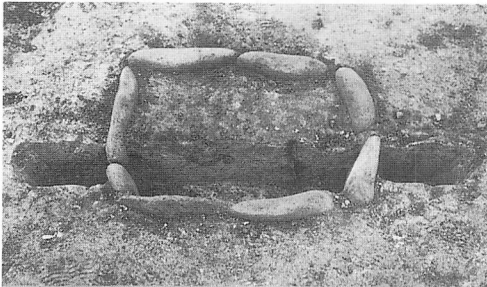
全景（南から）



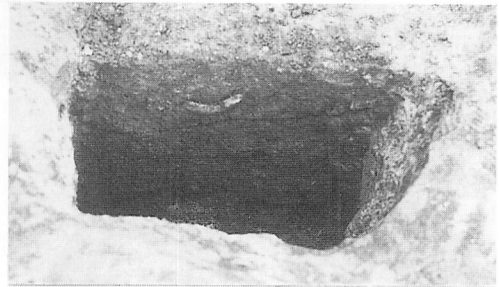
石囲炉平面



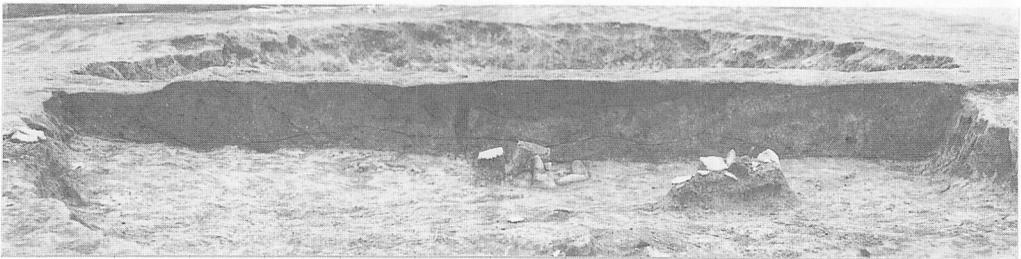
炉直上出土土器



石囲炉断面



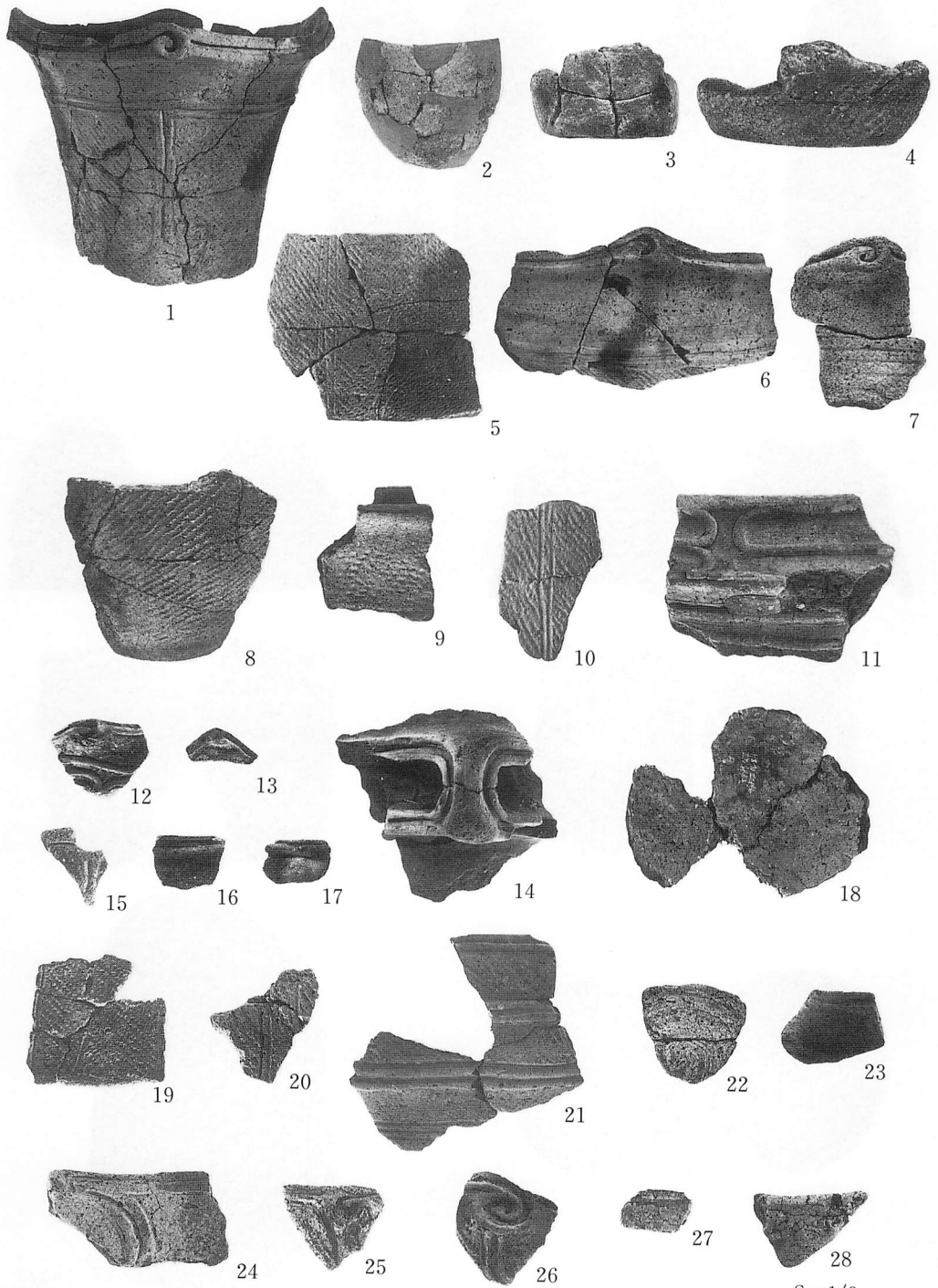
方形ビット断面



埋土土層断面（A-B）

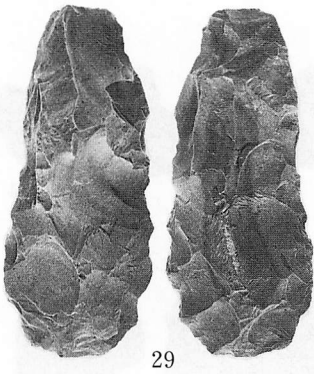
写真図版4 III C-1号住居跡



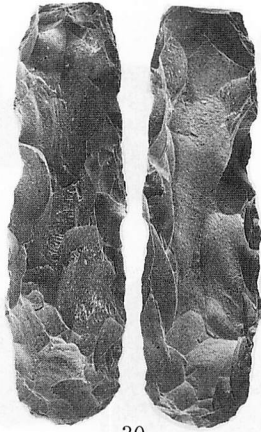


S=1/3  
 S=2/9(1.5-8)

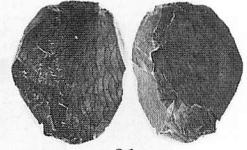
写真図版5 III C-1号住居跡遺物(1)



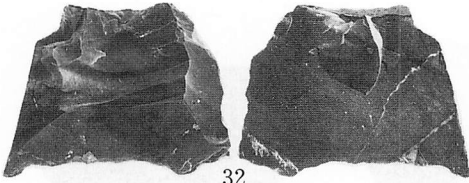
29



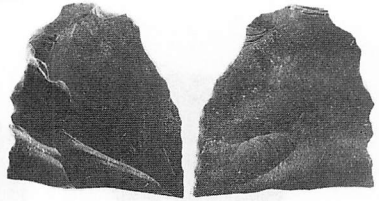
30



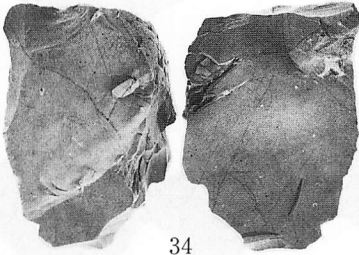
31



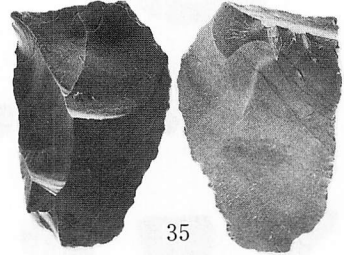
32



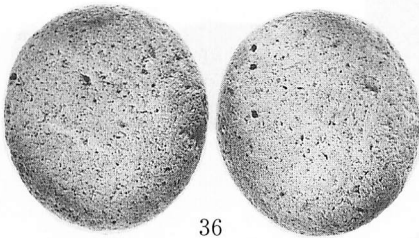
33



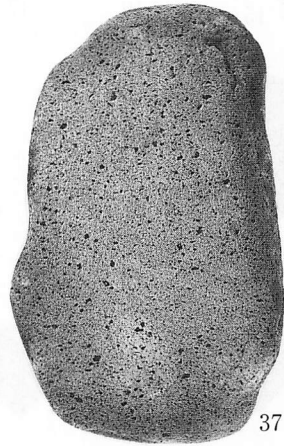
34



35

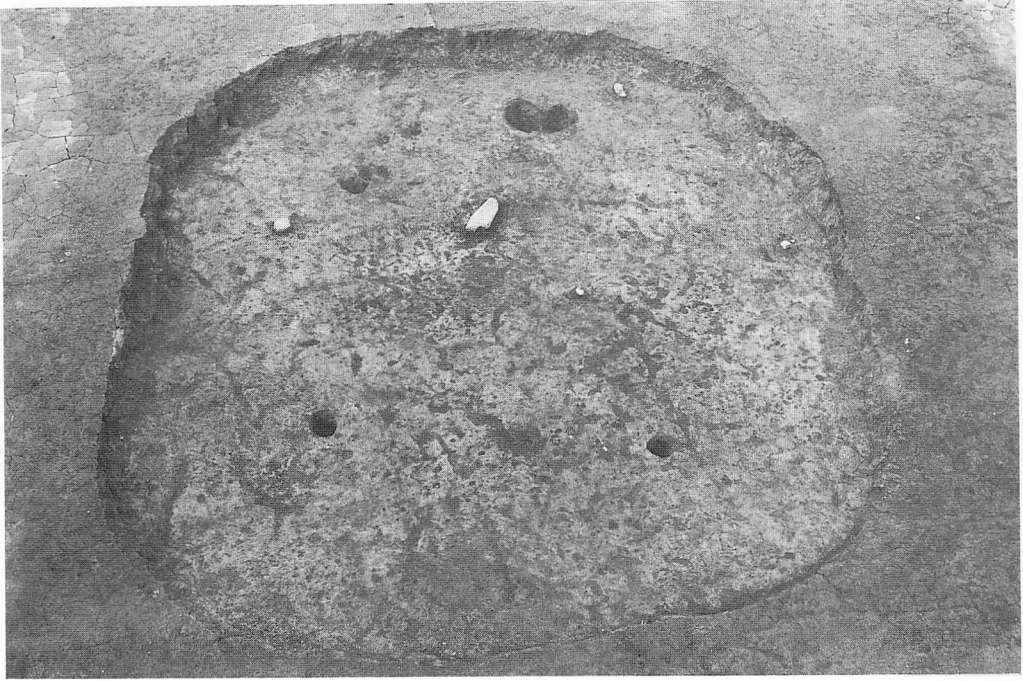


36

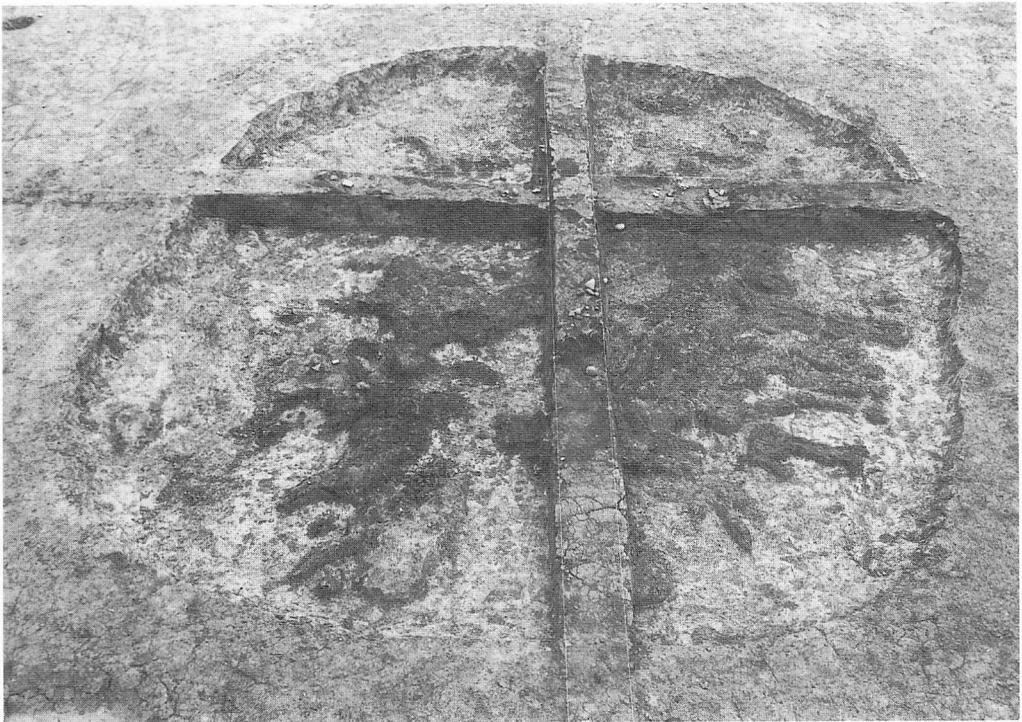


37 S=2/3  
S=2/9 (37)

写真図版6 III C-1号住居跡遺物(2)

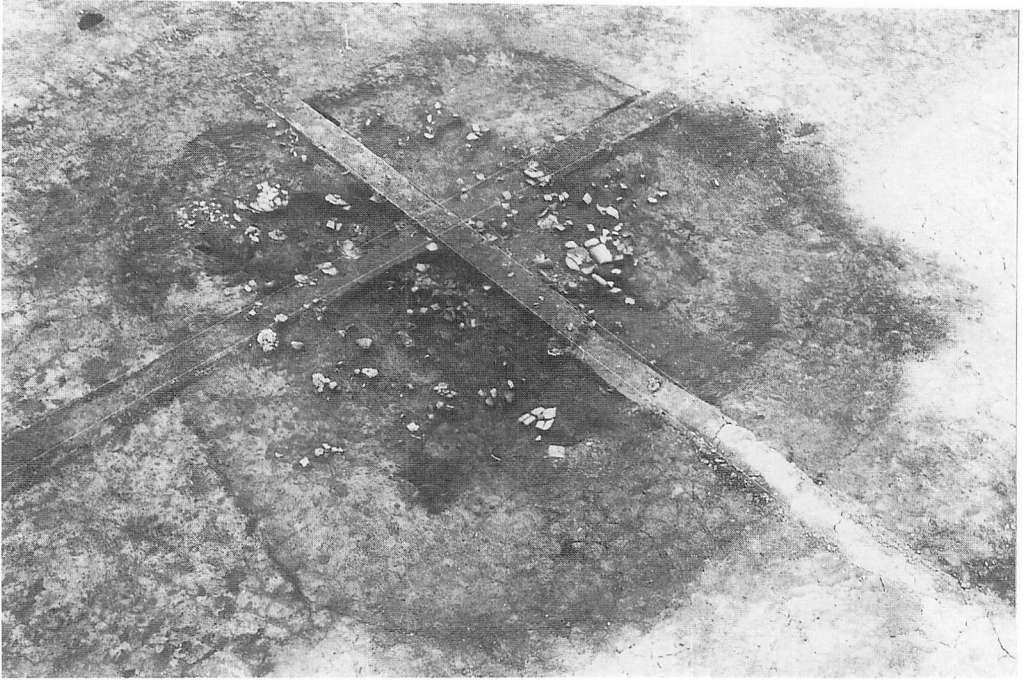


全 景 (西から)

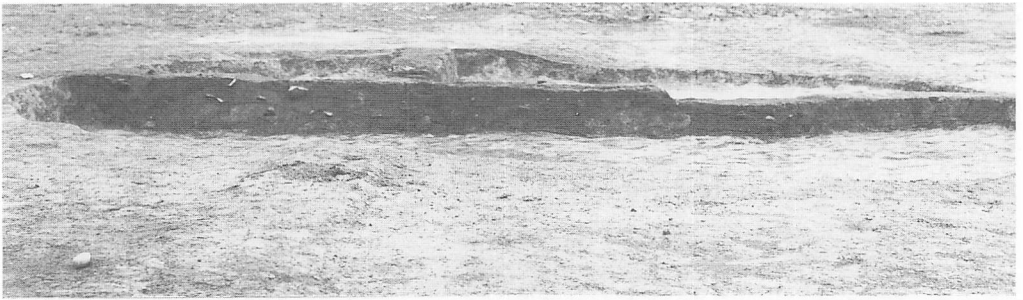


炭化材出土状況 (西から)

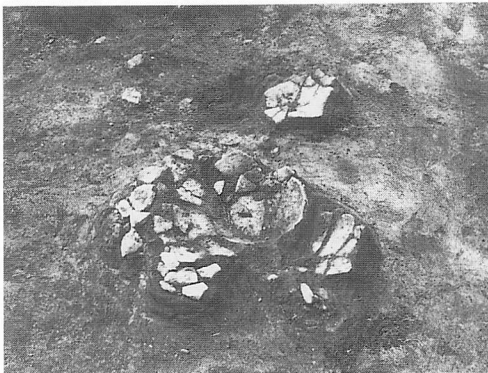
写真図版7 ⅢD-1号住居跡(1)



土器検出状況（北から）



埋土土層断面（A-B）



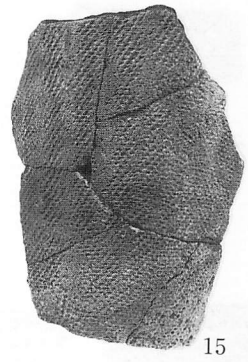
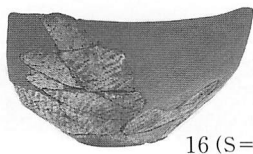
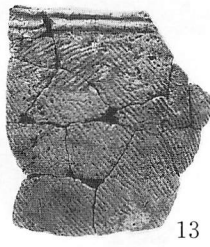
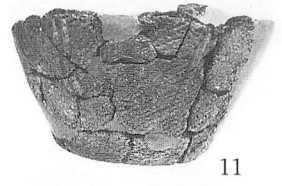
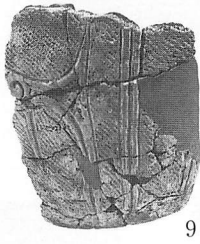
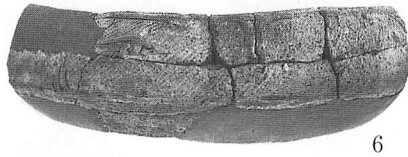
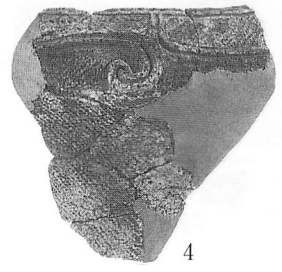
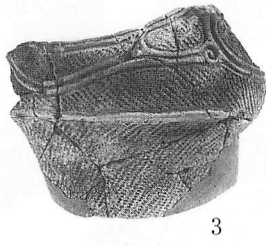
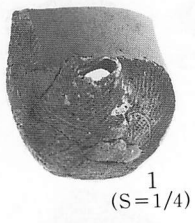
埋土下層土器検出状況



土偶（胴部）出土状況

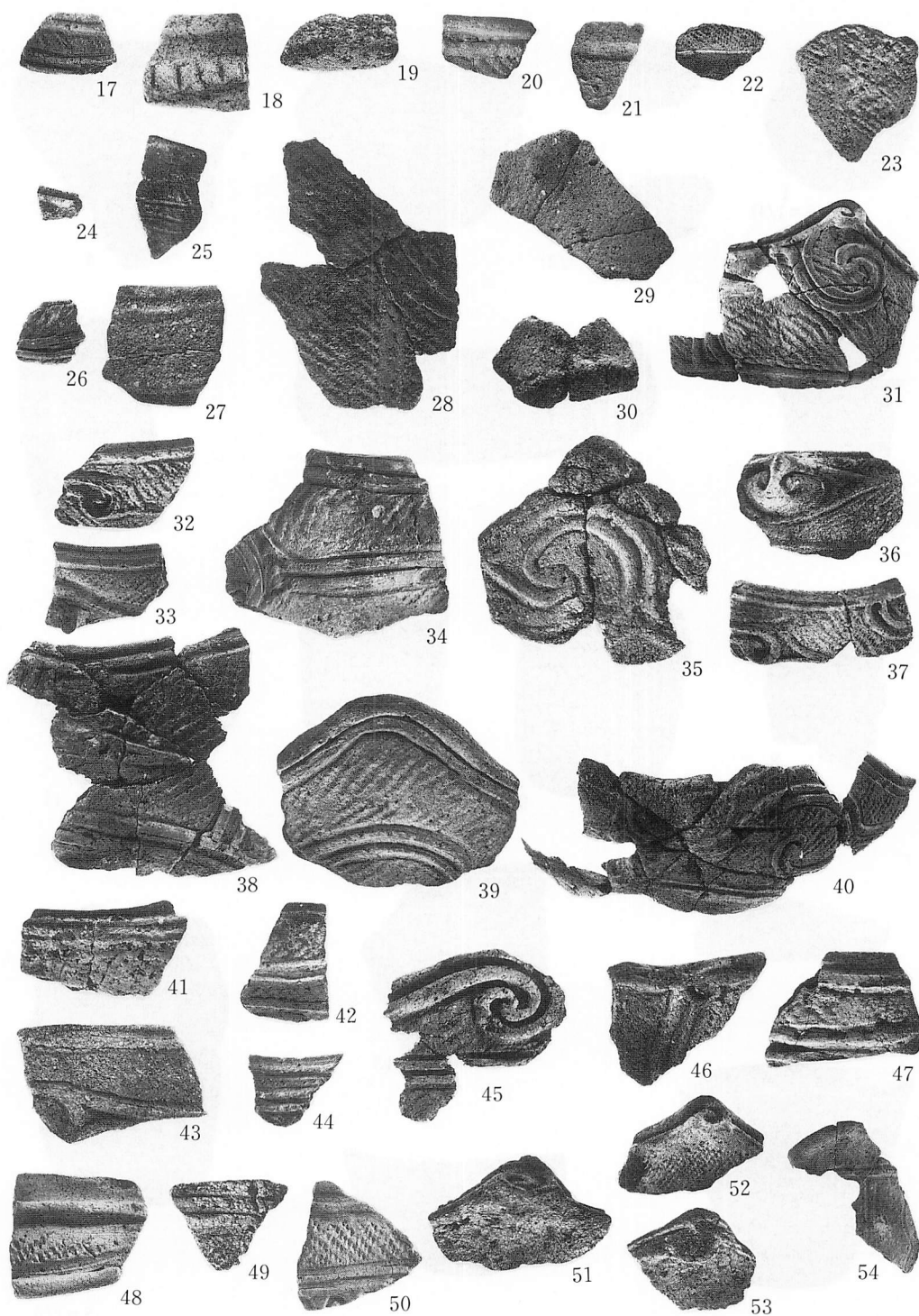
写真図版8 III D-1号住居跡(2)





S=1/6

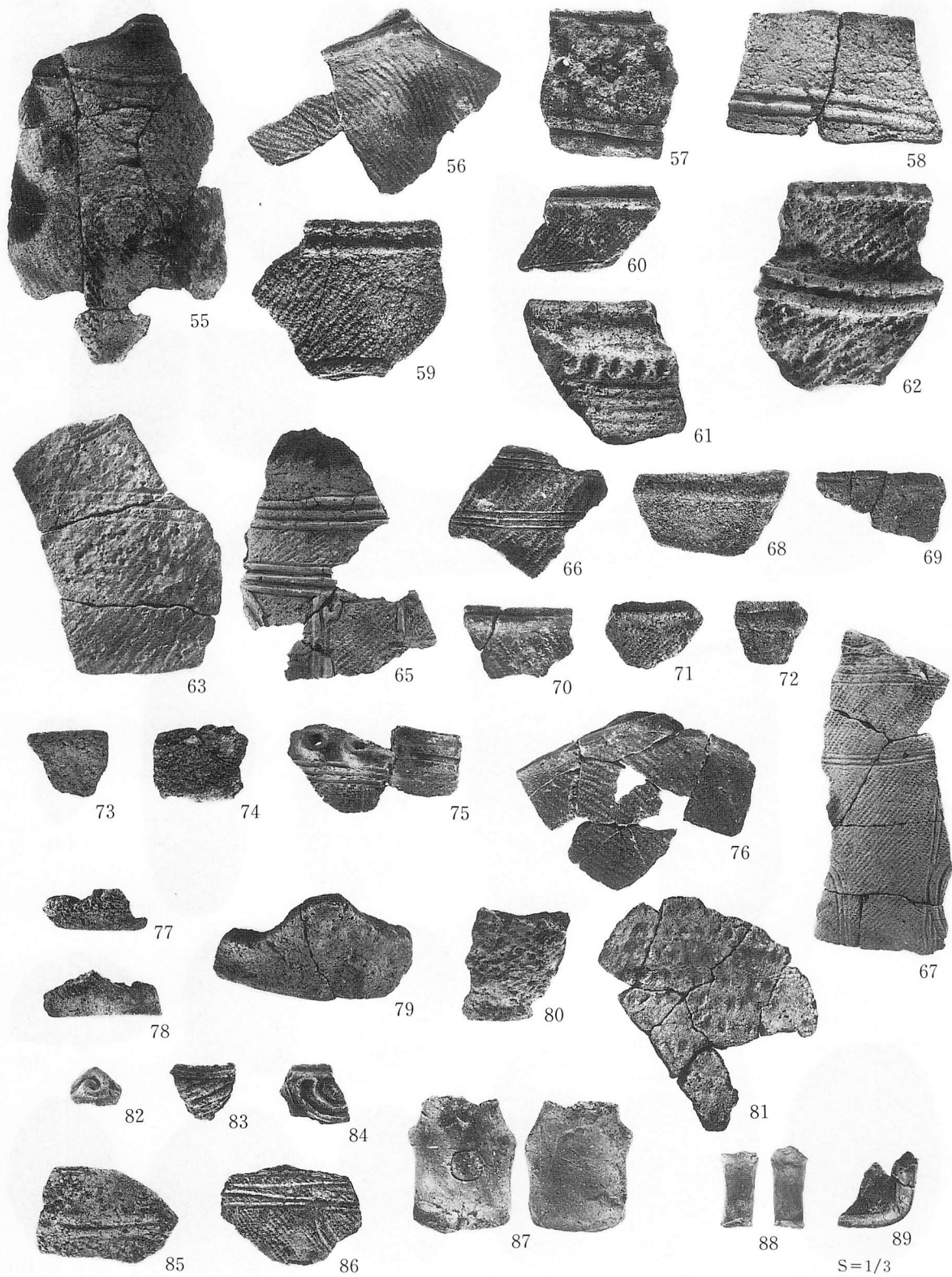
写真図版9 III D-1号住居跡遺物(1)



S=1/3

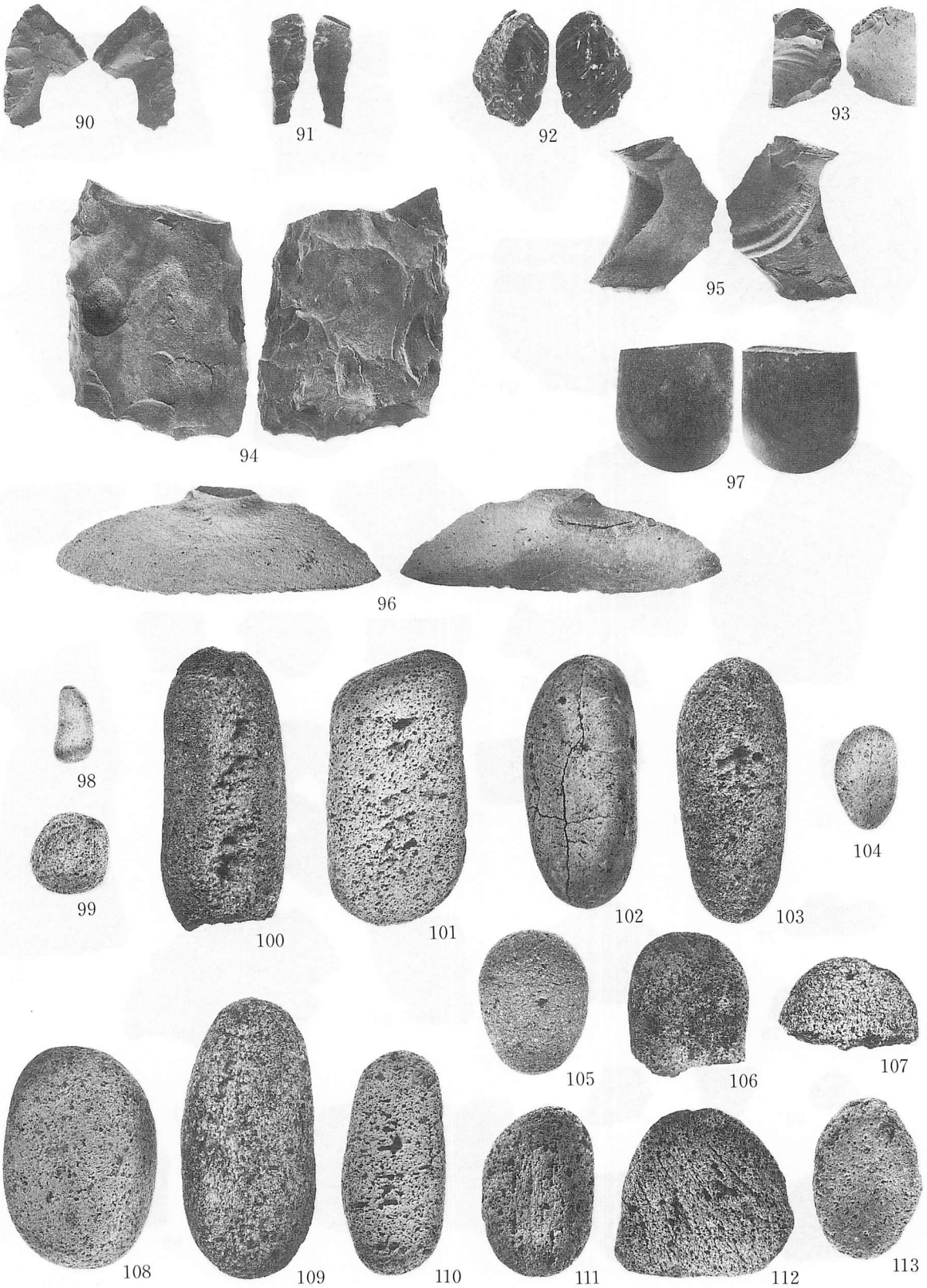
写真图版10 III D-1号住居跡遺物(2)





S=1/3  
S=1/5 (65)  
S=1/6 (67)

写真図版11 III D-1号住居跡遺物(3)

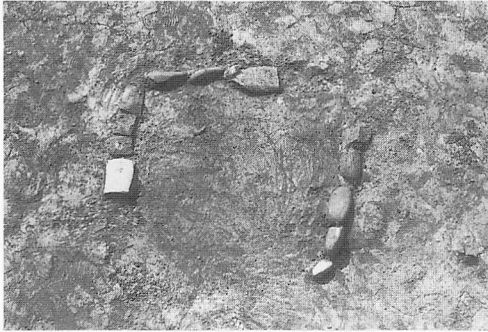


写真図版12 ⅢD-1号住居跡遺物(4)

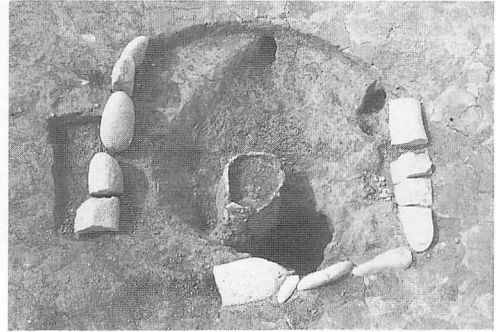
S=2/3 (90~96)  
S=1/3 (98~113)



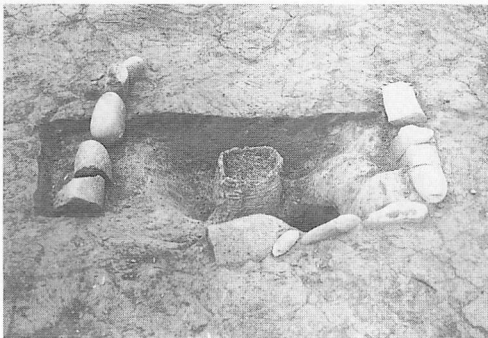
全 景 (北から)



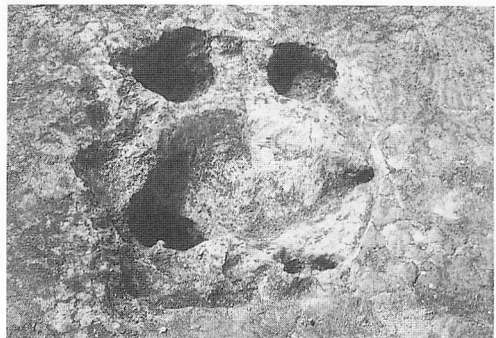
石囲炉平面



埋設土器 (南から)



石囲炉断面



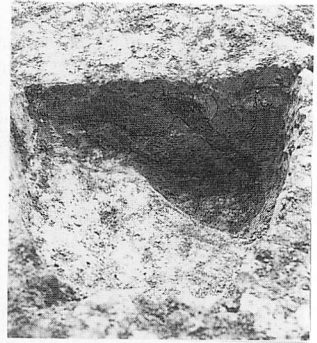
石囲炉 炉石除去後 (東から)

写真図版13 ⅣD-1号住居跡

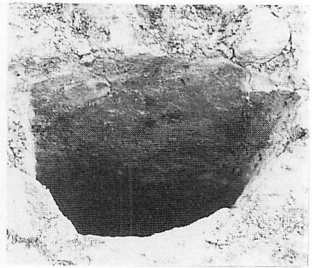




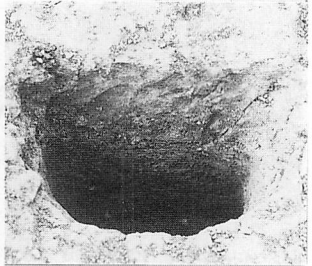
全 景 (東から)



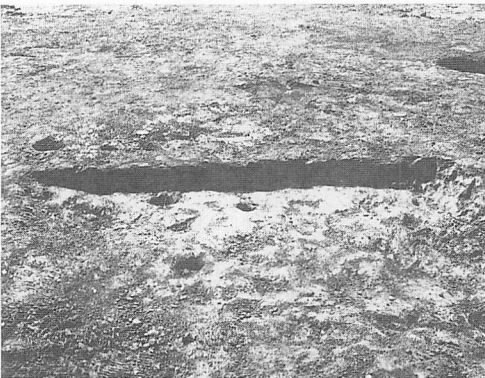
住居内1号土城断面



P<sub>1</sub> 断面



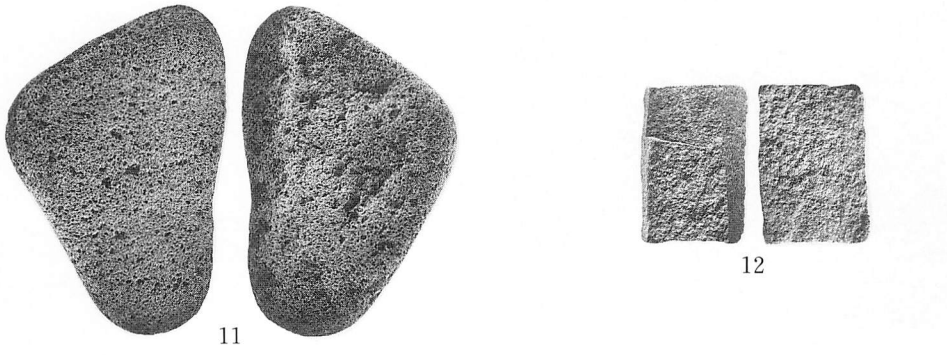
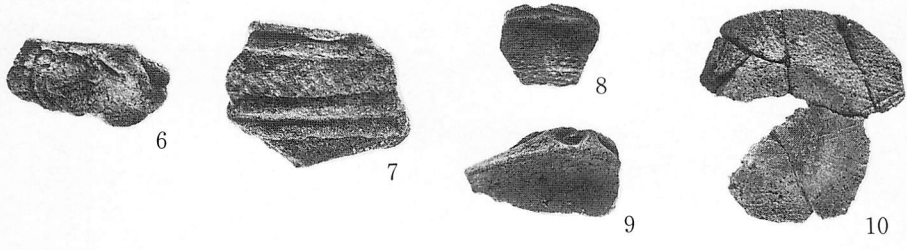
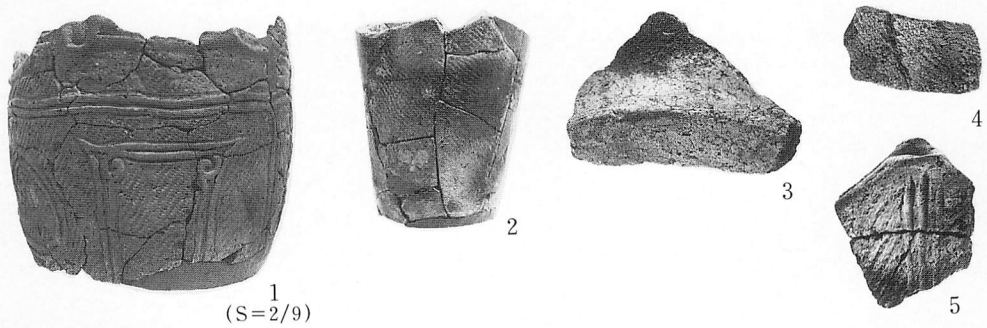
P<sub>2</sub> 断面



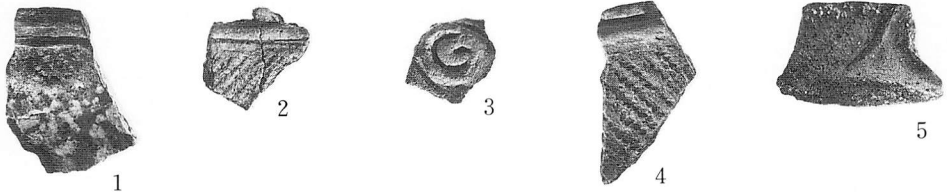
炉断面



炉・焼土除去後



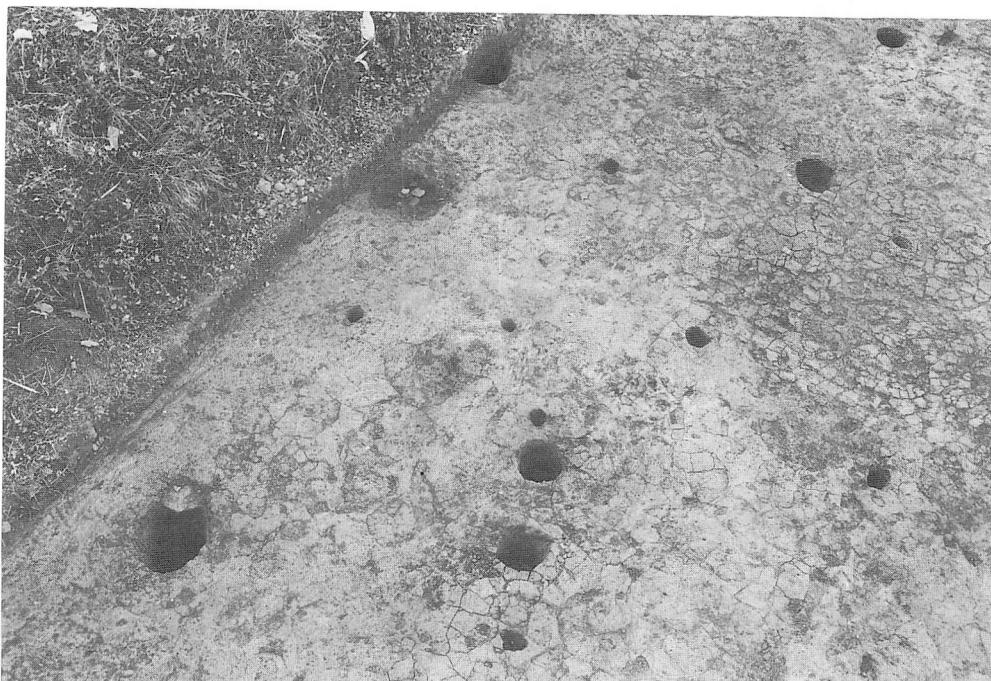
IVD-1号住居跡



IVD-2号住居跡

S=1/3

写真図版15 IVD-1号・2号住居跡遺物



全 景 (東から)



中央ピット底部







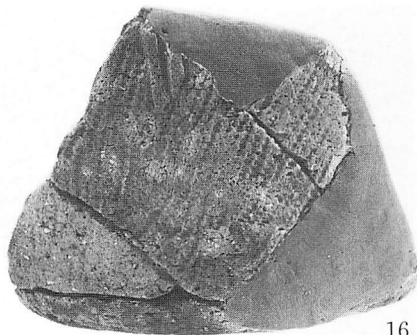
13



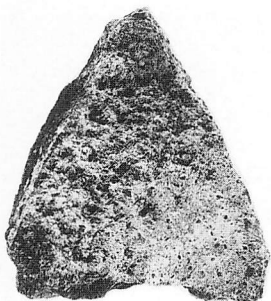
14



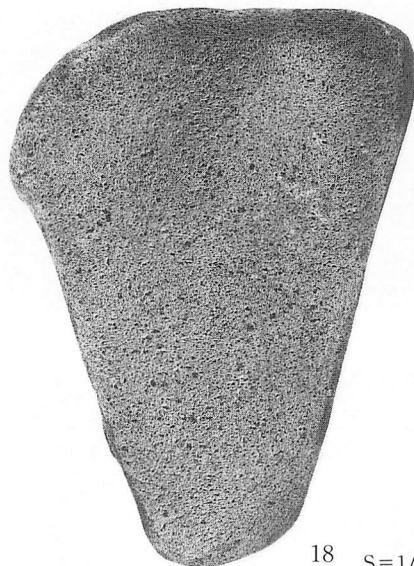
15



16

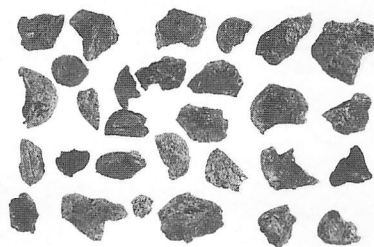


17



18

S=1/2 (13~16)  
S=1/4 (17・18)



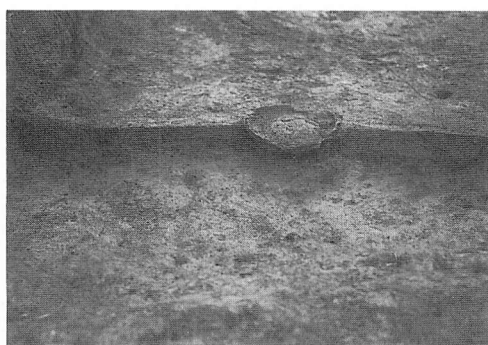
ピット2出土 堅果類



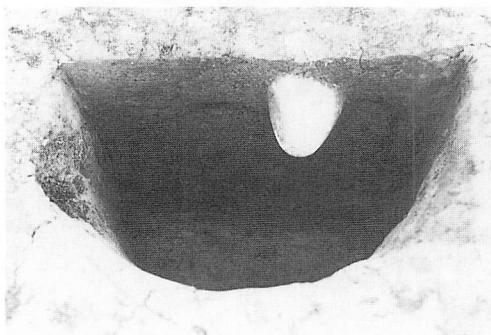
全 景 (南から)



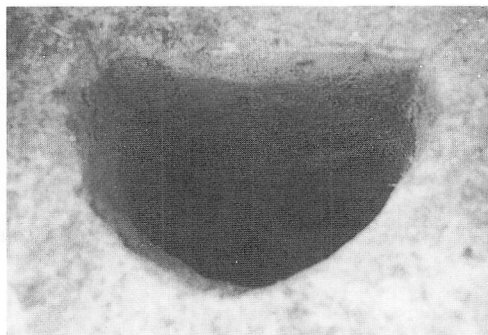
埋設土器



焼土断面

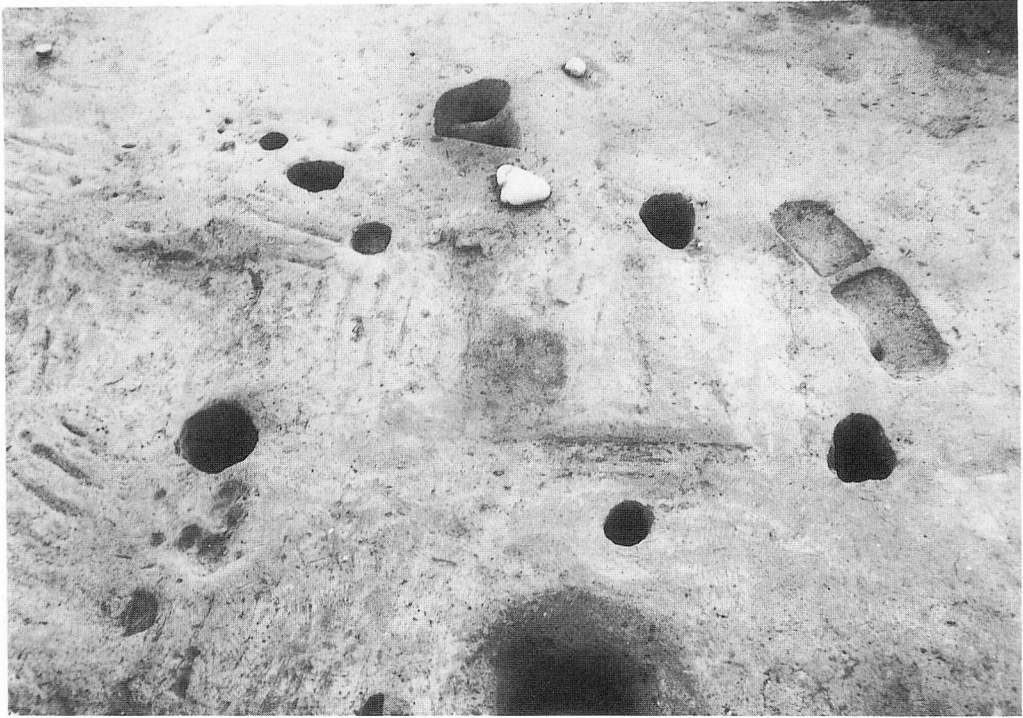


P<sub>3</sub> 断面

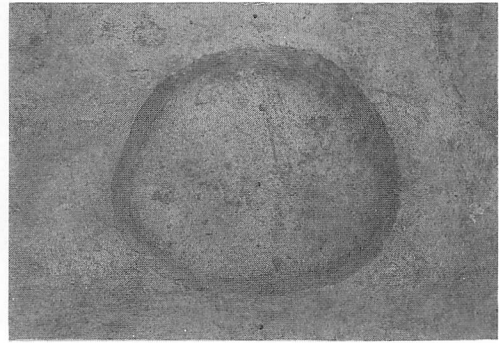
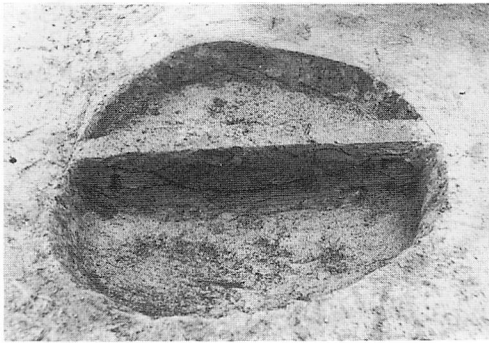


P<sub>6</sub> 断面

写真図版18 IV E-2号住居跡

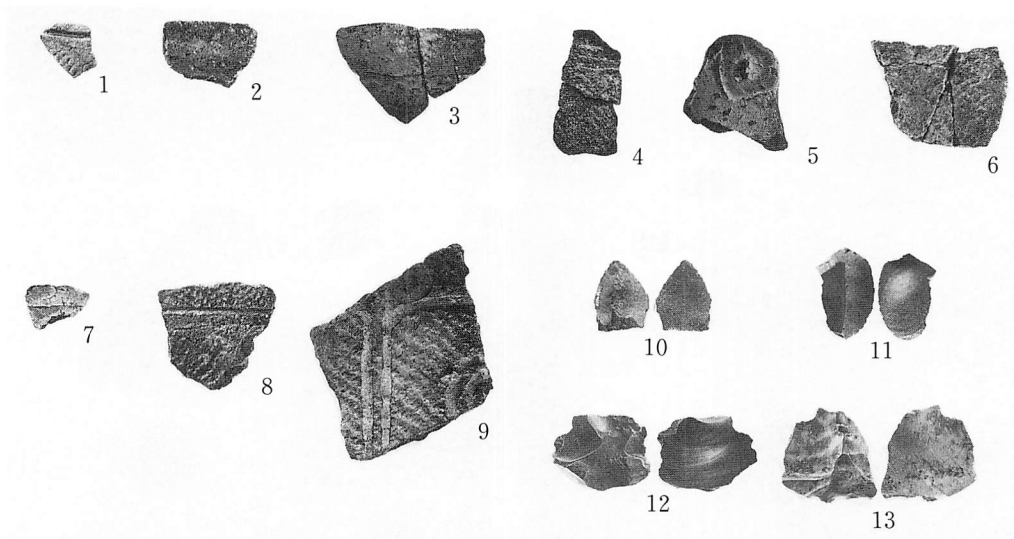


全 景 (北から)

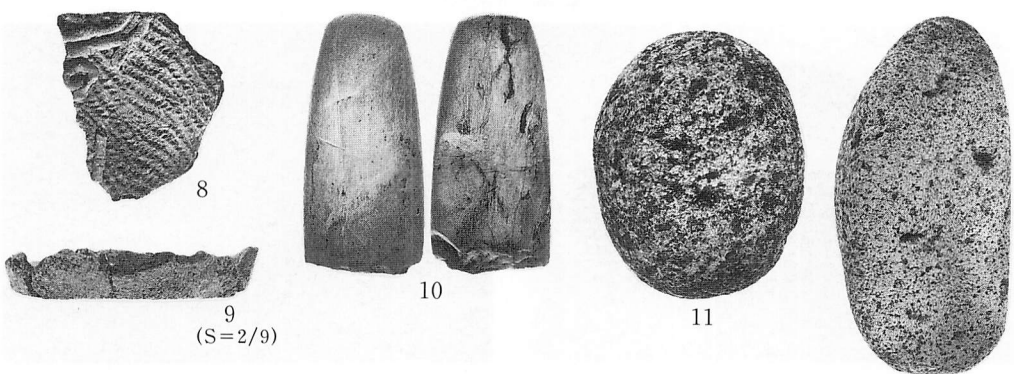


左上 炉断面  
 右上 炉焼土除去後  
 左 P<sub>3</sub>断面

写真図版19 IVF-1号住居跡



IVF-1号住居跡(1~13)



IVE-2号住居跡(1~16)

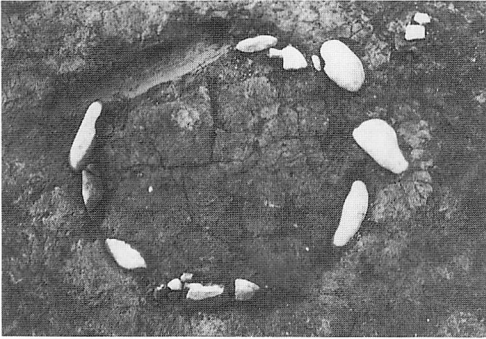
S=1/2

写真図版20 IVE-2号・IVF-1号住居跡遺物

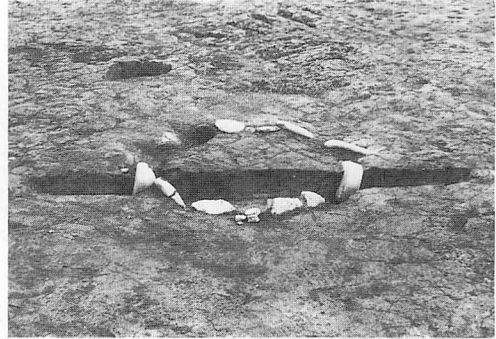




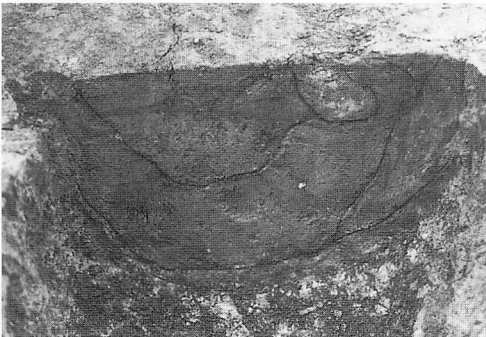
全 景 (北東から)



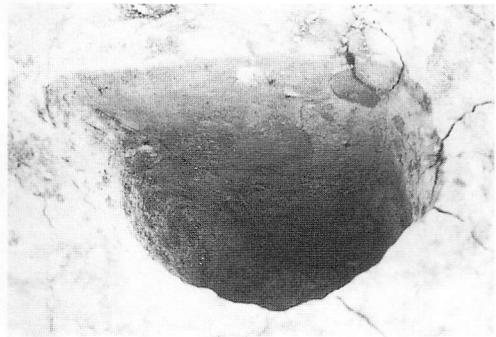
石囲炉平面



石囲炉断面

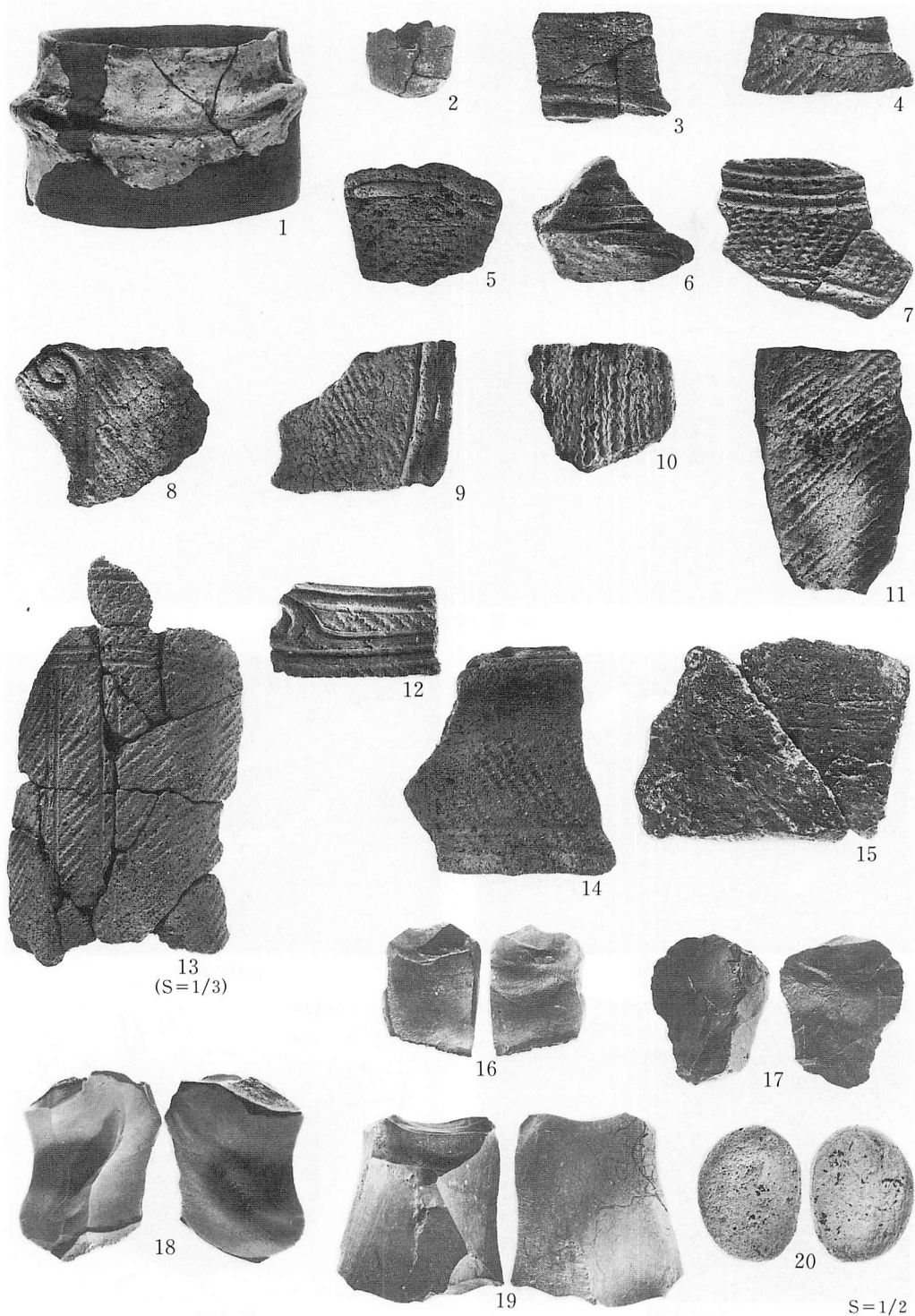


ピット断面



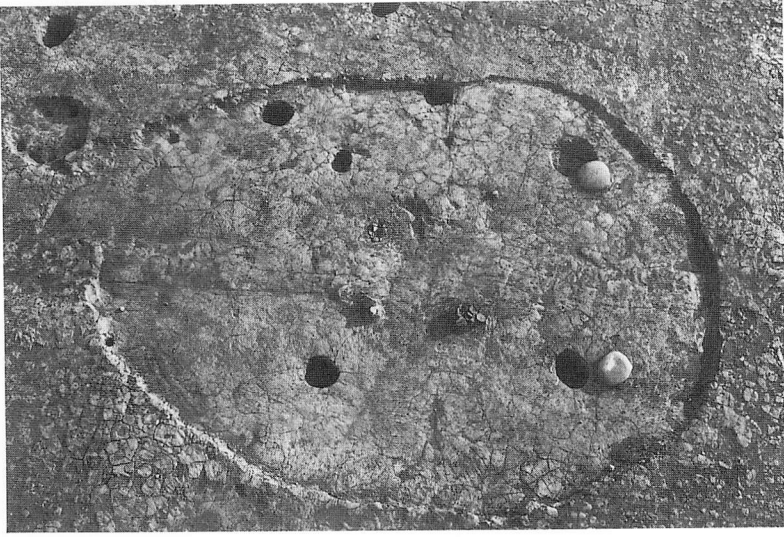
P<sub>1</sub> 断面

写真図版21 III G-1号住居跡

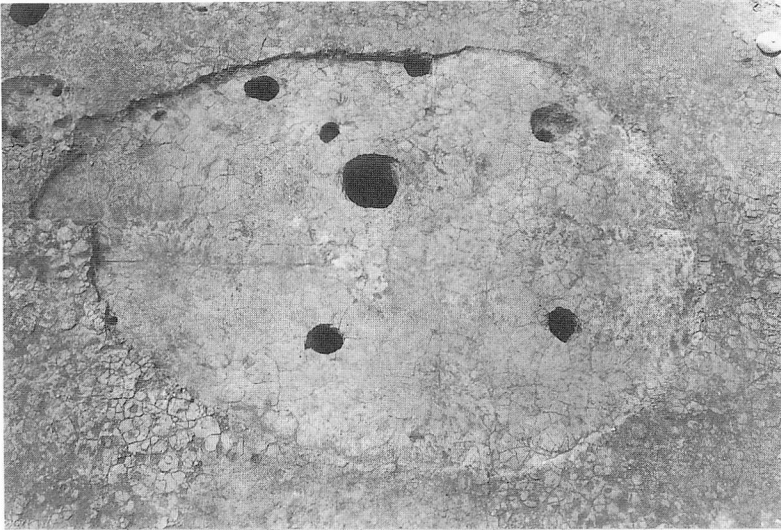


写真图版22 III G-1号住居跡遺物





検出状況（北から）



全 景（北から）

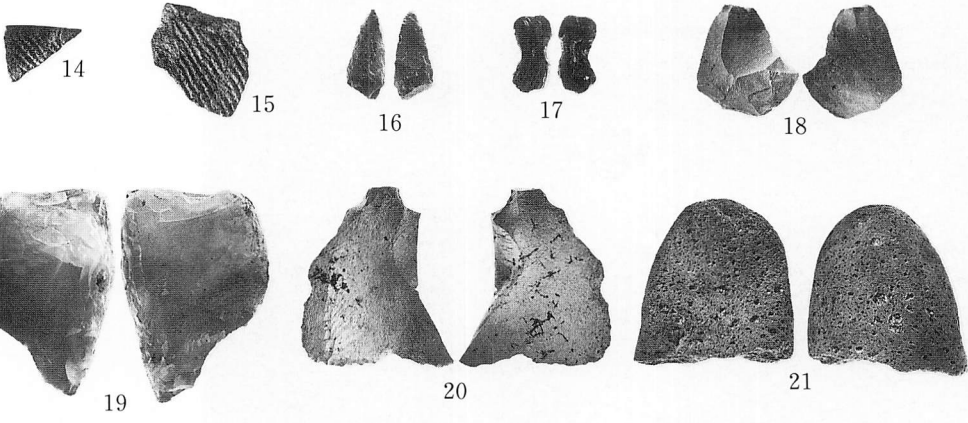


床直中央部一括土器

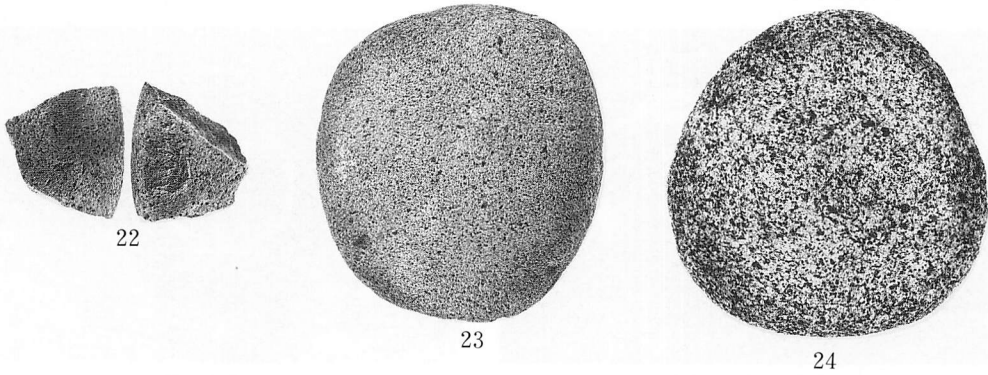


床直土器

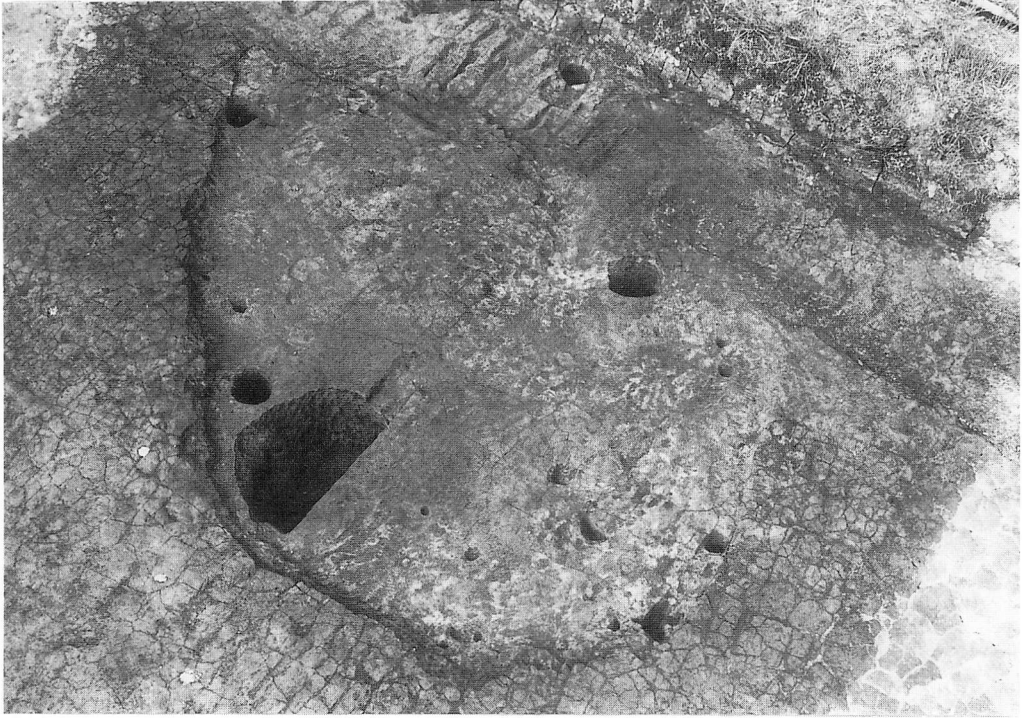
写真図版23 ⅢG-2号住居跡



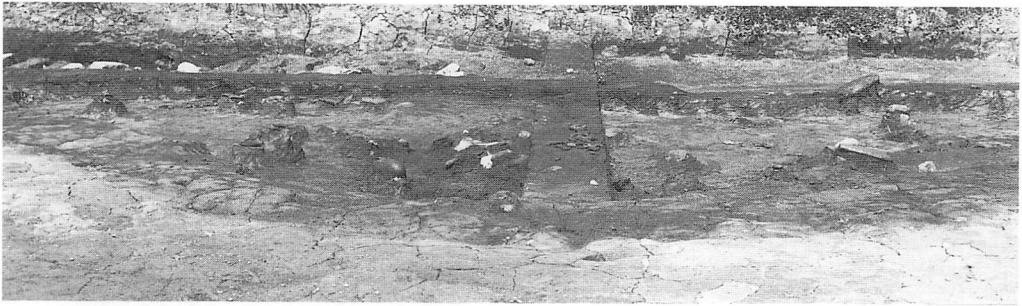
S=1/6 (1, 2, 3, 23, 24)  
 S=1/4 (4~15, 21, 22)  
 S=1/2 (16~20)



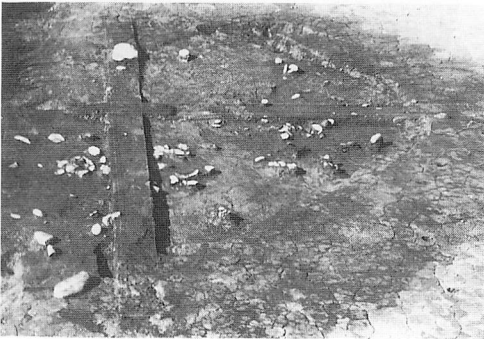
写真図版24 III G-2号住居跡遺物



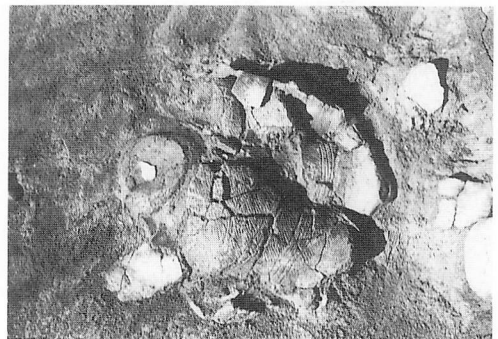
全景（東から）



埋土土層断面（A-B）

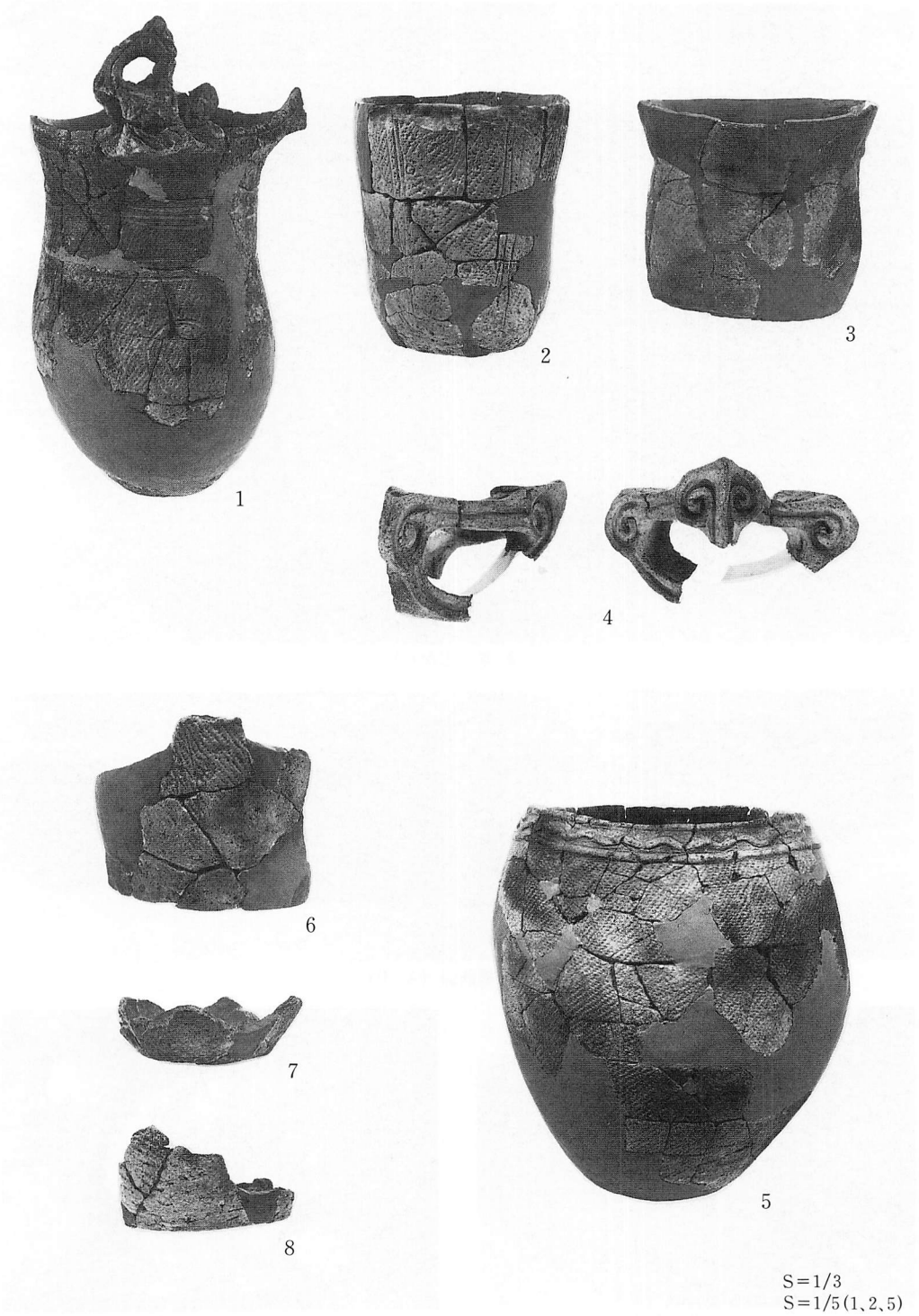


土器検出状況



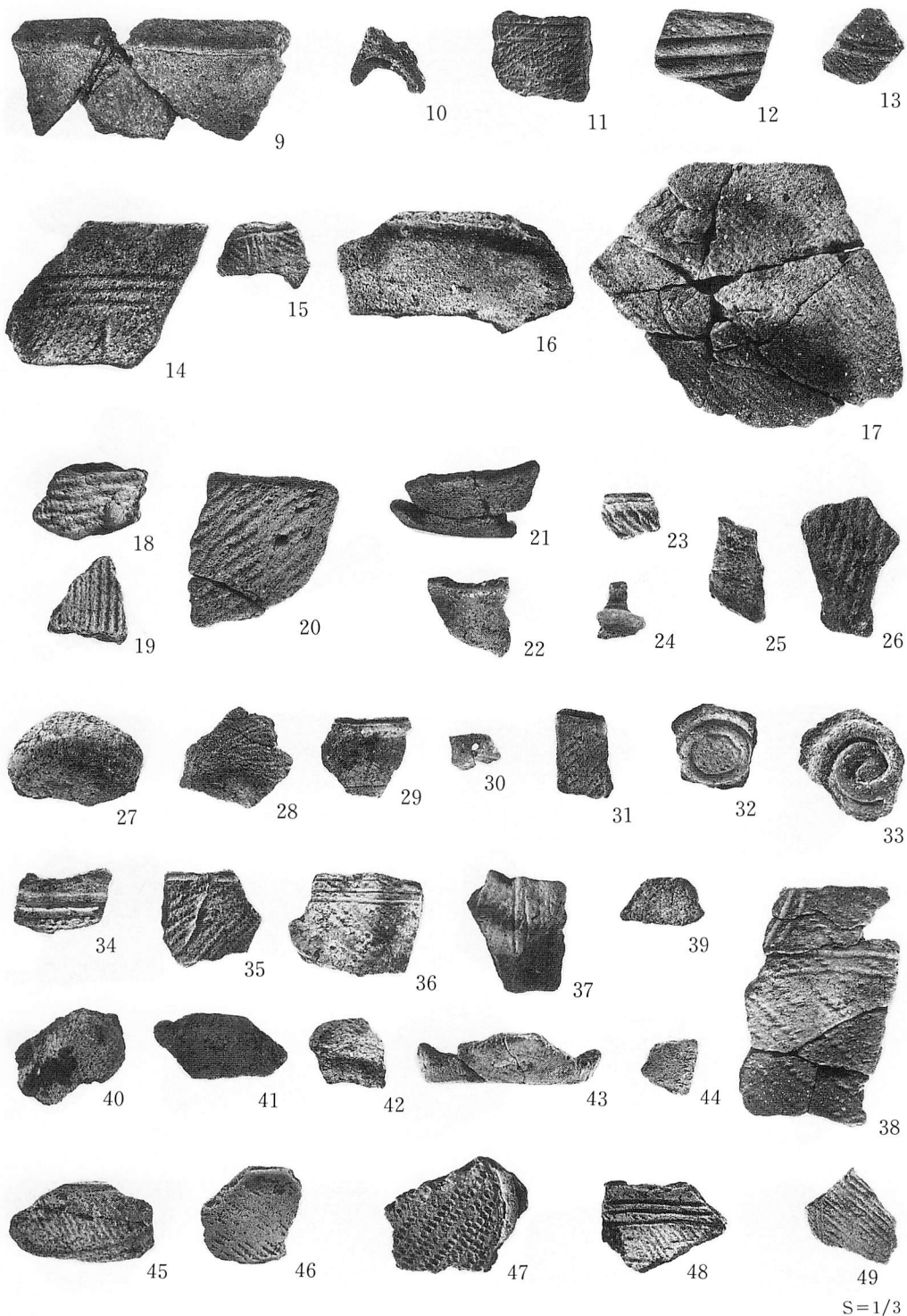
35图・1の出土状況

写真図版25 III G-3号住居跡

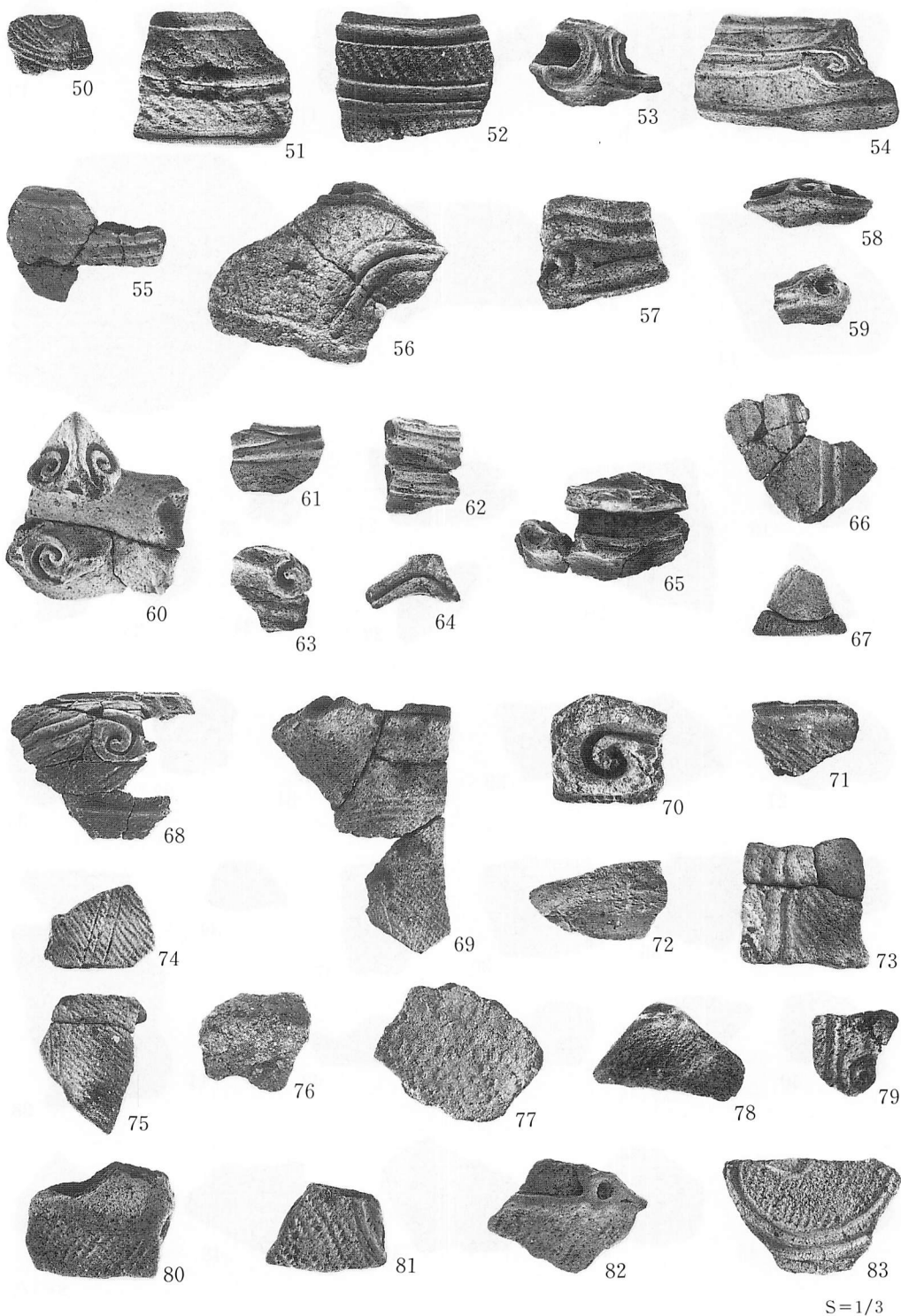


写真図版26 III G-3号住居跡遺物(1)



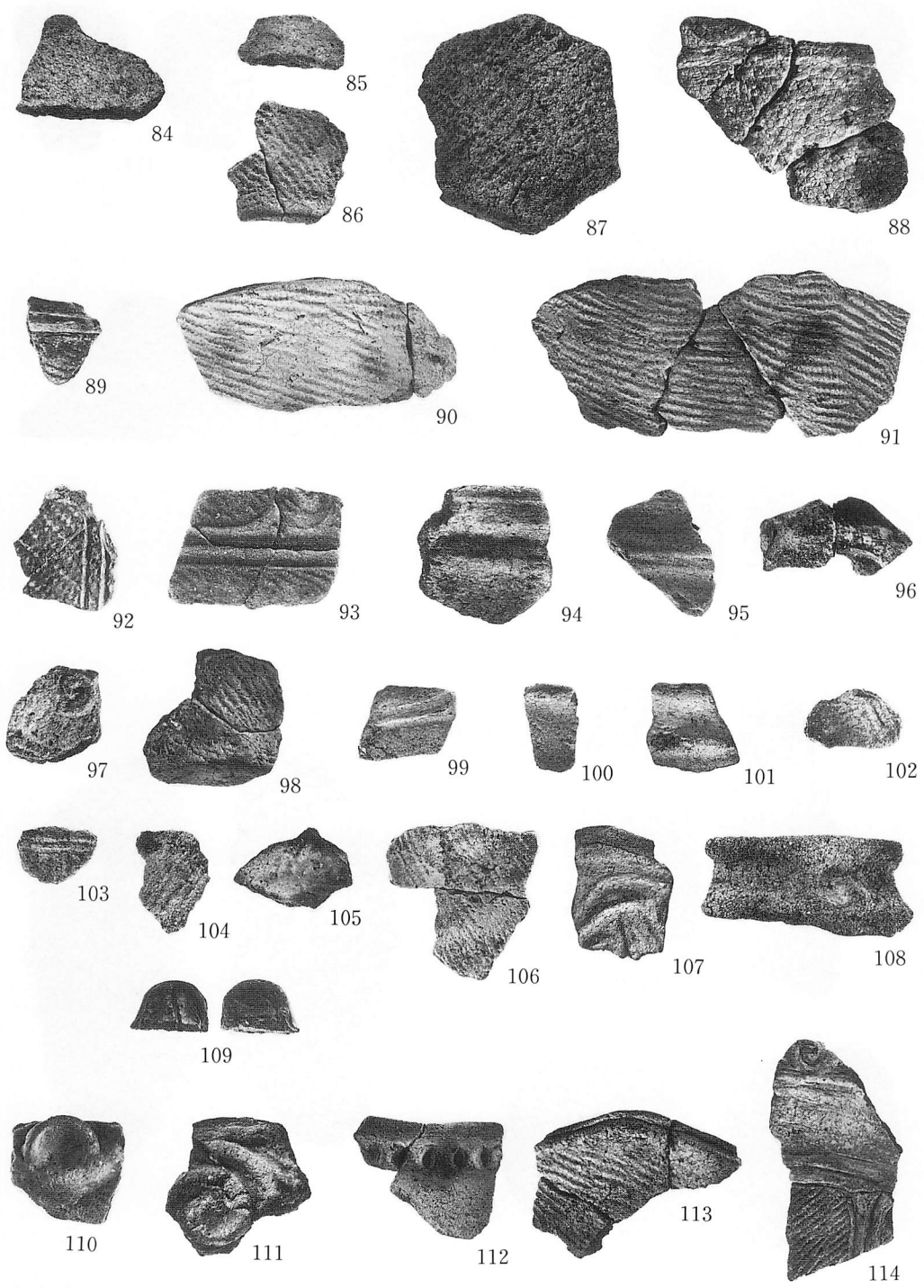


写真図版27 III G-3号住居跡遺物(2)



写真图版28 III G-3号住居跡遺物(3)



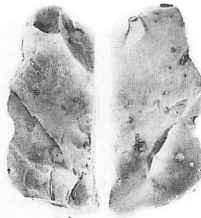


S=1/3

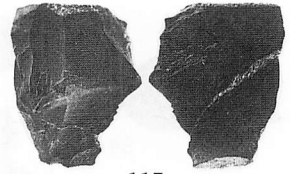
写真图版29 III G-3号住居跡遺物(4)



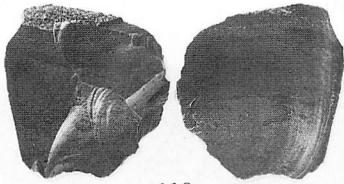
115



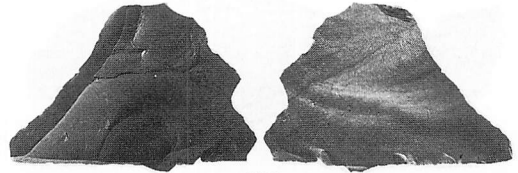
116



117



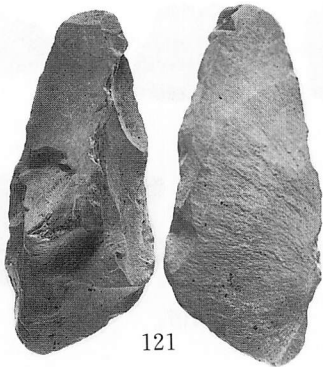
118



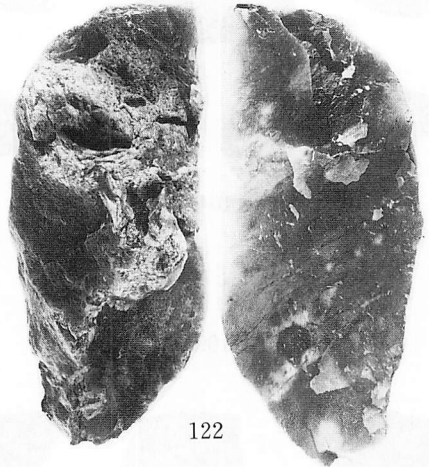
120



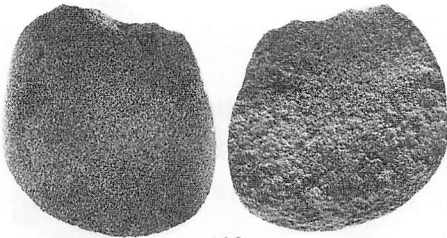
119



121



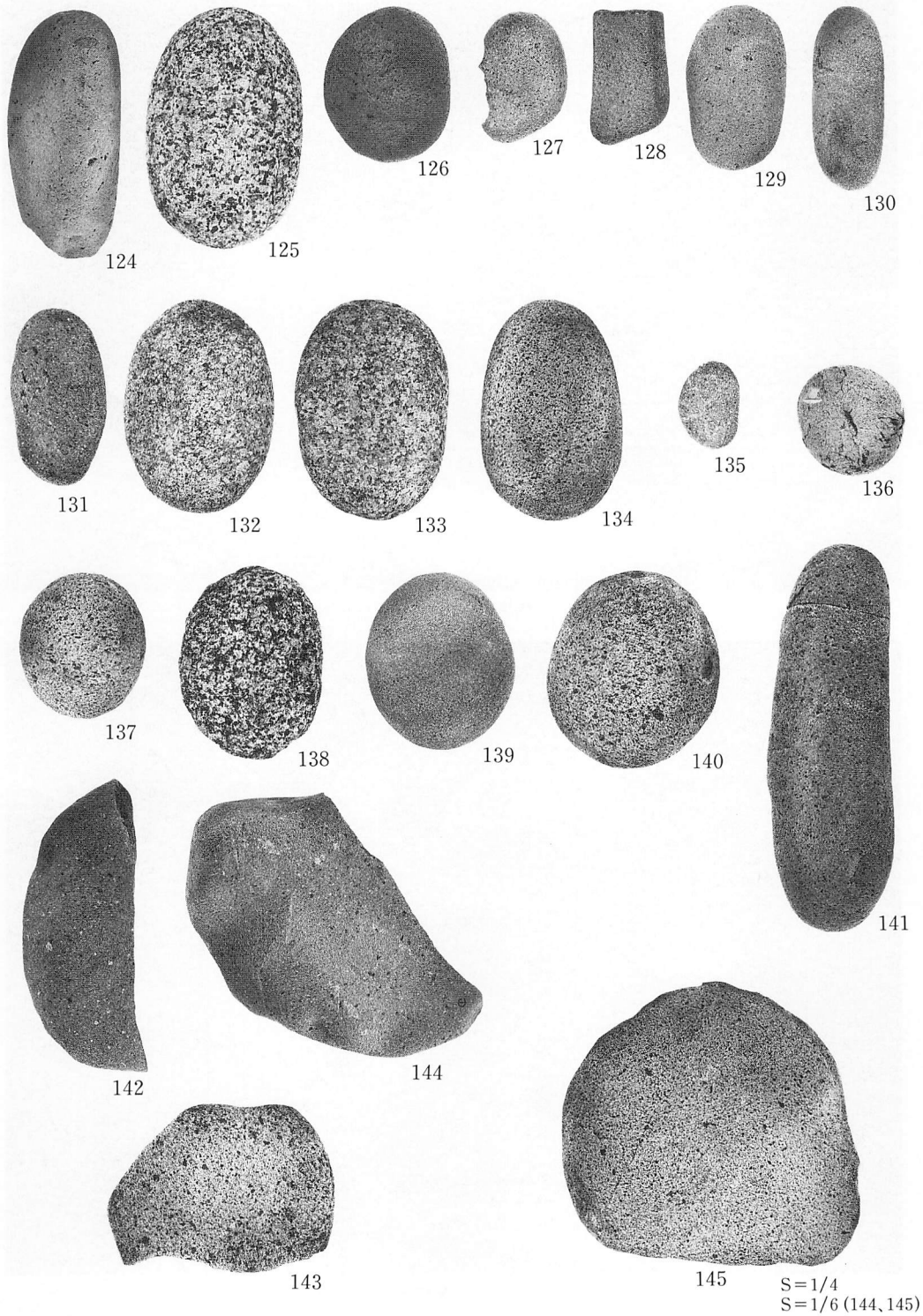
122



123

S=2/3

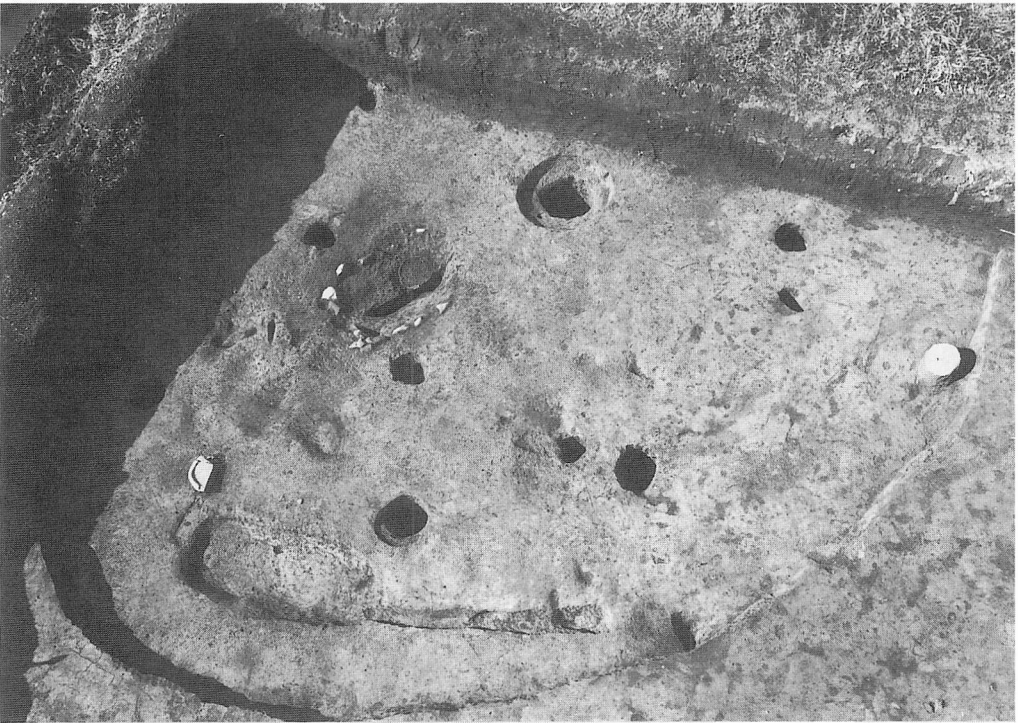
写真图版30 III G-3号住居跡遺物(5)



写真図版31 III G-3号住居跡遺物(6)



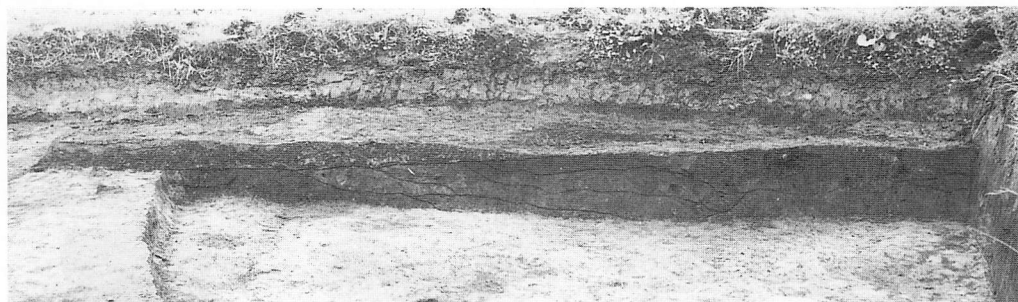
検出状況（東から）



全景（東から）

写真図版32 IVG-1号住居跡(1)

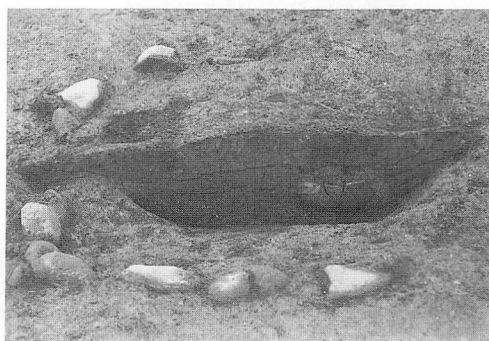




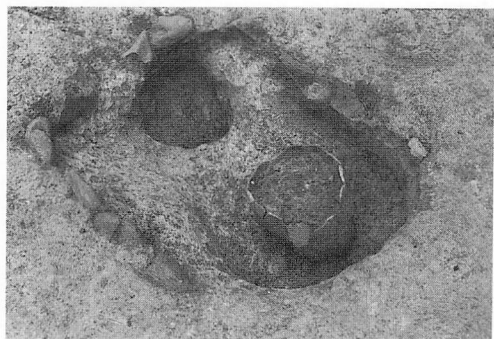
埋土土層断面 (A-B)



石囲炉平面



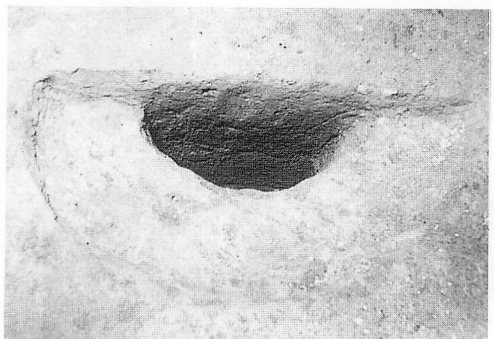
石囲炉断面



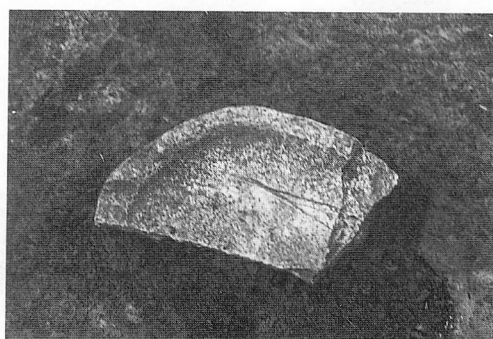
埋設土器



石囲炉 炉石除去後

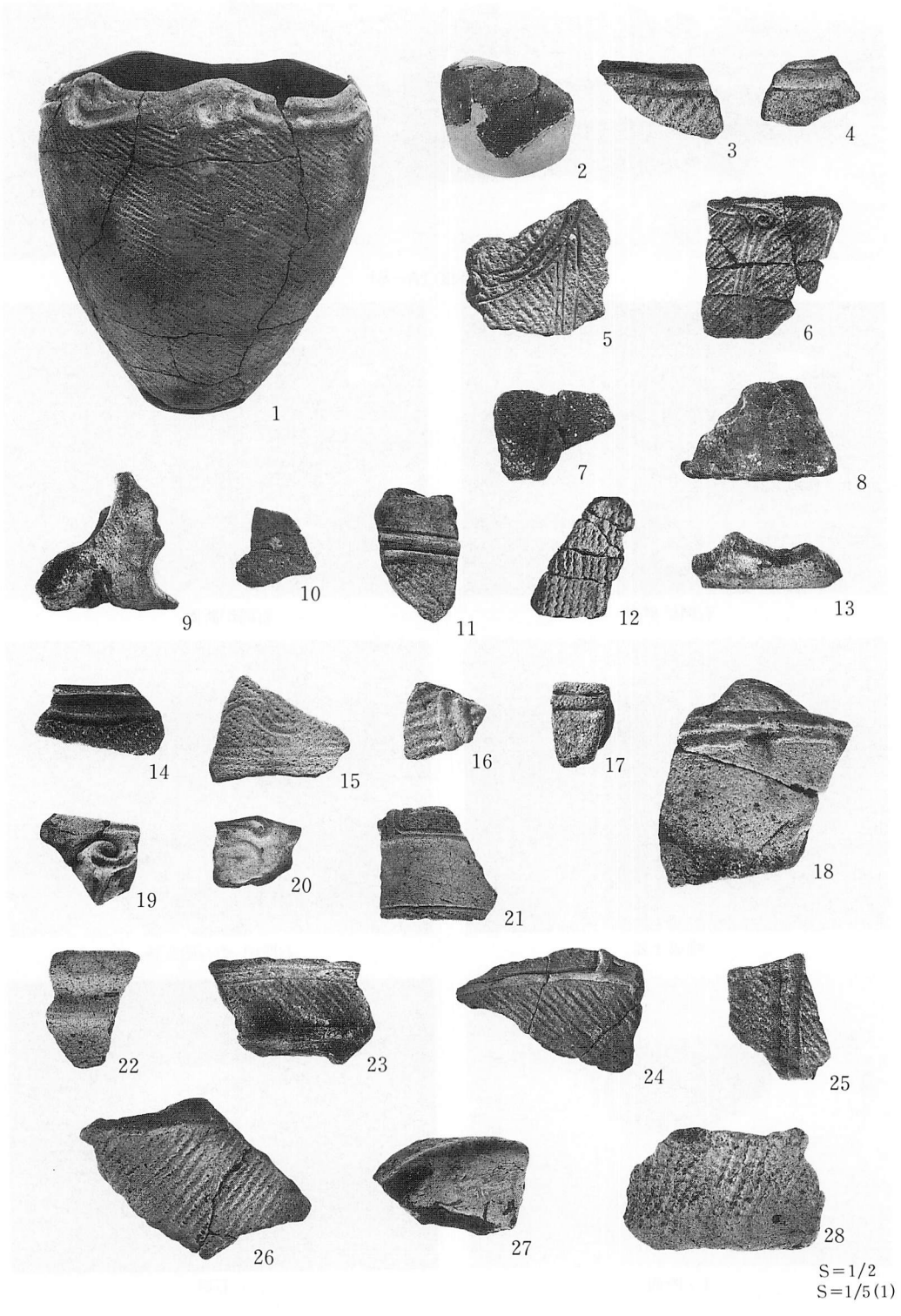


P<sub>2</sub> 断面



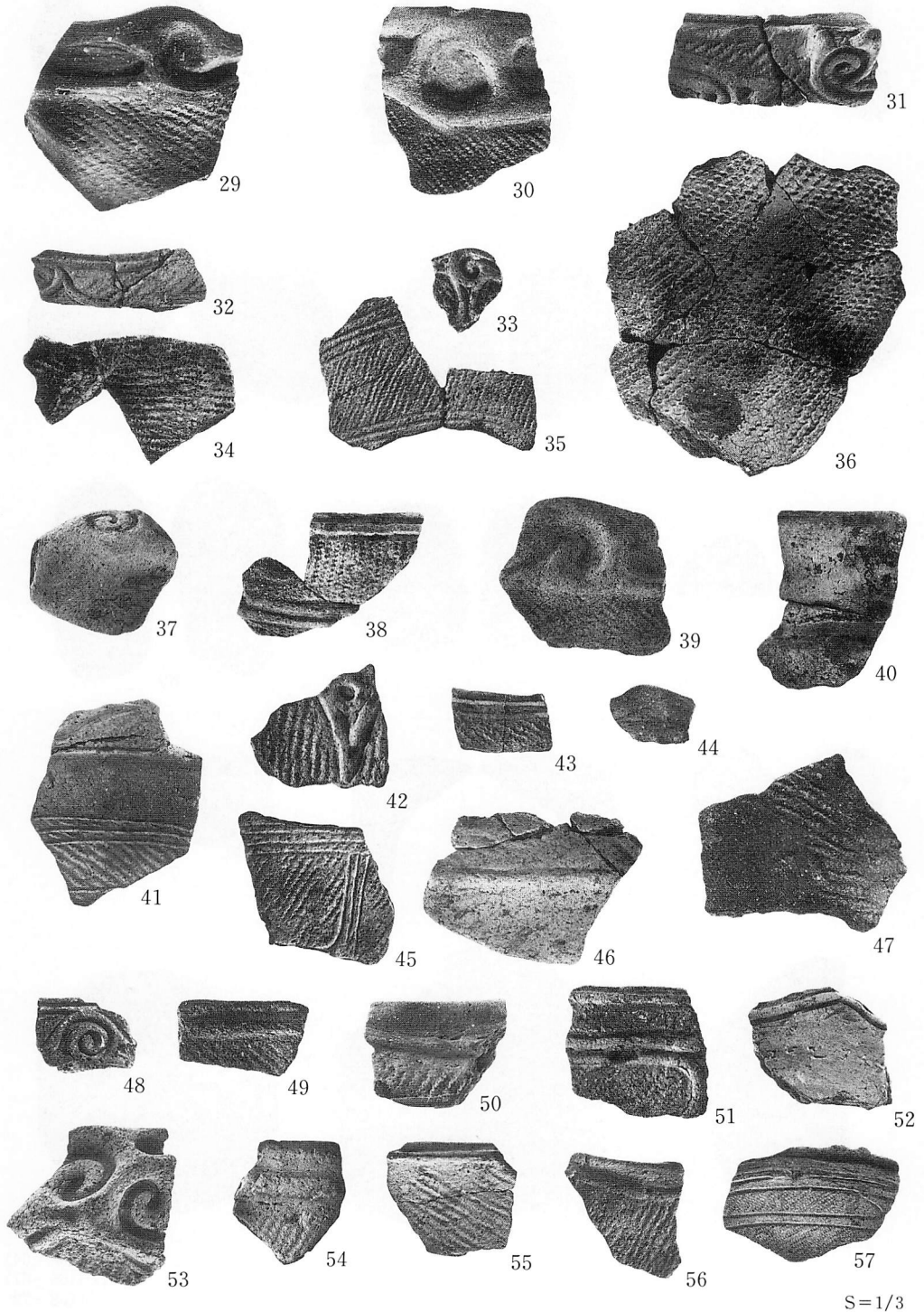
石皿

写真図版33 IVG-1号住居跡(2)



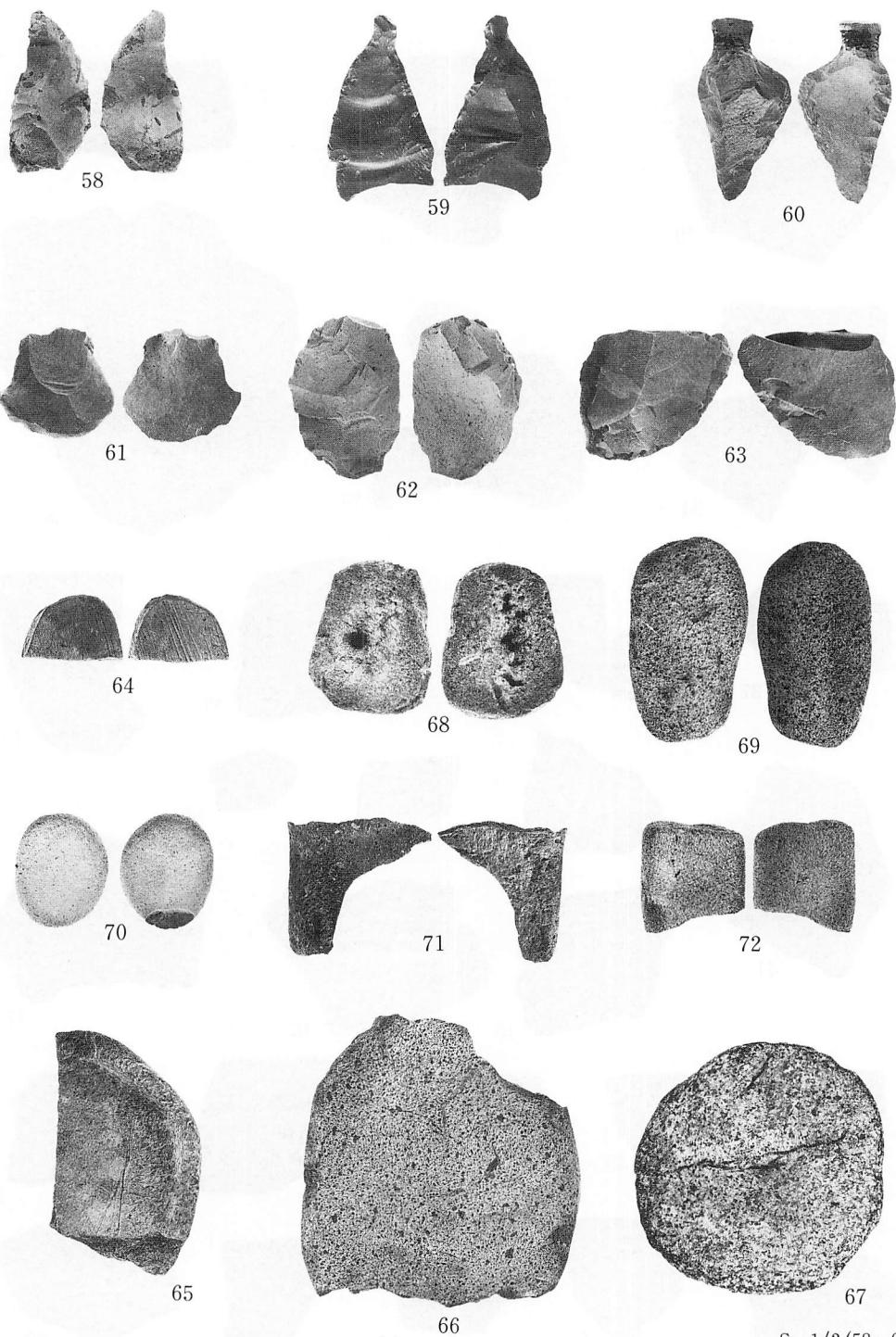
写真図版34 IVG-1号住居跡遺物(1)





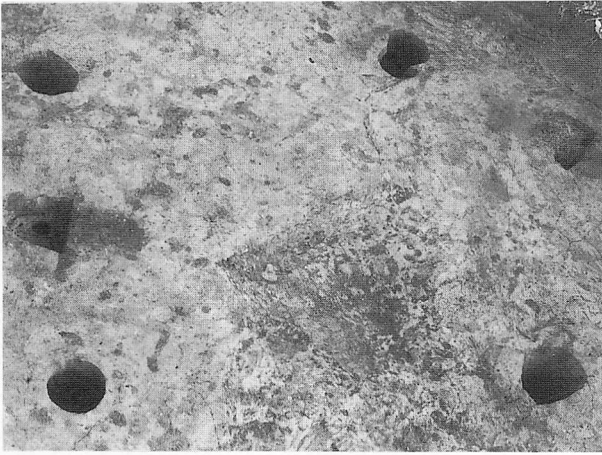
S=1/3

写真図版35 IVG-1号住居跡遺物(2)

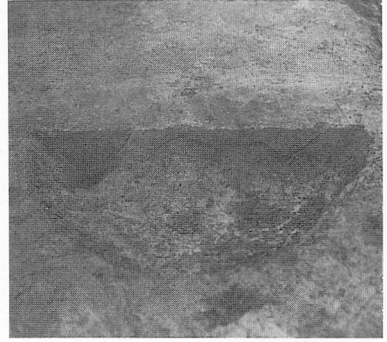


S=1/2 (58~64)  
 S=1/6 (65~67)  
 S=1/4 (68~72)

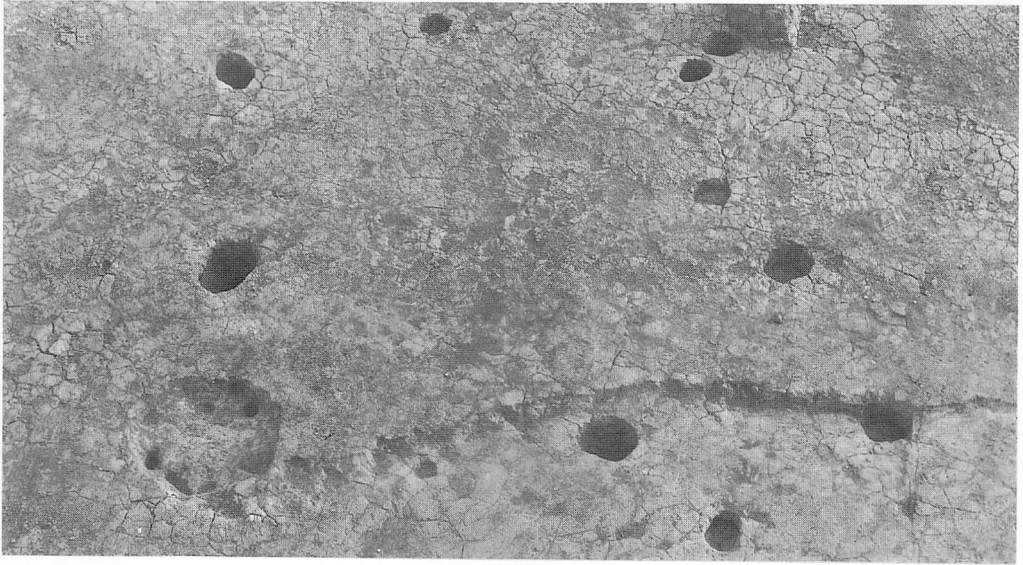
写真図版36 IVG-1号住居跡遺物(3)



IVG-2号住居跡全景（北から）



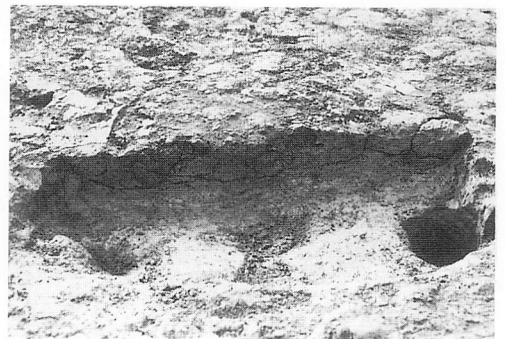
炉断面



IIIH-1号住居跡全景（北から）

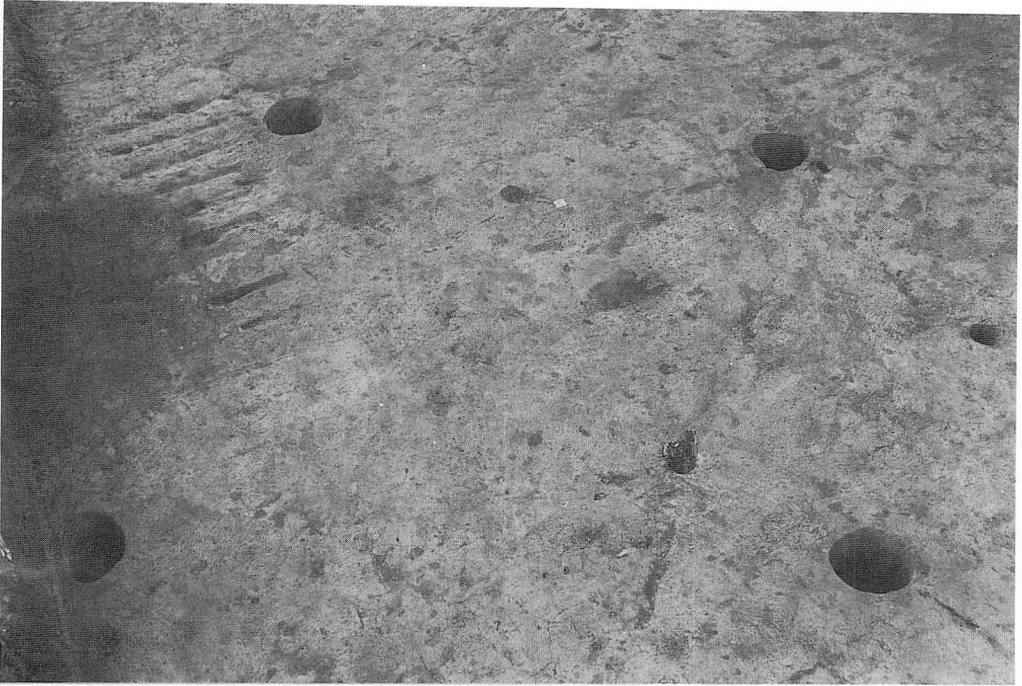


炉平面

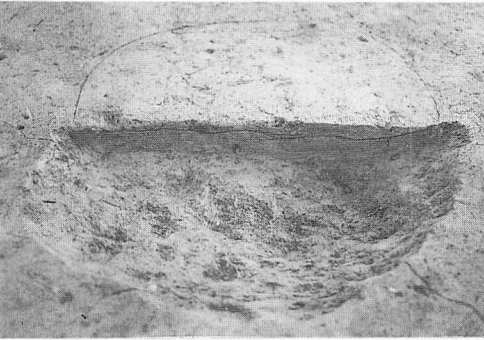


炉断面

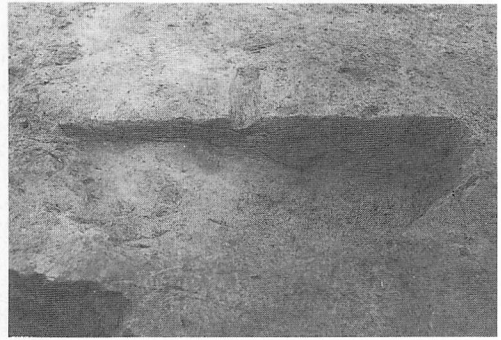
写真図版37 IVG-2号・IIIH-1号住居跡



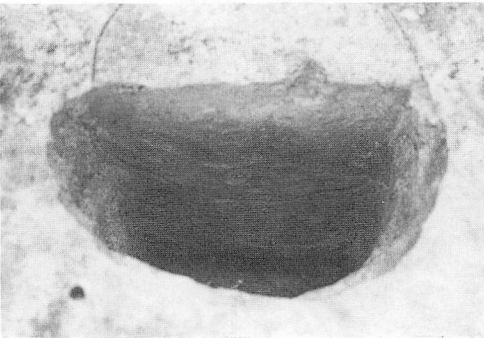
全景（南から）



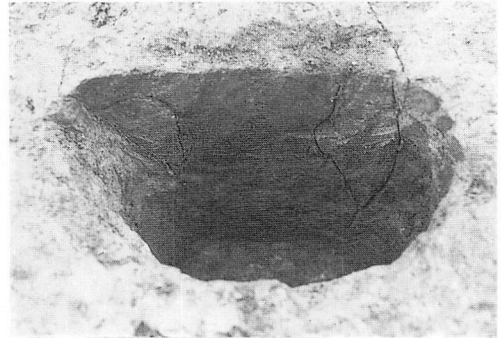
炉<sub>1</sub>断面



炉<sub>2</sub>断面



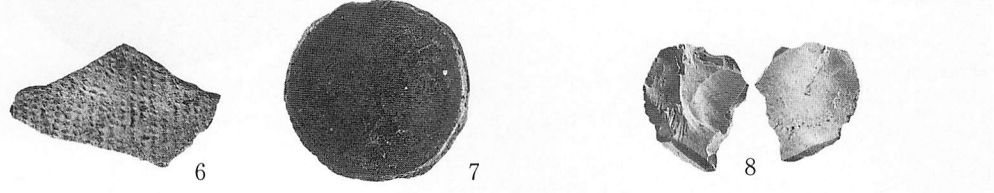
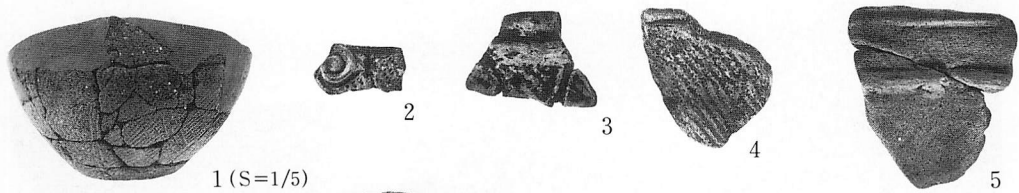
P<sub>2</sub>断面



P<sub>3</sub>断面

写真図版38 IVH-1号住居跡

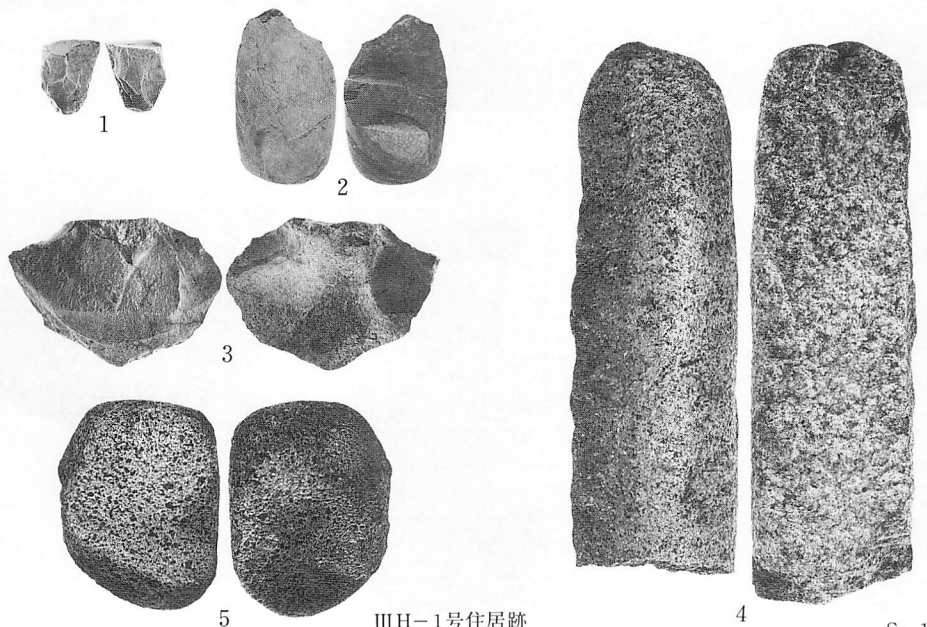




IVG-2号住居跡



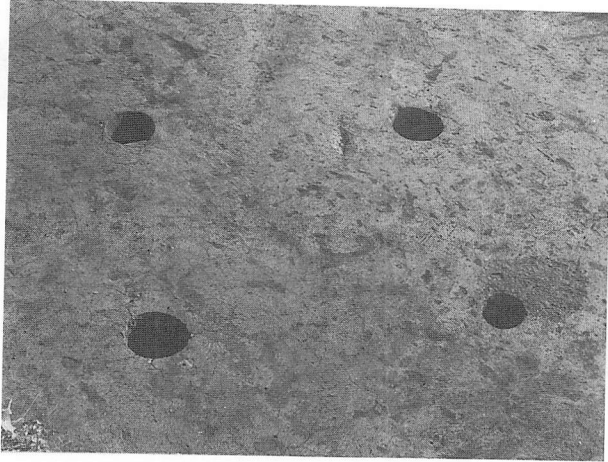
IVH-1号住居跡



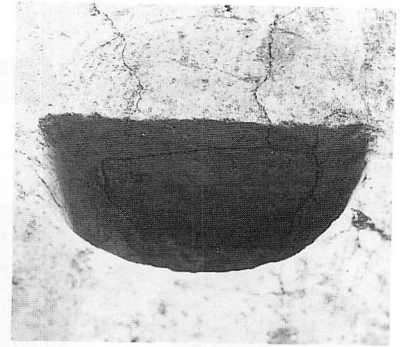
IIIH-1号住居跡

S=1/3

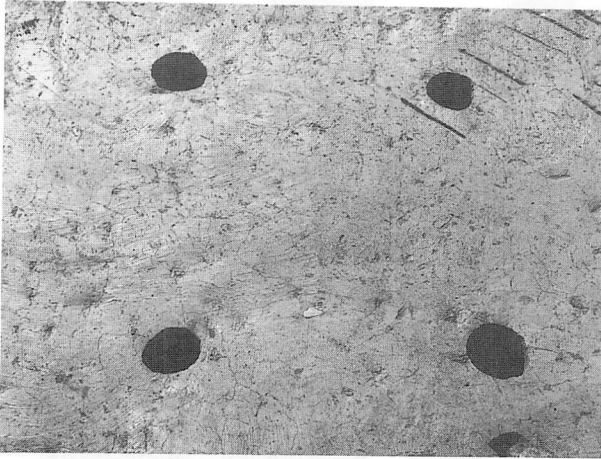
写真図版39 IVG-2号・IIIH-1号・IVH-1号住居跡遺物



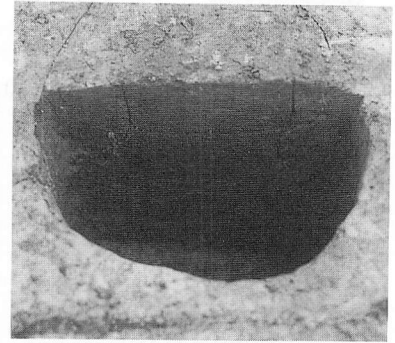
IVH-2号住居跡 全景（北から）



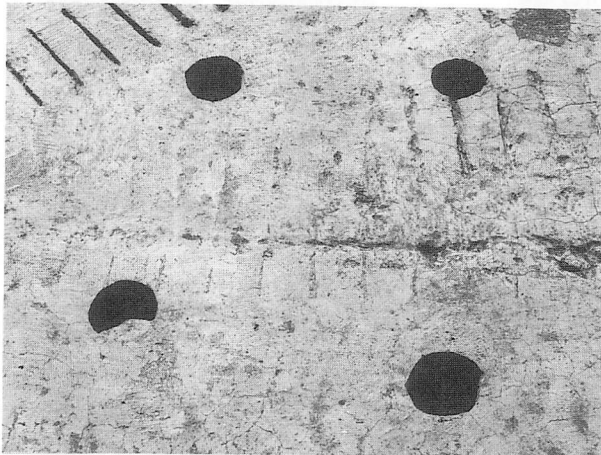
P<sub>2</sub> 断面



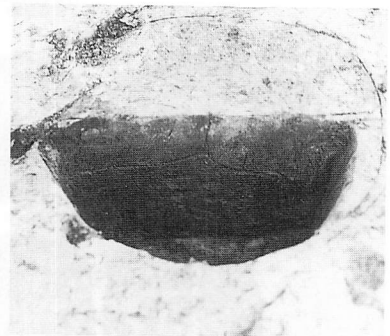
IVI-1号住居跡 全景（北から）



P<sub>3</sub> 断面



IVI-2号住居跡 全景（北から）



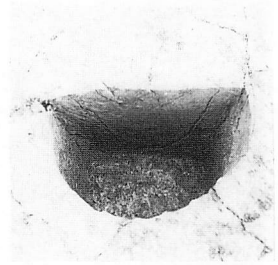
P<sub>1</sub> 断面

写真図版40 IVH-2号・IVI-1号・IVI-2号住居跡

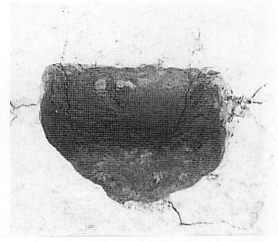




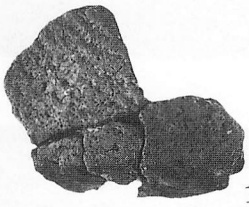
全 景 (東から)



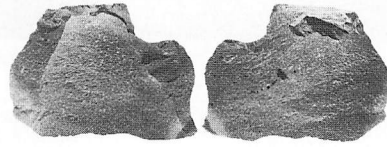
P<sub>17</sub> 断面



P<sub>21</sub> 断面

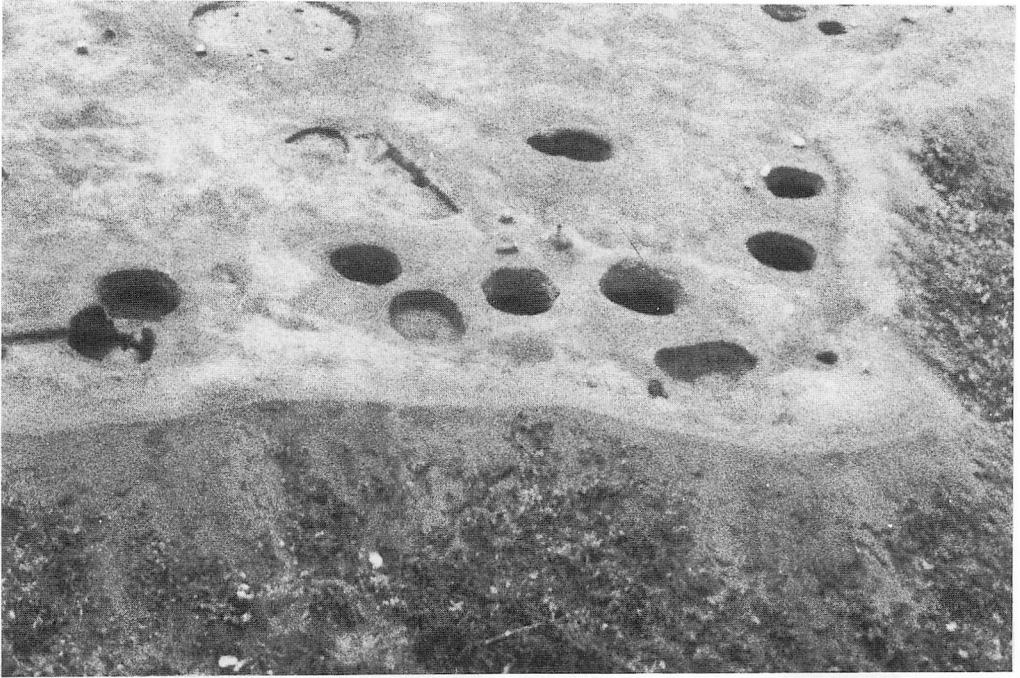


1



2

S=1/2

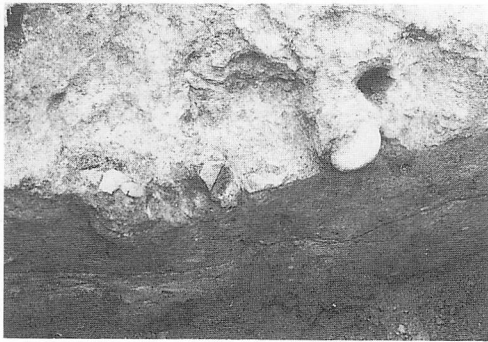
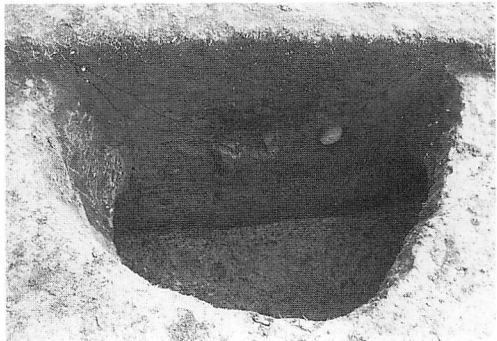
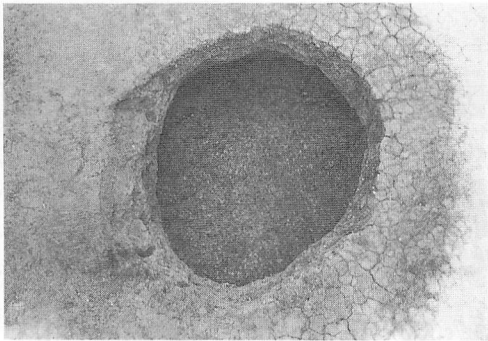


フラスコピット群配列状況（西から）

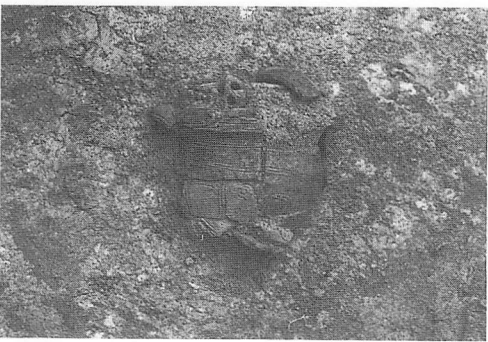
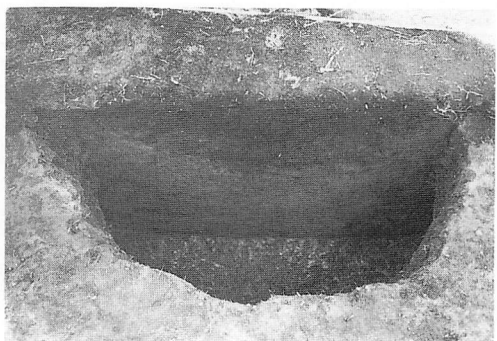
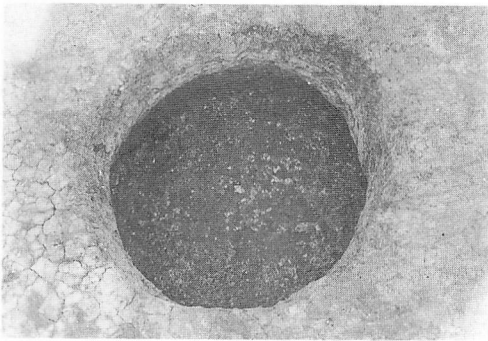


フラスコピット群配列状況（北から）

写真図版42 フラスコピット(1)



左上 IIA-1号フラスコピット平面  
右上 同断面  
左 同埋土中の土器・礫



左上 IIA-2号フラスコピット平面  
右上 同断面  
左 同底面土器

写真図版43 フラスコピット(2)



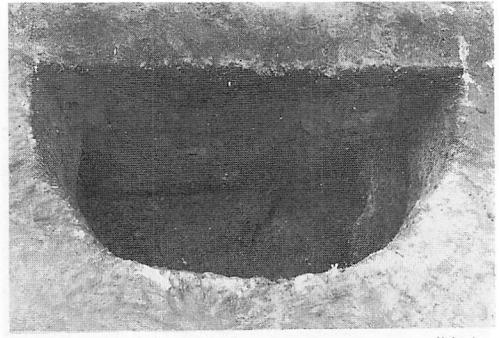
II A-3号(右) II B-1号(左) フラスコピット 平面



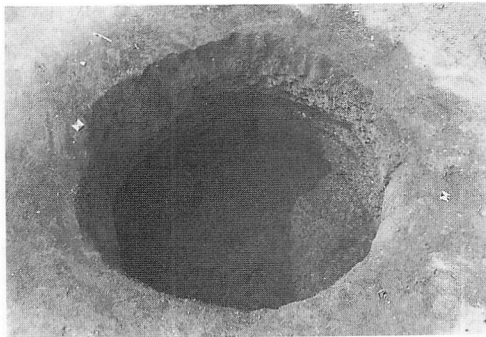
II A-3号 フラスコピット 断面



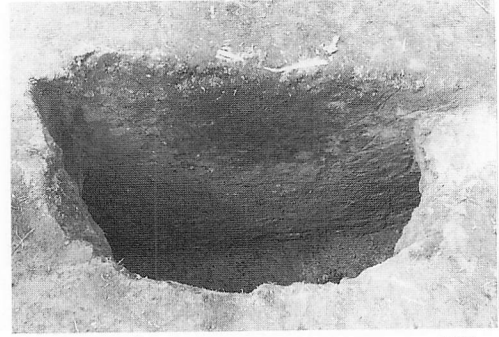
II B-1号 フラスコピット 床面の炭化材



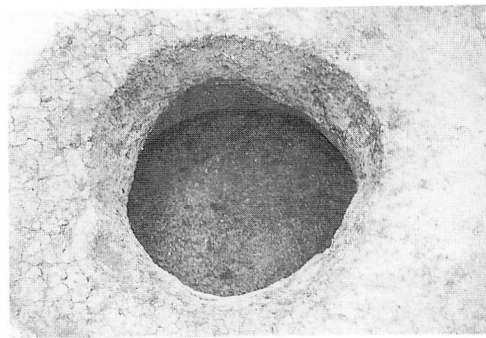
II B-1号 フラスコピット 断面



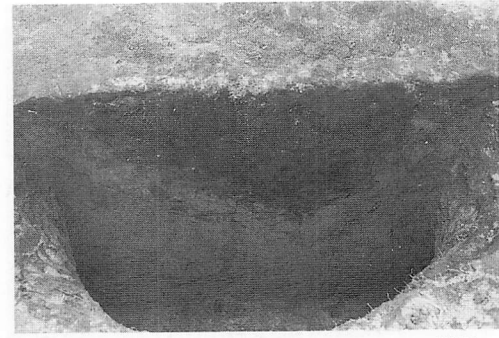
III A-1号 フラスコピット 平面



断面



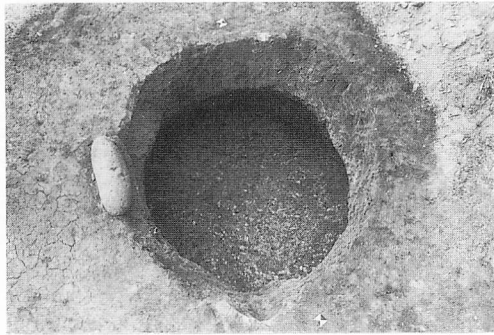
III A-2号 フラスコピット 平面



断面

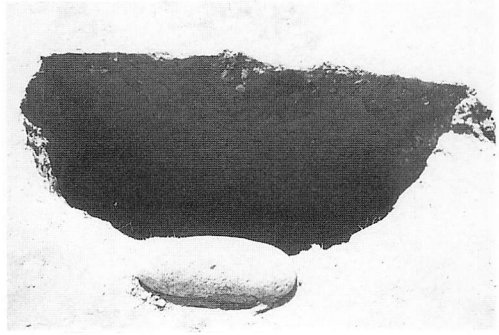
写真図版44 フラスコピット(3)



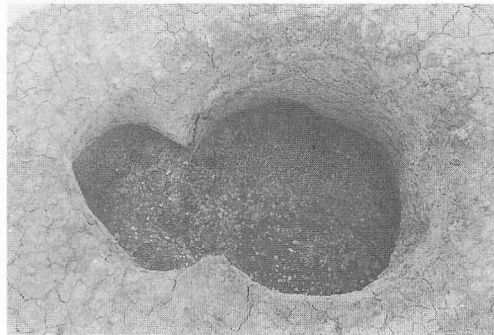


III B-1号フラスコピット

平面

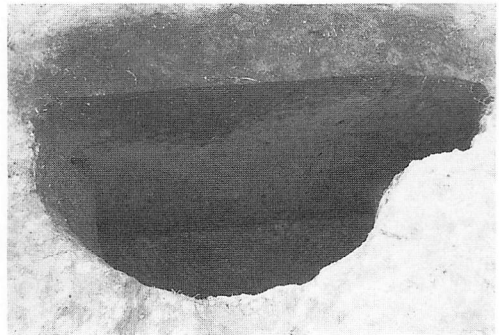


断面

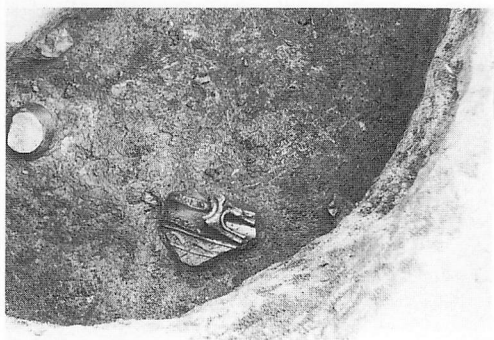
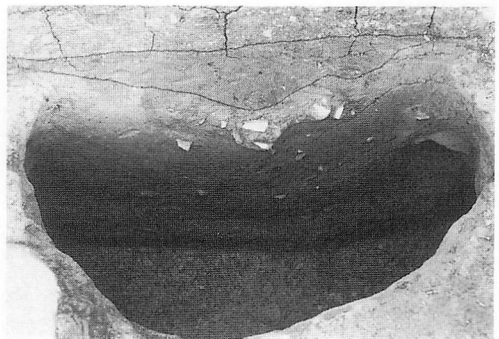
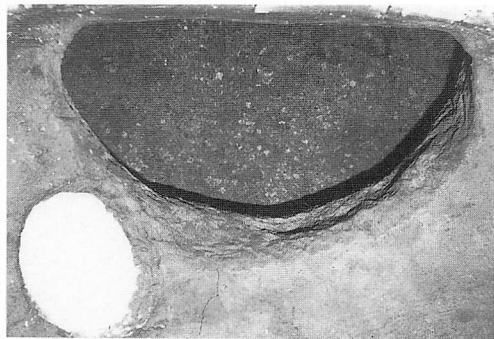


III B-2号フラスコピット(右) 同陥穴(左)

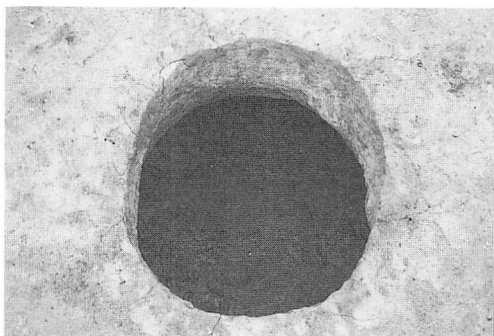
平面



断面

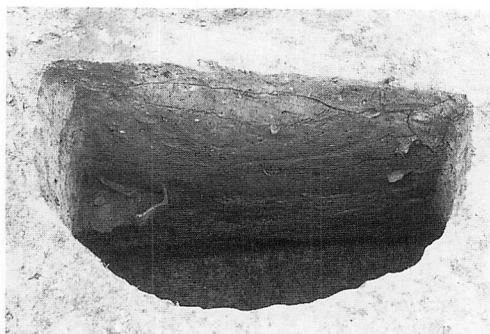


左上 IVG-1号フラスコピット 平面  
 右上 同断面  
 左 同埋土中層土器

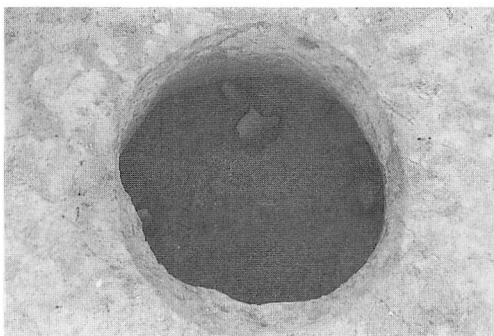


IVG-2号フラスコピット

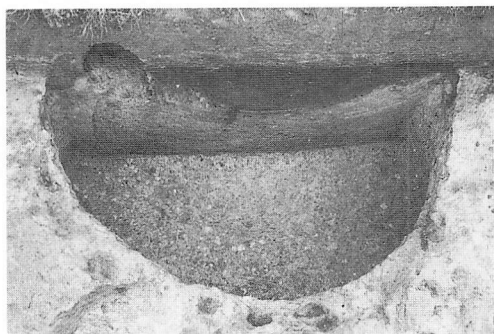
平面



断面

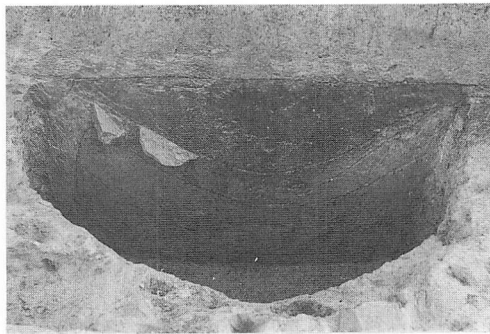


- 左上 IVG-2号フラスコピット  
床面土器検出状況
- 右上 同埋土5層出土土器
- 左 同埋土出土土製品



IVG-3号フラスコピット

平面



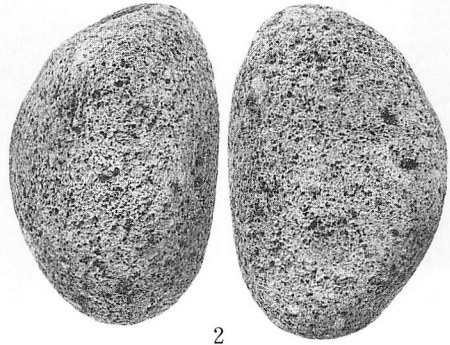
断面

写真図版46 フラスコピット(5)





1



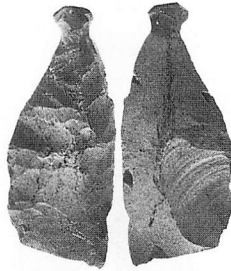
2



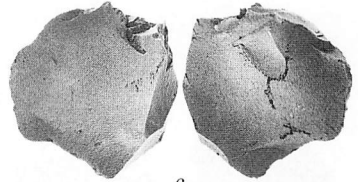
3



4



5



6



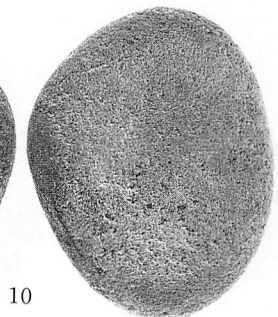
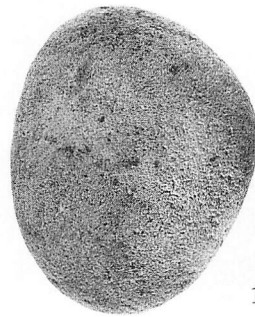
7



8



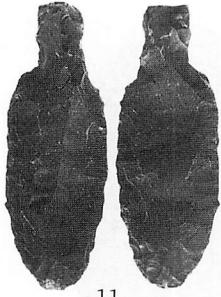
9



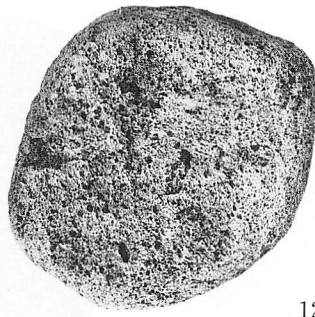
10

1~2	: IIA-1号	S=2/9(1)
3~6	: IIA-2号	S=1/3(3,4,7,8)
7~10	: IIA-3号	S=2/3(2,5,6,9,10)

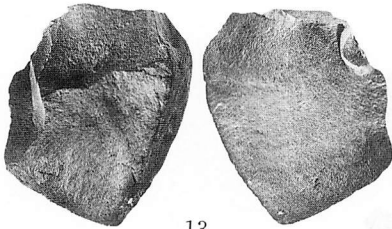
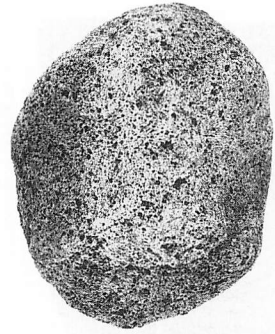
写真図版47 フラスコピット遺物(1): IIA-1・IIA-2・IIA-3号



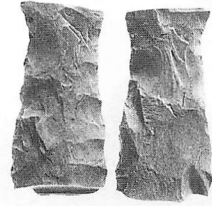
11



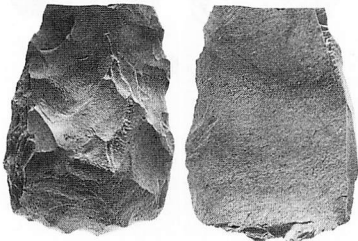
12



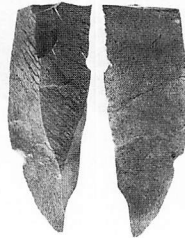
13



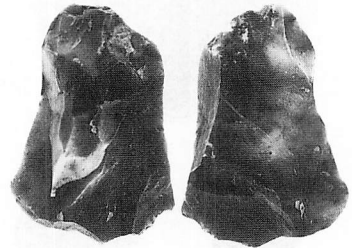
14



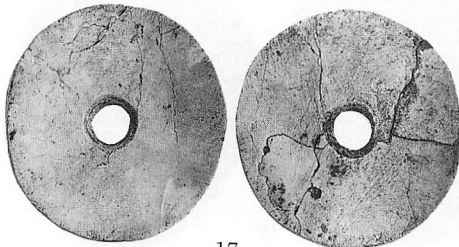
15



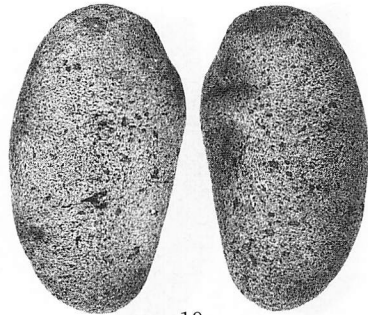
16



18



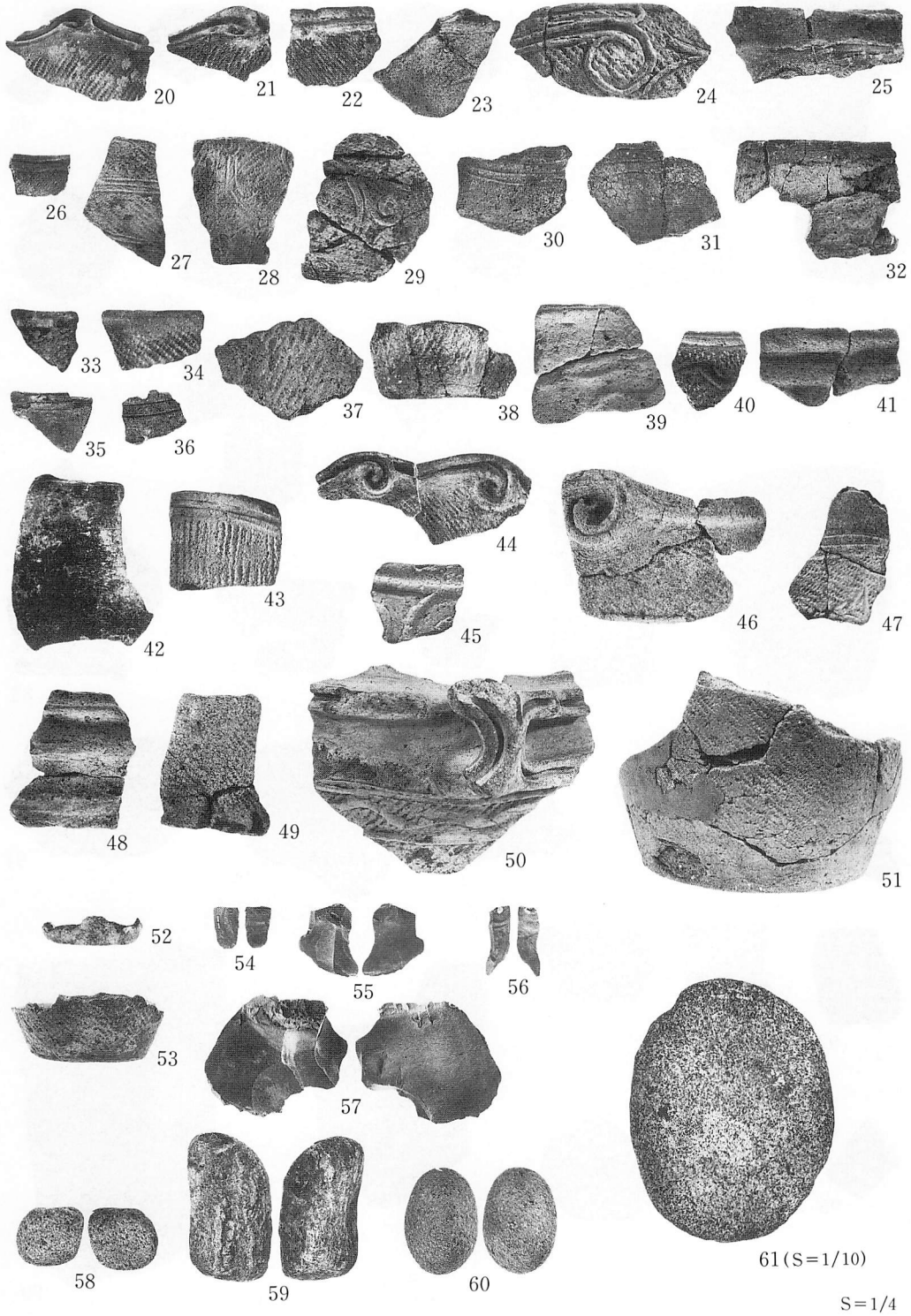
17



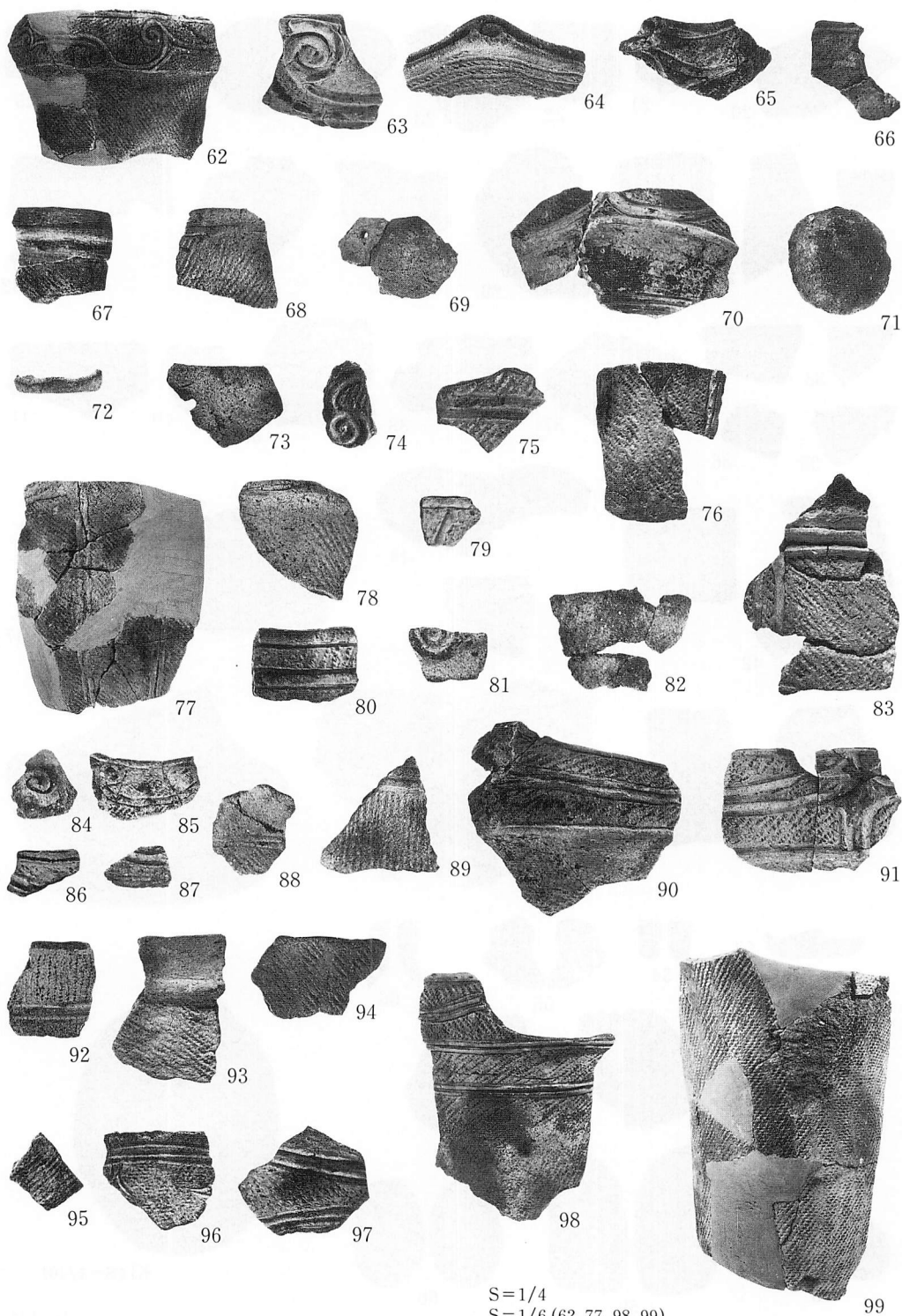
19

11~12 : III A-1、 13 : II B-1 S=2/3  
14~16 : III A-2、 17~19 : III B-2 S=1/3 (12, 13, 19)

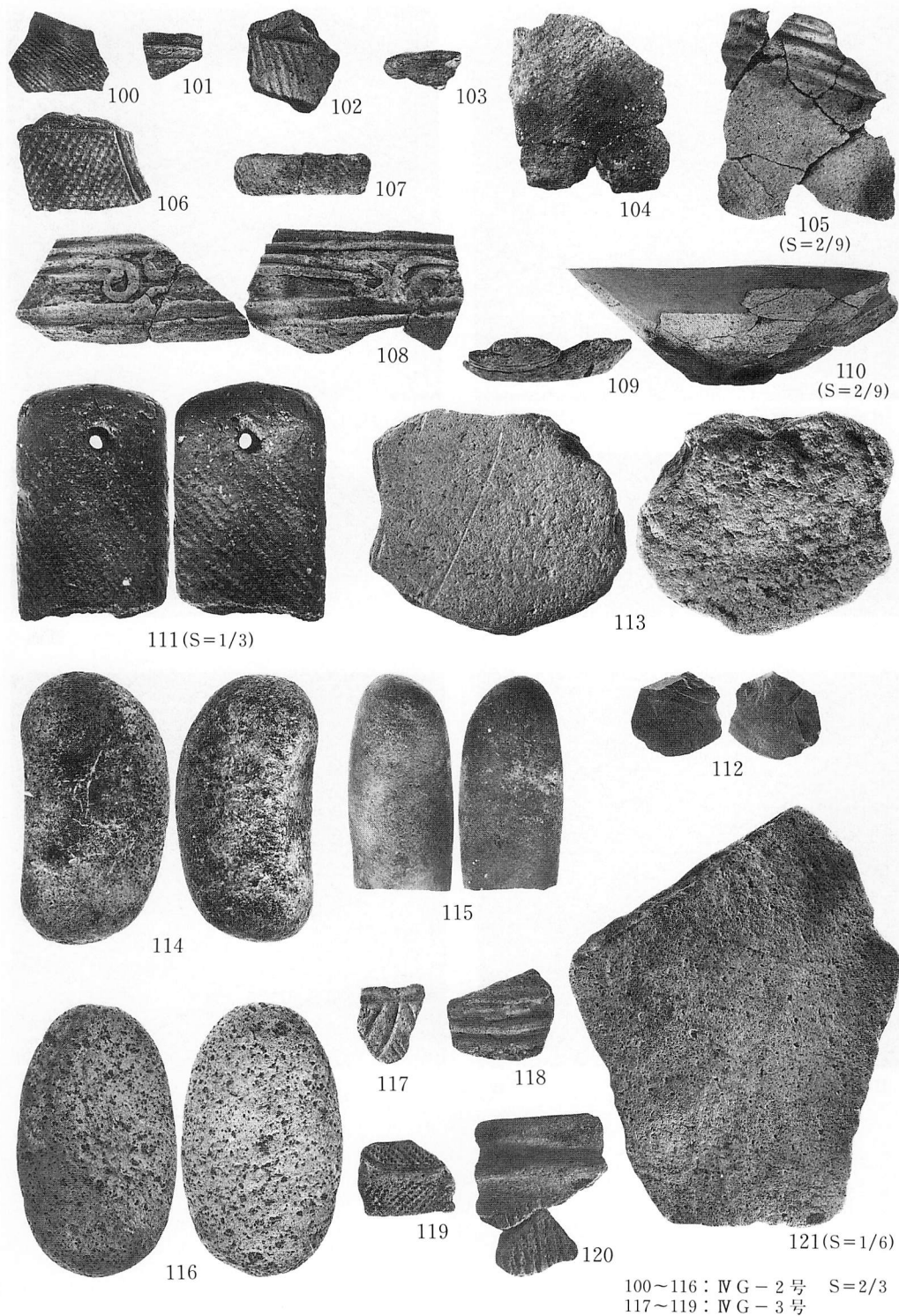
写真図版48 フラスコピット遺物(2) : III A-1・III A-2・II B-1・III B-2号



写真図版49 フラスコピット遺物(3): IVG-1号

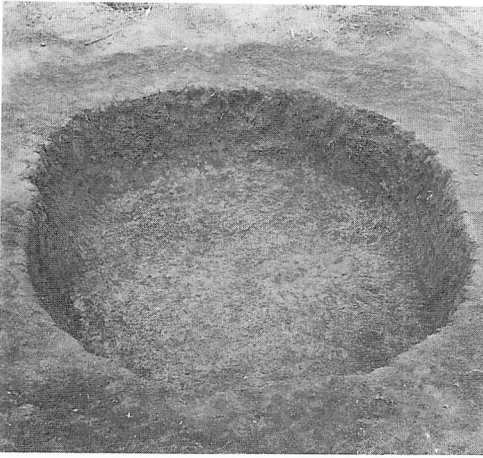


写真図版50 フラスコピット遺物(4):NG-2号[1]



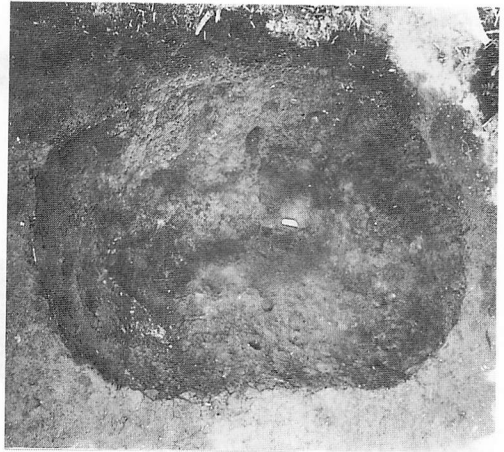
写真図版51 フラスコピット遺物(5) : IVG-2号[2]・IVG-3号





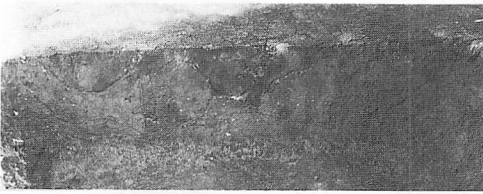
II A-1号土壌

平面

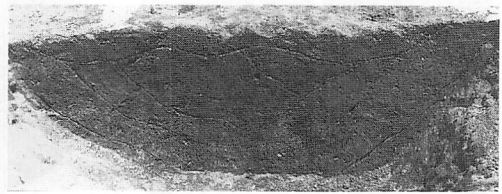


III A-1号土壌

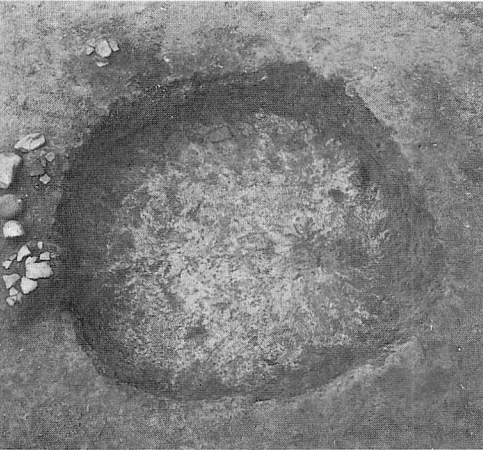
平面



断面

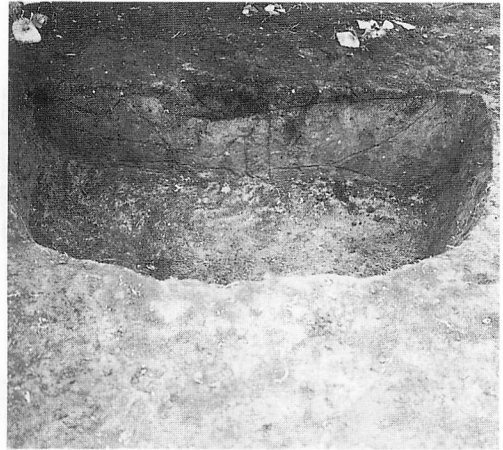


断面



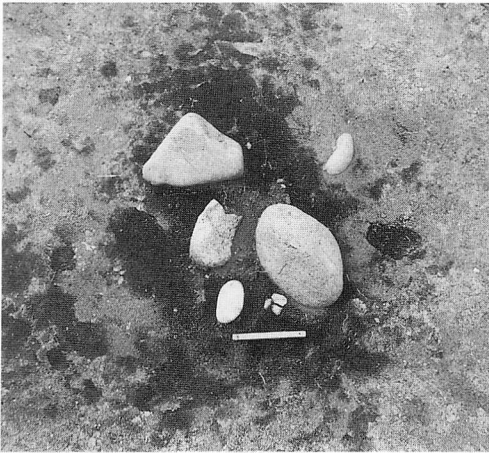
II B-1号土壌

平面

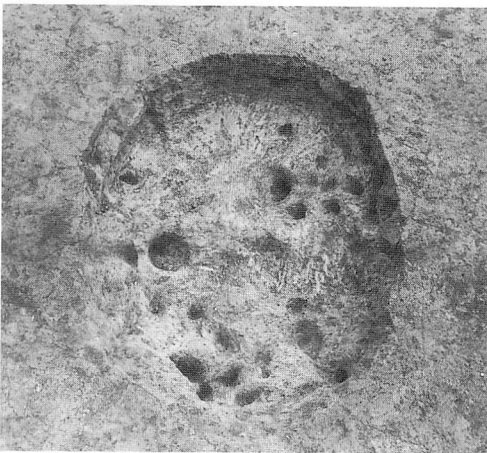


断面



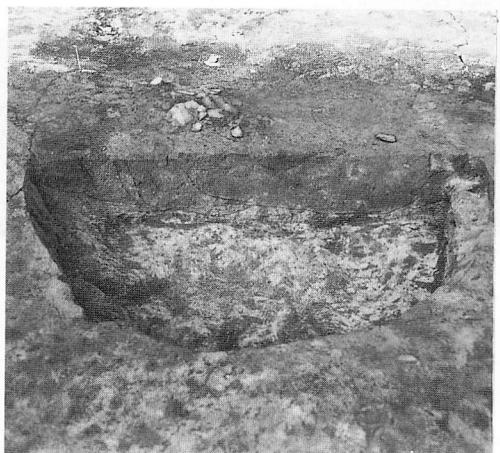


左上 III B-1号土壙平面  
 右上 III B-1号土壙 断面  
 左 III B-1号土壙  
 組石検出状況



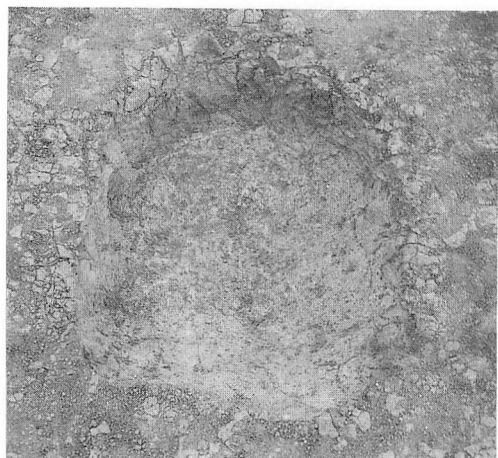
II C-1号土壙

平面



断面

写真図版53 土壙(2)



III-1号土坑

平面



断面



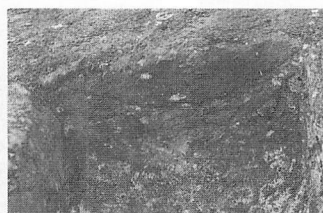
IO-1号土坑

平面



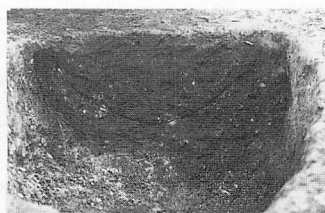
IO-2号土坑

平面



IO-1号土坑

断面



IO-2号土坑

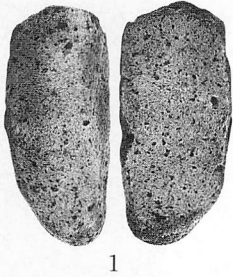
断面



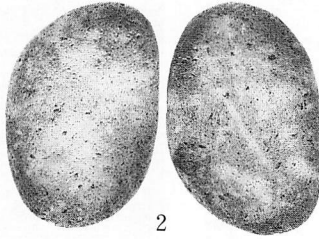
IIA-1号土壙(1~4)



IIIA-1号土壙(1~3)

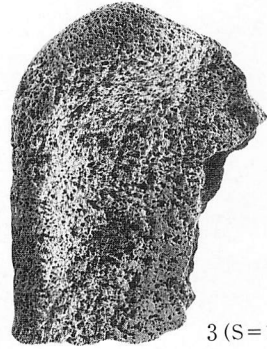


1

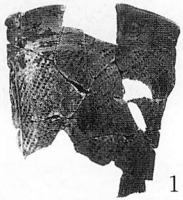


2

IIIB-1号土壙(1~3)



3 (S=1/3)



1  
(S=1/6)



2



4



5



3



6



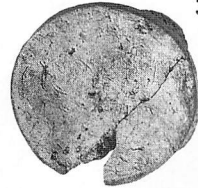
7



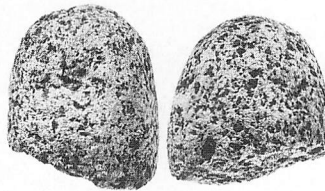
8



9

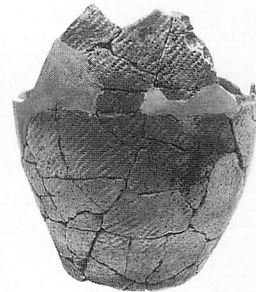


10



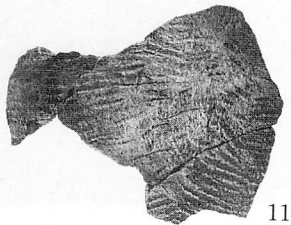
12

II B-1号土壙(1~12)



13 (S=1/6)

II C-1号土壙



11

S=1/4



II E 陥穴群配列状況 (西から)



同左



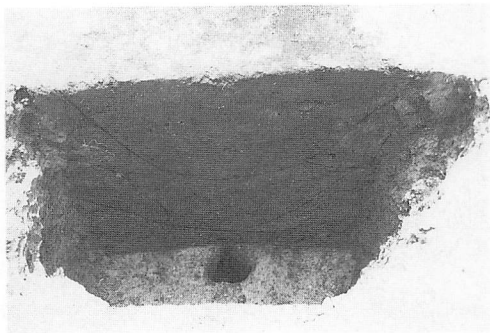
I L・II L・III L 陥穴群配列状況 (南から)





平面

III B-1号陷穴

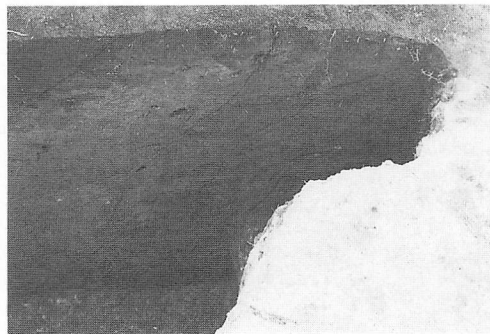


断面



平面(左)

III B-2号陷穴

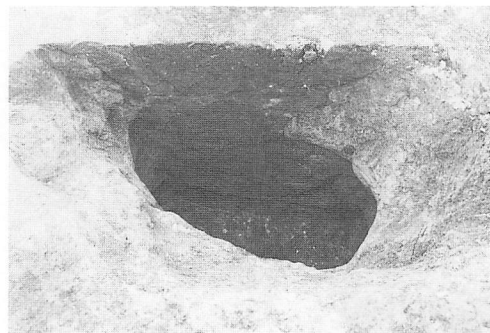


断面(右)

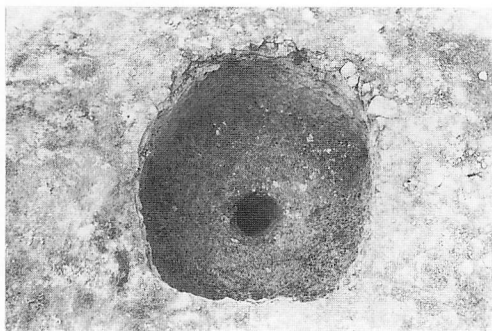


平面

III B-3号陷穴

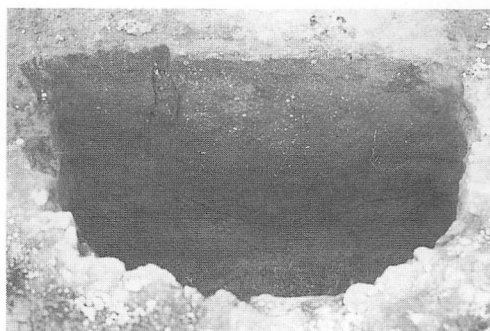


断面



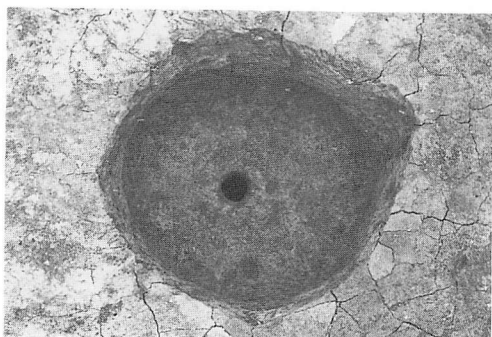
平面

III D-1号陷穴



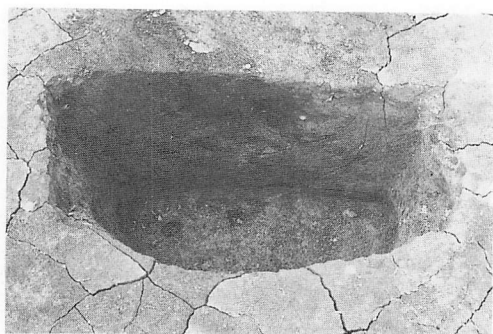
断面

写真图版57 陷穴(2)

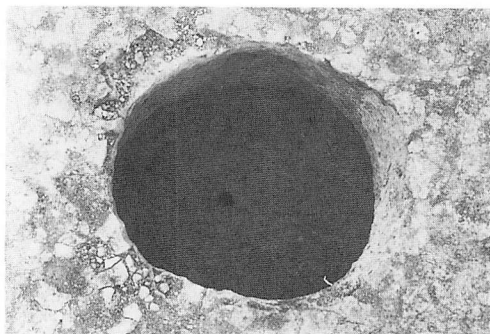


平面

II E-1号陷穴

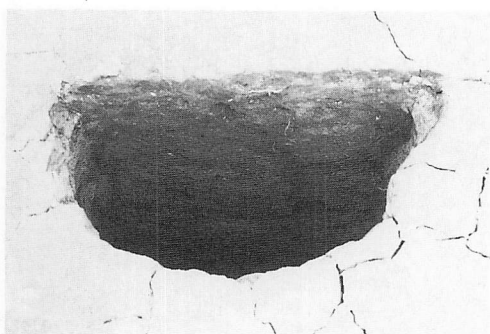


断面

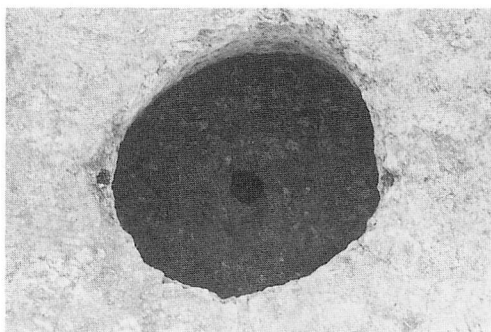


平面

II E-2号陷穴

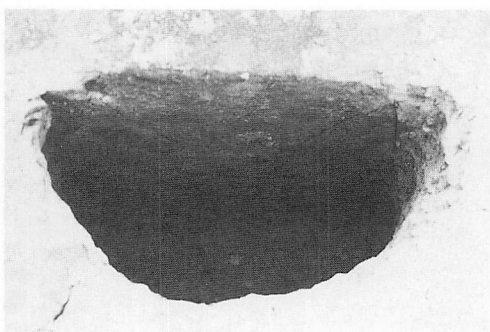


断面

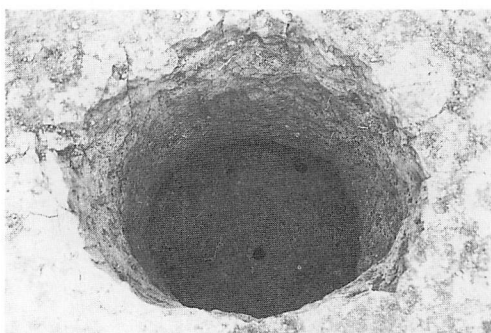


平面

II E-3号陷穴

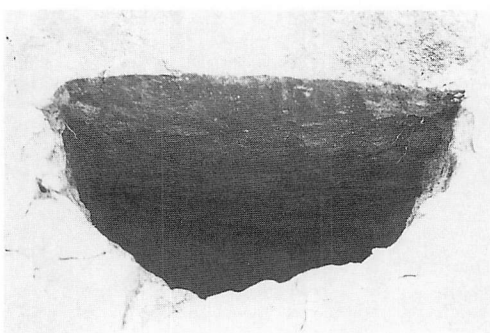


断面



平面

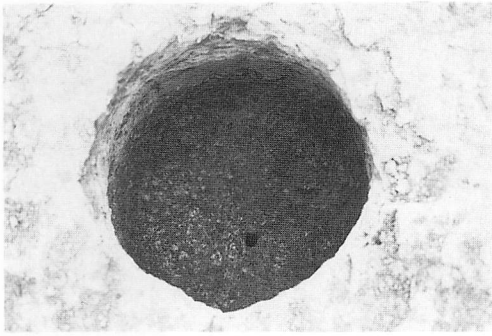
II E-5号陷穴



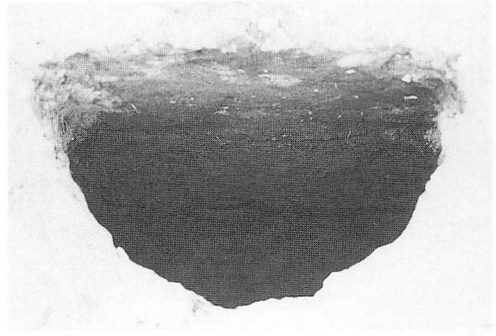
断面

写真图版58 陷穴(3)



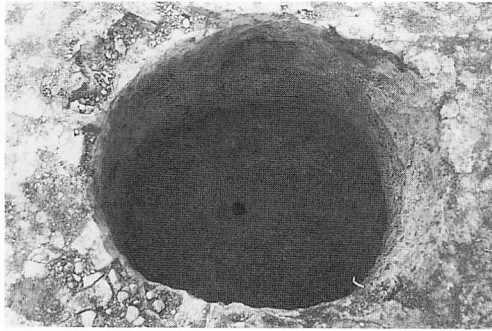


平面

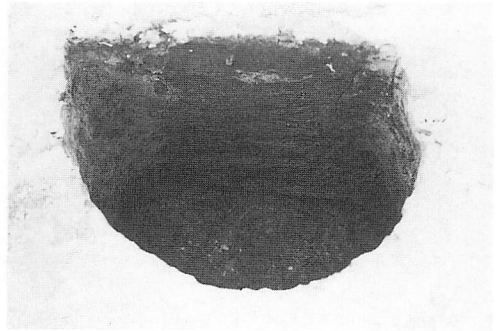


断面

II E-6号陷穴

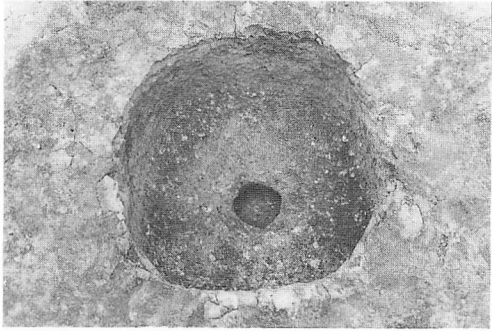


平面

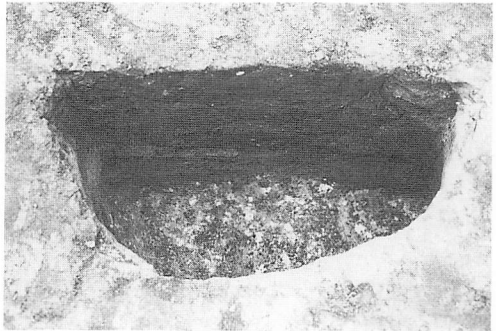


断面

II E-7号陷穴

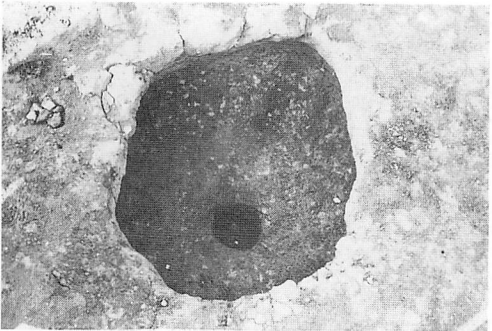


平面

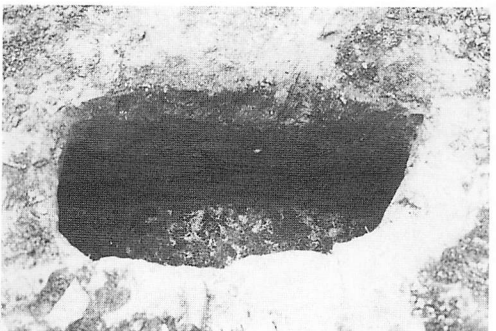


断面

III E-1号陷穴



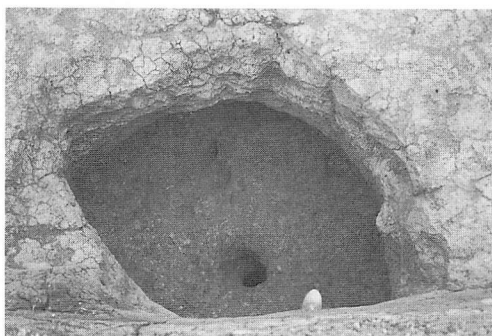
平面



断面

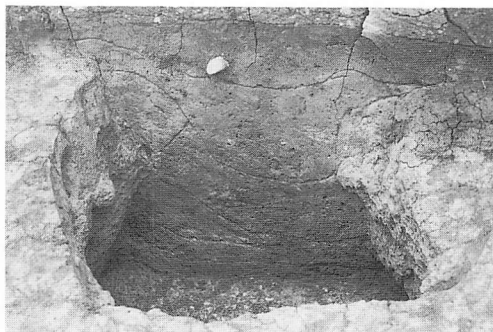
IV E-1号陷穴

写真图版59 陷穴(4)

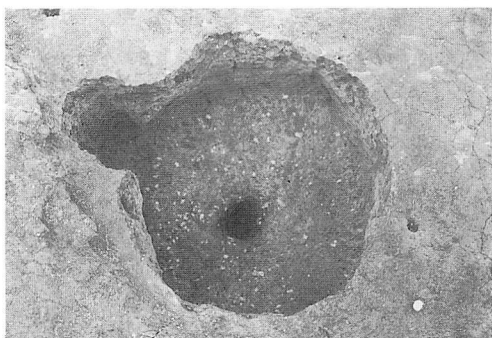


平面

III G-1号陷穴

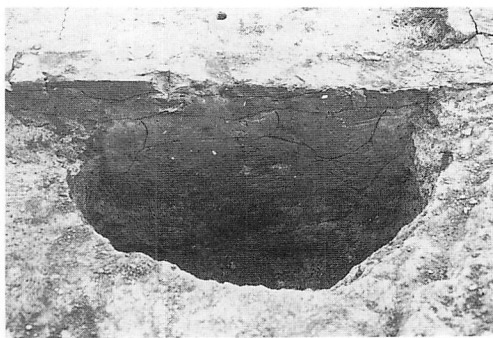


断面

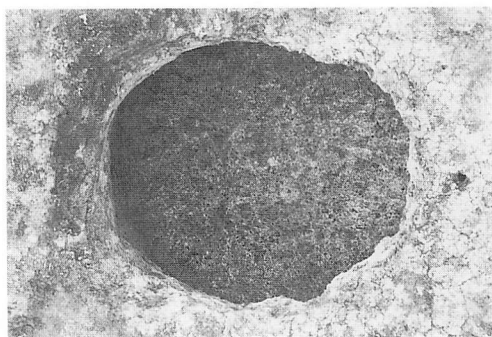


平面

III G-2号陷穴

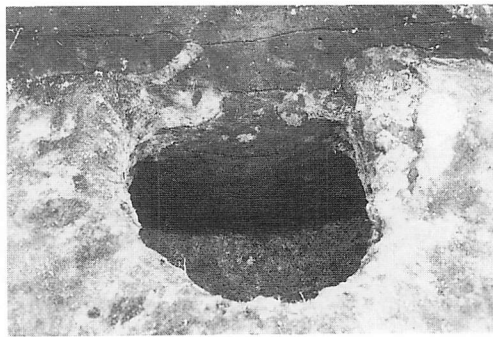


断面

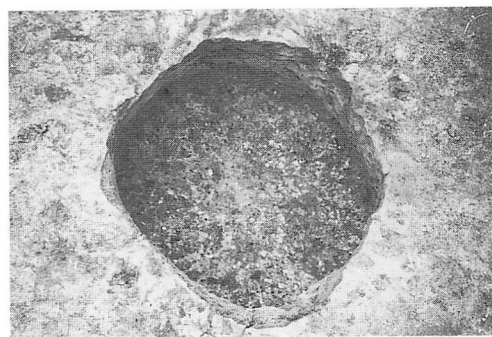


平面

II B-2号陷穴

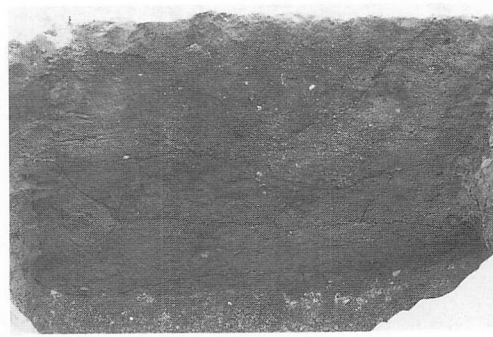


断面



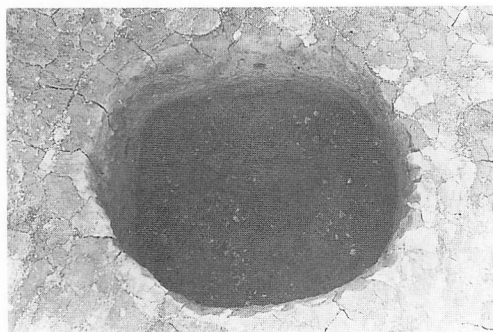
平面

II C-3号陷穴

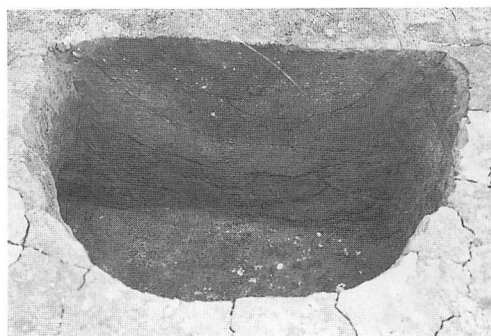


断面

写真图版60 陷穴(5)

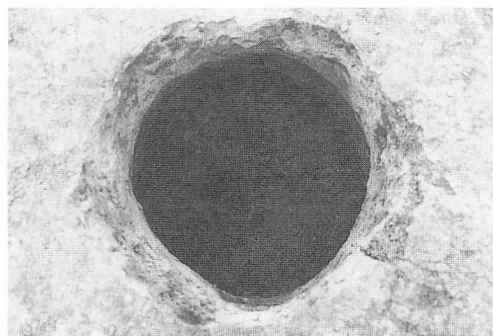


平面

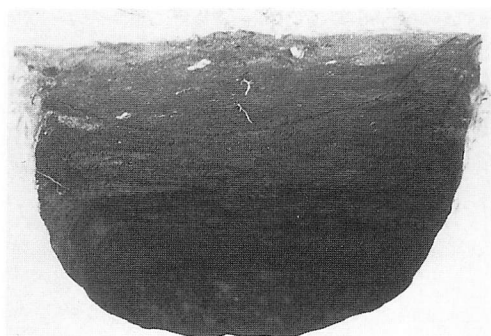


断面

IID-3号陷穴



平面



断面

IIE-4号陷穴

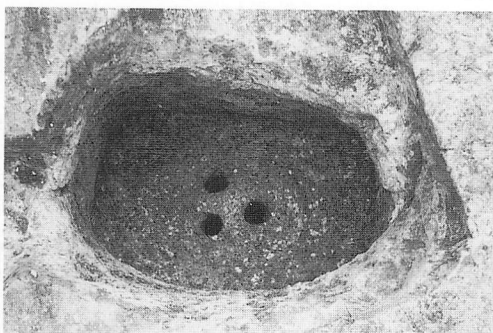


平面



断面

IIC-1号陷穴



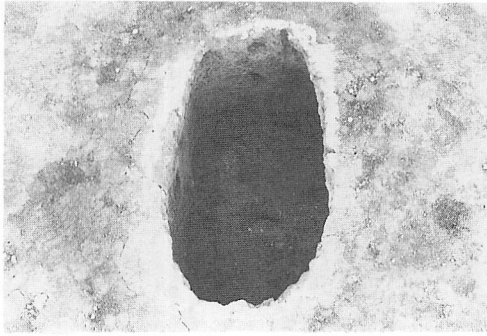
平面



断面

IIC-2号陷穴

写真图版61 陷穴(6)

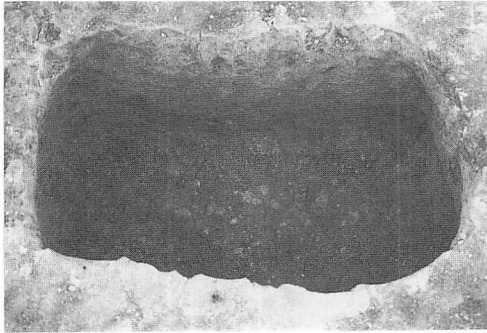


平面

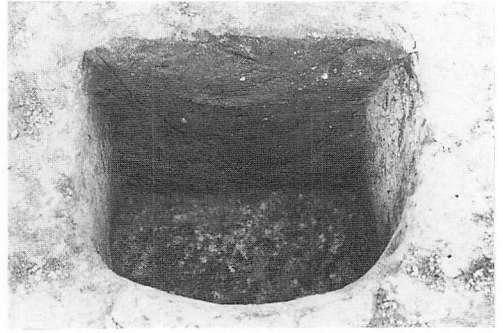


断面

III E-2号陷穴

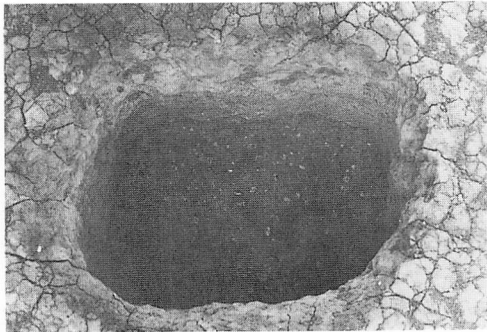


平面

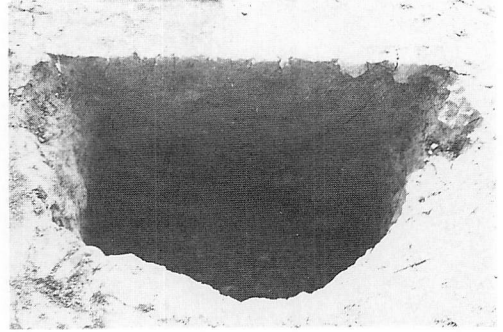


断面

III D-2号陷穴

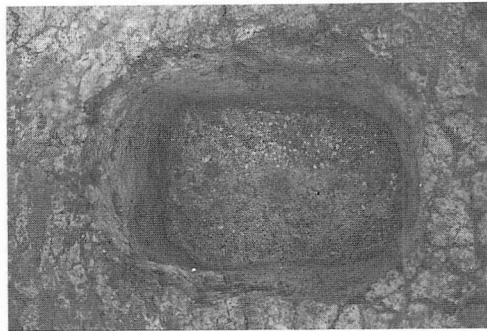


平面

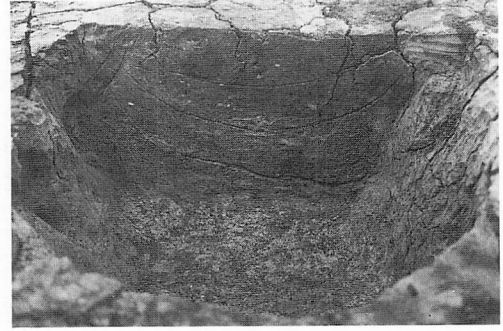


断面

III D-3号陷穴



平面

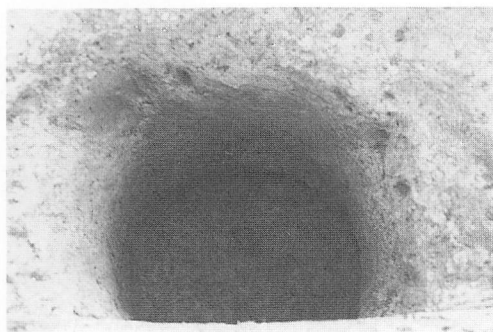


断面

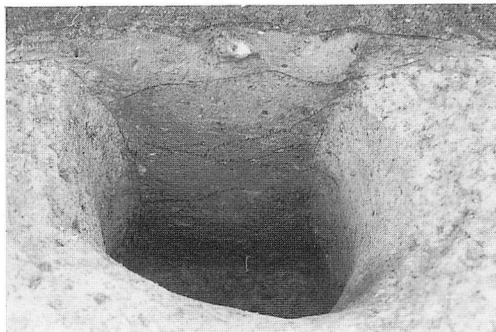
II L-4号陷穴

写真图版62 陷穴(7)



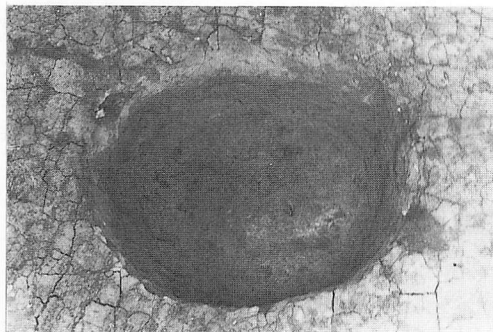


平面



断面

IV F-1号陷穴



平面

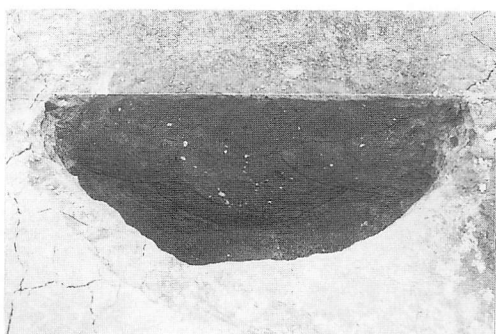


断面

II D-1号陷穴

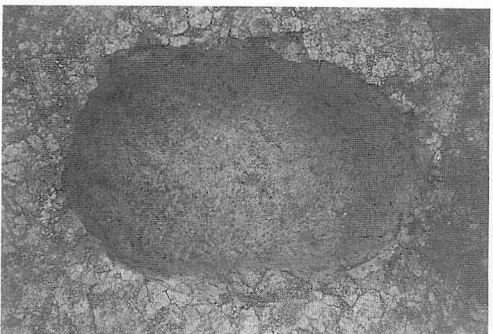


平面

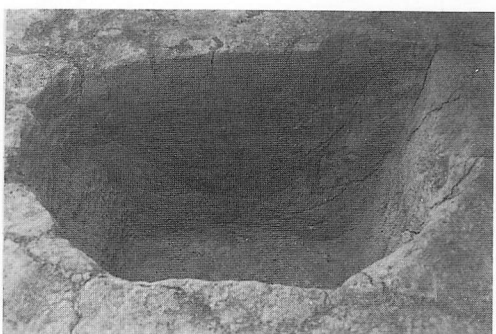


断面

II D-2号陷穴



平面

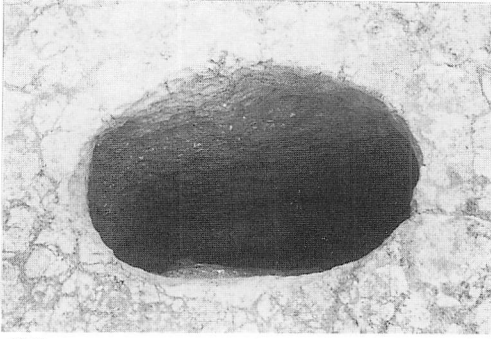


断面

II M-1号陷穴

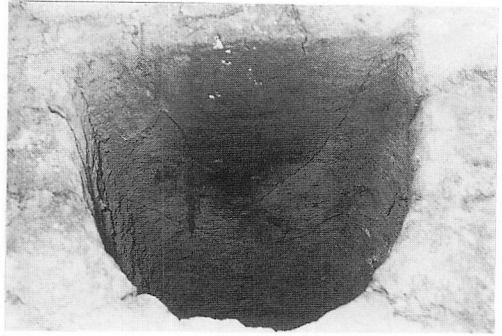
写真图版63 陷穴(8)



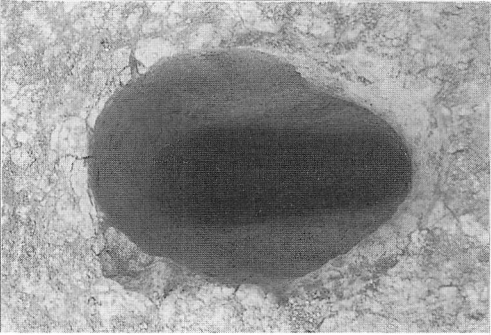


平面

I L-1号陷穴

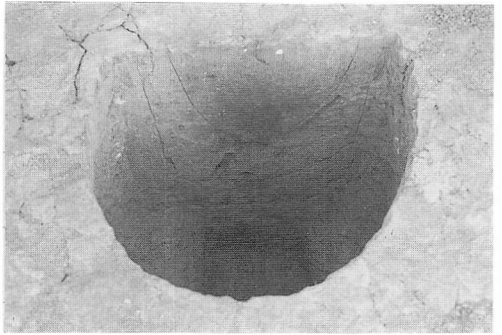


断面

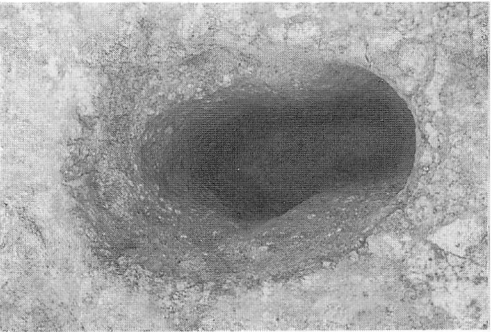


平面

I L-2号陷穴

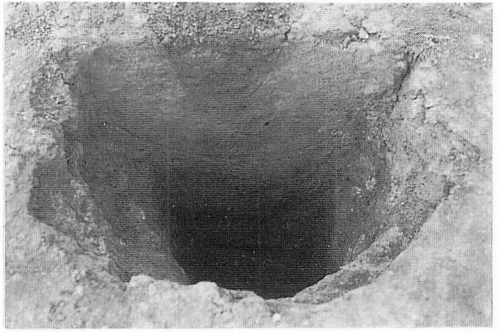


断面

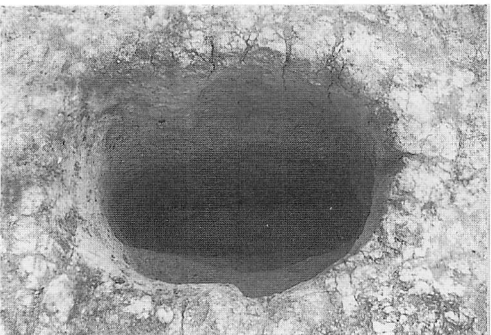


平面

I L-3号陷穴

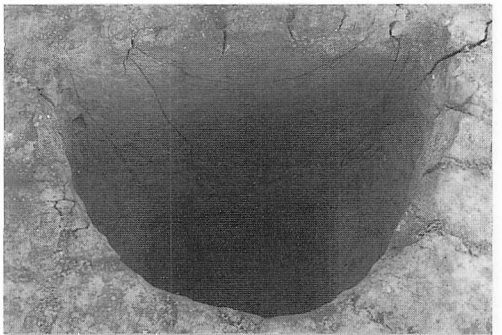


断面



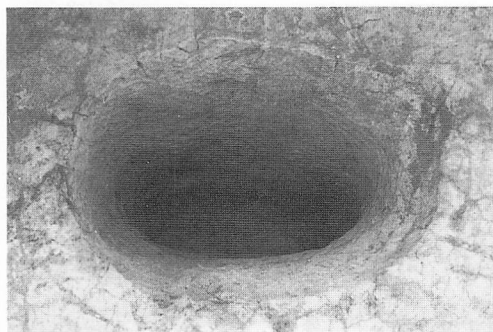
平面

II L-1号陷穴

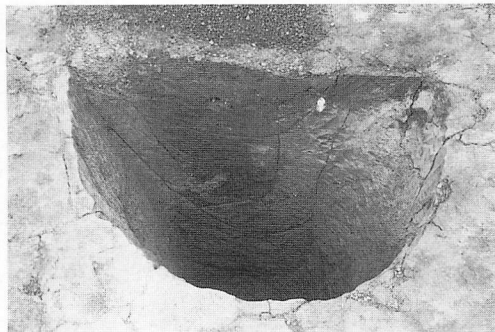


断面

写真图版64 陷穴(9)

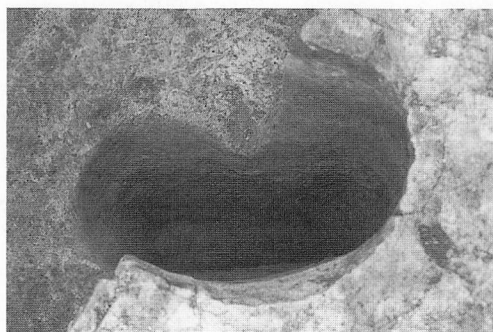


平面

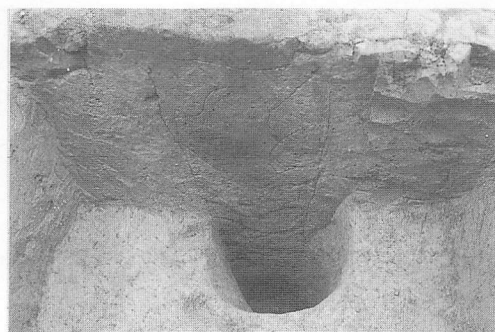


断面

II L-2号陷穴

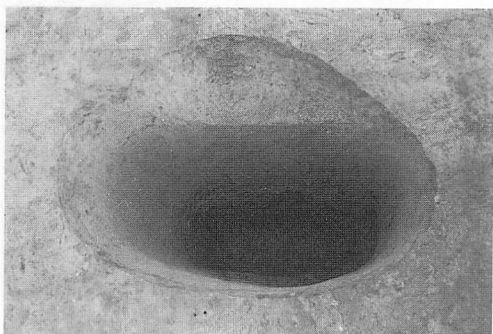


平面

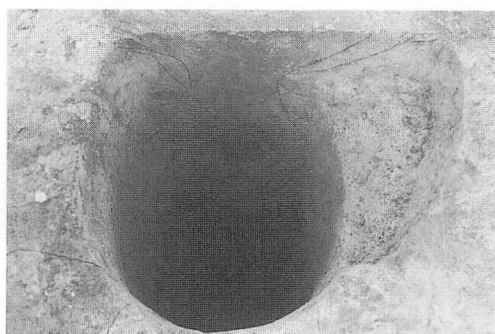


断面

III L-1号陷穴

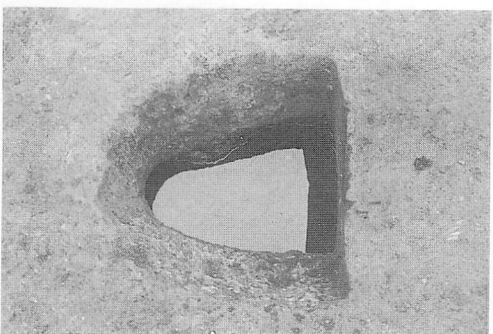


平面

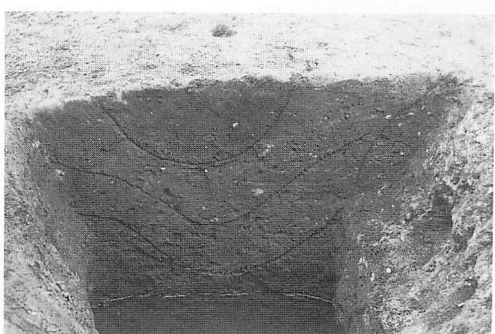


断面

III L-2号陷穴



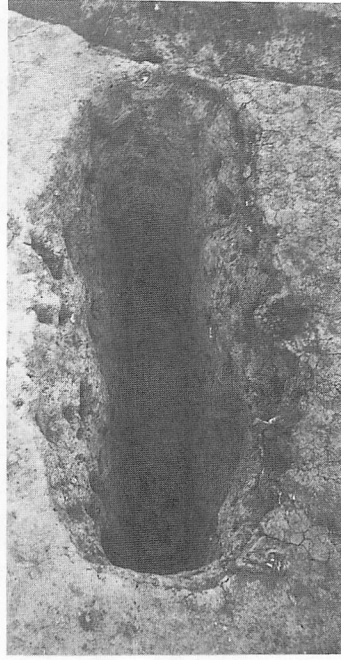
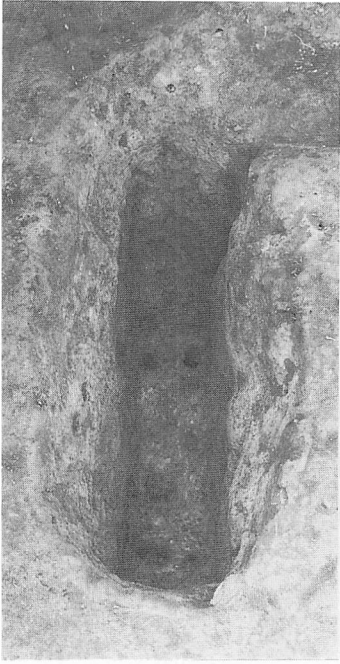
平面



断面

IO-1号陷穴

写真図版65 陥し穴(10)

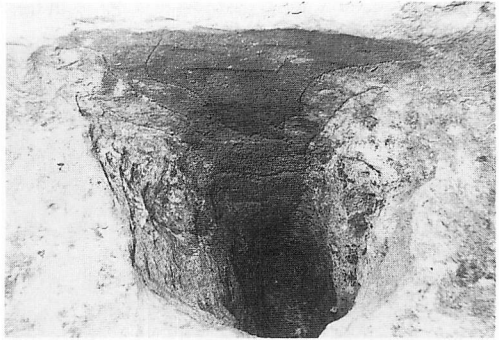
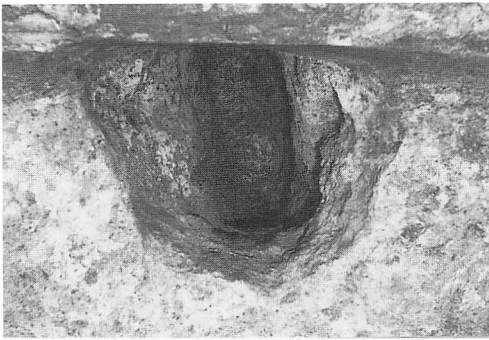
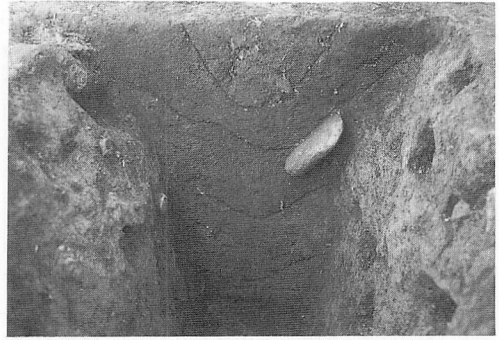
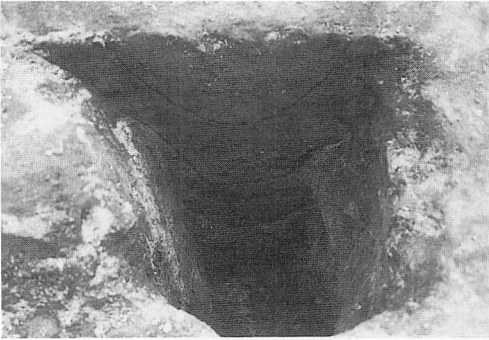


左 II B-1号陷穴 平面

左下 同断面

右 III C-1号陷穴 平面

右下 同断面

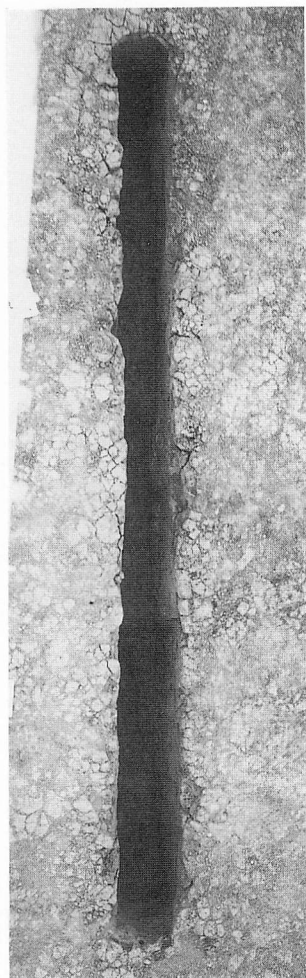


平面

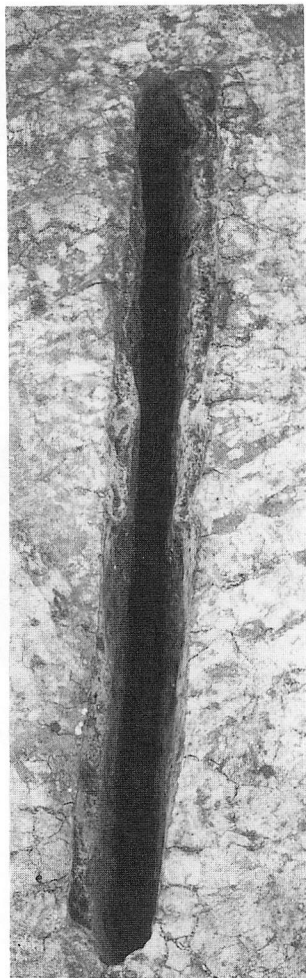
IV L-1号陷穴

断面

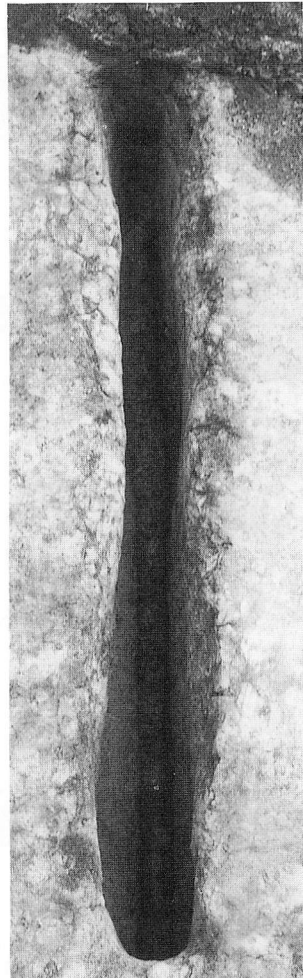
写真图版66 陷穴(11)



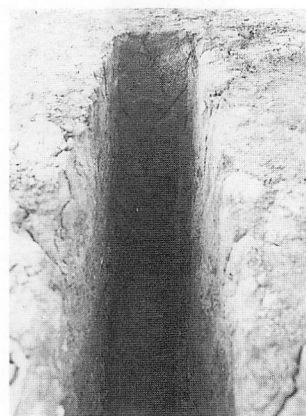
III M-1号陷穴 平面



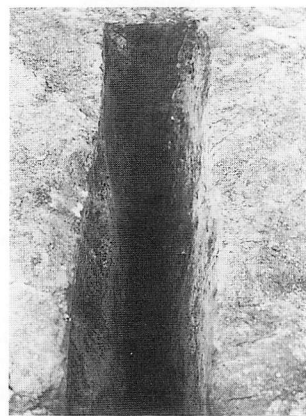
I M-1号陷穴 平面



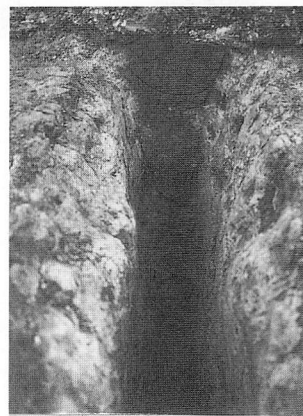
III L-3号陷穴 平面



断面



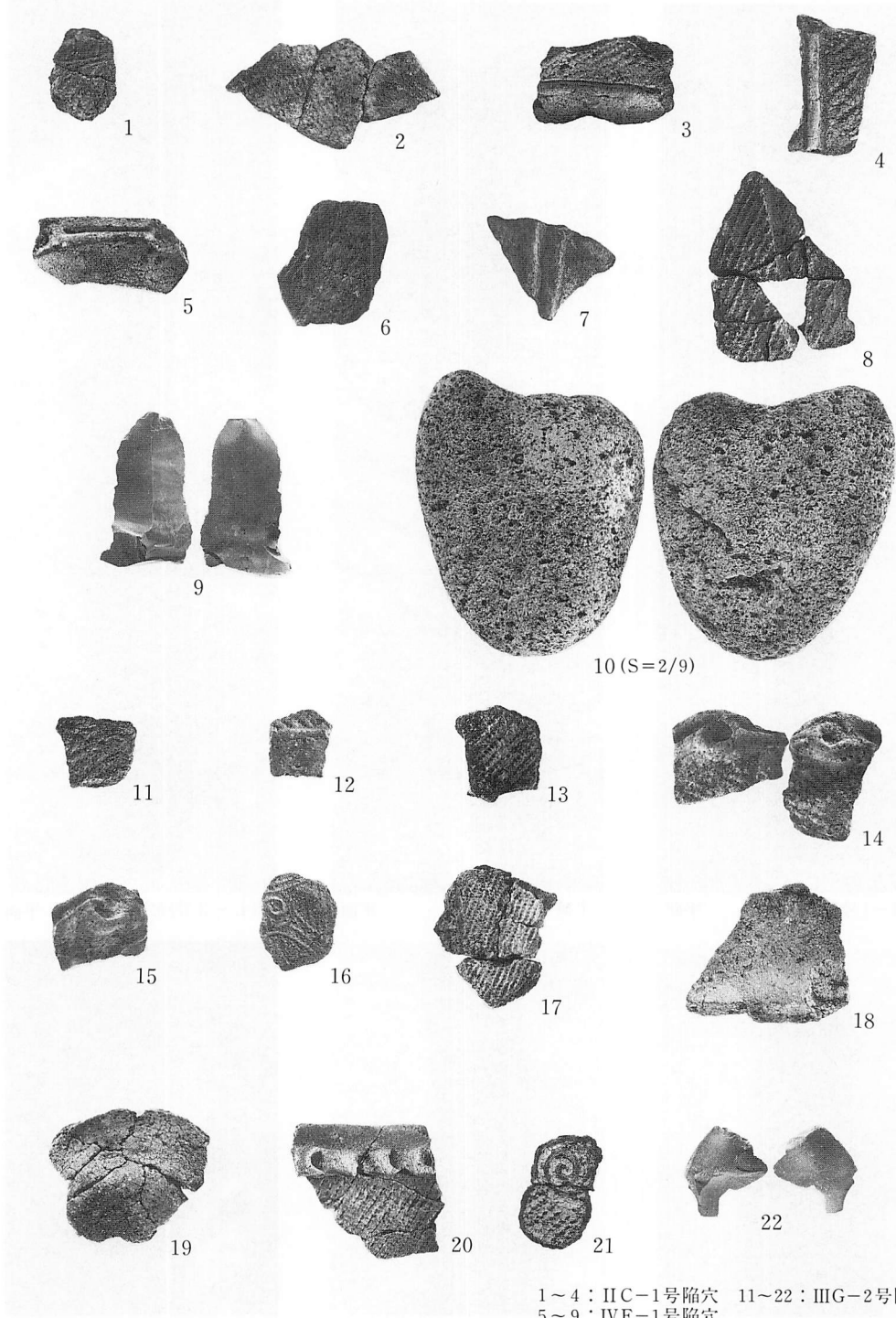
断面



断面

写真图版67 陷穴(12)





1~4 : IIC-1号陥穴    11~22 : IIIG-2号陥穴  
 5~9 : IVF-1号陥穴  
 10 : IIIC-1号陥穴    S=1/3

写真図版68 陥穴遺物

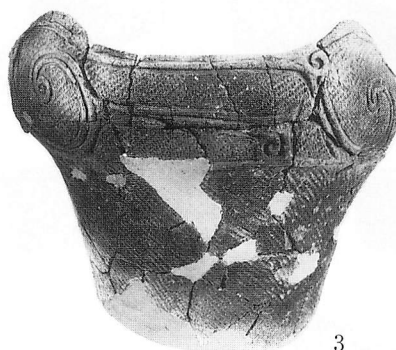




1



2



3

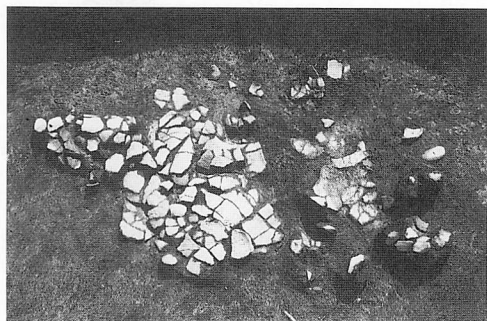


4

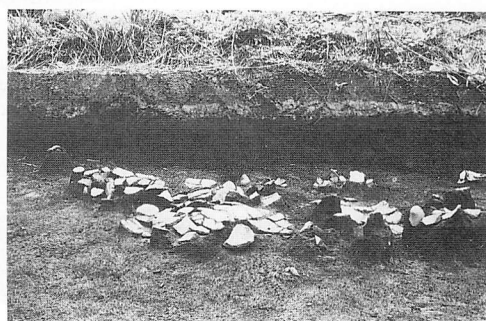


5

S=1/6



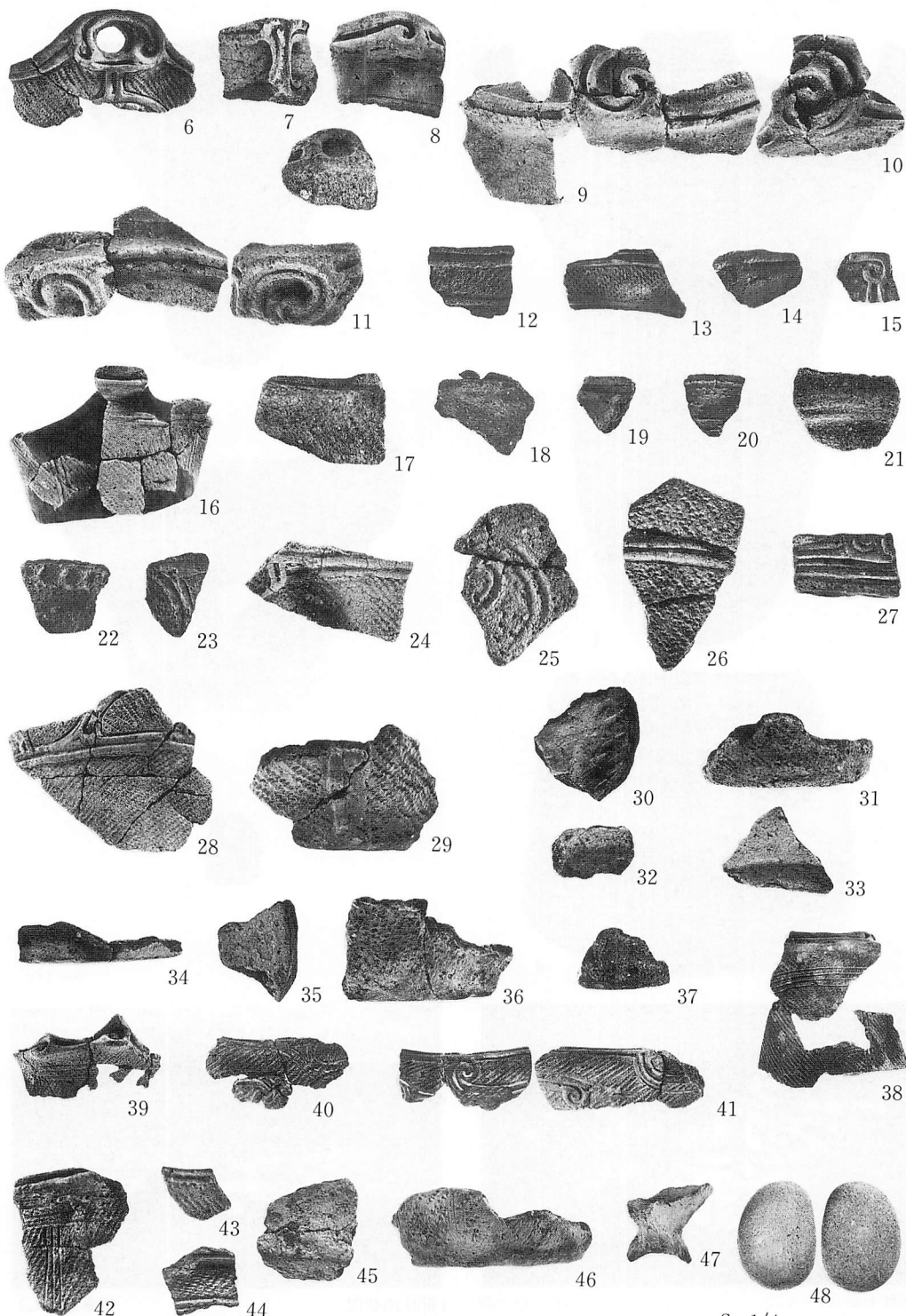
(東上から)



(東横から)

IVC-括土器：A群検出状況

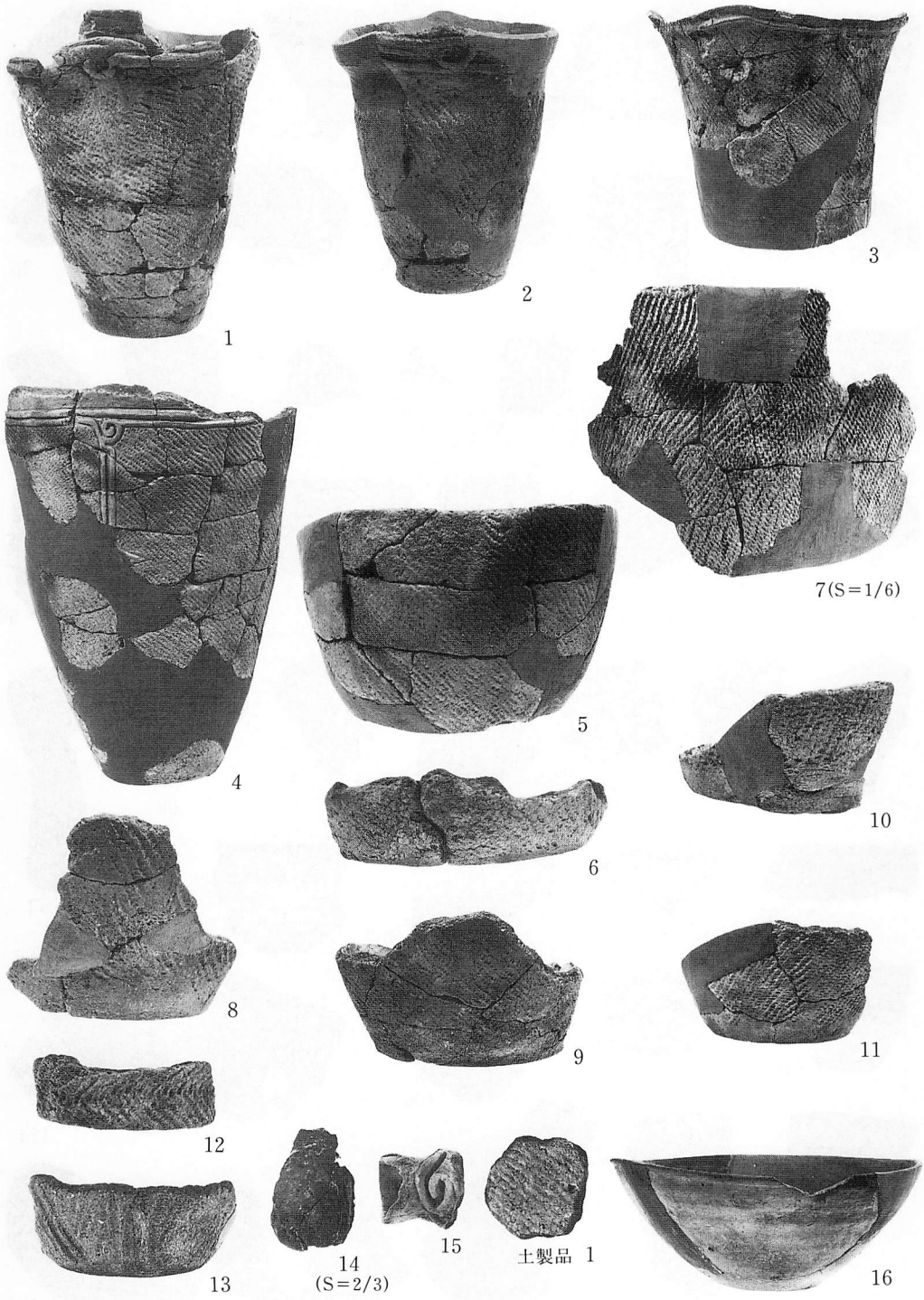
写真図版69 IVC-括廃棄土器A群(1)



38~48 : B群

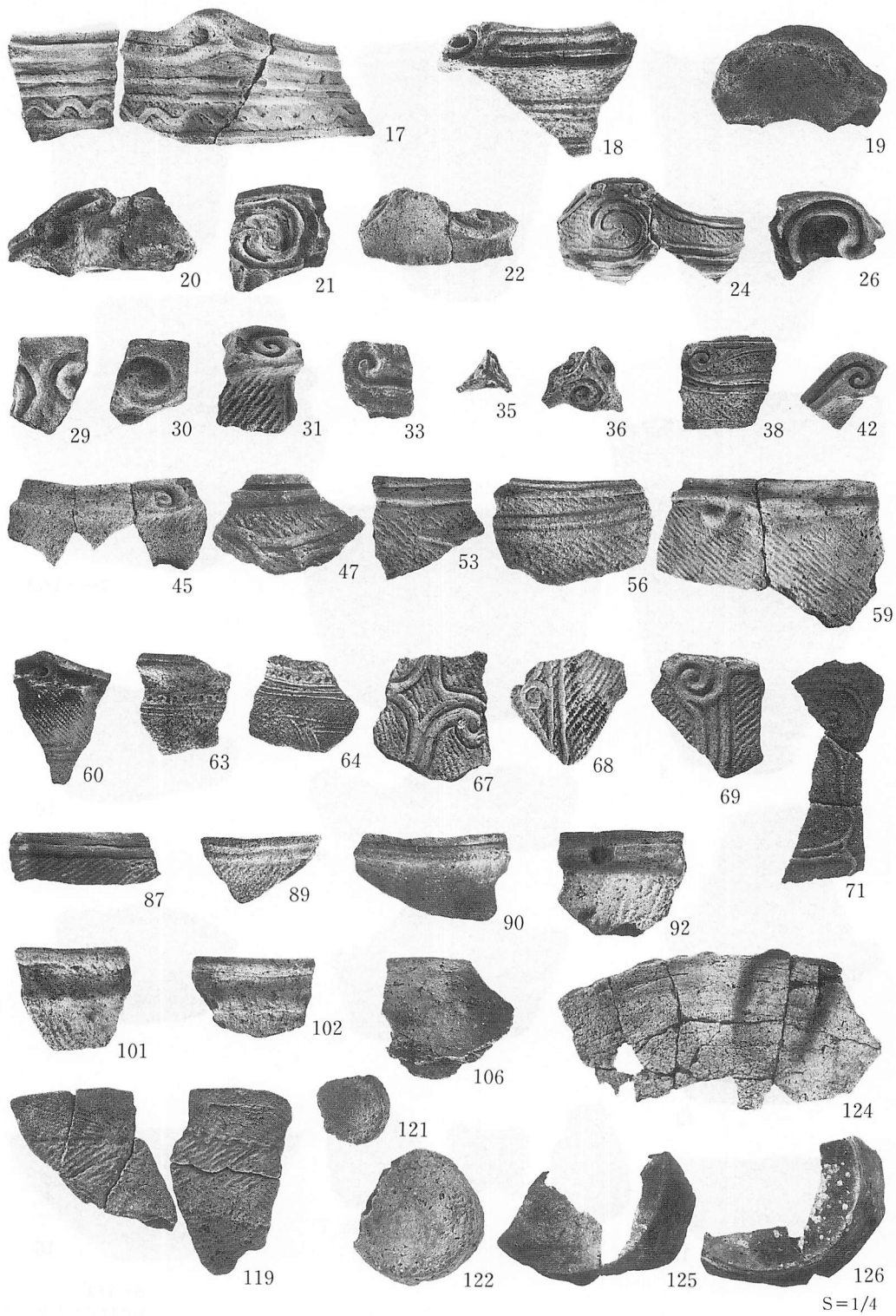
S=1/4  
 S=1/6 (6, 10, 28, 38, 39)  
 S=1/2 (47)

写真図版70 IV C 一括廃棄土器 A群(2)・B群

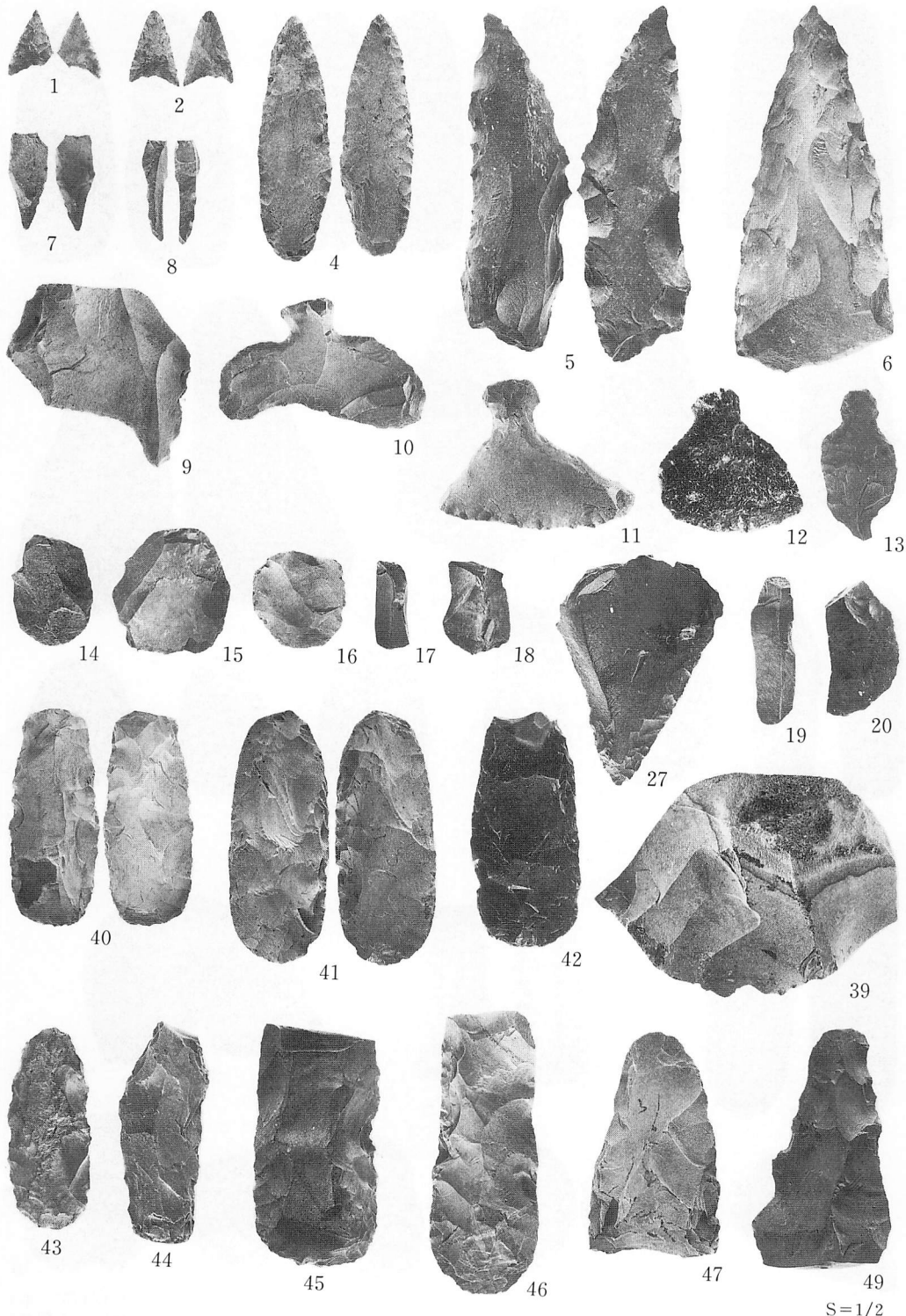


S=1/3  
S=1/5(4,5,9,10)

写真図版71 遺構外遺物：土器(1)・土製品



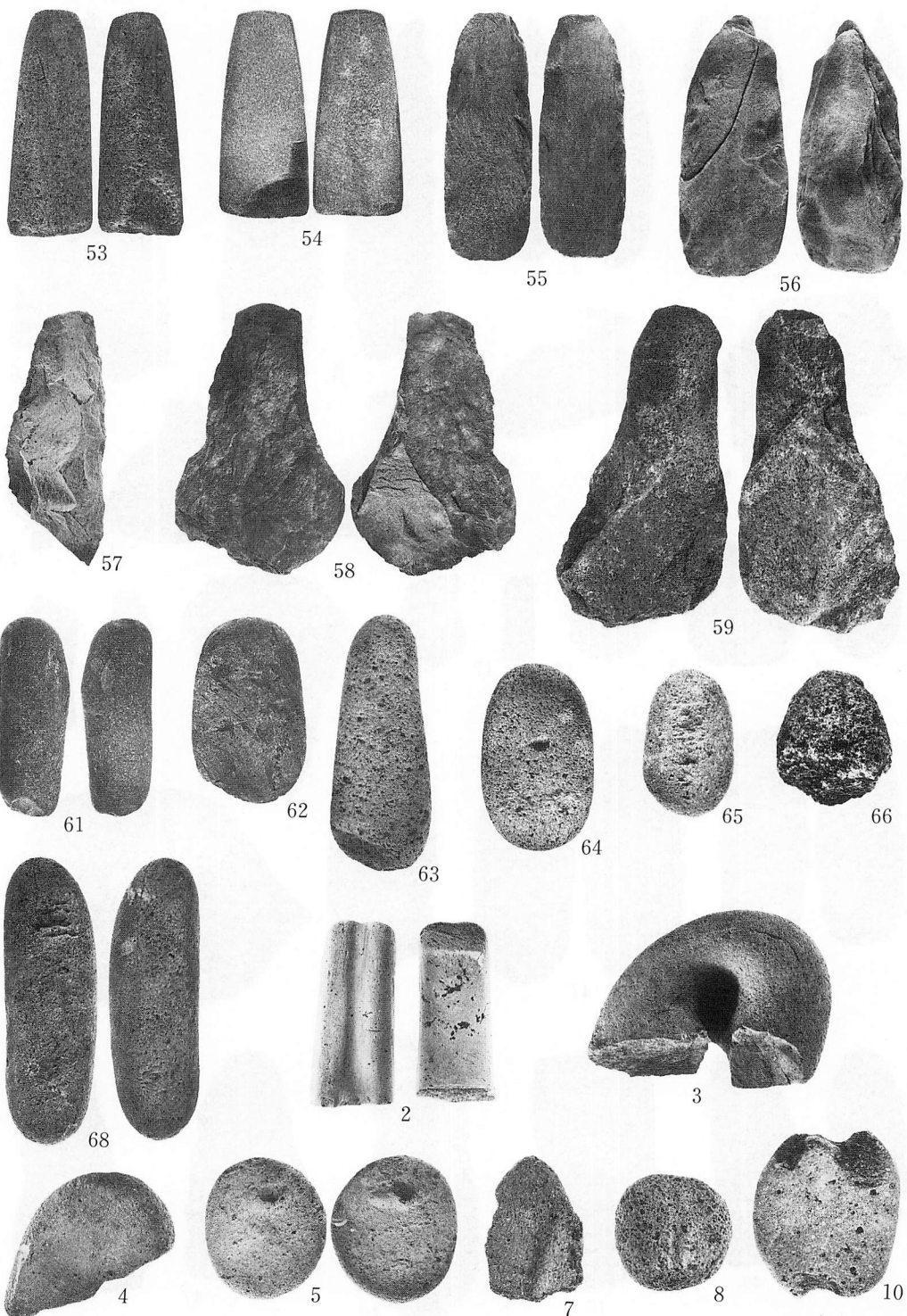
写真図版72 遺構外遺物：土器(2)



S=1/2

写真図版73 遺構外遺物：石器(1)





S=1/4 (53~68)  
S=1/2 (石製品)

写真図版74 遺構外遺物：石器(2)・石製品

# 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

理事兼 所副 所長	小笠原 喜 一 高 橋 敬 明		
[管 理 課]			
管理課長(兼)	高 橋 敬 明	嘱 託	吉 田 一 男
課長補佐	森 岡 陽 一	//	根 橋 文 一
主 事	佐 藤 理	運 兼 技 能 士 員	佐 藤 春 男
[調 査 課]			
調査課長	村 上 康 昭	文 化 財 員	佐々木 信 一
課長補佐	佐々木 嘉 直	//	小 原 眞 一
//	鈴 木 恵 治	//	村 上 修
主任文化財 専門調査員	小田野 哲 憲	//	酒 井 宗 孝
//	三 浦 謙 一	//	松 本 建 速
//	工 藤 利 幸	//	笹 平 克 子
//	高橋 與右衛門	//	花 坂 政 博
//	平 井 進	//	佐々木 務 彦
//	中 川 重 紀	//	金 子 昭 彦
//	藤 村 敏 男	//	濱 田 宏 造
//	高 橋 義 介	期 限 付 員	鎌 田 精 則
文 化 財 員	高 斎 藤 隆	//	阿 部 邦 彦
//	佐 瀬 孝 雄	//	星 雅 之
//	千 葉 博 司	//	引屋敷 学
//	斎 藤 隆 幹	//	鈴 木 知 己
//	東海林 弘	//	藤 村 隆 悟
//	佐々木 均	//	千 葉 博 由
//	川 村 貞 行	//	熊 谷 信 一 郎
//	鈴 木 格 修	//	新 倉 博 英
//	伊 東 修 雄	//	山 口 博 聡
//	遠 藤 邦 敏	//	川 村 聡 子
//	斎 藤 敏 明	//	八重座 のり子
[資 料 課]			
資料課長	村 松 義 夫		
主任文化財 専門調査員	田 鎖 寿 夫		

---

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第163集

## 林崎館遺跡発掘調査報告書

印刷 平成4年3月25日

発行 平成4年3月30日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県紫波郡都南村大字下飯岡11字高屋敷185

TEL (0196) 38-9001

印刷 株式会社 吉田印刷

〒020 岩手県盛岡市名須川町23-27

TEL (0196) 25-2323

---

---

©財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992